

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	カトリックのゼン ニンシヨウダイガク 学校法人 日本女子大学								
フリガナ大学の名称	ニホンシヨウダイガク 日本女子大学 (Japan Women's University)								
大学本部の位置	東京都文京区目白台2丁目8番1号								
大学の目的	平和的な国家及び社会の形成者育成のために、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、その応用的能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめることを目的とする。								
新設学部等の目的	「越境」をキーワードに、多様な地域の言語の修得と文化の理解、国内外の現地に実際に赴き課題を発見し解決する能力を身につけ、さらには、それに基づいて既成の単一的な文化領域を超えた複眼的・論理的・国際的な観点から、文化の創造にむけて積極的に取り組む力を持った人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際文化学部 [Faculty of Transcultural International Cultural Studies] [Department of Transcultural Studies] 計	4	121	—	484	学士(文学) [Bachelor of Arts]	令和5年4月 第1年次	東京都文京区目白台 2丁目8番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人間社会学部 文化学科(廃止) (△121) ※令和5年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際文化学部	講義	演習	実験・実習	計	125単位			
		167科目	99科目	14科目	280科目				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	国際文化学部 国際文化学科		9 (9)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	1 (1)	273 (242)
	計		9 (9)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	1 (1)	— (—)
既設	家政学部 児童学科		7 (7)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	1 (1)	47 (47)
	食物学科		8 (8)	3 (3)	3 (3)	5 (5)	19 (19)	3 (3)	74 (74)
	住居学科		8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	2 (2)	45 (45)
	被服学科		6 (6)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	10 (10)	3 (3)	18 (18)
	家政経済学科		4 (4)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	1 (1)	37 (37)
	文学部 日本文学科		8 (8)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	55 (55)
	英文学科		13 (13)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	21 (21)	1 (1)	82 (82)
	史学科		10 (10)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	73 (73)
	人間社会学部 現代社会学科		8 (8)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	39 (39)
	社会福祉学科		6 (6)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	31 (31)
組織	教育学部 教育学科		10 (10)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	41 (41)
	心理学科		6 (6)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	33 (33)
	理学部 数物情報科学科		10 (10)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	18 (18)	3 (3)	41 (41)
	化学生命科学科		11 (11)	0 (0)	3 (3)	5 (5)	19 (19)	3 (3)	31 (31)
	教職教育開発センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計		116 (116)	46 (46)	16 (16)	33 (33)	211 (211)	17 (17)	— (—)

要	信既 教設 育分 課程 一 通	家政学部 通信教育課程 児童学科	8 (8)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	1 (1)	56 (56)	通信教育課程専 任教員4名。そ の他については 通学課程担当 者が兼ねる。
		食物学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	5 (5)	20 (20)	3 (3)	19 (19)	
		生活芸術学科	15 (15)	3 (3)	2 (2)	4 (4)	24 (24)	5 (5)	22 (22)	
		通信教育課程 計	32 (32)	11 (11)	6 (6)	11 (11)	60 (60)	9 (9)	— (—)	
		合 計	157 (157)	62 (62)	23 (23)	46 (46)	288 (288)	27 (27)	— (—)	
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任	兼 任		計				借用面積: 1,717.12㎡ 借用期間:30年	
	事 務 職 員	134 (134)	227 (227)		361 (361)					
	技 術 職 員	0 (0)	0 (0)		0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員	11 (11)	7 (7)		18 (18)					
	そ の 他 の 職 員	1 (1)	0 (0)		1 (1)					
	計	146 (146)	234 (234)		380 (380)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			借用面積: 1,717.12㎡ 借用期間:30年	
	校舎敷地	185,191.24㎡	0㎡	0㎡		189,091.24㎡				
	運動場用地	52,536.52㎡	0㎡	0㎡		52,536.52㎡				
	小 計	237,727.76㎡	0㎡	0㎡		237,727.76㎡				
	そ の 他	26,954.81㎡	0㎡	0㎡		26,954.81㎡				
合 計	264,682.57㎡	0㎡	0㎡		264,682.57㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			大学全体		
	82,807.19 (82,807.19 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)		82,807.19㎡ (82,807.19 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 語学学習施設は、 情報処理学習施設 が兼ねる。		
	86室	24室	114	10室 (補助職員2人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際文化学部		17 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		学部単位での特定 不能のため、大学 全体の数(図書及 び学術雑誌は研究 室などの所蔵を含 む)	
	国際文化学部	922,673〔208,243〕 (902,118〔206,362〕)	(20,235〔3,710〕) (20,235〔3,710〕)	(30,783〔29,212〕) (30,783〔29,212〕)	(22,286) (22,286)	0 (—)	0 (—)			
	計	922,673〔208,243〕 (902,118〔206,362〕)	(20,235〔3,710〕) (20,235〔3,710〕)	(30,783〔29,212〕) (30,783〔29,212〕)	(22,286) (22,286)	0 (—)	0 (—)			
図書館	面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体(面積と 収容可能冊数は保 存書庫分含む)				
		8,010.94	650席		1,130,000冊					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	2,692.21㎡	テニスコート4面 ゴルフ練習場1面								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費(運用コス トを含む)を含 む。	
	教員1人当り研究費等		442千円	442千円	442千円	442千円	—千円	—千円		
	共同研究費等		2,303千円	4,606千円	6,908千円	9,211千円	—千円	—千円		
	図書購入費	3,218千円	805千円	1,609千円	2,414千円	3,218千円	—千円	—千円		
	設備購入費	1,228千円	307千円	614千円	921千円	1,228千円	—千円	—千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,291千円	1,091千円	1,091千円	1,091千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入、寄付金収入、資産運用収入等								

大学等の状況	大学の名称	日本女子大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	家政学部						1.03			
	児童学科	4	97	—	388	学士(家政学)	1.00	昭和23年度	東京都文京区目白台2丁目8番1号	
	食物学科	4	31	—	124	学士(家政学)	1.00	昭和42年度	同上	
	食物学専攻									
	食物学専攻	4	50	—	200	学士(家政学)	1.08	昭和42年度	同上	
	管理栄養士専攻									
	住居学科	4	55	—	220	学士(家政学)	1.09	平成13年度	同上	
	住居環境デザイン専攻									
	住居学科	4	37	—	148	学士(家政学)	1.09	平成22年度	同上	
	建築デザイン専攻									
	被服学科	4	92	—	368	学士(家政学)	0.98	昭和37年度	同上	
	家政経済学科	4	85	—	340	学士(家政学)	1.04	昭和39年度	同上	
	(通信教育課程)									
	家政学部							0.10		
	児童学科	4	1000	—	4000	学士(家政学)	0.08	昭和24年度	同上	
	食物学科	4	1000	—	4000	学士(家政学)	0.09	昭和24年度	同上	
	生活芸術学科	4	1000	—	4000	学士(家政学)	0.13	昭和24年度	同上	
	文学部							1.07		
	日本文学科	4	134	—	536	学士(文学)	1.03	昭和23年度	同上	
	英文学科	4	146	—	584	学士(文学)	1.09	昭和23年度	同上	
	史学科	4	97	—	388	学士(文学)	1.06	昭和23年度	同上	
	人間社会学部							1.04		
	現代社会学科	4	97	—	388	学士(社会学)	1.06	平成2年度	同上	
	社会福祉学科	4	97	—	388	学士(社会福祉学)	1.04	昭和23年度	同上	
	教育学科	4	97	—	388	学士(教育学)	1.02	昭和25年度	同上	
	心理学科	4	73	—	292	学士(心理学)	1.02	平成2年度	同上	
	文化学科	4	121	—	484	学士(文学)	1.07	平成2年度	同上	
	理学部							1.03		
	数物情報科学科	4	92	—	368	学士(理学)	1.02	平成4年度	同上	
	化学生命科学科	4	97	—	388	学士(理学)	1.03	平成4年度	同上	
	家政学研究科(修士課程)							0.59		
	児童学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.58	昭和36年度	同上	
食物・栄養学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.78	昭和36年度	同上		
住居学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	1.23	昭和53年度	同上		
被服学専攻	2	10	—	20	修士(家政学)	0.25	昭和53年度	同上		
生活経済専攻	2	8	—	16	修士(家政学)	0.03	平成8年度	同上		
通信教育課程家政学専攻	2	—	—	—	修士(家政学)	—	平成19年度	同上		
文学研究科(博士課程前期)							0.55			
日本文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.50	昭和41年度	同上		
英文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.35	昭和41年度	同上		
史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	1.00	平成5年度	同上		

令和5年4月学生募集停止

令和3年学生募集停止

(博士課程後期) 日本文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.28	0.41	昭和50年度	同上
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.25	0.25	昭和53年度	同上
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.17	0.17	平成7年度	同上
人間生活学研究科 (博士課程後期) 人間発達学専攻	3	5	—	15	博士(学術)	0.35	0.25	平成4年度	同上
生活環境学専攻	3	5	—	15	博士(学術)	0.45	0.45	平成4年度	同上
人間社会研究科 (博士課程前期) 社会福祉学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	0.41	0.38	昭和50年度	同上
教育学専攻	2	10	—	20	修士(教育学)	0.28	0.28	昭和53年度	同上
現代社会論専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.08	0.08	平成6年度	同上
心理学専攻	2	14	—	28	修士(心理学)	0.82	0.82	平成6年度	同上
相關文化論専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.29	0.29	平成10年度	同上
(博士課程後期) 社会福祉学専攻	3	3	—	9	博士(社会福祉学)	0.20	0.25	昭和50年度	同上
教育学専攻	3	3	—	9	博士(教育学)	0.25	0.25	昭和62年度	同上
現代社会論専攻	3	3	—	9	博士(学術)	0.08	0.08	平成9年度	同上
心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	0.33	平成8年度	同上
相關文化論専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.08	0.08	平成20年度	同上
理学研究科 (博士課程前期) 数理・物性構造科学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	1.06	1.25	平成8年度	同上
物質・生物機能科学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.88	0.88	平成8年度	同上
(博士課程後期) 数理・物性構造科学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.04	0.08	平成10年度	同上
物質・生物機能科学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.00	0.00	平成10年度	同上
附属施設の概要	<p>日本女子大学総合研究所 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号 目的：日本女子大学の建学の精神に基づき日本女子大学固有の研究の推進を図るとともに、日本女子大学を拠点とする学際的共同研究・調査を推進し、大学院、学部、附属校・園の研究および教育の充実、発展に寄与することを目的とする。 設置年月：平成7年4月 規模（面積）等：建物 77.28㎡</p> <p>日本女子大学現代女性キャリア研究所 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号 目的：本学における女性教育の伝統と理念を、変貌する現代社会に生かすためのセンターとしての機能を担うとともに、その成果を社会に発信して、女性の能力が発揮される21世紀社会に貢献することを目的とする。 設置年月：平成13年4月 規模（面積）等：建物 120.00㎡</p> <p>日本女子大学生涯学習センター 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号，神奈川県川崎市多摩区西生田1丁目1番1号 目的：日本女子大学並びに附属各校・園の伝統と特質を生かしつつ、本学の知的財産・教育的資産を社会に開放し、学内外の生涯学習活動の連携を図り、推進することを目的とする。 設置年月：平成13年4月 規模（面積）等：土地 1,020.58㎡ 建物 2,062.55㎡</p> <p>日本女子大学成瀬記念館 所在地：東京都文京区目白台2丁目8番1号 目的：本学の創立者成瀬仁蔵の教学の理念ならびに本学の歴史を明らかにし、もって建学の精神の高揚とその継承を図り、本学の発展および女子教育の進展に寄与することを目的とする。 設置年月：昭和59年10月 規模（面積）等：土地 325.27㎡ 建物 836.04㎡</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
（国際文化学部国際文化学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講 特 教 義 別 養	教養特別講義	1 通	1				○		2	1	1			※講義
	小計（1科目）	—	1				—		2	1	1	0	0	0
J W U キ ャ リ ア 科 目	ライフプランとキャリアデザイン	1 後		2			○							兼1
	女性と職業	1 前		2			○							兼1
	仕事・結婚・わたし	1 前後		2			○							兼2
	女性と身体	1 前後		2			○							兼7
	多様な働き方とキャリア	1 前		2			○							兼1
	ダイバーシティとキャリア	1 後		2			○							兼1
	女性就業と子育て支援の経済学	1 前後		2			○							兼1
	ライフステージと法	1 前		2			○							兼2
	現代女性論	1 前後		2			○							兼1
	現代男性論	1 前		2			○							兼1
	日本の女性史	1 前		2			○							兼1
	世界の女性史	1 後		2			○							兼1
	社会に出るための自己表現	2 前後		2				○						兼3
	現代ビジネスと起業	2 前		2			○							兼1
	インターシップⅠ	2・3 通		1					○					兼3 集中
	インターシップⅡ	2・3 通		2					○					兼3 集中
小計（16科目）	—		31				—		0	0	0	0	0	26
J W U 社 会 連 携 科 目	社会課題とNPO・NGO	1 前		2			○							兼1
	国際協力・ボランティア論	1 前後		2			○							兼1
	社会連携を学ぶA	1 後		2			○							兼4
	社会連携を学ぶB	1 後		2			○							兼1
	地域・社会課題を学ぶ	1 後		2			○		1					
	JS 寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ	2 前		2			○							兼1
	課題解決型ワークショップを用いた企画開発	2 通		2				○	1					兼1 集中
	課題解決型ワークショップ について ぼん食を考える	2 後		2				○						兼6 オニバス
	社会におけるICT、データサイエンス活用A	2 前		2				○						兼1
	社会におけるICT、データサイエンス活用B	2 前		2				○						兼1
	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A	2 前		2				○						兼1

基礎科目 外国語	フランス語	フランス語 L.L.入門	1 前	2		○						兼 2	集中
		フランス語 L.L.初級	1 後	2		○						兼 2	
		フランス語中級	2 前後	2		○						兼 6	
		フランス語 L.L.中級	2 前後	2		○						兼 1	
		フランス語中級アドヴァンスト (原典講読)	2 前後	2		○		1				兼 1	
		フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	2 前後	2		○						兼 1	
		フランス語上級	3・4 後	2		○						兼 1	
		集中フランス語	2 前	2		○						兼 1	
	中国語	中国語 a 入門	1 前	2		○						兼 12	
		中国語 a 初級	1 後	2		○						兼 12	
		中国語 b 入門	1 前	2		○						兼 11	
		中国語 b 初級	1 後	2		○						兼 11	
中国語 L.L.入門		1 前	2		○						兼 2		
中国語 L.L.初級		1 後	2		○						兼 2		
中国語中級		2 前後	2		○		1				兼 6		
中国語 L.L.中級		2 前後	2		○						兼 2		
中国語中級アドヴァンスト (原 典講読)	2 前後	2		○		1				兼 1			
中国語中級アドヴァンスト (コ ミュニケーション)	2 前	2		○						兼 1			
中国語上級	3・4 前後	2		○						兼 1			
集中中国語	2 前	2		○						兼 1			
韓国語	韓国語 a 入門	1 前	2		○		1				兼 9		
	韓国語 a 初級	1 後	2		○		1				兼 9		
	韓国語 b 入門	1 前	2		○						兼 7		
	韓国語 b 初級	1 後	2		○						兼 7		
	韓国語 L.L.入門	1 前	2		○						兼 1		
	韓国語 L.L.初級	1 後	2		○						兼 1		
	韓国語中級	2 前後	2		○						兼 5		
	韓国語 L.L.中級	2 前後	2		○						兼 1		
	韓国語中級アドヴァンスト (原 典講読)	2 前後	2		○		1						
	韓国語中級アドヴァンスト (コ ミュニケーション)	2 後	2		○						兼 1		
小計 (44 科目)		—	88		—		3	1	0	0	0	58	—
基礎科目 情報処理	基礎情報処理	1 前後	2		○							兼 3	
	データベース入門	2 前	2		○							兼 1	
	AI 入門	2 後	2		○							兼 1	
	ICT 活用 I	2 前	2		○							兼 1	
	ICT 活用 II	2 前	2		○							兼 1	
	ICT 活用 III	2 前	2		○							兼 1	
	ICT 活用 IV	2 前	2		○							兼 1	
	ICT 活用 VI	2 後	2		○							兼 1	
小計 (8 科目)		—	2	14		—	0	0	0	0	0	7	—
基礎科目 身体運動	身体運動 I a	1 前	1		○							兼 4	
	身体運動 I b	1 後	1		○							兼 4	
	身体運動 I c	1 後	1		○							兼 17	
	身体運動 II a	1 前	1		○							兼 4	
	身体運動 II b	1 後	1		○							兼 2	

導入科目	国際文化基礎論	1前	2			○			9	5	1				オムニバス・共同 (一部)
	スタディ・アブロード・プログラム	1通	4					○	9	5	1				共同
	小計 (2科目)	—	6					—	9	5	1	0	0	0	—
トレーニング科目 アカデミック・	留学準備演習Ⅰ	1前	2			○			2	2					兼1
	留学準備演習Ⅱ	1後	2			○			1						兼4
	アカデミック・スキルズⅠ	1後	2			○			3	1	1				共同 (一部)
	アカデミック・スキルズⅡ	2前	2			○			3	2					兼2
	国際文化研究法	2前	2			○			9	5	1				オムニバス・共同
	小計 (5科目)	—	6	4				—	9	5	1	0	0	7	—
実践トレーニング科目	実践プログラム (国内)	2・3通	2					○	6	3	1				
	実践プログラム (海外 a)	2後 3前	10					○	3	3					共同
	実践プログラム (海外 b)	2～3通	2					○	4	2					共同
	バイリンガル・コミュニケーション	3後	2					○	3	1					集中
	小計 (4科目)	—	2	14				—	9	5	1	0	0	0	—
卒業研究	国際文化学演習 a	3後	2					○	9	5	1				
	国際文化学演習 b	4前	2					○	9	5	1				
	国際文化学演習 c	4後	2					○	9	5	1				
	卒業研究	4通	4					○	9	5	1				
	小計 (4科目)	—	10					—	9	5	1	0	0	0	—
世界と自己を知るための科目 A. 欧米文化科目群	イギリス文化研究	2前	2			○			1						
	イギリス社会とファッション	1後	2			○			1						
	世紀末文化論	2前	2			○			1						
	アメリカ文化論	2前	2			○				1					
	アメリカの人種・エスニシティ・ジェンダー	2前	2			○			1						
	アメリカ文化研究	2後	2					○		1					
	フランス文学	2前	2			○				1					
	ドイツ語圏の文化	2前	2			○			1						兼1
	フランス文化論	1後	2			○				1					共同
	アメリカ文学	1後	2			○			1						
	原典講読：欧米の文学と文化理論	2前	2			○			1						
	原典講読：イギリスの物語文化	2後	2			○			1						
	原典講読：イギリスのフェミニズム	2後	2			○			1						
	アメリカ文化のテキストを読む	2後	2			○			1						
	比較文学	2前	2			○				1					
	フランス文学と文化	2後	2			○				1					
	小計 (16科目)	—		32					—	4	2	0	0	0	1

世界と自己を知るための科目	B・ 日本・アジアの文化・思想科目群	現代韓国社会と政治	1 後	2	○	1								
		東南アジアの社会と文化	2 後	2	○	1								
		中国古典文化論	1 後	2	○	1								
		現代アジア文化論	2 前	2	○	1								
		日本民俗文化論	2 前	2	○	1								
		日本観光文化論	1 後	2	○	1								
		日本の芸能思想	2 後	2	○				1					
		日本の宗教思想	2 後	2	○				1					
		東洋思想史	2 前	2	○			1						
		東洋思想の諸問題	2 後	2	○			1						
		日本思想史	2 前	2	○					1				
		死生学（日本）	2 前	2	○					1				
		小計（12 科目）	—	24	—	3	1	0	0	0	0	0	—	
C・ 映像・ポップカルチャーと哲学科目群	現代文化論	2 前	2	○	1									
	身体メディア論	2 前	2	○	1									
	ポップカルチャーと笑い	1 後	2	○	1									
	映像文化論	2 前	2	○				1						
	映像表現論	1 後	2	○				1				兼 1	共同	
	映画論	2 前	2	○				1						
	K-カルチャー論	2 前	2	○	1									
	マンガ文化論	2 前	2	○				1						
	絵本・児童文学のキャラクター論	2 前	2	○	1									
	西洋哲学史	2 前	2	○					1					
	哲学の基礎	2 前	2	○					1					
	ヨーロッパ近代哲学	2 後	2	○					1					
	現代哲学	2 後	2	○					1					
倫理学	1 後	2	○				1							
ポップカルチャー論	2 前	2	○	1							兼 1	共同		
宗教人類学	2 後	2	○	1										
ポップカルチャーと観光	2 後	2	○	1										
小計（17 科目）	—	34	—	4	2	1	0	0	0	2	—			
D・ 芸術文化科目群	日本中世絵画史特論	1 後	2	○				1						
	西洋近現代美術史	1 後	2	○	1									
	比較芸術	2 前	2	○	1									
	西洋美術史概説	2 前	2	○						1				
	日本美術史概説	2 前	2	○						1				
	音楽と社会	1 後	2	○	1									
	西洋音楽と日本	2 前	2	○	1									
	日本の音楽文化	2 後	2	○	1									
	東洋の思想と美術	2 前	2	○				1						
	西洋美術史特論	2 後	2	○						1				
	日本美術史特論	2 後	2	○						1				
	現代芸術論	2 前	2	○	1									
	アート・アクティヴィズム	2 前	2	○				1						
小計（13 科目）	—	26	—	2	1	0	2	0	0	0	—			
合計（280 科目）		—	35	528	0	—	9	5	1	2	0	273	—	
学位 又は称号	学士（文学）		学位又は 学科の分野		文学関係									

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
教養特別講義 1 単位、JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目から 選択必修 2 単位、基礎科目の外国語 32 単位（必修英語 8 単位、選択 英語 8 単位、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語より同一言語を 選択必修 16 単位）、情報処理から必修 2 単位、身体運動から選択必 修 2 単位、教養科目系列 A・B・C それぞれから選択必修 4 単位計 12 単位、「導入科目」必修 6 単位、「アカデミック・トレーニング科目」 から必修 6 単位、「実践トレーニング科目」から必修 2 単位、選択必 修 2 単位以上、「卒業研究」から必修 6 単位、卒業研究 4 単位、「世界 と自己を知るための科目」と「アカデミック・トレーニング科目」、 「実践トレーニング科目」から選択科目を 48 単位 合計 125 単位 （履修科目の登録の上限：48 単位（年間））	1 学年の 学期区分	2 期
	1 学期の 授業期間	14 週
	1 時限の 授業時間	100 分 (初回のみ 50 分)

授 業 科 目 の 概 要			
(国際文化学部国際文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
J W U キ ャ リ ア 科 目	教養特別講義	<p>専門分野の学問研究に立ち向うにあたり、常に広い視野と倫理性に基づいた高い識見をもち、創造的に自己実現を果たせるようになること、現代を生きる女性として、社会に発揮する能力を十分に伸ばすことができるようになることを目標とする。</p> <p>学問における真理の探求と人間形成とを不可分とする創立者成瀬仁蔵先生教育理念のもとに設けられた「実践倫理」を原点とし、建学の精神や創立者の理念を踏まえ、本学が1世紀余にわたり女性の自立や社会進出、社会貢献を実現してきた歴史を学びながら、現代社会における自らの生き方や将来について、主体的に考察を深めることを目的としている。「教養特別講義-本学の建学の精神と教育の理念を学ぶ」の講読、成瀬記念館の見学、講義による学びを経て、2泊3日のセミナーでのディスカッションを通じ、本学で学ぶことの社会的責任を自覚し、自分の生き方、活かし方を見つめる。</p>	講義 3 時間 演習 12 時間
	ライフプランとキャリアデザイン	<p>女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について、外部から招く専門家及び卒業生の講話や、授業担当者の経験（一般企業勤務、中小企業診断士・社会保険労務士）も交えながら解説する。社会や企業において女性が置かれている状況を、学生時代から現状や背景を理解することを目的とする。講義形式を基本とするが、質疑応答の機会も設け、自分のキャリアに主体的かつ能動的に向き合えるよう促す。毎授業後に学生に課したコメントを取りまとめ、授業内、学習システム経由でフィードバックする。社会や企業において女性が置かれている現状と課題を理解すること、キャリア理論やゲストスピーカーの実例を通じてキャリアデザインのための知識と手法を修得すること、これらを踏まえ、自身のライフプランとキャリアデザインについて、主体的に考えられることを目標とする。</p>	
	女性と職業	<p>各界で多彩に活躍している各学科の先輩をゲストスピーカーとして招聘し、様々な分野での仕事のあり方を実際に見聞する機会を通じて、職業選択やキャリアについて自ら考えるための指針を提供することを目的とする。担当教員、ゲストスピーカーによる講義のほか、質疑応答や意見交換によるコミュニケーションの時間を設ける。授業の最終回に、授業全体の振り返りと講評を行う。現代女性の職業の実態を様々な具体例を通して知見することで仕事を持つことの意味について、自身の考えを深めること、仕事を持つことや働くことに対する視野を広げ、働く意欲や勇気を持つことを目標とする。</p>	
	仕事・結婚・わたし	<p>自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養うことを目的とする。基本的に講義形式だが、毎回の講義後に課題レポートの提出を求める。授業内では自己概念、アイデンティティ、職業興味検査など様々な質問紙を用いて、自分を振り返る作業を行い、最終的には自分自身のライフサイクルを計画し、提出を求める。自己理解、家族システムの理解、社会変化への理解を深めることによって、自分自身が望むライフプランをイメージできるようにすることを目標とする。</p>	

J W U キ ャ リ ア 科 目	女性と身体	助産師・看護師・養護教諭など医療職としての立場から、思春期・妊娠・出産・更年期・高齢期の女性の一生を通じて起こる心身面での課題とそのケアについて解説することを目的とする。特に、現代女性の性と生殖に関する特徴や妊娠・出産、ナイチンゲールから読み解く女性の役割、そして出生前診断や不妊治療、ハラスメント等の倫理問題など、女性として生きていく人生に役立つことを取り上げていく。女性を取り巻く心身の課題に関する基本的な知識を学ぶこと、女性の健康課題について理解を深め、自身の具体的な行動を考えられることを目標とする。	
	多様な働き方とキャリア	多様な働き方とキャリア形成にかかわる制度、現状、課題に関する基本的な知識を修得することを目的とする。卒業後の生き方の選択肢を考える際の道標となるよう、雇用されて国内で働くことのみならず、フリーランス、経営者、主婦/主夫、海外勤務等についても取り上げていく。講義形式で、受講生は各回の感想や質問等の提出を求める。多様な働き方にかかわる制度と政策の動きについて説明できること、それぞれの働き方の現状と課題を説明できることを目標とする。	
	ダイバーシティとキャリア	女性・LGBTQ+等のジェンダー、障がい、文化の多様性をトピックに取り上げ、経済社会や企業組織の変化や将来展望を解説し、外部から招く専門家または経験者（卒業生を含む）の講話も交えて生き方や働き方を考えることを目的とする。講義に加え、文献資料（論文、記事）をもとにしたペア討議、グループ討議、さらには、リアクションペーパーやレポートに対するコメントを交えながら進める。日本社会の産業構造の変化について説明できる、社会科学の知見を用いて大学卒業後の自らのキャリアビジョンを論じることができるとを目標とする。	
	女性就業と子育て支援の経済学	日本女性の就業率は空前の高さである一方、正規雇用に就く女性の割合がなかなか上がっていない。訓練機会もキャリアの見通しもないまま低技能・低賃金で働く女性は一方向に減る気配がなく、女性人材の浪費問題が解消されていない。本科目では、仕事、キャリア、結婚、出産、子育てをめぐる、女性が直面するさまざまなバリアとその原因を考える。	
	ライフステージと法	人が生きていくうえで一生の間に出会うであろう法律問題（就職・結婚・出産・離婚・相続・消費者問題等）の基礎知識を身に付けることを目的とする。いくつかの具体的な事例の紹介や、その対応先の議論や解説を行う。レジュメを用いた講義形式により進め、各講義の冒頭、あるいは最終講義の際に、講義内容の質問に対する回答等を行う。生活における法的トラブルに直面した時に、どのような対応をすればよいか理解できることを目標とする。	
	現代女性論	性別をめぐる「常識」が、どのように社会的・歴史的に構築されているのかを明らかにしていく。女性が現代社会を生きていくうえで経験する様々な問題が、いかに社会的な問題とつながっているのかを理解し、それに対応する力を養っていくことを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティにおける基礎概念を理解できるようになること、ジェンダー・セクシュアリティの観点から現代社会の現状と問題を的確に把握できるようになること、現在の問題に対する対応策の見通しを持ち、提案し、実行できるようになることを目標とする。	

現代男性論	ジェンダー論、特に男性学の知見に依拠しながらできるだけ冷静で客観的な考え方を修得することを目的とする。概要としては、ジェンダー論及び男性学の基礎を講じた後に、現代社会における男性を取り巻く諸問題について取り上げていく。スライド資料等を用いた講義形式で、授業終了後は、授業内容及びテキストに関する簡単な課題を課す。学生が提出した課題に対するフィードバックは、必要に応じて学習システムを通じて個別に行う。全体に対しては授業時間内に行う。男性問題の特徴を女性問題との対比において理解できること、男性同士の仲間関係における男性性の形成を理解できること、近代社会と男性性の関係について具体例を挙げながら説明できること、男性が家庭領域から撤退した歴史的経緯を概説できること、ジェンダー論における男性学の問題点を考察できることなどを目標とする。	
日本の女性史	19世紀後半から約100年の間に、日本における女性の生き方がどのように変わってきたのか、変化の要因となったのはどのような事柄だったのかについて学ぶことを目的とする。講義形式で、リアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行う。近現代の日本における女性の法律上の位置づけ、近現代の日本における女性の教育環境、近現代の日本における女性の労働状況、近現代の日本における女性観、近現代の日本における女性をめぐる政治運動、社会運動について説明できることを目標とする。	
世界の女性史	特にインドの歴史を中心にアジアや西欧の歴史に着目する。インドは古代文明を築き、数々の王朝の勃興の後、グローバルな歴史を展開しており、様々なジェンダー観を包摂した社会を形成している。世界の歴史をジェンダーの視点から読み解きながら、授業後半ではジェンダーを巡る今日の状況にも目を向けていくことを目的とする。講義形式で、毎回課題やリアクションペーパーの提出を求める。歴史をジェンダーの視点から捉えることで、歴史解釈が一つではないことを理解すること、様々な国や社会の歴史の中からジェンダーのあり方の多様性を知ることが目標とする。	
社会に出るための自己表現	“学生と社会人の違い”とは何かという大きな命題について考察してゆく。社会は“異なる常識を持つ人々が、互いにコミュニケーションをしてゆく場”であり、だから自分が周りとは合わせていかなければならないとの視点から、社会で通用する“コミュニケーション力”について、スキルアップしていくことを目的とする。毎週、小レポートの課題提出を求める。提出された課題を活用して授業を展開していく。毎回提出する小レポートの作成により、普段の生活から“気づき”を見つける力を磨き、“気づき”を意識した生活を習慣づけることで生活力を磨くこと、コミュニケーションに必要な心構えを伝授し、コミュニケーション力の向上に繋げること、授業の中で伝授する様々な発想法を使用した簡単なワークを行い、右脳で考える力を鍛えることを目標とする。	
現代ビジネスと起業	日本経済の現状と労働環境について考えること、世界的な働き方の潮流を見つめながら、女性のキャリア形成について考えること、with コロナ、after コロナについて理解を深めることを目的とする。講義、及びグループセッションにより進めていく。毎回、授業後にアンケートの記入を求め、理解度をはかる。持続可能な開発目標（SDGs）とは何かを理解して、様々な働き方を考えられること、就業、起業とは何かを理解できること、グループセッションの実施によって、共創力とは何かを理解すること、学生時代及び就職後のキャリアパスについて考えることを目標とする。	

J W U キ ャ リ ア 科 目	インターンシップ I	将来の自己のキャリアデザイン設計に向けて、職業観を育て、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるような質の高い就業体験となるインターンシップを行うことを目的とする。事前指導により、インターンシップに参加するにあたり必要な事項を事前に学修する。事前指導を踏まえ、現場での就業体験を行うとともに関連する知識を修得する。具体的には、ビジネスマナーを学んだうえで、企業の事業内容や商品に関する学習・調査を行い、工場見学や WEB サイト企画立案・作成を通じて、実習を行う。事前指導、インターンシップを経て、自らの体験をプレゼンテーションし、参加者と共有することで経験を深め、自己のキャリアビジョンを明確にしていく。事前指導に出席して働くことの意義を考え、社会を知り、学生と社会人の違いを認識すること、インターンシップに参加するにあたり、社会人に必要なスキルを身につけ、関連する知識を修得すること、成果をまとめ、インターンシップ先や学内で報告をすることにより、自らの可能性に気付き、今後の学生生活、キャリアデザインに生かすことを目標とする。	集中
	インターンシップ II	将来の自己のキャリアデザイン設計に向けて、職業観を育て、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるような質の高い就業体験となるインターンシップを行うことを目的とする。事前指導により、インターンシップに参加するにあたり必要な事項を事前に学修する。事前指導を踏まえ、現場での就業体験を行うとともに関連する知識を修得する。具体的には、市の取り組みの視察、業務補助、行事参加（歴史的背景の学習・準備・開催）を通じて実習を行う。事前指導、インターンシップを経て、自らの体験をプレゼンテーションし、参加者と共有することで経験を深め、自己のキャリアビジョンを明確にしていく。事前指導に出席して働くことの意義を考え、社会を知り、学生と社会人の違いを認識すること、インターンシップに参加するにあたり、社会人に必要なスキルを身につけ、関連する知識を修得すること、成果をまとめ、インターンシップ先や学内で報告をすることにより、自らの可能性に気付き、今後の学生生活、キャリアデザインに生かすことを目標とする。	集中
J W U 社 会 連 携 科 目	社会課題とNPO・NGO	NPO の基礎知識を共有し、NPO が何を目指して活動しているのかを学んでいく。現場感をもって社会課題の解決の仕方を伝えるため、NPO スタッフを招聘し、議論の場を設ける。NPO や NGO はいかに社会課題に気づき、自ら動き、共感する人を増やし、活動を展開させていくかを学ぶことを目的とする。毎回ミニテーマで考え、発表すること、テーマに応じて課題を提出することを求める。課題に気づく力や共感力を身に着けること、課題解決のために事業の立ち上げ方を知ること、グループワークを通じて学生がコミュニケーション能力を高めること、多様な変化にも適応できる力を身につけること、社会変革の担い手は自分であるという意識を身に着けることを目標とする。	

J W U 社会連携科目	国際協力・ボランティア論	国際協力のフィールドにおける多様な課題群を知ると同時に、不平等や紛争がつくり出される背景を知り、自国ファースト、排外主義ナショナリズムがエスカレートする傾向にある現代世界で、国際協力やボランティアはどうあるべきかを考える。経済、軍事の論理に陥りがちな国際援助のあり方を、方法論上でも実践上でも乗り越えていく条件と歴史的意義を検討する。担当教員がグローバルな課題群の歴史・構造的な理解を促す国際協力の原理論を講義し、実践事例の具体的紹介を外部講師や視聴覚教材を通じて行う。各自が作成したリアクションペーパー、レポート内容を教員が講評し、小グループで学生相互の意見交換を行う機会などを設ける。「国際社会のあるべき姿」を探求し、その条件と課題をめぐって構想力が涵養されること、持続可能性、公平性、多様性などが現代世界のキーワードになる時代背景を考察し、国境を越えた課題群の解決を目指す国際機関、国際 NGO、地域社会づくりに貢献しようとするローカル NPO、社会的企業などの職業への関心が高まることを目標とする。	
	社会連携を学ぶ A	本授業のサブテーマは「子ども」である。子どもを巡る多岐にわたる課題を、地域・社会での連携という観点から学び、様々な場面で行われている実践活動やボランティア活動の実際に触れることで、学生自らが行動を起こすことの意義を理解し、ボランティア活動への準備性を養うことを目的とする。授業回の前半に子どもを巡る社会問題を取り上げ、子どもや社会連携についての問題意識を高める。後半部分ではより身近なテーマから学生による新たな発見を促すことを狙いとする。各回のテーマに関連したレポート課題の提出を求める。子どもを巡る様々な課題について、社会連携の意義が理解でき、説明できること、解決に社会連携の必要性が理解でき、説明できること、子どもが登場する様々な場面に主体的に参加する方法が分かることを目標とする。	
	社会連携を学ぶ B	地域活性化・SDGs（持続可能な開発目標）をキーワードとし、社会連携活動やその基礎的知識についての理解、課題発見、課題解決の手法や具体例を通し、現在の社会連携のあり方を考えることを目的とする。自治体、企業の課題を SDGs の視座から考え、その社会が持続可能となる枠組みを考える。地域や企業が抱える現在の課題とその複雑性を理解できること、SDGs がもつ意味を理解できること、地域や企業の課題と SDGs を関連付け、課題解決の枠組み作りができることを目標とする。	
	地域・社会課題を学ぶ	他大学の事例も参照しつつ、地域連携について考え、また、本学が2021 年度に連携協定締結予定である自治体関係者の参加を得て、本学ができる役割について考えることを目的とする。当初は教員による講義形式の授業であるが、途中、本学と地域連携協定を結ぶ地方自治体の行政職員の方にゲストスピーカーとして参加してもらい、両者の知識・認識のズレを確認しつつ、より良い連携の形を考える。授業後にリアクションペーパーの提出を求め、フィードバックを学習システム上、または次回の授業の冒頭で行う。大学の地域連携事業の目的を理解し、地域の現状について理解できること、地域の方々の話をきちんと聞き、その内容を正確に把握できること、地域課題の解決を話し合う中で協調性と独自性を持ち、一つの案を提出できることを目標とする。	

J W U 社 会 連 携 科 目	JS 寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ	日本総合住生活株式会社の寄附による授業であり、様々な観点から多世代が生き生きと暮らせるこれからの住まい・団地・まちづくりを考える。同社が管理する住宅団地を実践フィールドとし、これら集合住宅の課題に対し、多角的な視点を持って検討し、発表提案を行う。多文化多世代が生き生きと暮らせるこれからの社会・地域・まち・団地・住まいに対する知識を身につけること、多様な観点からこれからの居住環境・生活環境を柔軟に考えられること、論理的思考に基づき、チームで協働して解決策が提案・プレゼンテーションできることを目標とする。	
	課題解決型ワークショップを用いた企画開発	株式会社読売広告社の寄附講座として行われる。広告代理店である同社のビジネス領域において、実際に実践されているワークショップの手法を学びつつ、実際に企業の要望を想定し、または実際の企業と連携しながら、ワークショップを活用した企業の課題解決の具体案の作成も行い、受講者の課題解決能力の向上を目指す。授業後のリアクションペーパーを学習システム上で提出し、授業担当者からのフィードバックをする。現在の日本企業が抱える諸課題について、理解し、解決の糸口を見つけるための機会＝ワークショップという手法を理解すること、その手法を用いて実際に日本の企業・地方公共団体の課題解決の一助になるような案を、ワークショップを通じて創造することを目標とする。	集中
	課題解決型ワークショップ につぼん食を考える	今日、個人の食に対する価値観の変容や、持続可能な食とは何かといった食に関する社会課題が話題になるなど、我々が当たり前と考えている“食”の一大転換期を迎えている。そこで、日本人の食とはどのような形式のもの、または料理であるのかをワークショップ形式で考え、現代の若者の食に対する問題点や、人や地球にとって持続可能な食とはどのようなものであるかを学ぶ。食物学を開校当初から学んできた歴史のある日本女子大学と、「人と社会と地球の健康」を掲げ、江戸時代から日本の食と向き合ってきた伝統あるミツカングループとで連携しながら、人と社会と地球の健康、おいしさ考えたこれからの新しい「につぼん食」を受講者グループごとに提案することを目標とする。 (オムニバス方式／全 14 回) 第 1 回 21 飯田文子 (日本女子大学の食教育について) 第 2 回 92 赤堀博美 (日本の食文化の流れ) 第 3 回 21 飯田文子 (日本食についての概念—ラーメンは日本食?) 第 4 回 276 谷内洋子 (食と健康) 第 5 回 21 飯田文子 (おいしさの考え方) 第 6 回 31 小林富雄 (持続可能な食とは、食の SDGs) 第 7 回 21 飯田文子 (ミツカングループ取り組み事例) 第 8 回 87 平井智美 (若者の考える食とは) 第 9 回 62 鈴木礼子 (若者の食と問題点) 第 10 回 21 飯田文子 (株 Mizkan のマーケティング戦略を例にこれからの食を考える) 第 11 回 21 飯田文子 (おいさと健康を一致させる、これからの食とは) 第 12 回 87 平井智美 (事例研究 1 : レシピ OR 献立開発) 第 13 回 87 平井智美 (事例研究 2 : 試作) 第 14 回 21 飯田文子 (発表とまとめ)	オムニバス方式
	社会における ICT、データサイエンス活用 A	実社会の課題に対して、現状を分析し、解決案を提案する活動を通して、実際の問題解決に活用できる情報収集力、分析力、問題解決力の獲得を目的とする。企業の協力の元、実社会での問題発見、問題解決の活動を模擬的に体験する活動等を通して、現在、広く教養として求められている数理・データサイエンス・AI に関わる実践力を高めるとともに、社会に出てから必要となる個人情報の扱いや情報セキュリティについて注意すべきポイントなどを学ぶ。文献やインターネット上のデータの収集や分析など、個人やグループワークによる演習を行う。	

社会における ICT、 データ活用 B	現在、私たちの身の周りにおける多くの社会活動がインターネットを通じて行われている。そのため、これからの社会で活躍するには、インターネット上で行われる各種の情報処理の仕組みを理解し、実用化するスキルが必要である。本科目では、受講者が実際に Web アプリケーション開発ツールである「Monaca」と「ニフクラ mobile backend」を用いて簡単なスマートフォンアプリを開発する。これらの演習を通じて、Web プログラミングおよびクラウドを用いたデータ処理方法を理解し ICT スキルを向上させ、普段の生活に必要な斬新で面白いアプリを作れることを目標とする。	
地域・企業と未来を創 るクリエイティブ・プ ロジェクト演習 A	0歳の赤ちゃんとお母さんを守るため、日本女子大学に設置される文京区の避難所について、運営準備はまだ不十分である。運営アイデアをプロジェクト型で思考し、グループで実現方法を検討、討議結果を発表することを目的とする。授業では講義、文献収集をもとにして、グループでの話し合いを展開、市民に向けて発想を説明できることを目指し、PBL、アクティブラーニング形式の授業を実施する。またルーブリックを用いて各自のパフォーマンスを評価する。問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行い、データを客観的に読み取ることができること、避難所生活者の妊産婦・乳幼児のニーズを的確に捉え、論理的思考に基づいて柔軟に解決策を考えられること、チームと協力的に作業し、チーム内の各自の意見を統合し、創造的な結果に結びつけるよう調整できること、社会課題の解決に対して主体性と責任をもって検討できることを目標とする。	
地域・企業と未来を創 るクリエイティブ・プ ロジェクト演習 B	山梨県の食品企業のご協力のもと、既存施設の再活用、それを利用した街おこしに関する新規事業の内容・展開をテーマに、現地でその問題について考えることを目的とする。授業は基本的にワークショップ形式で行うため、現地での学習の中で質問を受け、その場でのフィードバックを基本とする。地域や企業が考える課題の複雑性と本質が理解できること、課題解決のために必要な情報を検索し、課題に関連付けることができること、課題解決のためのヒアリング、ディベートを主体的にできるようになること、パワーポイントを利用したプレゼンテーションを効果的にできるようになることを目標とする。	集中
地域・企業と未来を創 るクリエイティブ・プ ロジェクト演習 C	地理空間情報・地域環境」をテーマに、第1部：地理情報システム (GIS: Geographic Information System) を用いた空間情報解析第2部：地理情報システム (GIS) を用いた地域調査・地域課題分析の2部構成で実施する。第1部で GIS の基本的な原理 (地理情報の数値的表現法、GIS で利用される空間データ (ベクタデータ・ラスタデータ)、空間解析手法) を学ぶ。第1部での学びを生かし、第2部では実際に地域へ赴き、フィールドワークと GIS 解析の双方を利用した地域調査を実施する。対象地域は、横浜市田谷地域である。課題の発見、データ収集から、習得した解析手法を用いた課題の解決に至るまで、実践を通じて空間解析手法を身に付けてもらう。また、地域調査の成果を実際に地域住民へ発信し、地域の課題を共有することも目指す。	
地域・企業と未来を創 るクリエイティブ・プ ロジェクト演習 D	文京区・豊島区・新宿区など、近隣の地域の文化について英語で発信をするプロジェクトを実行する。プロジェクトはグループワークで実施する。受講者自身で対象となる地域を調査し、情報を集めて原稿を執筆し、電子媒体 (ウェブ) または冊子形態 (パンフレット) で発信する準備を整える。発信内容は、おもに対象地域と関連のある日本文学者や外国人著名人などであるが、受講生の興味・関心に応じて映画のロケ地やアニメの聖地なども発信内容の対象とする。	

J W U 社会 連携 科目	社会連携・社会貢献活動Ⅰ	社会で力を発揮するための豊かな実践力を身につけることを目的として、本学が連携する団体等または一定の基準を満たす団体等が公募する社会連携・社会貢献活動に取り組み、その成果を発表する。事前指導（講義）により、社会連携・社会貢献活動に参加する意義について考え、事前指導を踏まえて、現場での実践活動に対して主体的に取り組む。事前指導、現場での実践活動を経て、自らの体験を事後指導（活動報告会）で発表を行う。社会連携活動は、例えばフードパントリーボランティアと学習支援ボランティアの2つの活動を組み合わせた活動とする。	集中・共同	
	社会連携・社会貢献活動Ⅱ	社会で力を発揮するための豊かな実践力を身につけることを目的として、本学が連携する団体等または一定の基準を満たす団体等が公募する社会連携・社会貢献活動に取り組み、その成果を発表する。事前指導（講義）により、社会連携・社会貢献活動に参加する意義について考え、事前指導を踏まえて、現場での実践活動に対して主体的に取り組む。事前指導、現場での実践活動を経て、自らの体験を事後指導（活動報告会）で発表を行う。社会連携活動は、例えばフードパントリーボランティア、学習支援教室ボランティア活動、多世代交流施設でのボランティアの3つの活動を組み合わせた活動とする。	集中・共同	
基礎 科目 外国語	必修英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	この授業科目では演習形式により、人前で英語を使い、自分自身を適切に表現するためのコミュニケーション能力に特に焦点を当てて、学生の全体的な英語能力を伸ばすことが目的である。特にプレゼンテーション・イングリッシュ a では、英語でプレゼンテーションを行うための基本的なスキルの修得と実践を中心に行う。学生は、時にはペアを組んでグループで学習するなど、より効果的な学修方法で、割り当てられたトピックを調査して話し合い、プレゼンテーションを整理し、身振り、声の抑揚、発音、正しい文法と単語の選択など多様なプレゼンテーションスキルを学ぶ。	
		プレゼンテーション・イングリッシュ b	この授業科目では演習形式により、人前で英語を使い、自分自身を適切に表現するためのコミュニケーション能力に特に焦点を当てて、学生の全体的な英語能力を伸ばすことが目的である。特にプレゼンテーション・イングリッシュ b では、プレゼンテーション・イングリッシュ a で修得したスキルを土台として、より高度な内容で自分の意見について説得力を持って発表し、スキルを向上と実践を中心に行う。学生は、時にはペアを組んでグループで学習するなど、より効果的な学修方法で、割り当てられたトピックを調査して話し合い、プレゼンテーションを整理し、身振り、声の抑揚、発音、正しい文法と単語の選択など多様なプレゼンテーションスキルを学ぶ。	
		アクティブ・イングリッシュ a	この授業科目では演習形式により、比較的平易で分かりやすい英語による映画や、文化・経済・政治・環境・社会などの多岐に亘るトピックに関する英文ニュース等を題材に取り上げながら、英語の文法力や語彙力を強化し、英文を読み解く力を養成する。事前に指定された映画を視聴して内容をワークシートにまとめたり、ニュースの日本語訳に取り組む反転授業の形を取ることで語彙力を強化し、自分の考えを英語で表現したり論理的に書けるようになる等、基礎となる英語力を学ぶ。また、授業後にはレポートや課題に対するフィードバックを行う。	

基礎科目 外国語	必修英語	アクティヴ・イングリッシュ b	この授業科目では演習形式により、比較的平易で分かりやすい英語による映画や、文化・経済・政治・環境・社会などの多岐に亘るトピックに関する英文ニュース等を題材に取り上げながら、リスニング、スピーキングの運用力を伸ばすことが目的である。事前に指定された映画を視聴して内容をワークシートにまとめたり、授業時間内でペアワークやディスカッションを行うことで、リスニング力を強化し、円滑なコミュニケーションの基礎となる英語力を学ぶ。また、授業後にはレポートや課題に対するフィードバックを行う。	
	選択英語	英語コミュニケーション I	SNS やメールの普及により、文字でのコミュニケーション機会が多くなったことを踏まえ、SNS、チャット、メール等の使用を前提とした、会話に近い日常的な文字による英語コミュニケーション力の養成を目的とする。文法は日常よく使う表現に限定する。授業は基本的に資料提示・課題提出型で進める。各自あらかじめ資料を読み、理解し、教科書の問題を解いておく。場面に応じて、適切な英文を使って自分の気持ちを伝えられること、SNS やメールなどでのコミュニケーションに必要な略語の知識の修得を目標とする。	
		英語コミュニケーション II	身近で簡単な事柄から社会問題まで、様々なトピックについて少人数でディスカッションをし、相手を説得させるスピーキング力を養成し、英語コミュニケーション力を中級程度から上級レベルアップさせる。トピックに関するサンプルディスカッション等を聞いてリスニング力を鍛え、自分の意見に使える表現を学ぶ。またディスカッションでは、発言のチャンスを得るための表現や、誤解を解くための表現、相手が言ったことを確かめる表現など、話し合いに必要な表現も学ぶ。様々な状況に当てはめてロールプレイすることで、応用練習をさせ、表現の定着を図る。賛成する、反論する、議論に上手に割り込む、論点を整理するなど、英語で話し合いを進められるようになることを目的とする。	
		英語コミュニケーション III	この授業では、英語による演習形式の授業である。リスニング、スピーキング、発音、メモを取るスキル、及び外国文化の理解を向上させることを目的としている。時にはペアワークで会話スキルを練習したり、グループワークで文化的なトピックを議論し発表しながら、英語力を高める。最終的には、正しい文法と語彙を使用して明確かつ首尾一貫して話すこと、様々なトピックについてディスカッションで意見を述べること、理解を深めて読解や効果的なメモを取れること、文法上の間違いを最小限に抑えて明確で整理された方法で書くことを目的とする。 This class is an exercise-style class in English. It aims to improve listening, speaking, pronunciation, note-taking skills, and understanding of foreign cultures. Students will enhance their English by practicing conversation skills in pairs and sometimes discussing and presenting cultural topics in groups. Ultimately, students will learn to speak clearly and consistently through using correct grammar and vocabulary, and they will express their opinions in discussions on various topics. Further, in order to deepen their understanding and improve their reading and grammar comprehension they will learn to take notes effectively, the ultimate aim being to write in a clear and organized way with minimal mistakes.	
		リーディング I	外国のヒット映画について、その内容、制作当時の時代背景などが書かれたテキストを読むことを通して、多様な情報や価値観を速く読む力や、時には時間をかけて正確に読む力を身につける。英文法、語彙、音声について実践的な知識を身につけるとともに、インターネット等を用いて積極的に周辺知識を調べて異文化に対する理解を深め、英語を用いて自分の考えを表現することを目的とする。	

リーディングⅡ	英語の読解力と文化的理解をネイティブレベルに向上させることを目的としている。主に英語の短編小説を題材にし、短編小説を読むスキルを学んだうえで、アメリカを代表する作家や、日系アメリカ人の体験小説等を読むことを通して、読解力と文化的理解の向上を図る。 The aim of this course is to improve students' English reading comprehension and cultural comprehension, gradually improving their understanding of native level English. Classes will focus on learning about English short stories, which students will acquire the skills to read with confidence. Students will improve their reading comprehension and cultural understanding and learn about various viewpoints and experiences by reading the novels of leading American writers and Japanese Americans.	
リーディングⅢ	英語の詩を読むことは、想像の世界で、現実世界とは違った体験を広げることである。詩は特殊で難しいという先入観を捨てて、詩に親しみ、詩を楽しむことを目指す。18世紀～20世紀イギリス、アイルランド、アメリカの詩人の作品を題材に、丁寧に作品を読み、詩の種類、形式、文体などに習熟し、個々のテキストの解釈と鑑賞のみならず、作品の時代・文化的背景にも触れながら、広い視野から詩を理解する。教員と学生の間で対話をしながら進行する。英米の詩人たちの作品を通じて、言語に敏感に反応する感覚を身につけ、感性を磨き、理性や合理主義とは別の世界を知り、その社会背景を学び、異文化理解を高めることを目標とする。	
ライティングⅠ	日常的な話題や情報、自分の主張や自己表現を、「書く」英語で発信する能力の向上を目指す。多様化したコミュニケーション力が求められる社会において、「文章」で情報を正確に発信するため、要点となる文法事項を再確認しながら、正しいセンテンスを構成することを学ぶ。授業は演習形式、およびグループワークによるアクティブラーニング形式で行う。正しい英文を構成し、正確に情報発信できること、英語の豊かな語彙を学び、効果的な英文で自己表現できることを目的とする。	
ライティングⅡ	天候や四季などの日常的な話題、身の回りの人物や人間関係、日常生活に生じる個々の諸問題、怪我や病気についての描写や説明などに加え、旅や休暇、世界規模で生じる環境などの社会問題についてなど、幅広いトピックを英文で表現し、発信する方法を学ぶ。表現のための語彙力を強化するため、関連する単語や語句、慣用表現を学修したうえで、正確で多様な表現力を見出し身につけることを目指す。授業は演習形式、およびグループワークによるアクティブラーニング形式で行う。英語の豊かな語彙と正確な文法力で、様々なトピックについての確に描写し、効果的に自己表現できることを目的とする。	
ライティングⅢ	よく構成されたパラグラフや短いエッセイを書く方法を学ぶことが目的である。学生は個別の予習復習のほかに、グループ学習等のワークショップ形式で行われ、教員から口頭及び書面でのフィードバックを受け取ることによって能力を伸ばしていく。扱う題材は、教育、生活、ビジネス、仕事、世界のライフスタイルなどであり、それらの様々な課題や作文課題を通じて、将来も役立つ英語作文能力を伸ばす。	
メディア・リスニング	アメリカ英語に特徴的な発音やイントネーションパターンについて学び、自然なスピードの英語も聞き取る力を身につけることを目的とする。映画やテレビドラマ、TOEIC教材、ネイティブ・スピーカー同士の生の会話も取り入れ、日常会話で用いられる英語を聴解する力を培う。また、リスニング力を向上させる手段として、スピーキング練習も積極的に取り入れる。メディアで使用される英語を聞き取るために必要な英語音声学の基礎知識、リスニング力、スピーキング力を身につけながら、国際社会問題に対する知識、教養を深めることを目標とする。	

基礎科目 外国語	選択英語	観光英語	海外旅行で使う英語表現、来日した観光客に日本文化を紹介する時の説明、観光業務を行う時のビジネス表現などを学ぶ。 また、総合旅行業取扱管理者試験、通訳案内士試験、観光英語検定の対策を通して試験に備えた基礎力の養成を目指す。また、観光地、観光業務に関する説明文の読解を通して総合的な英語の力の向上を目指す。授業では実際の観光場面を想定し、与えられた状況、場面を考慮に入れつつ、観光客に分かりやすい英語表現を練習する。観光案内、観光地で必要とされる英語の基本表現を使用できること、基本的な日本の文化、伝統を英語で表現できること、英語をコミュニケーションの手段として、相手の発言内容を理解し、自分の伝えたい内容を相手に伝えられることを目標とする。	
		ビジネス・イングリッシュ	将来、英語を使って働きたい学生に必要な英語力の向上を目指す。自分に適した仕事を見つけるまでのプロセス（適職を探す、求人に応募する、履歴書を用意する、採用面接の際の注意点や方法）を学び、実践練習を行う。授業では、まず自分に合った職種やライフスタイルを探したうえで、実際に興味のある企業や職種を調査し、お互いに発表する。また、履歴書やレターの書き方の授業を受け、自分自身で書き、クラスメート同士でチェックしながら就職活動に向けた準備を行う。最後に、面接のポイントを学び、クラスメート同士の面接練習を行い、最終的に講師を面接官とする面接を行う。適した仕事に就くために必要なプロセスを理解し、要求される英語力を養うこと、リサーチやプレゼンテーションの能力を磨くことを目標とする。	
		TOEIC	TOEIC のスコアを伸ばすために、国際的なビジネス分野に必要な英語のコミュニケーション能力を養成するために、TOEIC 問題を使いながら、様々な場面、分野のリスニング・リーディングの演習を行う。併せて、文法、語彙の修得と幅広い英語運用能力を養うための訓練をする。TOEIC の特典を伸ばし、個々に設定した目標を達成できるようになることを目指す。	
		TOEFL	米国大学・大学院への留学に必要な英語の試験である TOEFL を受験するために必要な英語の実力をつけるため、主に Reading 力向上を目標とする。テキストは主に実際の TOEFL iBT の模擬試験からなり、各自が問題に取り組んだうえで個々の問題を解説していく。TOEFL iBT 受験のための基礎的な知識、実際に解答するための英語力（特にリーディング）を身につけること、受験対策を通じて大学レベルで学習可能な英語力を身につけることを目標とする。	
		IELTS	本科目は学生が IELTS テストを受験するための準備、得点力の向上、英語力全般の向上を目的とする。IELTS テスト受験準備のための過程で色々な種類のリスニングやリーディングの組み立て、語彙を学び、進捗度合いについても期間中に数回のチェックを受ける。IELTS テストを受験するための方策を理解し、リスニングとリーディングのスキルを向上させ、語彙を増やすことを目標とする。	
		資格英語（集中） 1	TOEIC 形式の問題を、文法的なアプローチも適宜交えながらパターンごとに解いていき、TOEIC の問題の傾向に慣れながら、ビジネス英語の修得と TOEIC のスコア向上を目指す。教科書の問題を中心に練習を繰り返す形で、リスニングのコツと文法の基本を身につける。TOEIC のスコア向上、TOEIC 問題を通じた英語の基本の理解、ビジネス英語で使える英語の修得を目標とする。	集中

基礎科目 外国語	選択英語	資格英語（集中） 2	実践練習を通して、TOEIC の出題パターンに慣れるとともに、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また TOEIC テストに備える学修を通じ、国際化・グローバル化に対応できる英語運用能力の育成を目指す。TOEIC テストのリスニング学習を中心に、リーディング学習も交えて総合的な英語力を向上させるための多角的なトレーニングを積む。TOEIC テストの問題形式を把握し、スコア向上を目指すこと、頻出文法・語法を確認すること、ビジネス現場で活用できる総合的な英語能力を身につけることを目標とする。	集中
		資格英語（集中） 3	TOEFL の問題形式の特性を把握したうえで、各自が目標とするスコアに到達できるように、「読む」「聞く」「話す」「書く」の英語 4 技能について集中的に問題演習を行い、英語運用能力の向上を目的とする。実践演習形式の授業の中で、自分の弱点を把握しながら TOEFL の各パートの特性を把握し、回答のテクニックも含めて、各自が目標とするスコアを獲得できるだけの実力をつけ、単に試験対策にとどまらず、アカデミックな場での英語運用能力を高めることを目標とする。	集中
基礎科目 外国語	ドイツ語	ドイツ語 a 入門	ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象で、発音の規則にはじまり、ドイツ語文法の前半部分を学ぶ。世界におけるドイツの立場や文化的特徴についても適宜説明し、日本的・アメリカ的なスタンダードによらない、柔軟な世界理解の感性も養う。文法事項の後に練習問題を解き、必要に応じて会話練習、小テストで理解の定着を図る。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		ドイツ語 a 初級	ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象で、発音の規則を確実に定着させ、1 年で学ぶべき文法事項の後半部分を学ぶ。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ドイツ語技能検定試験 4 級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験 A1 合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		ドイツ語 b 入門	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心とし、入門の授業では特に発音、書字体系を理解することを目的である。聞く・読む練習では、おおよその内容をつかんだり、予測したり、特定の情報を探したり、多様な理解の仕方を学ぶ。ペアワークやグループワークを通して積極的に話し、発音を練習する。また、自己紹介や簡単なメールなどで作文を学ぶ。発音の規則に慣れ、ドイツ語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		ドイツ語 b 初級	ドイツ語 b 入門に引き続き、発音や会話に重点を置きながら、ドイツ語を読む・聴く・話す・書く技能を総合的に学ぶことが目的である。グループワークによる実践的な会話練習を積み重ねていくことで、ドイツ語でコミュニケーションを行うことの楽しさを実感し、ドイツ語圏の文化に対する理解も深める。発音の規則を習熟し、基本的なコミュニケーションができ、ドイツ語技能検定試験 4 級、ゲーテ・インスティテュートドイツ語検定試験 A1 合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		ドイツ語 L. L. 入門	正確な発音の習熟を目指し、基本的表現のパターン・プラクティス、および簡単な会話の訓練を行う。入門授業では特に発音、書字体系の理解に重点を置いて指導する。ドイツ語会話の教科書に基づいて、様々なコミュニケーションの場面でドイツ語を使う練習を行う。また、書籍・インターネット上にある様々なリソース（YouTube や Podcast を含む）を活用することで、ドイツ語圏のリアルな様子を学んでいく。ドイツ語に映像・音声を通じて馴染み、ドイツ語圏文化へ配慮しながら、状況に応じて基本的なコミュニケーションができる。ドイツ語技能検定試験 5 級合格程度の能力を目標とする。	

基礎科目 外国語	ドイツ語	ドイツ語L. L. 初級	正確な発音の習熟を目指し、基本的表現のパターン・プラクティス、及び簡単な会話の訓練を行う。ドイツ語でのコミュニケーション能力を身につけたい学生、ドイツ語圏への旅行や留学を目指す学生を対象としている。ドイツ語に映像・音声に通じて馴染み、ドイツ語圏文化への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。ドイツ語技能検定試験4級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験A1合格程度の能力の修得を目指す。	
		ドイツ語中級	ドイツ語で文章を書くことによって、ドイツ語の運用能力を高め、同時に入門・初級の授業で学習した文法知識の定着を図る。ドイツ語圏文化とドイツ語に対する、より深い理解を持ち、読む・書く・聞く・話すのいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮できることを目標とする。ドイツ文化に関するテキストやヨーロッパ都市の歴史、ギリシャ神話などを題材に、ドイツ語文法と語法の正確な知識から論理的に把握し、ドイツ語分読解力を向上させる。ドイツ語技能検定試験3級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験A2合格程度の総合的な能力の修得を目指す。	
		ドイツ語中級アドヴァンスト（原典講読）	ドイツ語の読解力を一向上させ、自力で高度なドイツ語文を正確に理解できるようになることを目的とする。ヨーロッパ近代史やドイツ語に翻訳された日本文化のコンテンツを題材に、ドイツ語の基本的な文法事項等を再確認し、翻訳の問題、文化理解の面白さについても体感する。西洋の歴史・文化への理解に基づき、比較的高度なドイツ語文献を読みこなすことを目標とする。	
		ドイツ語上級	名高い小説家による作品および書簡や日記を熟読することで、本格的なドイツ語の文章に慣れ、語彙数を増やし、文法・語法を極め、ドイツ語原典を読み解く力を向上させることを目指す。本格的なドイツ語をじっくりと精密に読み解くことにより、文法現象も、精神的・哲学的・文化学的・歴史的背景の理解も深める。	
		集中ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級合格に必要な能力を鍛えていく。検定試験の特徴を熟知した講師が勉強のコツを伝授する。模擬試験を複数回行い、受講者の苦手な部分を把握し、要点を絞って指導する。文法事項を分かりやすく解説したうえで、練習問題を解いていく。必要に応じて会話パート練習、小テストを行い、理解の定着を図る。文化的背景についてなるべく沢山の情報を交え、ドイツ語修得の意欲の持続を図る。ドイツ語技能検定試験3級に合格できる能力の獲得を目標とする。	集中
フランス語	フランス語a 入門	フランス語文法の入門クラスであり、文法を中心に発音の基礎から、フランス語とフランス文化に親しみ、基本的な例文を覚えることにより、読む・書く・聴く・話す、の基本を身につけることを目的とする。日仏の若者の交流や現代フランス文化、フランス料理などを題材に、フランス語の発音の仕組みを理解し、基礎的な文法や簡単な会話表現を修得していく。フランス語検定5級から4級レベルになることを目指す。		
	フランス語a 初級	フランス語文法の入門クラスの修了者向けの初級クラスである。入門クラスに引き続き、文法の解説や練習問題を通じて、初級文法の後半部分を修得し、時制の混ざった簡単な文章が読めるようになることを目指す。日常生活に必要な程度のフランス語を聞き、話し、読み書きできるようになるための、基本的文法を身につけ、フランス文化を通じて多様な価値観に触れ、多角的なものの見方、広い視野を身につけることで、国際的な分野で活躍できるようになることを目標とする。フランス語検定4級から3級程度のレベルになることを目指す。		

基礎科目 外国語

フランス語

フランス語 b 入門	<p>初歩的な文章・会話文を通じて、初級文法や発音の定着や、日常生活の様々な場面で使われるフランス語を「話す」「聞く」「読む」「書く」訓練を通して、総合的な力をつけていくことを目的とする。テキストを丁寧に学ぶことで、実際に単語や文法が文や文章の中でどのように使われているのかを確認していくことによって、フランス語の運用能力を高める。発音の規則に慣れ、フランス語圏の文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。フランス語検定 5 級程度のレベルになることを目指す。</p>
フランス語 b 初級	<p>旅行や日常会話でよく使う表現を中心に、フランス語を学び、文法を身につけ、語彙を増やしながら表現力を豊かにすることが目的である。視聴覚教材を多用し、聞き取りや書き取りなどを通じてフランス語の音に親しんだり、グループを作って簡単な会話練習を行い、フランス語の実践的運用能力を高める。基本的なフランス語の文法の規則を理解し身につけること、正しいフランス語の発音で文章が読め、ある程度話せ、聞き取るようになることを目標とする。フランス語検定試験 4 級合格程度のレベルになることを目指す。</p>
フランス語 L. L. 入門	<p>フランス語入門の授業であり、様々な表現・文型・会話パターンに慣れながら、基本的な文法や語彙、発音を学習し、自然なフランス語を身につけることを目的とする。フランス語は基礎がしっかりしていればスムーズに上達できる言語である。文字と発音の関係は非常に論理的で、規則を身につけ、効果的な勉強ができるようにするための基本的な「コツ」も学んでいく。 フランス語圏の文化に映像・音声を通じて馴染み、フランス語圏の生活感情への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができる検定試験 5 級合格程度のレベルになることを目指す。</p>
フランス語 L. L. 初級	<p>フランス語 L. L 入門を踏まえ、担当教員や他の学生と会話をするを通して、フランス語によるオーラル・コミュニケーションの基礎の修得を目指す。毎週行うコミュニケーション練習を通じ、自然なフランス語表現を聞き取り、実際に発話する力を培う。会話に置いて基礎文法・基本表現当を応用できる思考力を養うとともに、言語の背景となっているフランス文化に関する幅広く豊かな知識を身につけることを目標とする。フランス語検定試験 4 級合格程度のレベルになることを目指す。</p>
フランス語中級	<p>フランス語入門・初級の授業で学んだ事柄を、実践レベルで応用することを目的とする。現在を生きるフランスの若者たちが日常普通に使っているフランス語を、会話文やある程度の長さの文章の読解を通して学ぶ。また、旅行や留学に必要な事柄をフランス語で表現できるようになるために、会話文や表現パターンを繰り返し声に出して応用練習を行う。フランス語圏の文化・言語に対するより深い理解を持ち、読む・書く・聴く・話す、のいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮できるようになることを目標とする。フランス語検定試験 3 級合格程度または CECL (ヨーロッパ言語共通参照枠) A1 程度のレベルになることを目指す。</p>
フランス語 L. L. 中級	<p>フランス文化に興味がある学生が、正確さよりは積極的に取り組むことが求められる。フランス語能力検定テキスト「ABC Delf A2」を使用し、口頭及び書面による理解と、表現の練習や語彙の修得を通して、Delf A2 合格の準備を行う。授業中の指示は主にフランス語を使用して進めていく。Delf A2 レベルを養成するために、学生が口頭及び書面で既に学習したコンテンツ (特に文法) を実践できるようになることを目標とする。</p>

基礎科目 外国語	フランス語	フランス語中級アドヴァンスト（原典講読）	中級程度のフランス語の文章を、正しい発音である程度流暢に読み、辞書を使って理解でき、中級程度の文法をしっかりと理解しすることを目的とする。現代フランスのダイナミズムを社会現象・スポーツ・技術革新・環境・IT・アート・ファッションなどといった複数の分野を通して、より深くフランス文化を理解していく。また、フランス語の歌の歌詞を使いながら、単語の表現や発音の矯正、速めのスピードで話す練習も行う。入門・初級・中級フランス語で学んだ文法や語彙を復習しながら応用することで、現代フランス語の読む力、発信する力の両方を身につけていく。フランス語検定3級合格程度のレベルになることを目指す。	
		フランス語中級アドヴァンスト（コミュニケーション）	現代フランスのダイナミズムを社会現象・スポーツ・技術革新・環境・IT・アート・ファッション等複数の分野を通して、より深くフランス文化を理解できるように授業を進めていく。入門・初級・中級フランス語で学んだ文法や語彙を復習しながら応用することで、現代フランス語の読む力、発信する力の両方を身につけていく。テキストを読み、文法や語彙を説明した後、ペアもしくはグループで話し合い、問題を解き、最後に答え合わせする。中級あるいはL.L.中級で身につけた能力をさらには伸ばし、フランス語を使って意見交換ができるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	
		フランス語上級	フランス語の原書を講読し、文学作品・雑誌記事・論文などのフランス語の文章について、辞書を使って読めるようになることを目的とする。盲点となりがちな文法事項に立ち入るとともに、論理的な文章の構成や、書き手の主観的な語り口などを掴めるよう丁寧に読み込んでいく。フランス語のエッセー、文学作品、雑誌記事、論文など、「フランス語中級アドヴァンスト」より一段上のテキストを題材とする。文系大学院でフランス語のテキストを一人で読みこなせるレベルになることを目標とする。	
		集中フランス語	フランス語検定試験3級の合格スキル獲得を目指す。基本文法を大まかに復習し、読解や練習問題、聴き取りなどを総合的に行いながら、基礎的な文法知識を確実なものにしていく。また、単語力獲得、リスニング力、長文読解力を磨くことにも重点をおく。過去の問題や模擬問題を解き、検定試験に向けての具体的な対策も行う。毎回、最後に問題点を整理し、質問などを通して、知識の定着を図る。フランス語検定試験3級に合格するスキルである基本文法の修得、読解力・リスニング力の向上を目標とする。	集中
	中国語	中国語 a 入門	中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、基本的な発音と簡単な文法を学び、中国の文化や風習などにも触れ言葉を通じて中国に対する理解を深めることを目的とする。発音記号であるピンインの仕組みを理解し、綴りから発音できるように練習しながら、中国語の基礎的な文法構造を学ぶ。発音練習を継続しながら、日常的な挨拶、簡単な会話も練習する。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度のレベルになることを目標とする。	
中国語 a 初級		中国語 a 入門に引き続き中国語の基礎を学び、入門で学んだことの定着をはかりながら、さらには文法を学び、語彙力や使える表現を増やしていくことを目的とする。既習の表現や分のパターンを用いた応用練習、グループごとの会話練習など、アクティブラーニング型の授業を行う。会話に関わる言葉の背景や、日本と中国の文化、習慣の違いを知り、正しいきれいな中国語の会話を学ぶ。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、中国語検定試験4級、HSK2級合格程度のレベルになることを目標とする。		

基礎科目 外国語	中国語	中国語 b 入門	中国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門の授業で、中国語の基礎づくりを目的に、発音の基礎から始めて、初級レベルで習うべき一般語句や基本表現及び文法事項などを学習することを目的とする。具体的には、発音の仕組みとその表記法であるピンインから始まり、文法の初歩、簡単な日常会話などを学んでいく。また中国語を学ぶ楽しさや意味をより深く認識すべく、言語の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理など）なども随時紹介し、中国への理解も深める。発音の規則に慣れ、中国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、中国語検定試験準4級、HSK1 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語 b 初級	中国語 b 入門で学んだ事項を基礎にして、発音を定着させて、初級レベルで習うべき一般語句や基本表現及び文法事項などを学習することを目的とする。会話練習に重心を置きながら、文法事項も説明し、会話力とリスニングの能力を養成する。会話は基本的に教員対学生、学生対学生で行い、定期的に発表を設けることでよく使うフレーズ、語彙を復誦・暗誦する。中国語圏文化をある程度理解し、その上、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ中国語検定試験4級、HSK2 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語 L. L. 入門	入門や初級で取得した知識を確認・消化しながら、コミュニケーション力の基礎である「聴」力を身につけていくことを目的とする。中国語の発音を正しくマスターすることから始め、日常生活の各場面を設定し、文法を確認しながら、会話の練習を行っていく。中国語に映像・音声を通じて馴染み、中国語圏文化への配慮をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、中国語検定試験準4級、HSK1 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語 L. L. 初級	中国語の発音、基礎文法、会話文などを解説しながら、書く・読む・聞くなどの練習を繰り返し行い、中国語の発音の定着をはかり、自己紹介や日常場面の会話ができるようになることが目的である。授業中にはクラスの全員に発音する機会が設けられており、より正確な発音を身につけ、中国語検定試験4級、HSK2 級合格程度のレベルになることを目標とする。	
		中国語中級	入門・初級で修得した文法事項を確認しながらスキルアップを目指し、読む・聞く・書く・話す、の4技能の総合的向上をはかる。基本的な文法事項の定着をはかり、さらには進んだ文法事項と表現を身につける。文法事項の解説と内容理解、文中で用いられた表現や文のパターンを用いた応用練習、グループワークなどアクティブラーニング型の授業を行う。中国語圏文化と中国語に対するより深い理解をもち、読む・書く・聴く・話す、のいずれか、あるいは複数におけるより進んだ能力を発揮でき、中国語検定3級、HSK4 級合格程度の総合的な能力を身につけることを目標とする。	
		中国語 L. L. 中級	初級授業で身につけた基礎能力をもとに、L. L. 教室を生かした訓練、様々な視覚的・聴覚的教材を用いた多面的な授業により、中国の文化への興味と理解をさらには深め、聴く・話す・読む・書く、のうち、特に聴く・話す能力を向上させることを目的とする。文の論理構造や発言の細かいニュアンスを示すキーワードの音に重点を置きながら、因果や条件結果など、より複雑な関係にある文や発話を正確に聞き取り、様々な場面に応じて「自分のことばで」会話できるように訓練する。中国語検定試験3級、HSK4 級への布石として該当するレベルの文型・語彙を修得することを目標とする。	

基礎科目 外国語	中国語	中国語中級アドヴァンスト（原典講読）	中国語中級から上級レベルを対象とし、読解力、作文、口語表現、ヒアリングなどに注意しながら、中国語の総合力と応用力を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。実用性の高い日常表現や、中国のメディアに発表されたニュース記事を教材に、中国語の文章構造を理解し、高度な読解力を身につける。また、現代の様々な新語についての知識を獲得し、生活者目線での中国の現状を理解する。中国語文化と中国語に対するより深い理解を持ち、4技能（読む・書く・聞く・話す）のうち、複数における一層進んだ能力を発揮でき、中国語検定3級以上、HSK4級以上の総合的な能力を身につけることを目標とする。	
		中国語中級アドヴァンスト（コミュニケーション）	中国語中級から上級レベルを対象に、読解力、作文、口語表現、ヒアリングなどに注意しながら、中国語の総合力と応用力を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。やや複雑な文型を使用して、自らの意見や考えを表現する力を修得する。演習形式により、可能な限り、学生が多く発音し、暗記し、表現していく。豊かな語彙力と基本文型による確固たる運用力の向上、実用性の高い中国語の応用力を身につけることを目標とする。これにより、中国語3級及びHSK4級以上への合格を想定している。	
		中国語上級	中国語に関する知識を深め、運用能力をより高めることを目的としている。中国で出版された能力段階別リーダーをテキストとして、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の総合的向上を目指す。授業は演習形式で進める。ナチュラルスピードの中国語を聴き、ディクテーション、内容の確認、文法事項のチェックを行う。小テストや課題提出により理解度確認するとともに、質疑応答、履修生同士の意見交換等も行う。中国語に関する知識を深め、運用能力を高めるとともに、中国語検定2級以上、HSK5級以上に合格する力を養成する。	
		集中中国語	中国語検定3級、HSK4級に合格するために必要なスキルの訓練を行う。過去の問題及び模擬問題を中心に問題形式に慣れること、リスニングに向けて発音を正確に修得すること、リーディングに向けて多くの文を読むことで単語量を増やし、基礎的な文法知識を確実にすることを目的とする。通常の授業と異なり、6日間集中で行う。事前に课文の音読注釈をよく読んで理解「できる、できない」を明らかにしておくことが求められる。また、事後は課題を実施して理解度を確認することが求められる。中国語検定試験3級、HSK4級の合格を目標とする。	集中
韓国語	韓国語	韓国語 a 入門	入門においては、韓国語の骨格を形成する基礎文法について学習し、発音及び表記法、そして文法の基本形式等、会話・講読の基礎となる文法事項を学習することを目的とする。韓国語の文字と発音が正確にできるよう重点的に学び、簡単な挨拶言葉を使用できるようになる。また、映像、音楽などをも利用して、言葉の背景にある韓国の文化、社会、歴史への関心と理解を深める。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ハングル能力検定試験5級、TOPIK1級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 a 初級	入門での学習内容を土台にしつつ、文型が自由に活用できるレベルになることを目的とする。テキストに沿って新しい文法事項を学習し、練習問題を解くことで定着させ、テキストの本文を繰り返し朗読し、自然なスピードで読めるように訓練する。また、場面に応じた基本的な口語表現を学び、会話の練習も行う。辞書を活用して、基本的な会話・読解・作文ができ、ハングル能力検定試験4級、TOPIK2級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	

基礎科目 外国語	韓国語	韓国語 b 入門	韓国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門科目で、発音、オーラル・コミュニケーションの訓練を中心に、会話に必要な語彙を増やし、簡単な日常会話から応用会話ができるようになることを目的とする。授業では教師と一緒に反復練習し、自己紹介や家族、趣味などの日常生活に関連する表現を学んで、自然な会話ができるよう基礎を作る。言語の背景にある文化についても勉強し、異なる文化的背景をもつ相手に対して積極的にコミュニケーションを行おうとする態度を養成する。自分の考え方を表現する能力、情報や相手の意向を理解する能力も高めていく。発音の規則に慣れ、韓国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 5 級、TOPIK 1 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 b 初級	入門科目に引き続き、発音、オーラル・コミュニケーションの訓練を中心に、会話に必要な語彙を増やし、簡単な日常会話から応用会話ができるようになることを目的とする。授業では教師と一緒に反復練習し、自己紹介や家族、趣味などの日常生活に関連する表現を学んで、自然な会話ができるよう基礎を作る。言語の背景にある文化についても勉強し、異なる文化的背景をもつ相手に対して積極的にコミュニケーションを行おうとする態度を養成する。自分の考え方を表現する能力、情報や相手の意向を理解する能力も高めていく。発音の規則に慣れ、韓国語圏文化への配慮をもって、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 4 級、TOPIK2 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語 L. L. 入門	韓国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門クラスである。正しい発音の仕方及び聞き取りの練習を中心に授業を行う。受講者のレベルや進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。 ハングルの仕組みを理解したうえで、様々な発音の特徴を学び、反復練習する。挨拶の言葉を覚え、PC におけるハングルの入力法を学ぶ。課題として、自分の声で音声入力したファイルを提出し、一緒に確認することにより、より正確な発音を目指す。ハングル能力検定試験 5 級、TOPIK1 級合格程度の能力獲得と、映像・音声を通じて韓国語に馴染み、韓国語圏文化を理解し、状況に応じて基本的なコミュニケーションができることを目標とする。	
		韓国語 L. L. 初級	韓国語の入門を学んだ学生を対象とした初級クラスで、正しい発音の仕方及び聞き取りができるようになることを目的とする。簡単な自己紹介や日常会話の基本的な表現を学び、さらには簡単な作文の練習をし、正確に短い文章を読み、話すことができることを目指します。国語に映像・音声を通じて馴染み、韓国語圏文化への理解をもったうえで、状況に応じて基本的なコミュニケーションができ、ハングル能力検定試験 4 級、TOPIK 2 級合格程度の能力を身につけることを目標とする。	
		韓国語中級	入門・初級クラスで学んだことの定着と応用をはかり、韓国語の文献を正確に読解する能力を養成することを目的とする。様々な形態の韓国語文献を読み、語句を確認して翻訳することで、語彙や文法事項を学習すると同時に、言語の持つ文化的な含有を確認し、自身の韓国語の文章解読能力を高める。また、読解力を身につけるとともに、テキストを通して韓国の歴史、文化、社会についても学び、理解を深める。韓国語圏文化と韓国語に対するより深い理解をもち、読む・書く・聴く・話すことにおいて、より進んだ能力を発揮でき、ハングル能力検定試験 3 級、TOPIK3 級合格程度の総合的な能力を身につけることを目標とする。	

基礎科目 外国語	韓国語 L. L. 中級	より正確な韓国語の発音、韓国の映像作品を字幕なしで理解できるリスニングを身につけることを想定する。受講者のレベルや進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。反復練習により再度、正しい発音を確認し、様々な映像、音声教材を用いて聞き取り及び会話練習を中心に進めることから始め、初級からレベルアップした語彙や表現を用いた自己紹介等の発表を通して書く力、話す力を養い、実用的な会話表現を身につけ、韓国文化への興味と理解をさらには深めていく。韓国語圏文化と韓国語に対するより深い理解をもち、「読む・書く・聞く・話す」のうち、特に「聴く・話す」に重点を置いたより進んだコミュニケーション力、ハングル能力検定試験 3 級、TOPIK3 級に合格する総合的な能力養成する。	
	韓国語中級アドヴァンスト (原典講読)	韓国の映画やドラマに関する映像資料、文献資料に触れながら、リスニング能力、読解力を高めていくことを目的とする 映像資料を紹介しつつ、関連する新聞記事などの韓国語文献も使用する。現代韓国社会における映像文化についての事前学習が求められる。韓国語のリスニング能力、読解力の上達を目標とする。	
	韓国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	受講者の関心に沿ってテキストを選定する。新聞記事、小説を部分的に訳し、内容を韓国語で討論する練習を行う。語彙を増やし、適切な韓国語を使用して意見交換できるコミュニケーション力を培うこと、聞き取り、会話力を向上させ、韓国の歴史、文化、社会への関心と理解を一層深めることを目的とする。 單元ごとに学習成果を確認する課題を示し、学習管理システムを通して個別に返却し、全体に関わる項目は授業中に講評してフィードバックする。韓国語の中級から上級程度の文章を聞いて理解できること、韓国語の中級から上級程度の文法を修得すること、韓国の歴史、文化、社会について幅広く説明できること、韓国の歴史学上の諸問題と現在の社会状況との関連を理解できることを目的とする。	
基礎科目 情報処理	基礎情報処理	情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるための Web やメールの活用法及び情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を修得することを目的とする。次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習で学修する。さらには、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能 (Artificial Intelligence, A.I.) とは何かについて触れる。現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術及びデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身につけるとともに、最新トピックスであるデータサイエンス及び人工知能について理解を着実に深めることを目標とする。	
	データサイエンス入門	データサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にこれを用いた事例を概観し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶことを目的とする。 また、生活に必要なデータサイエンスの基礎についてシミュレーションを用いて身につけること、直感的に理解できる内容を目指しながら、卒業研究に必要となる統計の基礎も身につけることを目標とする。授業は PC を用いた演習形式で行う。統計処理のための R 言語使用の修得、データサイエンスの基本的手法の修得すること、データ分析の有効性と重要性、統計の数理の理解を目標とする。	

AI 入門	<p>現代に大きな社会変革をもたらしている人工知能技術について学ぶことを目的とする。Python プログラミングの演習を積んだ後、古典的なアルゴリズムから深層学習まで人工知能の原理をコードとともに学ぶ。最後に、人工知能が現代社会にもたらす影響を調査し、プレゼンテーションすることで、受講生同士が理解を高める機会を設ける。本講義は、コンピュータ演習室を用い、Python プログラミングの演習が含まれる。演習は、Google Colaboratory を用いたハンズオン学習で行い、全くの初学者であっても、体験的に理解して進めることができる。簡単な Python プログラミングが行えること、コンピュータと知的処理の概要を理解できること、データサイエンスや機械学習の体験的な理解が行えること、人工知能発展が現代社会に与える影響を論究できることを目標とする。</p>	
ICT 活用 I	<p>情報を受け取る形でインターネットを利用することだけでなく、情報を発信することもまたインターネットの利用の方法である。本授業は、インターネットの情報発信技術を学び、また web ページの企画・デザイン・制作を通じ、公開可能な web ページを作成し、インターネットで価値のある情報発信を経験することを目的とする。WEB サイトを自ら企画し、また、XHTML・CSS 技術を利用しサイト作成ができること、企画に従った情報の収集、整理、発信内容に沿った、サイト構成・デザイン・制作ができること、また製作したサイトの公開を通じて、企画した情報を発信することができることを目標とする。</p>	
ICT 活用 II	<p>画像や動画など視聴覚に直接訴えるような媒体を使いこなす技術は、インターネット上だけではなく、企業や研究の場など多くの場面で様々な応用が期待できる。本授業は Adobe 社の Photoshop と Premiere を使い、これまでこれらのソフトに触れたことのない学生を対象に、画像や動画の編集スキルを修得することが目的である。また、実際に画像や動画などのデジタルコンテンツを扱うためのリテラシーに関しても理解を深めることを目指す。画像や動画の編集技術を学ぶことで、卒業研究などに活用できる技術を修得し、同時に普段気軽に利用するスマートフォンなどで行われている操作が、どのような技術的背景に基づくのかを理解することを目標とする。</p>	
ICT 活用 III	<p>この授業ではコンピュータで扱う画像、特に 3 次元グラフィック (3DCG) に着目しながら、コンピュータ上で絵を描くように扱ういわゆる 2 次元 CG と 3 次元 CG (以下 3DCG) の違いを確認し、3DCG とはどのようなものかを理解し、そのうえで 3DCG を扱う専用のツールを使用して、3DCG の技法や 3DCG ならではの表現について学ぶことを目的とする。授業はコンピュータを使用する演習を主とするが、理解が進むよう論理的な説明を重視し、学習した内容が CG 関連の検定試験などの CG を扱ううえで必要とされる知識とリンクするように確認しながら進めていく。2 次元 CG と 3 次元 CG の違い、及び 3 次元 CG の作成の基本を理解し、3 次元 CG を使ってシーン (ある場面の情景) を作成できるようになることを目標とする。</p>	
ICT 活用 IV	<p>データサイエンス分野の基礎として、前半は Excel と SPSS を活用したデータの集計・分析法、後半は Access を用いたリレーショナルデータベースの基本、及びビジネスのキーワードとなる IoT (Internet of Things) 技術とデータベースとの関連と小型ロボットへの簡単なプログラミングを通してデータベースの活用方法を学ぶことを目的とする。身近な場面を想定して、問題解決的に課題を進め、随時演習課題を実施しながら、実践的なデータベース活用の基礎を学ぶ。具体的には、SPSS を使って、データの定義及び編集・加工、計算、比較、分析、クロス集計、グラフ作成ができ、Access を用いた基本操作、ロボットを動かす簡単なプログラミング、日常の課題解決場面におけるデータベースを活用した問題解決力を身につけることを目標とする。</p>	

基礎科目 情報処理	ICT 活用VI	デジタルアート作品を使った定量的評価と分析・データサイエンスをテーマに、顔をモチーフとしたデジタルアート作品を刺激とする心理評価実験の基礎について学び、自分で計画を立てて実践してみることが目的とする。具体的には、顔が発信する情報とその処理について総合的に学ぶとともに、顔研究でよく用いられる心理評価実験の基礎（方法・結果の解析・考察の仕方）を学ぶ。受講者自らがテーマを見つけ、実際に心理評価実験に取り組む。	
	身体運動 I a	授業の担当教員が選定した種目を個人や集団の能力に応じて実践することで、自ら健康の維持・増進のために適切な運動習慣を獲得し、生涯にわたり実践できる基礎的能力を身につけることを目的とする。担当教員が選定した運動種目について実習形式の授業により、準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチング法などを学習する。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を修得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	
基礎科目	身体運動 I b	身体運動 I a での学びを踏まえて、引き続き授業の担当教員が選定した種目を個人や集団の能力に応じて実践することで、自ら健康の維持・増進のために適切な運動習慣を獲得し、生涯にわたり実践できる基礎的能力を身につけることを目的とする。担当教員が選定した運動種目について実習形式の授業により、準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチング法などを学習する。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を修得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	
身体運動	身体運動 I c	1年次を対象とした3泊4日の日程で行われるスキー・スノーボードの集中授業による授業で、各自の能力に応じたグループを中心とした活動及び複数のグループの交流を通じて行い、夜間は授業、班別ミーティング、全体会を行い、スキー・スノーボードに対する理解を深めることを目的とする。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を修得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	集中
	身体運動 II a	担当教員が選定した運動種目（ヨガ&ピラティス、ボルダリング、フットサル、フィットネス）について実習形式の授業を行い、教養を深めながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。また、各種目の運動の実践を通して、現代社会における身体運動についての意義や、自己の身体への意識や気づきを高め、健康の維持や増進に役立てる方法を理解し、運動に親しみながら、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
	身体運動 II b	担当教員が選定した運動種目（卓球、ボルダリング）について実習形式の授業を行い、教養を深めながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。また、各種目の運動の実践を通して、現代社会における身体運動についての意義や、自己の身体への意識や気づきを高め、健康の維持や増進に役立てる方法を理解し、運動に親しみながら、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	

身体運動Ⅱc	2・3年次を対象とした3泊4日の日程で行われるスキー・スノーボードの集中授業による授業で、各自の能力に応じたグループを中心とした活動及び複数のグループの交流を通じて行い、夜間は講義、班別ミーティング、全体会を行い、スキー・スノーボードに対する理解を深めることを目的とする。運動の実践を通して個々の能力に応じ、安全に運動を実施するための知識、技能を修得すること、現代社会における身体運動の意義を理解し、トータルフィットネスを高めること、運動に親しみながら様々な運動・スポーツについての理解を深めることを目標とする。	集中
身体運動論	人と運動（競争から健康のための運動まで全般）の関係について理解を深めることを目的とする。講義では、生涯スポーツ、運動文化、遊び、生涯発達、社会、健康といった多様な側面から身体運動について学び、人と運動とのよりよい関わり方について展望する。身体運動の意義、実施方法について、講義、課題を通じて理解を深めていく。運動の心身への効果、適切な運動の実施方法、人間と社会における運動の意義について説明できることを目標とする。	
身体運動文化論	古来、人は身体を用いて様々な舞踊を生み出してきた。そこには、現代に通じる論理が存在する。それらを多角的にみると、民族や宗教、歴史や社会など、多様な要素がかかわっている。講義では、舞踊を中心とした複数の身体運動に触れ、舞踊学、芸術学、スポーツ人類学、運動生理学等の知見を手がかりに、そこに込められた思想や時代性・社会性等を読み解いていく。そして、身体とは何か、身体運動文化を自分自身にかかわる問題として考えることにより、グローバル社会での舞踊・身体運動の文化的意義や身体運動の文化的側面を理解することを目指す。	
健康スポーツ論Ⅰ	本授業では、生涯にわたり自分で健康管理ができるようになることを目標とし、心と体の仕組みについて学んでいく。さらには、安全で効果的な運動方法を理解することにより、より充実したQOLが送れるよう、運動の特性についても理解を深めることを目的とする。毎回、授業後に小レポートを課しながら進める。心と体の基本的な仕組みを知り、健康の意味と重要性を理解できること、健康の維持・増進に必要な情報を得て、自らの生活に活用できることを目標とする。	
健康スポーツ論Ⅱ	広範囲にわたる健康やスポーツの様々なトピックスを取り上げ、現在や将来にわたり、日常生活に活用できる健康やスポーツの知識の修得を目的とする。テーマに沿ってパワーポイントを活用し、学びの成果を小テストで把握、さらにはレポート提出を数回実施する。特に大学生活は、日常の生活環境の変化に対応し、自己による心身の管理の必要性が求められる。講義で学んだことを加味しつつ、自身の意見を述べられるようになることを目標とする。	
身体運動演習 a	姿勢・体型改善や体力の向上など各人が目標を設定し、その目標を達成するための方法を学修・実践する。授業内では有酸素運動を中心にストレッチング、Yoga、Pilates など様々な運動を実習し、日常生活においても実践できる知識と実践力を身につけ、健康的な生活習慣を獲得することを目的とする。他者と共有できる程度のヘルスリテラシーを身につけること、自らの力により健康的な生活習慣を獲得できることを目標とする。	
身体運動演習 b	担当教員が選定した運動種目（フィジカル・トレーニング、ゴルフ、バレエエクササイズ、ボディシェイプ）について、各種目を通じて日常生活においても目標を目指して実践できる知識と実践力を身につけ、健康的な生活習慣を獲得する。またその種目のルールやスキルだけでなく、マナーや文化背景、日常生活で経験する緊張・不安・ストレスを乗り越える精神力と集中力を養うことが目標である。	

	政治思想の歴史	政治とは何か、人間は政治とどう関わるかという問題を巡る、先人達の思索の跡を辿ることで、政治という人間現象についての省察を深め、我々と政治の関係について考えることを目的とする。政治思想の古典的なテキストを取り上げ、適宜それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら、それらを解説していく。政治という人間現象についての省察を深めることで、一人ひとりが政治について自分の視点を持ち、自分が政治の主人公であるという自覚を持つことができることを目標とする。	
	政治学	本講が念頭におく政治現象は、男女間の権力の配分、あるいは利害対立にかかわる主題群である。政治理念としての「男女共同参画社会」とそれに内在する規範性は、私たちににとってどのような意味と課題を提示しているのか、改めて考察の対象とする。毎回、リアクションペーパーの提出を義務づけ、一部を授業開始時に共有する。近代政治理念・思想を貫通する論理である公私二元論の問題点について理解できること、「フェミニズム政治学」の理論的・思想的な成果を享受し、かつその骨子を説明できること、「男女共同参画社会」「女性活躍社会」「一億総活躍社会」に内在する規範性について理解できることを目標とする。	
	日本の政治	投票、選挙活動、地域活動、役職者との接触など政治参加の基礎的な概念を紹介し、政治現象を理解するための一助となることを目的とする。特に戦後日本人の政治参加の特質を国際比較の観点から考察し、日本における統治のあり方へのインパクトを解説する。また、政治参加の男女間の違いと、それが政策形成にどのようなインパクトを与えてきたかも考えていく。政治参加の基礎的な概念の理解を深め、自分なりに説明できること、世界で生じる様々な政治現象について、自分なりの視点を持つこと、また、そのメカニズムが理解できるようになることを目標とする。	
	政治と福祉	私たちの生活や、福祉制度の対象は政治の影響を受けて変化する。しかしまた、現代の福祉国家においては、福祉制度が政治に対しても影響を与える。この講義では、現代の福祉国家における人々の福祉や生活と政治が相互に与える影響について、自身で考える視点を導くことを目的とする。政治と福祉の関係性について説明できる、政治と福祉に関して問題を発見できる、政治と福祉に関する問題について自身で調査できるようになることを目標とする。	
	メディアと社会	本講では、メディア論をはじめとする様々な学問の視角と時代ごとのメディアを取り上げつつ、〈メディア〉と〈社会〉の関係について学んでいく。講義資料を解説し、ワークシートを使いながら事後学習で理解を深められる仕組みで進める。メディアについての視点や論点、概念についての説明をもとに、様々なメディアの特徴と移り変わりを概観し、身近なメディアが社会や人々の生活に与えたインパクトを読み解く。また、近年のインターネット利用に関わる具体的な事例を考察することで、メディアをめぐる現代社会の諸問題を理解することを目指す。	
	経済学の世界	日常生活の買い物やアルバイトなどで目にする光景から、消費税増税・グローバル化・地球温暖化など、日本や世界各国が直面する社会問題も含めた多様な経済問題を理解するうえで有用となる、経済学(特にミクロ経済学)の基本的な考え方を学ぶことを目的とする。授業はパワーポイントのスライドによる講義を中心に進めていく。経済学の基本的な用語や概念を理解していること、身近な経済問題について学んだ用語や概念を用いながら、経済学的な視点で説明できることを目標とする。	

平和学	平和学の序論的位置づけとして、理論的枠組みを理解し、平和学の視点からレイシズム、ナショナリズム、グローバリズム、ジェンダー、開発、社会的排除、安全保障など様々な問題群を捉え直し、受講生一人一人が足元の社会を捉え直したうえで自分の関心に引き付けて考察することを目的とする。講義形式により行い、リアクションペーパーのフィードバックを授業中に行い、人数に応じてディスカッションを行う。平和学における多様な理論と方法の知見から、現実の問題構造を見通し、足元の身近な生活社会を包括的に捉え直すこと、自身が現在どのように関わり、今後どのように関わりたいかなど、自らの関心に引き付けて平和について論じられるようになることを目標とする。	
ノーマライゼーション論	1950年代に北欧を中心に誕生したノーマライゼーションの考え方とその変遷、発展過程を理解し、現代的意義と今後の課題について考えていくことを目的とする。ノーマライゼーションの誕生、変遷、現代的意義を説明し、自身を含むコミュニティ等とすり合わせながら理解できること、人間の多様性を受容する「共生社会の実現」に向けて、今なすべきことを考え、ノーマライゼーション社会の構築に向けて、行動できることを目標とする。	
社会保障入門	我が国の代表的な社会保障制度(医療、介護、年金、生活保護、社会福祉、雇用保険、労働者災害補償保険)を概観したうえで、現代国家がこれらを整備するに至った歴史や理念、財源、他国の制度を学んでいく。そのうえで、社会保障制度を身近な問題として認識し、概要を理解することを目的とする。我が国の社会保障制度の概要、現代国家における社会保障の意義、「自助」「共助」「公助」の概念の違いについて説明できることを目標とする。	
国際社会と人権	人権とは何か、その保護のために国際社会がどのように対処してきたか、具体例をもとに学び、国際社会に存在する様々な人権問題と解決に向けた取り組みを考えることを目的とする。日本語による講義形式で行う。配付資料は英語の場合もある。授業ごとで受け付ける質問等は、後日授業または授業最終回で共有し、解説する。国際社会の成立形態を理解し、説明できること、国際社会に存在する具体的な人権問題とその解決のための既存の取組を理解し、説明できること、人権問題について解決のための更なる取組を自分なりに考え、説得的に述べることを目標とする。	
ジェンダー論入門	社会の歴史的成り立ちに目を配りつつ、「ジェンダー」とセクシュアリティ、エスニシティ、階層など他のマイノリティ性に関わる指標を組み合わせて社会事象を理解し、あるべき社会の姿を考えることを目的とする。基本的に講義で進めるが、適宜リーディングを課し、それをもとにクラス内ディスカッションを行う。ジェンダー研究が登場してきた歴史的、社会的背景を理解し、適用される多様な研究領域と研究テーマを理解し、ジェンダー平等の視点で、現代日本の社会問題を考察できることを目標とする。	
ジェンダーと社会	あらゆるところで耳にするジェンダーという概念の意味と意義を学び、社会をジェンダーの視点から批判的に把握する方法を身につけることを目的とする。「ジェンダー」という概念の意味と意義、概念が出てきた歴史的経緯を理解すること、また、現代のジェンダーの課題に対して基礎的な知識を修得するとともに、自分の言葉で自分の意見をまとめ上げ、論述する力を身につけることを目標とする。	

<p>現代の社会学</p>	<p>日本の現代史に属する流行を解説することで、歴史を踏まえた「これからの生き方」を探っていく。過去の流行の解説は映画や音楽などの視聴覚史料を使用する。毎週、ある時代の流行について2題から4題、課題を提示し、視聴覚史料から感じたことを課題に沿って言語化していく。提出された課題から、特に問題の核心に近づいていると講師が感じた回答を選び、翌週に展開する。前週の課題と現在との関わりについての理解を深め、他の受講者の多様な感じ方や考え方、優れた表現法を学び、より深い物の見方を形成することを目的とする。「1 私たちの生きる今が、どんな歴史の流れの中にあるのか、理解する」、「2 高度成長期からバブルの崩壊後までの物の見方の変遷を学ぶ」、「3 映像や音楽から歴史の深層を読み取る術を学ぶ」、「4 受講者それぞれが、今、自分に必要なものは何か、感じとる力を持つ」ことを目標とする。</p>	
<p>社会学入門</p>	<p>社会学の基本的なテーマや考え方を学ぶことを目的とする。まず、テキスト分析などを通じて社会学がどのような学問なのかを概観し、本講義の構成を説明する。続いて基礎学説の概要を紹介し、各テーマを説明していく。授業計画に反映されていない項目についても、可能な限り扱っていく。社会学の基礎学説や視点を理解し、現代社会を社会学の視点から説明し、社会学の視点から社会現象に対する問いを立てられることを目標とする。</p>	
<p>地域研究</p>	<p>この講義では、中東地域の近現代史に関心を持つ学生のための講義科目である。教員による講義と課題の提出を通して、中東を理解するための知識の獲得を目的とする。報告パネルは受講者同士の相互採点を実施する。事前に受講者同士で内容を確認する機会も設けていく。次の5点を修得することを目標とする。1. 中東研究で取り上げられてきたテーマを具体的に2点以上挙げる事ができる、2. 関心に従って、適切な文献(書籍・論文)を選択することができる、3. 特定のテーマに関して、関連するキーワードを3点以上挙げて論述することができる、4. 自らの関心を、「問い」、「先行研究(批判)」を含めて、具体的に示すことができる、5. 論文執筆のためのスケジュールを、具体的に構想し、示すことができる。</p>	
<p>SOCIAL AND INTERNATIONAL RELATIONS OF JAPAN</p>	<p>日本料理の歴史とその当時の文化に関する主要な論点を紹介する。料理を通じて国を超えた流れ、グローバルかつローカルな相互作用、食の持続性が広がっている。受講生にはリーディングに遅れず、ディスカッションに寄与し、日本食文化に関する研究プロジェクトを完了することが期待される。社会科学における用語、概念を理解できること、批判的なディスカッションにおいても自身の意見を説明できること、研究結果をウェブページにおいてプレゼンテーションできること、リーダーまたは協力者として期限内に共通のゴールに到達するよう行動できることを目標とする。</p> <p>This course will introduce the main issues regarding the history of Japanese cuisine and the culture at that time. It will also examine how cooking is helping cultural reciprocity, enabling cross-country exchanges and global and local interactions, while aiding food sustainability. It is expected that the students will diligently read the course materials, contribute to class discussions, and will complete the research project on Japanese food culture. This course will enable students to be able to understand terms and concepts in the social sciences, to explain their opinion in critical discussions, to present research results on web pages, and to act as a leader or collaborator to reach a common goal within the deadline.</p>	

教養科目	A系列 【多様な社会と人間の尊厳】 (社会科学系)	教育人間学	教育人間学は、教育を「人間」という観点から、また逆に、人間を「教育」という観点から捉え直し、解明しようとする学問である。教育人間学が開拓してきた「人間」や「教育」についての見方を、具体例に即して紹介し、自分自身の人間観・教育観を捉え直し深めるきっかけとすることを目的とする。教育人間学の形成と展開を理解し、教育人間学的な見方の特徴を述べるができること、また、いくつかの事例に即して教育人間学的な教育観・人間観の特徴を具体的に述べられることを目標とする。	
		教育学入門	私たちが当然とみなしている「教育や学校の当たり前」について、教育内容や教育制度の側面から再考し、教育問題の現状を理解することで、よりよい社会に向けた新たな教育のあり方を考えることを目指す。具体的には、日本の教育について統計的側面から把握するとともに、教科指導と生徒指導の内容、教育方法や教育制度を捉え直したうえで、格差、非行、国際化、多様性など教育問題の現状を理解し、これからの教育の在り方について考察する。	
		心と健康	「医学的視点」「パーソナリティ」「適応」「心理発達」「治療的視点」の5つの視点から、心の健康についての知識を提供する。「心」を客観的に捉えることは、将来遭遇するであろう心理的葛藤、ストレス、心理的危機への対処能力を高めることを意味する。そのための知識の取得を目的とする。心の健康について様々な角度から学び、自分の心理状態を客観的に捉えられることによりストレス耐性を高め、問題への対処能力を向上させることを目標とする。	
	B系列 【自然の摂理の探求】 (自然科学系)	地球の自然と資源	地球の成り立ちを学ぶとともに、地球の自然や資源について理解を深めることを目的とする。また、生命圏の存在が地球に与える影響について概観する。本授業では、地球を化学や生物学、地学、社会科学などの観点から複眼的に鳥瞰することで、その全体像に迫ることを目指す。講義後の小レポート等により理解度を確認するとともに、考察を深める。地球の成り立ち（自然環境）、生命活動に必要なもの（資源）、現代の人類に不可欠な資源（エネルギー）と資源の利用によりもたらされる環境問題について理解できることを目標とする。	
		天文学と宇宙観の歴史	天文学は世界最古の学問の一つだが、現代でも日常生活とは無縁ではない。本講義では、天文学及び関連する科学の発達の歴史、及び宇宙観の変遷と現代の宇宙観を理解することを目的とする。基本的に複雑な数式等は可能な限り使用しない。講義が中心だが、小テスト及び解説をフィードバックすることで理解を深める。現代の暦と過去に使われた暦の違い、天文学の基礎概念（天球、黄道、天体の明るさ、銀河系と銀河）、古代から現代までの宇宙観における我々の位置の変遷を具体的に説明できることに加え、科学的なものの見方ができること、人間の感覚が対数的であること、対数の概要を理解することを目標とする。	
		物理学とテクノロジー	世の中のテクノロジーにおける物理学の使われ方を考え、原理から理解する楽しさを知ることを目的とする。物理学の概要を紹介し、基本的な法則や概念を説明する。また、身近なテクノロジーについての質問を受け、どのような物理が関連しているか、解説を試みる。学生はその解説、自習内容を合わせて報告する。必要に応じて講師がコメント、改良を試みる。身近なテクノロジーの仕組みに興味を持ち、様々な情報をもとに考察ができ、身近なテクノロジーの仕組みに興味を持ち、様々な情報をもとに考察できること、その仕組みに物理がどのように関連しているかを考えられることを目標とする。	

教養科目

B系列【自然の摂理の探求】
(自然科学系)

現代社会と情報科学	<p>情報科学や情報技術を活用する企業や行政の最新動向を紹介する。それらについて多角的に議論することで、情報技術の発展がもたらす社会的な影響について理解を深めること、今後の持続可能な社会構築に向けた情報技術活用の示唆を得ることを目的とする。毎回の授業でアンケートを実施し、学生からの質問に対する回答や講評を行っていく。日本及び世界各国における情報科学や情報技術が果たす役割や及ぼす影響を理解できること、社会を支える情報システム、構成する情報技術の概要、課題、今後の動向について理解できること、情報科学や情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画できることを目標とする。</p>	
基礎から学ぶコンピューター	<p>時代が変わっても変わらぬ重要性を持つコンピュータの原理や構造、ソフトウェアとハードウェアの原理及び構造、通信やネットワークの原理及び構造について学ぶことを目的とする。将来のコンピュータ技術についても触れていく。毎回の授業で小テストを出題することで、理解を深める。コンピュータの基本構造を理解できること、通信やネットワークの基本を理解できること、情報の表現の基本を理解できること、コンピュータと情報化社会の関連を説明できることを目標とする。</p>	
情報と通信	<p>文科系や理科系の専門分野を問わず、今後の仕事や日常生活において知っておくべき「情報と通信」の基礎知識を修得すること、インターネットに代表される情報と通信が社会生活に与える影響を幅広い視点から考察し、安全で快適な暮らしに必須の基本的な理解を深めることを目的とする。各回の課題の要点を説明資料とともに口頭で解説し、簡単な小テストを毎回行うことで、理解度を確認する。仕事や日常生活にコンピュータと情報通信を活用できる能力「ICTリテラシー」を獲得するとともに、社会生活における情報と通信の意義と影響の本質を理解することを目標とする。</p>	
コンピュータ・インターネットと生活	<p>コンピュータ・インターネットの普及した社会における著作権法を、例えば「そもそも著作物とは何か。自分がインターネットに書き込んだ文章は著作物か。であれば、何らかの権利が自分に発生するのか。具体的にはどのような権利か」の論点について講義形式で進めていく。著作権法の存在理由に関する基本的論点、「著作物」に関する基本的論点、著作権法が定める主な権利に関する基本的論点、その他、講義で提示する時事的な話題について理解できることを目標とする。</p>	
食と健康	<p>食生活は、心身ともに健康に過ごすための重要な要素である。健康を守るための食生活の基礎知識として栄養について理解を深めるとともに、食品利用における食品成分について様々な面から学習し、健康を守る望ましい食生活を送ることに役立つような知識を修得することを目的とする。栄養の概念と健康との関わりについて理解し、説明できること、主要な栄養素の種類、体内動態、代謝を理解し、説明できること、食品について、健康を害する食品の成分を理解できることを目標とする。</p>	
衣と健康	<p>我々の心と体の健康の維持に大切な役割を果たしている衣服を通して、人の健康と衣服の関わりについて学ぶだけでなく、健康を維持するための衣服の材料や機能性についても学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行い、学生へのフィードバックはWeb学習システムによる。衣服と健康の関わりについて理解していること、衣服の材料や機能性に関する知識を身につけていることを目標とする。</p>	

女性と健康	<p>心身ともに健康に過ごすことは人生において重要な要素である。そのためには、我々は自分の健康状態について知っておく必要がある。しかし、健康診断を受けても、その内容を理解していない人が数多くいる。そこで、この授業では、女性に特有な疾患・女性に多い疾患・性別にかかわらず、かかりやすい生活習慣病などについて、基本的な知識を修得し、自分及び家族など身近な人々の健康を守るために日常生活を見直すことを目指す。授業は講義形式で行い、関連知識の修得を通じて内容理解を深める。女性と関係のある疾患、健康に関する問題の把握、改善するための方法、自分の健康を維持するための生活について理解し、実践できることを目標とする。</p>	
住まいのデザイン	<p>住まいは、個人や家族が安全で快適に暮らすための生活の器として捉えるとともに社会的な財であり、文化が育まれてきた場であることにも着目して、様々な角度から住まいについて学修する。特に、「和室と洋室の生活スタイル」、「住宅デザインの知恵と工夫」、「住宅デザインの歴史」を通して学ぶことを目的とする。リアクションペーパーに基づき、理解度・反応新規性についてフィードバックし知識を定着させる。生活をする立場から住居に関する基本的な知識・概念の取得、及び、自らが専攻する学問分野にも応用可能かどうか考える俯瞰的思考を身につけることを目標とする。</p>	
心理学	<p>本授業は、心理学の各分野の流れと基礎知識を修得する。心理学的研究方法で実証された心のメカニズムや、人間の原典である乳幼児期、母子関係、友人関係を学び、目に見えず触れえない心を理解していく。さらにはカウンセリングの基礎と様々な技法を学び、多角的視野に立って、自分や人を理解していく。心理学の各分野を知り、科学や物理的世界と心の世界の違いを理解し、自己や他者への理解を促進し、心理学が社会でどのように活用されているかを知ること目標とする。</p>	
人間生理学	<p>各器官系の働きを学ぶとともに、外界の環境変化や身体内部の環境変化に対応して、生体の恒常性を保つ仕組みについて実験を交えながら演習形式で学ぶことを目的とする。講義による説明を踏まえた実験をグループワークで行い、結果についてディスカッションし、各自レポートを作成することで授業内容の理解を深める。神経系の仕組み、大脳連合野の仕組み、消化吸収の仕組み、抗原抗体反応の仕組み、血液循環の仕組み、体液の恒常性、排泄の仕組みについて説明できることを目標とする。</p>	
脳と行動	<p>直感的に捉えやすい「ものの見え方」を代表例として取り上げ、「心」、「行動」、「脳」の関係について学び、これらの学修過程で、「脳神経系の構造及び機能」・「記憶、感情等の生理学的反応の機序」・「高次脳機能障害の概要」について理解することを目的とする。授業は教科書、補助教材を用いて進める。実験の様子や心理実験で使用する刺激のデモンストレーションの動画などを紹介して体験も行う。心と行動の基本的な特性、心と行動を科学的に測定する方法、脳神経系の構造及び機能、脳機能の測定法、心と脳との関係を解明する研究法、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を説明できることを目標とする。</p>	
人体の構造と機能及び疾病	<p>医学一般の基礎知識を身につけ、医療における基本的な考え方を理解することを目的とする。その基盤となる人体の構造や機能についての解説を行い、さらには疾病や障害の内容について、福祉及び心理の分野において必要とされることを中心に概略的な解説を行う。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の国家試験範囲を包含した医学知識について主に講義を行う。毎回の授業内容の理解の度合いを確認する小テストを実施する。人の成長・発達と老化の概要、人体の構造と機能の概要、福祉分野で理解が必要な代表的な疾病や障害における原因・症状・治療法など、がんや難病等で必要とされる心理面での支援について説明できることを目標とする。</p>	

<p>生命科学</p>	<p>本講義では、生物とは何かを考え、生物の本質でもある生命の営みについて解説し、社会・生活・環境など様々な側面に関わる生命、あるいは生物学的な問題について、論理的に自分なりの意見を持つようになることを目的とする。生物界に共通してみられる細胞・遺伝子や、高次神経機能、神経科学、認知科学、及び周辺分野を題材として、人間らしさとは何かについて検討し、生物学の基礎的な研究から発展した身近な技術についても解説を加え理解を深める。生命現象に関わる要素を理解し、その機能や特徴を説明できるようになることを目標とする。</p>	
<p>DNA の拓いた生命科学</p>	<p>DNA 及び遺伝子とは何であり、それぞれどのような働きをしているのかについてやさしく解説するとともに、DNA 構造の発見が現在の生命科学ならびに一般社会にもたらした影響を考察し、これから我々がゲノム情報や最新の生命工学技術（ゲノム編集、iPS 細胞、遺伝子診断など）とどのように向き合っていくかを考えるきっかけとすることを目的とする。DNA、遺伝子及びタンパク質それぞれの実体と役割、遺伝子とタンパク質との関係、DNA 異常と遺伝との関係、遺伝子とがんとの関係を説明できることを目標とする。</p>	
<p>環境と生態系</p>	<p>「生物と環境との相互作用を解明する科学」、すなわち生態学の基礎的な考え方を紹介する。授業の主役となる生物は、我々の生活に最も身近な植物である。授業の後半部では、日本の自然環境（生態系）の成り立ちを気候や地形といったマクロな環境と結びつけて解説し、特に日本人の生活と自然環境との関わり、その変化も紹介する。授業は講義形式で行う。できるだけ日本の植物あるいは自然を題材として知識の定着を図る。円滑な理解のために生態写真を多用し、生物と環境・生態系がいかに結びついているかを紹介する。疑問や不明点についてはクラス全体で共有して解決する。植物をはじめとした生物の生活の仕方や分布、環境との結びつきを説明できること、日本の自然環境の成り立ちを気候的・地形的・地史的な視点から説明できること、環境や生態系を保全することの意義について科学的に説明できることを目標とする。</p>	
<p>生活・環境と化学</p>	<p>我々の生活に関連する化学物質を、「食品に含まれる薬理活性物質（トクホ含む）」、「食品汚染に関わる化学物質」、「生物の生活環を制御する化学物質」、「農薬」、「様々な薬」の項目別に概説していく。身近な現象の多くに化学物質が関与していることを紹介することを目的とする。授業外でもニュースや新聞などの情報からより多くを学び取るように工夫することを期待する。講義形式で行い、各講義の感想・質問を提出し、回答をフィードバックすることで理解を深める。我々に身近な現象が化学物質を通して起きていること、それぞれの現象にどのような化学物質が関与し、それがどのように作用しているかについて説明できることを目標とする。</p>	
<p>生物の起源と進化</p>	<p>地球上の生命はどのように誕生し、現代の多様な植物を生み出したのか、それらはどのように調べられてきたのかについて、主に植物の進化を中心に講義形式で解説していく。毎回の授業内で小テストを行い、次の回の授業で解説をフィードバックする。生物の誕生について説明できること、進化のメカニズムについて説明できること、生物の環境への適応について説明できることを目標とする。</p>	

B 系列 【自然の摂理の探求】 （自然科学系） 教養科目	歴史の中の数学	数学に関する諸概念を歴史軸に沿う形で解説する。数の起こりから始め、最先端の数学までの流れを辿ることを目指す。計算技術としての数学のみでなく、数学者達やその時代のエピソードにも触れ、人間の行いとしての数学を理解し、数学的思考・関心とを客観的な立場から見渡すことを目的とする。数学の歴史の解説を基盤として授業を進めていくが、意見・疑問・問題提起のフィードバックを毎回重点的に行い、レポート課題への講評も適宜行う。中学・高校までに学習した数学の内容の歴史的な位置づけやその意義を人に伝えられること、数学の文化的な側面を理解し、その有機的な繋がりを自身の思考で追究できることを目標とする。	
	教養としての数学	時間、日付、金額など生活のいたるところに現れ、普段から自然と扱っている「数」について、身近な「数」の性質や分類を学び、学問としての「数学」を体験していくことを目的とする。小テスト及び期末レポートにより評価する。理論的な理解とともに具体的に計算できることが非常に大切であるため、この講義では「計算できる」ことに重点をおく。様々な「数」を特徴によって分類することができること、様々な数にまつわる計算ができること、合同式を理解し、その計算ができることを目標とする。	
	数学の眼で見た世界	著名な理論物理学者が娘に向けて書いた著書を読み、21世紀に有意義な人生を送るための数学について学ぶ。変わりつつあるこの世界で必要とされる自分の頭で考える能力を養うことを目的とする。授業ではテキストに現れる用語の説明や内容の解説し、提出された課題の答案に対する講評の形でフィードバックしていく。不確実なこの世界で確率の観点から判断ができること、素数と暗号の関係について説明できること、無限について数学的観点から考察できること、宇宙の形と幾何学の間接的な関係を説明できることを目標とする。	
	社会で役立つ統計学	初等的な確率の考え方、記述統計、推測統計の基礎的な事柄について学び、統計学の社会における役割について理解を深めることを目的とする。リアクションペーパーによるフィードバックを毎授業中に行うことで内容の理解を深めていく。データの整理ができ、データの特徴を説明できること、確率と確率分布についての基本的事項を説明できること、統計推測の基本的な考え方を理解し、簡単な数値例に対して推定と検定を行えること、社会における統計学の役割を説明できることを目標とする。	
	統計学入門	本講義では、初等的な確率の考え方、記述統計、推測統計の基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。リアクションペーパーによるフィードバックを毎授業中に行い、内容の理解を深めていく。データの整理ができ、データの特徴を説明できること、確率と確率分布についての基本的な事項を説明できること、統計推測の基本的な考え方を理解し、簡単な数値例に対して推定と検定を行えることを目標とする。	
	ファッションの化学	化学繊維や染料という化学物質、洗浄に必要な界面活性剤、様々な方法でなされるリサイクルなど、ファッションの根幹をなす衣服のサイクルを理解するには、化学の基礎知識が必要である。化学の中でも特に衣服を理解するために必要な一般的知識を学び、繊維・衣服にかかわる種々の事象を化学的観点から理解し、今後の専門的学習や研究への導入とすることを目的とする。講義形式で、毎回の授業後に提出を課す質問や感想などにフィードバックすることで知識を定着させる。化学に関する基礎的事項を学び、衣服材料の性質や取扱いを化学的に理解することができること、身の回りの化学に関心を持って生活できることを目標とする。	

B 系列 【自然の摂理の探求】 (自然科学系)	薬や化粧品の化学	薬や化粧品を適切に選び、使用するために、それらの法律上の定義や分類について理解を深めるとともに、体（体内、皮膚、毛髪等）の構造について学ぶことを目的とする。講義形式で、毎回小テストを行い、コメントを付してフィードバックする。医薬品・医薬部外品・化粧品の定義を説明できること、医薬品の分類と作用について、例を挙げて説明できること、化粧品の代表的な成分の性質を理解し、皮膚科学との関わりを説明できることを目標とする。	
	化学の歴史	錬金術の始まりから今日までの、様々な物質の性質と変換の研究を辿り、いくつかのテーマを縦糸にしなが、文化としての化学を見渡していくことを目的とする。講義形式で、授業ごとに授業内容に関係した簡単な小レポートの提出を求め、コメントをフィードバックする。化学を文化や歴史の一部として理解できること、古典教養としての化学を普段の生活や個々の専門の背景として活用できることを目標とする。	
	物理学はいかに創られたか	物理学の中で、力学をはじめ電磁気学などがどのように現代社会に関係しているかについて概観することを目的とする。授業は講義形式で進める。授業の最初に、身の回りの物理現象や使用している機器に関し、日頃疑問に思っていることや知りたいことについて提出を求め、本授業に関係ある事柄であれば、授業内で取り上げていく。現代社会に様々な点で関わっている科学、特に物理学の意義を理解できること、身の回りの物理現象に興味を持ち、その仕組みや原理を理解できることを目標とする。	
C 系列 【知性と文化の系譜】 (人文科学系)	社会思想の歴史	個人と社会、自由と共同性という普遍的な問題を、過去の先人の思索の跡を辿ることによって考えることを目的とする。具体的には、〈前半〉は欧米の社会思想を、〈後半〉はその影響を受けた近代日本の社会思想を中心に、それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら扱う。授業は社会思想の古典的なテキストを取り上げ、適宜それぞれの歴史的・社会的背景に触れながら、それらを解説していく。社会思想はいずれも当時の激しく変動する現実を認識するために創り上げられた。それらを考察することで、激しく変動する現代社会における自己の存在の位置と意味を認識する力を養うことを目標とする。	
	思想・哲学	これまで哲学に触れたことがない人を主な対象とした入門講義である。西洋哲学におけるいくつかの基本的なトピック（概念・議論）について学ぶと同時に、古典的な著作を自力で読めるようになることを目指す。西洋哲学の古典を一冊講読することを通じて、哲学の基本トピック、概念の定義、いくつかの議論を導入すると同時に、思想・哲学書の基本的な読み方を紹介する。リアクションペーパーにより理解の定着を図る。哲学の基本概念について、具体例を挙げながら説明ができること、哲学の古典的な著作を自力で読み通すことができることを目標とする。	
	西洋思想	創造力を持つ「思想」の中でも「西洋思想」に焦点を絞って、古代ギリシャから現代までを時代ごとに概観し、それぞれの時代の「思想」を理解することを目的とする。西洋思想の理解を通じて、今を生きる受講者自身の生活様式（実存様式）をも反省的に捉え直すことを目指す。西洋思想史上の様々な思想を紹介・解説し、紹介した思想に関する小テストや課題の提出を求め、フィードバックする。西洋思想に関する幅広い知識を修得すること、それぞれの時代の思想の特性について説明できること、それぞれの思想を構成する主要な概念を説明できること、取得した知識に対して自分の意見・考えを論理的に表現できることを目標とする。	

教養科目

東洋思想	中国の歴史と思想を豊かにし、日本でも現在に至るまで多くの人々に親しまれている諸子百家の思想、彼らの言葉を味わうことで、改めて日常生活での様々な事柄や、一個人としての生き方、人間や社会、世界の有り様について考え、自らの思考を深めていくことを目的とする。リアクションペーパーと試験で理解度を図る。諸子百家を通して、中国の思想と歴史への理解を深め、作品を読み解きながら、自分の思考と問題意識を発展させること、東洋思想の特徴を自ら考えることを目標とする。	
20・21世紀の思想	20世紀半ば以降の福祉国家の可能性と限界を踏まえながら、グローバル化の時代に我々が直面する問題である経済格差・環境危機・サイバー独裁・不寛容な社会や人々の意識について考察することを目的とする。教員の解説を中心とした講義、提示するプリントや指定教科書の各自による読解とその確認による演習的作業を適宜組み合わせる。提出されたレポートやレスポンスシートについて、授業中で個別または全体的にコメントし、次のレポート作成に活かしてもらおう。福祉国家の成立からグローバル化の時代の金融資本主義まで、社会や我々の生活の変容とその問題点を、現在の思想の言葉を用いて表現できるようになること、映像テキストが表現している社会や個人の問題を、現在の思想の言葉を用いて解説・分析できるようになることを目標とする。	
ロジカル・シンキング入門	まず「論理学」の基礎を学び、その後に応用編として、論理的に正しく説得力のある文章を書くための技法、「ロジカル・ライティング」を紹介する。学術的な文章の書き方(アカデミック・ライティング)の内容も扱うことにより、レポート作成にも役立つ講義とすることを目的とする。講義形式で進め、前半は小テストを併せて行い、後半はレポート課題を示すことで、「論理学」の基本概念を説明できるようになること、「記号論理」の基礎(記号の意味)を理解すること、論理的に正しい文章の書き方を身につけることを目標とする。	
倫理学入門	「(西洋)倫理思想史」として、古代ギリシアから現代に至る倫理学の主要な議論を紹介していく。その後、生命・医療倫理や環境倫理、ビジネス倫理、科学技術と倫理について検討していくことを目的とする。基本的には講義形式で進め、リアクションペーパーやレポート課題を課すことで、倫理思想史における主要な思想及び代表的な立場の特徴を理解すること、応用倫理学の問題について、自らの生活と関連付けて考えられること、学術的文章の書き方の基礎を身につけることを目標とする。	
美学	西洋の近代に生まれた美学(感性論)について、この学問の基本的な論点を諸々概観しながら、我々、人間の「感じ方」の多様性や深みを巡って考察していく。感じ方を巡るどのような環境のもとに我々が生きているかを知り、よりよく生きる手がかりが得られることを目指す。毎回授業の最後に付せられた課題についてレポート提出を求め、コメントを付してフィードバックする。美学と芸術史の基礎的な理解を得ることを目標とする。	
文化人類学入門	初めて文化人類学を学ぶ人を対象とし、学問としての特徴及び主要概念について概説する。世界をいかに分類し、認識するかの体系でもある「文化」がどのように構築されているかを理解するため、異文化の事例を学ぶことで日常生活を新たな視点から問い直し、自文化についても客観的に分析、理解できる視点を持つようになることを目的とする。講義形式で行う。受講者の知識、理解を問うためのリアクションペーパー及び小レポートを提出する。文化人類学とは何か、基本的事項を説明できること、文化人類学の誕生、今日までの流れを理解できること、異文化理解、他者理解の重要性についての認識を深めることを目標とする。	

<p>歴史から見る現代世界</p>	<p>現代世界における様々なテーマを取り上げながら、歴史学の方法を用いて論じることを通して、歴史学とはいかに学問であるのか、その成果と課題は何であるのかを明らかにしていくことを目的とする。講義形式で行う。一回の授業中に 2～3 回のクエスチョン・タイムを設け、教員の問いかけに対して学生が自らの知見や考えを記述する機会を作る。これを通じて、学生が授業に対して能動的に関与することを可能にする。歴史学とはどのような学問であるのか、一定の説明ができること、現代世界における諸問題について、歴史を通して明らかにするという発想ができること、現代世界における諸問題について歴史を通して明らかにしていくために、どのような方法、手続きが必要であるかを理解できること、歴史学の方法によって現代世界の諸問題を自ら考えてみる営為＝歴史実践を、実際に行えることを目標とする。</p>	
<p>地理学</p>	<p>「地理学の対象は地表面上の特定の場所に位置する事象である」との立場に立ち、様々な事象をどのように記述し説明しようとしているのか、身近な題材を取り上げながら地理学的な見方・考え方を理解することを目的とする。毎回の講義で扱うテーマについて自ら考える課題を課し、回答に基づいて講義を進めていく。地理学の対象は何か、そして地表面上のある位置を示す方法として何があるか説明できること、景観と地域を用いて、特定の場所に位置づけられる事象を記述することができ、ある景観や地域の存在を、環境や伝播、距離によって説明できること、景観や地域の形成における時間や流動のもつ意義を説明できること、地理学を学ぶことで得る知識・能力、ひいては社会における地理学の役割を説明できることを目標とする。</p>	
<p>20・21世紀の日本文学</p>	<p>大正・昭和の女性文学を読んでいく。人口に膾炙した代表作から、埋もれた名作までを扱い、各時代に活躍した作家の特質を考察することにより、文学史的な基礎や作家の略歴を押さえ、同時代の文化的・社会的な事象を主な参照軸としつつ、作品世界を読み解くことを目的とする。各授業で受け付けた質疑は、授業後、教員からフィードバックあるいは全体の講評を行う。同時代の文学状況と、各文学者の作家的形成の過程について説明できること、それぞれの作家における多彩な表現手法に関する知識を修得すること、文学研究における分析手法や立論の仕方について学ぶこと、扱う作品の世界を理解し、楽しむことを目標とする。</p>	
<p>20・21世紀の外国文学</p>	<p>20 世紀の英米文学に見られるモダニズムとポストモダニズムの特徴を掴み、その後、4～5 冊の小説を読むことで、モダニズムとポストモダニズムの特徴がそれぞれの作品にどのように表れているかを分析することを目的とする。その後、21 世紀の英米文学を数冊読み、ポストモダニズム以降の文学がモダニズムやポストモダニズムと比較してどうなのか、その動向を考察する。また、小説の映画版も視聴することを通して、映画と作品の比較分析も行う。モダニズム文学とポストモダニズム文学の特徴を理解できるようになること、授業で取り扱う作品を小説・映画を通して味わい、モダニズム、ポストモダニズムの視点から分析できるようになること、ポストモダニズム以降の英米文学の動向を理解することを目標とする。</p>	

日本美術史	<p>日本美術の歴史を、絵画を中心に作品の形態と機能に注目して学んでいく。絵巻物・障壁画等の様々な形態、物語絵画・風景画等の色々なテーマを持つ絵画を取り上げ、その特徴や表現内容から、絵画の多様な意味や機能について考えていく。主体的・積極的学びを通し、これまでの美術や歴史、文化に対する見方や考え方を振り返り、多角的な視野をもって、自らが考えることを目指す。リアクションペーパー、小レポートに関しては、授業内で解説・応答を行う。授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。日本美術に関する基礎的な知識を修得し、説明できること、美術が制作された歴史的背景や制作意図、また美術の機能を理解し、社会との関わりの中で美術を理解できること、「日本」の歴史において、どのような美術が生み出され、また「美術」がいかに役割を担い、社会でどのような機能を果たしてきたのかを理解できることを目標とする。</p>	
西洋美術史	<p>先史美術から19世紀中葉までの西洋美術、及び印象派以降の西洋近現代美術を、その時代の社会や文化の幅広いコンテキストの中で論じることを目的とする。具体的には、19世紀中葉までの西洋美術は、ギリシア・アルカイック、ビザンティン美術、ロマネスク美術、ゴシック美術、イタリア・ルネサンス、北方ルネサンス、バロック、ロココ・新古典主義、ロマン主義・リアリズムの時代を扱う。また印象派以降は、マネ、ジャポニスム、象徴主義、フォーヴィスム、エコール・ド・パリ、表現主義、素朴派、キュビズム、未来派、抽象美術、ダダ、シュルレアリスム、抽象表現主義、ネオ=ダダを扱う。これらの基礎知識を修得するとともに、美術の大きな流れをその時代の社会や文化の幅広いコンテキスト(文脈)の中で理解することを目標とする。</p>	
東洋音楽の歴史	<p>日本の伝統音楽の歴史と現在をメインテーマとする。とりわけ、様々な芸能を育む母胎となった仏教を主軸として、外来の楽舞を受容しながら我が国の音楽文化がどのように成立・展開してきたのか概観することを目的とする。授業は講義形式で行う。毎回授業中に日本古典音楽を鑑賞する時間を設け、それに対する感想や意見、新たに得られた知見などを自由記述として提出することを求める。毎回授業後に小レポートを課し、理解度確認のための小テストも随時行う。教員からのフィードバックを次回授業時に行う。「日本音楽」の主な種目と楽器についての知見を得ること、外来の音楽(楽器)が日本でどのように受容され、変容したのか理解できること、仏教を母胎として展開した日本音楽(芸能)の系譜について知ること、多様な種目の鑑賞を通じて、独特の音遣いや音色を感じ取られることを目標とする。</p>	
西洋音楽の歴史	<p>西洋芸術音楽(いわゆるクラシック)の歴史の大きな流れについて、毎回、作品を聴きながら、扱う時代の代表的音楽ジャンルや音楽様式を学ぶ。その際、前後の時代の音楽と関連させつつ様式の変遷を考察していく。教科書、PDF資料を参考に、音声資料の視聴を交えて授業を進める。各回に提出を求めるリアクションペーパーへのフィードバックを、必要に応じてその都度行う。各時代の音楽様式の特徴や代表的なジャンル、代表的作曲家・作品に関する知識を修得すること、実際に作品を鑑賞してどの時代の作品かを判断できるような感性を養うこと、音楽以外の諸分野(政治社会、思想、他の芸術分野)にもできるだけ目を向け、それらと音楽活動との関わりを理解することを目標とする。</p>	

舞台芸術の歴史・東洋	ユネスコの「人類口承及び無形遺産の傑作」の宣言を受けた日本の伝統舞台芸術である人形浄瑠璃文楽の魅力を探る。300年以上続く人形浄瑠璃文楽が先行芸能から受けた影響、歌舞伎などに与えた影響など芸能の変化の過程や、伝承するものしないものなどを、演じられる「ことば」を中心に分析しながら鑑賞し、伝統芸能への理解を深めることを目的とする。実際に文楽を演じている文楽技芸員によるワークショップを踏まえて、国立劇場での文楽鑑賞教室に参加し、人形浄瑠璃の成立背景と使用されることばについて理解すること、人形浄瑠璃の鑑賞方法を身につけること、人形浄瑠璃の演劇的な特徴について説明できること、浄瑠璃の語りを通して日本語の歴史を理解できることを目標とする。	
舞台芸術の歴史・西洋	シェイクスピアを中心に西洋の代表的な演劇を分析しながら、西欧演劇を通史的に考察することを目的とする。各作品の特質及び時代背景を解説しながら作品鑑賞を行う。配付資料による講義形式で行う。毎回、授業内容に関する小テストを課す。学習システムを通じて、適宜全体の講評を行う。授業で解説する作品の特質や時代背景を理解できること、それらの作品と自己との関係を深めることを目標とする。	
映像論	映像の基本的な技法と映像文化史に簡潔に触れながら、20世紀から現在までの全般にわたる映画を中心とする映像をくり返し見て、考えることを目的とする。それぞれの映像・映画をある長さをまとめて見て、次に重要なシーンやシーケンスを細かく見ていく。学生は教員の出した問いに答えを出すなどして、映像を見て考える必要がある。映像の歴史と技法という映画の基礎知識の修得をはじめ、映像に関する基本的な理解方法を身につけ、初歩的研究(問題発見と分析と問題解決)が行えるようになることを目標とする。	
女性と芸術	西洋の芸術を史的、かつ個別的に学んでいく。個々のアーティストないし芸術作品がおかれている文化、歴史的な文脈の理解したうえで、作品、創作活動、生き方などを我々がもつ現代的な視点から評価する。イントロダクションにおいて芸術の定義、史的展開、女性アーティストについて考え、ついで、中世、近代、19・20世紀の時代区分を用い、その順に様々なアーティストと作品を分析していくことを目的とする。講義は教員の用意したプリントとスライドを用いて行う。リアクションペーパーを活用し、受講者同士が感想や意見を共有できるようにする。リアクションペーパーに対するフィードバックを授業の冒頭で行う。講義で扱った作品とその背景に関する知識を修得すること、講義で扱った女性アーティストの創作活動を説明できること、女性の芸術活動を通史的にフェミニズムの視点から説明できることを目標とする。	
世界の古典・文学	修辞法や理論、思想等の変遷過程を知り、現代にどのように影響を及ぼしているのか流れを辿りながら、世界の古典を読み解く。日本の古典では「源氏物語」、西洋の古典ではアリストテレスの「詩学」、中国の古典では中国の伝統的な思想や文学を取り上げながら、各テキストが書かれた時代と文化の文脈の理解、個々の表現の多様性の感得、各地域の古典や思想が世界でどのような反響を呼んだのか等を学ぶ。それぞれの作品への理解を深め、理解・感得したことを自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	
英語圏のファンタジー	英語圏で生まれたファンタジー作品を通じ、その風土と歴史、言語と社会、文化との関わりを考察することで、その夢を産み育てた理由を分析し、その世界を描く方法を跡づけることを目的とする。講義形式で、感想、コメント、レポートを課し、随時フィードバックを行う。ファンタジー作品を読み、深く理解できること、作品の背景、歴史、文化、世界観を読み取れること、言葉の創造力について理解を深めることを目標とする。	

<p>日本社会と宗教</p>	<p>「現代日本人として宗教を考察していくに必要な素養とは」という課題に取りくむには、我々自身が既に持つ宗教観を明らかにすることが必要となる。その宗教観が、我々に流れ込む歴史(生い立ちではない)の中でどのように形成されてきたかを知ることが必須である。このような問いを念頭に、宗教学の立場から日本宗教史を概説することを目的とする。講義形式だが、一部グループワークで進める。現代日本の宗教概念の特徴と限界が理解できること、宗教概念の意味内容を弁別できること、「宗教」という言葉自体の翻訳と定着の歴史過程を知ること、日本宗教史の全体像について見通しを得ること、日本の諸宗教について誤解や無理解の所在を自覚、訂正できること、現代日本における宗教の意義と位置を理解すること、一般的な宗教論への足がかりを得ることを目標とする。</p>	
<p>宗教とは何か</p>	<p>「宗教紛争とは何か」をテーマに、南アジア(特にインドとパキスタン)におけるヒンドゥーとムスリムの紛争対立の歴史について講義を行う。対立で発露する「宗教性」とはどのようなものか、そもそもこうした深刻な紛争が生じるのはなぜかといった問いについて考察することを目的とする。講義形式及び一部グループワークで進める。「宗教紛争」という問題設定の意義が理解できること、「宗教紛争」における宗教的要因と政治経済的な要因の絡まり合いが判別できること、「宗教紛争」を巡る論争の争点を整理できること、「宗教紛争」論を足がかりに、「宗教」が持つ多面的な意味合いを理解できることを目標とする。</p>	
<p>世界の神話</p>	<p>神話は、世界各地で太古から語り継がれてきた人類最古の文化の一つであり、様々な芸術(文学、美術、音楽、建築等)の源泉でもあり、現代の多様な文化の理解に欠かせないとの観点から、世界の神話を地域ごとに概観し、神話の持つ意味について考えていくことを目的とする。適宜視聴覚資料を用い、質問等については授業時に回答していく。世界各地の神話について、地域の特徴と地域を超えた類似点について理解できることを目標とする。</p>	
<p>ことばとは何か</p>	<p>言語研究の(ことばについて考える際の)基本的な考え方を概説し、日本語を主な例として、ことばの実態を明らかにする方法を検討することを目的とする。授業後に学生から受けたコメント・リアクションに対する教員からのフィードバックを、次の授業で行う。言語(ことば)に対する関心を高め、学問的な研究対象として理解できるようになること、言語研究の考え方や基礎的な概念を理解し、重要事項が説明できるようになること、ことばについて考えるとはどういうことか、自分なりの考えをことばで説明できるようになることを目標とする。</p>	
<p>ことばと社会</p>	<p>ことばと社会の関係について考察してきた社会言語学などの基本的な考え方について、様々なトピックや事例を参照しながら学習し、世界の異なる言語や文化の比較を通して、我々人間が言語的・文化的に多様であることについて理解を深めることを目的とする。主に講義形式で、適宜、授業の理解を深めるため、学生の意見を聞く時間も設ける。提出課題へのフィードバックに関する詳細は、学習システムにて伝達する。ことばが我々の現実世界を創り出すという考え方について理解すること、人間の言語と社会との密接な関係について理解し、新たな視点と洞察力を得ることを目標とする。</p>	

教養科目 C系列【知性と文化の系譜】 (人文科学系)	クリティカル・シンキング入門	クリティカル・シンキング（批判的思考）とは、批判をしながら考えるための思考法である。クリティカル・シンキングの思考法をよく理解すること、「読む・聞く・書く・話す」を行う場面で、自らこの思考法を使えるようになることを目的とする。 ディスカッションをもとにしたアクティブラーニング形式の授業を行っていく。受講者の論述について、教員がコメントを付して隔週で返却する。重要な点は授業中に共有してディスカッションしていく。クリティカル・シンキングの能力、よい質問をする力、ディスカッションのスキルを身につけることを目標とする。	
	INTRODUCTION TO JAPANESE CULTURE AND SOCIETY	日本の歴史、文化における女性の役割について考察していく。古代から21世紀に至るまでの文献を丹念に読んでいくことを通じて、国民性、歴史的文学、現代性、日本人の気質の歴史、文化的象徴性、大衆文化との対比としての個人といったテーマを探求していくことを目的とする。黎明期から現在に至る日本の文化、社会の発展、特に女性の役割について注視しつつ、これらを理解していく。クラスにおいても、個人においてもトピックスに関連付けて自身の意見を構築し、考察することが期待される。また、学術的なディスカッションに参加し、複数名で協働して明確かつ関心を持てる方法でプレゼンテーションに慣れる。日本の文化、社会における女性の役割について学ぶこと、女性と日本文化の多面性との関係について考察できること、日本の伝統的な文化および現代の文化と自身との相違について考察できることを目標とする。 We will consider the role of women in Japanese history and culture. Through careful reading of literature from ancient times to the 21st century, themes such as nationality, historical literature, modernity, the history of Japanese temperament, cultural symbolism, and the individual as a contrast to popular culture will be explored. We will understand these while paying close attention to the development of Japanese culture and society from the dawn to the present. It is expected that the students will consider and develop their own opinions in relation to the topics. Also, students will be expected to participate in academic discussions and become familiarized with presentations, developing their style in a clear and interesting way in collaboration with multiple people. Class goals include learning about Japanese culture and the role of women in society, to be able to consider the relationship between women and the multifaceted nature of Japanese culture, and to be able to consider the differences between traditional and contemporary Japanese culture and oneself.	

<p style="text-align: center;">導入科目</p>	<p>国際文化基礎論</p>	<p>初年次学生対象の導入科目であるこの授業科目は、本学部・学科における多様な学びの全体像を理解し、「国際文化」についての思考と実践の端緒をつかむことを目的としている。オムニバス方式の講義により、各教員がどのような研究をおこない、どのような対象をどのような視点から考察しているのか、その様々な視座や方法の基礎を学んでいく。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) / 全14回)</p> <p>第1回 13 田中有美・5 坂井妙子・10 伊藤由希子 (ガイダンス)</p> <p>第2回 6 杉山直子 (アメリカ文化・文学) 13 田中有美 (アメリカ文化・比較文化)</p> <p>第3回 2 アディソン・ニール・マシュー (イギリス文化) 5 坂井妙子 (イギリス文化・ファッション)</p> <p>第4回 12 高井奈緒 (フランス文化・文学)</p> <p>第5回 3 奥波一秀 (ドイツ文化・音楽文化)</p> <p>第6回 9 三田明弘 (日中比較文化・中国文化)</p> <p>第7回 8 朴倍暎 (韓国文化・東洋哲学)</p> <p>第8回 7 中西裕二 (民俗学・文化人類学・観光学)</p> <p>第9回 10 伊藤由希子 (哲学・倫理学・日本思想) 15 佐々木雄大 (哲学・倫理学・西洋思想)</p> <p>第10回 4 木村寛 (美学・ダンス)</p> <p>第11回 11 川崎公平 (映像・映画)</p> <p>第12回 1 河本真理 (西洋美術史・現代芸術)</p> <p>第13回 14 水野僚子 (日本美術史・表象文化)</p> <p>第14回 2 アディソン・ニール・マシュー・6 杉山直子・15 佐々木雄大 (まとめ)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
	<p>スタディ・アブロード・プログラム</p>	<p>原則2週間の日本国外での研修を行なう。異なる文化・地域・言語を直接体験することにより個々の専門分野への関心や問題意識を深めるとともに、理解・共感に必要な外国語のレベルを実地で経験し、さらなる学びへの導入とする。学生は準備された研修先の中から個々の関心・専門領域に合わせて一か所を選択し、事前・事後学習により経験を充実させ、また振り返りを経て学びを深めるとともに、その後の専門的な学修への意欲と基礎知識を修得する。韓国、フランス、中国、米国、イギリス等を研修先とする。</p>	<p>共同</p>
<p style="text-align: center;">アカデミック・トレーニング科目</p>	<p>留学準備演習Ⅰ</p>	<p>欧米やアジア圏への大学へ長期留学を目指す学生向けの授業である。それぞれの国・地域の風土的特徴、行政制度、国の成立と発展の歴史、宗教、年中行事、食文化、習慣・マナー、芸術文化等についての文献を読み、外国語の運用能力を高めながら、留学希望先の教育機関で主流となる授業スタイルを意識して教授する。講義のノートの取り方、自分の考えを分かりやすく発表する、ディスカッションに貢献する、留学先の大学のアカデミック・ルールや学術的な書式に合わせてレポートを書くなど、留学先で授業にしっかりとついていけるための実践的な練習も繰り返し行う。各国・地域の基本的な特色を学んで理解を深めるだけでなく、留学に向けてのモチベーションを個人的あるいは学生同士相互的に高め合うことも目的とする。</p>	
	<p>留学準備演習Ⅱ</p>	<p>この授業は、欧米やアジア圏への大学への留学を希望する学生たちを対象とするものである。従って、この授業では、原則として留学先の言語で授業を行う。留学先の言語による授業を聞き、またノートテイキングも留学先の言語で行えるよう指導していく。そのように留学先で授業を受けることを想定したトレーニングを積むことによって、授業内容に応じた学習スキル、そして現地適応力を高めていく。</p>	

アカデミック・トレーニング科目	アカデミック・スキルズⅠ	本科目では、演習形式で、学部共通のテキストを用い、高校までとは異なる、大学での学びに必要なスキルを身に着ける。中でも学習に対する目的意識を明確にし、何のために学ぶのかという「目標」を設定することから始め、自ら調査したり考えたりするための「積極性」、講義の内容や到達目標に応じて学習するための「計画性」を身に着ける。これらを1年次で理解することにより、その後の学びに生かす。学びのプロセス（「何を学ぶか」ではなく「どう学ぶか」）に焦点を合わせ、自主的かつ批判的に物事を考察するためにクリティカルシンキングのトレーニングを通してスキルをみがき、レポートや論文を書くための方法を修得する。また自らのテーマに応じて学習や研究に取り組む「実践力」、自己の課題を他の人に分かりやすく伝える「コミュニケーション力」や「発信力」の基礎を身に着けることを目的とする。	
	アカデミック・スキルズⅡ	大学では、問題点の発見から問題解決に向けて自ら目標を設定し、積極的かつ計画的に調べ、論を構築して、論文を作成していく必要がある。そこで、この授業科目では演習形式により、「アカデミック・スキルズⅠ」で身につけた基本的なスキルを、より専門的な内容を扱うのに応用できるようにする。授業では、問題設定、資料・情報の収集、論文のクリティカルな分析、プレゼンテーション、ディスカッション、論文作成の諸段階において、より専門性と結びつける。ICTを活用した情報収集・発信に関しても、より高度なスキルを身につけさせる。さらに、2年次から始まる実践プログラムの選択について、助言や指導も行う。以上の事柄をとおして、「アカデミック・スキルズⅠ」を応用・発展させ、実践プログラムとの円滑な橋渡しを行うことを目的とする。	共同（一部）
	国際文化研究法	文化研究の基本的な考え方や具体的な研究方法について教授する。この授業科目は講義形式で実施し、各回、文化研究の重要なトピックが提示され、初学者が理解しやすいように配慮された、汎用性の高い解説がなされる。 （オムニバス方式・共同／全14回） 第1回 10 伊藤由希子と15 佐々木雄大（ガイダンス） 第2回 8 朴倍暎と14 水野僚子（日本を含むアジアの文化と美術） 第3回 8 朴倍暎と14 水野僚子（日本を含むアジアの文化と美術） 第4回 9 三田明弘と1 河本真里（中国文化と西洋の美術） 第5回 9 三田明弘と1 河本真里（中国文化と西洋の美術） 第6回 12 高井奈緒と11 川崎公平（フランス文化と映画） 第7回 12 高井奈緒と11 川崎公平（フランス文化と映画） 第8回 5 坂井妙子と2 アディソン・ニール・マシューと4 木村覚（イギリス文化と美学） 第9回 5 坂井妙子と2 アディソン・ニール・マシューと4 木村覚（イギリス文化と美学） 第10回 5 坂井妙子と2 アディソン・ニール・マシューと3 奥波一秀（イギリス文化と音楽） 第11回 13 田中有美と6 杉山直子と3 奥波一秀（アメリカ文化と音楽） 第12回 13 田中有美と6 杉山直子と7 中西裕二（アメリカ文化とエスニシティ） 第13回 13 田中有美と6 杉山直子と7 中西裕二（アメリカ文化とエスニシティ） 第14回 10 伊藤由希子と15 佐々木雄大（まとめ）	オムニバス方式・共同
実践トレーニング科目	実践プログラム(国内)	教室の外に問題や課題を見出し、解決する力を身につけることを目的とする脱キャンパス型の実習科目である。事前においては語学力も含めて綿密な準備計画を練ったうえで、内外の様々な現場・地域へおもむき、臨地の文化や社会を体験的に理解し、現場・地域の人々とともに思案し、解決を模索する。課題の発見・理解・解決の過程や結論について、想定される受け手を意識しながら、適切な表現を工夫する。表現内容・成果物については、ICTを駆使して、社会に向けて発信していく。	

実践トレーニング科目	実践プログラム（海外 a）	<p>普段の活動の場である日本から一旦離れ、空間的・文化的越境を経た環境に身を置き、体験的かつ実践的に異文化を学び、社会における様々な課題や問題を見つけて解決していく力を養うための実習科目である。</p> <p>実習前には、現地の人々と十分に交流し、情報を収集できるだけのコミュニケーション能力、外国語運用能力を身につけ、さらに、この実習の目的、問題意識、研究対象を明確化し、教員の指導と助言を受けつつ、実習の綿密なプランを立てる。実習中は、さらなる知識や情報を集中的に収集し、それまでにもっていた前提や問題に対するアプローチ方法を再検証する。帰国後の事後授業では、課題の発見・理解・解決の過程や結論について、想定される受け手を意識しながら、適切な表現を工夫する。表現内容・成果物については、ICT を駆使して、社会に向けて発信していく。</p>	共同
	実践プログラム（海外 b）	<p>普段の活動の場である日本から一旦離れ、空間的・文化的越境を経た環境に身を置き、体験的かつ実践的に異文化を学び、社会における様々な課題や問題を見つけて解決していく力を養うための実習科目である。実習前には、現地の人々とともに長期に亘る調査ができるだけのコミュニケーション能力、外国語運用能力を身につけ、さらに、この実習の目的、問題意識、研究対象を明確化し、教員から指導と助言を受けつつ、実習の綿密なプランを立てる。実習中は、研究に関わる知識や情報を徹底的に収集、調査し、それまでにもっていた前提や問題に対するアプローチ方法を再検証する。帰国後の事後授業では、課題の発見・理解・解決の過程や結論について、想定される受け手を意識しながら、適切な表現を工夫する。表現内容・成果物については、ICT を駆使して、社会に向けて発信していく。</p>	共同
	バイリンガル・コミュニケーション	<p>2 年後期から 3 年前期の間に参加した実践プログラムを通して得た学びや成果を互いに報告し合いながら一人一人が自らの経験を総括し、その総括内容を外国語で表現、発信することを目的とした短期集中少人数セミナーである。実践プログラム中に得た資料、記録、文献などを振り返り、そこでの学びと成し遂げたプロジェクトについてディスカッションをしながら、学生が互いの経験を共有する。経験の分かち合いを踏まえて自分の学びや成果を相対化し、自らのキャリアのなかに位置づけるための総括を行う。これからの将来の展望や社会に対する問題意識も明確にししながら、総括した内容を外国語で ICT を駆使しながら表現し、広く発信する。</p>	集中
卒業研究	国際文化学演習 a	<p>異なる文化・地域・言語の人々とも共に生きる社会に十分に貢献していくためには、他者との課題共有や共同作業のための適切な表現を工夫し、それらを発信するための基本的な知識と技術を修得する必要がある。そこで、この授業科目は演習形式で行い、各専門分野での基本的な文献を読解し、発表を行うことで、基礎的な知識の獲得とプレゼンテーション能力の向上を目指す。演習では、参加者全員で共通の文献を読み、それについての発表・ディスカッションを通じて文献についての理解を深め、必要に応じてフィールドワークや研究製作等を実施する。あわせて、論文の書き方や発表・議論の仕方、研究方法の基本を修得する。以上の事柄をとおして、基本的知識や研究のための方法を実践的に学ぶとともに、卒業研究作成のための基本事項について理解することを目的とする。</p>	

卒業研究	国際文化学演習 b	多様な文化現象について、自らの学修体験を生かして、複眼的・論理的に考察・判断するためには、専門的な知識と技術を修得する必要がある。そこで、この授業科目は演習形式で行い、国際文化学演習 a で学修したことを踏まえ、より専門的な文献を読解し、発表を行うことで、さらなる専門的な知識の獲得とプレゼンテーション能力の向上を目指す。演習では、参加者全員で共通の文献を読み、それについての発表・ディスカッションを通じて文献についての理解を深め、必要に応じてフィールドワークや研究製作等を実施する。あわせて、卒業研究作成に向け、定期的に研究報告を行い、研究の内容や方法について指導をする。以上の事柄をとおして、研究対象にかかわる専門的な知識や方法を実践的に学び、卒業研究の作成に資することを目的とする。		
	国際文化学演習 c	世界の多様な文化・地域・言語に関する自らの学修体験をまとめ、これを創造的に発信するためには、深い専門的な知識と技術を修得する必要がある。そこで、この授業科目は演習形式で行い、参加者全員で共通の文献を読むとともに、各自の興味関心に即した対象について研究、発表を行うことで、専門的な研究能力とプレゼンテーション能力を養う。演習では、国際文化学演習 a・b で学修したことを踏まえ、より専門的な文献を読解するとともに、各自の文献調査やフィールドワーク等にもとづいた研究成果を発表し、参加者同士でディスカッションを行う。あわせて、研究の内容や方法について適宜、指導をする。以上の事柄をとおして、自らの学修体験を集約し、これを反省的に捉えかえすとともに、卒業研究へとつながるかたちで学修の成果を発信することを目的とする。		
	卒業研究	それぞれの学生が、3年次までの講義、留学、フィールドワークなどから得られた文化に対する関心にもとづき、その中から卒業研究として適切なテーマを決定する。そして、そのテーマに関する先行研究を調べ、自らの視座や考えの独自性がどこにあるかを明確にする。それを論証するために必要な文献研究やデータの収集・分析を行う。場合によっては、調査研究、フィールドワーク等も実践する。その成果を文章化するに当たっては、表題、目次、注、参考文献等について学術論文としての体裁・形式を学ぶ。さらに本文の論理の展開の仕方等について修得し、卒業研究としてまとめる。		
世界と自己を知るための科目	A・欧米文化科目群	イギリス文化研究	この授業科目では講義形式により、ヴィクトリア朝期(1837～1901年)のイギリスにおける顔と表情について学ぶ。文学、絵画における表象、生理学、ヨーロッパ中で大流行していた観相学の言説を活用しながら、歴史的観点から考察し教授する。講義では、特定の表情が逍遙された理由を、項目ごとに整理しながら講義を進める。あわせて、理想的な女性の表情が商品化される過程を検証し、近代完成期のイギリスにおける美容産業の実態を把握することで、表情と消費文化の関わりを理解する。また、男性の表情における問題を女性の理想的な表情との比較において考察することで、ジェンダーの観点からも表情の歴史的な理解を深める。以上の事柄を通して、時代に特徴的な顔や表情が文化的諸要因と複雑に結びついていることを学び、理想的な男性像、女性像を多面的に理解することを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	A・欧米文化科目群	イギリス社会とファッション	この授業科目では講義形式により、イギリス社会におけるブリティッシュ・ファッションの形成を歴史と比較の観点から教授する。講義が扱う中心的な期間は18世紀半ばから第二次世界大戦前までとする。講義では、現存する歴史的な衣服、絵画における表象、新聞、雑誌などの大衆的なマスメディアの言説を分析し、現代に至るまで広くブリティッシュ・ファッションと考えられているアイテムの開発をもたらした歴史的な要因を、ファッション・アイテムごとに講義する。あわせて、これらの開発に関わる産業や化学技術の発達、植民地の獲得競争が国際社会に与えた影響を整理し、この授業が扱う時期におけるイギリスの国際的位置づけの理解を深める。以上の事柄を通して、イギリスとそのファッションが近現代ヨーロッパ社会において果たした役割、機能について理解することを目的とする。	
		世紀末文化論	この講義科目では、19世紀末から第一次世界大戦前までを「世紀末」と定義し、成熟した西洋都市に特徴的な文化を表象するものとして、ロンドン、特にウエスト・エンドを描いた文学、演劇、映画作品を分析し教授する。講義では、成熟しきったウエスト・エンドの文化を、持てるものと持たざる者の間に横たわる物質的、文化的格差を歴史的、比較の観点から考察し、講義を進める。あわせて、特に女性の社会階級上昇の可能性を経済的自立から考察することで、世紀末イギリス社会におけるジェンダー観、階級意識の変容を理解する。以上の事柄を通して、イギリスの世紀末都市文化の多面性について学び、現代へと連なる発展、及び改善の可能性を理解することを目的とする。	
		アメリカ文化論	この授業は、アメリカの文化を「南部」や「東部」といった地域性を切り口に概観する講義科目である。各地域の歴史的背景や成り立ち、社会的な多様性や差異に十分配慮しながら、それぞれの地域を代表する思想家や作家のテキストや芸術家の作品、または、その地域を題材にした作品を分析し、アメリカ文化をより繊細に理解する姿勢と知識、そして、批評的に考察する視座を身につける。	
		アメリカの人種・エスニシティ・ジェンダー	人種・エスニシティ・ジェンダーという概念は、アメリカ合衆国を理解するうえで不可欠である。この授業科目では、合衆国にとってこれらの概念が重要であることがよく分かる文化的な事例について講義形式で解説する。なおここでの「文化的な事例」とは、歴史的に重要な事件に関する文献や同時代に多くの人に読まれた書物等を主に指すが、映像資料等も含む場合がある。講義では、植民地時代から現代にいたるまで文献を原則的には時代順に紹介し、その内容を文化史の中に位置づける説明を行う。それと同時に、個々の文献やトピックに関する研究文献もできる限り紹介していく。以上を通して受講生に合衆国の文化を歴史的に、またその多様性を理解し、その理解をもとにさらに深く掘り下げて研究する力を身につけさせることを目的とする。	
		アメリカ文化研究	コロンブスがアメリカ大陸に到達する以前から発展を続けていたネイティブ・アメリカンの文化から、植民地時代を経て今日に至るまでのアメリカ文化を、多様な文学・芸術作品、そして、口承文化や大衆文化についての記録や文献を精読し、歴史的/社会的な文脈を踏まえながら分析する演習形式の授業である。作品を理解し、文献を読み込むために必要な言語力と調査力、また、専門的な術語やコンセプトについての知識を身につけるとともに、分析対象にアプローチするための方法論についても十分に留意したうえで考察できる力を身につける。アメリカ文化を深く、そして、クリティカルに理解する態度と知識、そして技術を養う。	

世界と自己を知るための科目	A・欧米文化科目群	フランス文学	フランス 19 世紀は「小説の世紀」と呼ばれ、今日につながる「小説」の形式とともに多くの名作が誕生した。この授業科目では講義形式により、現代のフランスでも重要な文化遺産として読み継がれ、語り継がれている小説について、発表当時の社会背景の解説とともに、分析を交えて概説する。写実主義の祖と呼ばれるバルザックから始め、スタンダール、ユゴー、フロベール、ゾラ、モーパッサンなどの作品を、作家ごと、あるいは設定したテーマに合わせて小説の抜粋とともに取り上げ、作家について、作品の理解のポイントについて、今日的な読みの可能性について講義する。フランス文学、文学批評について学ぶことに主眼を置きつつ、フランスの歴史・社会・文化的変遷について理解を深めることを目的とする。	
		ドイツ語圏の文化	ドイツ語圏の文化を、その歴史的背景、現代の社会事情、日本との関係の観点から理解することを目的とする講義である。神聖ローマ帝国、宗教改革などからナチ・ドイツ、東西冷戦、ドイツ再統一など、中世から近現代に至る歴史の重要事項を概観し、それらが現代のドイツ語圏の社会や文化をどのように規定しているかを学ぶ。明治以後に本格化したドイツ語圏と日本の文化接触・交流について、医学・軍制の輸入から近年のアニメ・コンテンツの輸出などの諸事例を確認し、比較文化論的な観点からも、ドイツ語圏の文化についての理解を深める。	共同
		フランス文化論	フランスは、歴史や伝統を重んじながらも、時代ごとに大きな革新を行ってきた国でもある。この授業では、「フランスの伝統文化と革新」をテーマに講義を行う。〈カトリックの長女〉としての国の歴史とフランス革命を経て現在のフランス共和国が尊びその価値が問われている世俗性について、女性に敬意を示す貴族社会の文化～女性蔑視の 19 世紀のブルジョワ文化～20 世紀のフェミニズム運動から現代の男女平等社会への変遷について、宗教・女性・教育・多様性を中心に、文学作品や映画作品も素材として取り上げながら説明する。フランスの歴史と文化について、現代や日本との違いを意識しながら学び、理解を深めることを目的とする。	
		アメリカ文学	アメリカ合衆国を理解するために、アメリカ人の多くによって読まれて、自国の文化にとって重要だと考えられている主要な作家及び文学作品に関する基礎的な知識は非常に重要である。そこでこの授業科目では、それらの作家・作品について、植民地時代から現代にいたるまで、歴史的・文化的な背景や、評価の変遷も含めて原則として時代順に、講義形式で紹介・解説する。それと同時に、英語の一次資料を読んで自らの研究に役立てていくスキルが得られるように、可能な限り原典を英語で紹介し、文学的な文章を使用して研究論文を書く方法も指導して実際にレポートを提出させる。以上を通して、アメリカ合衆国の文化の通史的な理解を深めるとともに、自ら発信するための基礎的なアカデミック・スキルを英語運用能力も含めて高めることを目的とする。	
		原典講読：欧米の文学と文化理論	この科目は、批判理論の主要な考えのいくつかを教える。文学と文化理論に関する Power Point 講義とグループディスカッションを組み合わせで行う。古典的なギリシャ文学理論から始まり、マルクス主義、ポストコロニアル主義、精神分析学、読者反応理論に進む。批判理論は難しいと思われることが多いが、この授業では、これらのアイデアを実際に使用して、様々な視点や立場から文学を読む方法を示していく。学生はこれらの重要なアイデアを研究し、短い文学テキストについて読んだり、話し合ったり、書いたりすることで、これらのアイデアを実際に適用していく。	

世界と自己を知るための科目	A・欧米文化科目群	原典講読：イギリスの物語文化	この科目では、イギリスの物語文化（文学、テレビ、映画）を紹介する。イギリスの物語のテーマやコンセプトについて学び、古典と現在の作品のつながりから関連性を学ぶ。イギリス文化に関するPower Point 講義とグループディスカッションを組み合わせを行い、イギリス文化が何であるか、それがどのように物語で表現されているかを深く考える機会が与えられる。定期的にメモを取り、クラスメイトとイギリス文化の側面について議論を行うことが期待される。	
		原典講読：イギリスのフェミニズム	この科目の主な目的は、物語や映画でイギリスのフェミニズムを学ぶことで、学生がイギリスの文化をさらに理解できるようにすることである。イギリスのフェミニスト文化における初期の運動と最近の運動の両方に注意が払われるだろう。後半では、エッセイ構成スキルを修得し、最終的には前半で学んだトピックスについての論文を作成する。	
		アメリカ文化のテキストを読む	アメリカ合衆国の文化を理解するために、アメリカ人に広く知られ、重要と認識されている文献についての知識は非常に重要である。この授業科目では、そのような文献を実際に原文で精読し、内容について理解し・考察する具体的な方法について講義形式で教授する。扱う原典はアメリカ合衆国の思想、人種問題、ジェンダー等、アメリカ文化の多様性が反映されるよう配慮する。個々の文献についてその文化的重要性が理解できるように解説する。受講生はあらかじめ授業中に扱う資料を読みレスポンスやコメントを提出することにより、内容をきちんと理解し、自らの考察や発信に取り入れられる程度に消化していることを確認し、最終的にはレポートの形で受講の成果を形にすることが求められる。以上をとおして、アメリカ合衆国の理解に重要な文献についての深い知識を得るとともに、研究・成果発進に役立つアカデミック・スキルを修得することを目的とする。	
		比較文学	現代社会においては、様々な言語で書かれたテキストが、即座に翻訳され、異なるメディアに変換・加工され、そして、拡散していく。そこで、この授業の講義では、多種多様なテキストを読んでいくための読みのモードの一つとしての「世界文学」という考え方を踏まえ、異なる文化的前提や文学的慣習のもとで生み出されたテキストを、日本語や英語の翻訳で読みながらも理解していくための留意点を整理し、そのために必要な知識や技術を教授する。近代以降の文学作品が様々な言語に翻訳され、とりわけメディアを横断してつくり変えられていく事例に注目し、流通や拡散のシステムと関係づけてテキストを理解していく視座を養う。	
		フランス文学と文化	この授業では、フランス文学作品を、他のフランス文化とのかかわりとりわけモード・衣服・絵画について考察する。モリエール、ルソー、バルザック、バルベール・ドールヴィイ、ボードレール、フロベール、ゴンクール兄弟、ジョルジュ・サンド、モーパッサン、ゾラ、ユイスマンス、プルーストなどの小説、日記、エッセイを取り上げる。全体を通してとりわけ、「男性らしさ」「女性らしさ」などのジェンダー問題、男性及び女性の黒い服の定番化について考察を深め教授する。上記のうち何人かの作家は、画家との交流が深く、美術批評も行っていたが、とりわけ衣服についての考察を、絵画作品との関連で深め文学作品でも応用していることを取り上げる。文学をとりまく、あるいは文学作品の中で取り上げられる文化的事象の相互的な影響関係について学びつつ、フランス文学と文化に対する理解を深めることを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	B・日本・アジアの文化・思想科目群	現代韓国社会と政治	現代韓国社会の特徴を政治との関連性の中で捉えるなら、それは民主主義への渴望という言葉でもって説明することができる。しかし、この民主主義への道は険しかった。韓国の民主主義への道のりにはいくつか大きな政治的変曲点があった。その中でまず、取り上げられるのは1980年の「光州民主化運動」、そして1987年の一連の政治的動きによって導き出された「87年体制」である。本講義においては、韓国現代史における大きな政治的変革を紹介しつつ、そのような政治的変動が今日の韓国民主主義にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説する。	
		東南アジアの社会と文化	東南アジア諸国と東アジア諸国は、歴史的に深い関係にあると同時に、近年、ASEAN諸国は社会・経済的に日本と深い関係にあり、人の往来も活発化している。だが「東南アジアの社会と文化」とはどのような枠組みで理解すべきなのだろうか。本科目は講義形式により行われ、多様な言語・文化が存在することから「モザイク」と呼ばれる東南アジア社会・文化を理解する軸を、宗教と人の移動に設定し、現代の東南アジア理解へとつながる枠組みを提示していく。具体的には、宗教に関しては、東南アジアの基層文化としてのヒンドゥー教、上座仏教、イスラム教、キリスト教の分布と当地の文化との関係、人の移動に関しては、東アジアからの人の移動と文化の関係（特に華僑・華人）、日本と東南アジア諸国との交流史を学ぶ。以上を通して、東南アジア地域の文化全般に関する知識の修得と理解を深め、近年益々興隆する日本と東南アジア地域の交流の重要性を理解することを目的とする。	
		中国古典文化論	日本文化にも深い影響を与えた中国古典文化を学ぶことの重要性は、論を俟たない。この授業科目は講義形式で実施し、中国の古典文化の特質を、『論語』『莊子』などの経典、『山海経』などの地理書、『史記』『漢書』に始まる正史、『芸文類聚』『太平広記』などの類書、『搜神記』『夷堅志』などの志怪等、様々な文献を通して、日本への影響などにも言及しつつ論じる。中国の古典文化が、文字を中心にどのように形成されていったのか、この過程を理解することを目的とする。	
		現代アジア文化論	中国の存在感が強まりつつある今日の世界において、現代中国文化についての基本的な知識を持つことは必須の教養とも言える。中国大陸・台湾・香港の3地域は、近現代において、それぞれが異なる歴史を歩み、独自の文化を形成した。そして、映画やテレビドラマなどの現代文化は、日本との関わりも非情に深い。中国大陸・台湾・香港の3地域の現代文化について、日本との関わりについての視点を交えつつ解説する。中国現代文化の多様性を理解することを目的とする。	
		日本民俗文化論	日本は東アジアに位置しながら、文化的には独自の位置を占めている。中国の文化システムを常に取り入れながらも、それらを日本独自の方法で消化しつつ、豊かで独自の民俗文化が展開されているという歴史をもつ。本授業では、講義形式で授業を進めながら、日本の民俗文化を概観し、あわせて20世紀前半に成立する、柳田国男を祖とする民俗学の研究成果を取り上げる。具体的には、稲作文化と民俗、年中行事、人生儀礼、宗教と民間信仰、食の文化、の理解を進める一方、日本の民俗文化における地域文化差にも注目し、東と西の文化差の事例（家制度、村の構成、食文化）や、職能による文化差の事例（職人、漁民、山地民）も取り上げる。日本は全体的に類似した民俗文化を持ちつつ、地域差や職能による多様性も見られる点に留意し、日本の民俗文化の理解を進めることを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	B・日本・アジアの文化・思想科目群	日本観光文化論	近代的な観光とは異なり、日本には観光に先行する旅文化があった。観光研究では旅と観光を異なる概念と捉え、その間に連続性を設定してはいないが、日本ではむしろ伝統的な旅の形態が観光行動へと連続する史的特徴が見られる。本授業は講義形式で進められるが、近代以前に盛んだった巡礼・参詣としての旅を観光的行動と捉え、その歴史を紐解く。そして明治以降の日本の近代化以降、大衆による観光は純粋に経済セクターにより運営されるが、近代以前の旅の伝統の連続線上にその行動があることを考察する。そして観光の近代化と大衆化が急速に進む第二次世界大戦後であっても、日本の旅の文化が継続する点を示していく。このように日本では、欧米とは異なる観光史を歩んできた点、観光に宗教が深く関与していた点の知識を修得し、文化としての観光行動について理解を深めることを目的とする。	
		日本の芸能思想	芸能は、その地域の思想・文化を、言語による表現とは異なるかたちで表出するものである。この授業科目では講義形式により、まずは日本の様々な芸能の基本に関する知識と、その背景にある日本人の基本発想を確認したうえで、具体的な作品の鑑賞・分析、さらには実際の作品に触れることを通して、日本における芸能思想の基礎と展開を理解することを目的とする。また、他文化の芸能との比較を通じて、日本の芸能思想の特徴をよりあきらかに理解することを目指す。対象とする主な芸能は、能（謡曲テキスト分析、世阿弥の思想書分析など）、浄瑠璃、歌舞伎、説経、茶道、華道、演劇、映画、ドラマなどとする。	
		日本の宗教思想	現代日本社会は無宗教と言われることも多いが、「宗教的なるもの」に対する感性は決して薄弱ではなく、それらを自ら認識しておくことは、国際社会を生きていくうえでも不可欠である。この授業科目では講義形式により、古代から現代に至るまでの日本の宗教（神話時代・仏教・儒教・神道等）の歴史やその特徴について、神話、思想書、経典などの原典や説話・文芸などで実際にその受容のありかたに触れながら講義を進める。また、随時、他宗教・他文化と比較をしながら、その特徴や、日本独自の宗教受容を浮かび上がらせ、知識と理解が深まることを目指す。	
		東洋思想史	本講義においては、東洋思想の主たるテーマの一つである儒学の歴史を、そして老荘思想の歴史を紹介していく。それらの思想を紹介し、また比較することによって、東洋の思想が「人間」、そして「人間」をめぐって繰り広げられた諸問題にどのように対処してきたかを探っていく。さらに、近代にさしかかり、顕著に現れるようになった文明開化思想を紹介することによって、東洋思想の近代思想への転回の可能性をも打診していく。	
		東洋思想の諸問題	「東洋思想史」の知識を土台にしつつ、本講義においては、東洋思想史上の特記すべき論争について、とりわけ儒学思想を中心に紹介していく。具体的な進め方としては、「性善説」と「性悪説」との比較、また朱子学と陽明学とを比較することによって、人間の本性の捉え方に関する学派ごとの違いについて紹介する。そうした考察を通じて、儒学の本質を把握していく。	
		日本思想史	他国・他文化との交流・往来が日常的なものとなった現代社会において、その前提として日本人の思想の特徴や歴史を理解しておくことは、他文化の人々と交流するうえでも必須である。この授業科目では、講義形式により、古代より現代に至るまで底流している日本人の基本発想を取り上げ、それらが時代を追ってどう変遷し、現代の私たちにどのように流れ込んでいるかを教授する。その際には各時代の代表的テキストを使い、単なる知識ではなく、微妙な思想感情の機微も含めて、自らとの関わりにおいて理解を深めてもらう。また、随時、他文化と比較をしながら、その特徴を浮かび上がらせることで、より理解を深めることを目指す。	

世界と自己を知るための科目	B・日本・アジアの文化・思想科目群	死生学（日本）	世界的な少子高齢化傾向や急速な医療技術の発達、甚大な自然災害の多発や感染症の世界的流行などもあり、現代を生きる人々は生と死をあらためて考える必要に迫られている。この授業科目では、講義形式で、様々な地域、特に日本における死生観を、神話や物語、思想書などのテキストから読み解いていく。そのうえで、現代の先進医療や社会構造の変化、パンデミックなどにより突きつけられた死と生をめぐる具体的問題を複数提示し、日本人の死生観を踏まえたうえでそれらをいかに考え、いかに対処していくのか、自ら思考・判断していく力を身につけることを目的とする。	
	C・映像・ポップカルチャーと哲学科目群	現代文化論	20世紀以降の大衆文化を研究する。隔年で二つの課題を交替してゆく。一つはミュージカル映画を対象とした大衆文化研究である。大衆芸術としてのミュージカル（映画）がどのように生まれ、何を目指し、どのような可能性を内包した表現であるのかが問われる。特にフレッド・アステアのようなダンサーの試み、またドーン、ドゥミ、フォッシーら監督たちの挑戦に注目し、ミュージカル（映画）の真髄を探究する。もう一つは日本の戦後から今日に至る若者文化の研究である。アニメ、ファッション、音楽、アイドル、お笑いといった1980年代を発端とみなしうる文化現象とその背景にある日本の精神状況を明らかにしてゆく。	
		身体メディア論	身体という表象（メディア）を通して、人間は一体どのような表現に取り組んできたのか。この科目では、舞台芸術としてのダンスとテクノロジーが生み出す身体表象（ヴァーチャル・リアリティ、アンドロイド、初音ミクなど）の2点に注目しながら、身体表象が見る者と作り出す関係性を明らかにしてゆく。焦点になるのは、見る者の中に生じる「没入」の体験であり、アクチュアリティあるいはノリの体験である。これを解明するのに手掛かりとなるのは、西洋美学が問題にしてきた優美をめぐる考察であり、現代のテクノロジーが、あるいはバレエ、モダンダンス、暗黒舞踏といったダンスが、主たる研究素材となるだろう。また、講義の後半では、コンテンポラリー・ダンスの振付家・ダンサーを講師に招き、実際に体を動かしながら、上記の問題に向き合うことになる。	
		ポップカルチャーと笑い	笑いとは人間にとって何か、笑いは人間にとって良いものであるのか悪しきものであるのか、笑いには何ができるのか、笑いの生まれる条件とは何かといった問いを挙げながら、西洋哲学の知見をベースに解明するのがこの科目の目的である。最終的には、人間にとって幸福とは何かという問題に突き当たることだろう。特に焦点にするのは、優越の笑い、不一致の笑い、ユーモアの笑いである。この三者を、実際に起きた笑いの現象を追体験したり、またポップカルチャー（映画、マンガ、音楽など）における笑いの事象にフォーカスしたり、なかでも日本のポップカルチャーの一つであるお笑い芸人たちの表現に注目しネタの創作に試みたりなどしながら、考察を深めてゆく。	
映像文化論	私たちの周囲には映像が溢れている。私たちはそれを何気なく見て理解し、一方でそれを多様なかたちで「使って」いる。この授業科目では講義形式により（一部グループ・ワークもおこなう）、写真を主な題材としながら、多くの文献と映像資料を用いて、映像と私たちとの関わりを原理的かつ実践的に捉え返していく。記号論的観点による広告写真の意味作用の分析、言語や絵画との比較による写真・映像の特性の考察、近代のメディアとしての写真・映像の歴史的・社会的重要性の把握、などをおこなったうえで、デジタル映像とSNSの時代における私たちにとっての映像を、「自己表現」「コミュニケーション」「つながり」といった視点から再考する。以上を通して、映像文化に関する理論的な理解を深め、そこから現在の私たちの「映像実践」を新たに思考し直すことが、本授業科目の目的である。			

世界と自己を知るための科目	C・映像・ポップカルチャーと哲学科目群	映像表現論	<p>私たちが映像作品から受け取る意味や印象は、様々な表現技法によって成り立っていると同時に、そこには媒体（メディア）それ自体の特性が深く関わっている。この授業科目では講義形式により、特に実写映画とアニメーションを題材とし（マンガも適宜取り上げる）、それらを比較しながら、それぞれのメディア特性にもとづいた映像表現の特徴と多様性を学んでいく。「運動」「心理」「キャラクター」などの視点を設定し、具体的な表現方法の比較分析をおこなうことによって、その効果について考察する。そのうえで、現代のメディアミックス状況やデジタル化にともなうメディア特性や表現の変化へと考察を進める。以上を通して、映像作品の具体的な表現を分析する力を身につけるとともに、現在の映像環境の変化を捉える視点を獲得することが、本授業科目の目的である。</p>	共同（一部）
		映画論	<p>19世紀末に誕生し、20世紀を通じて大きく発展した映画は、その時々々の社会の状況や人々の価値観と深い関係を結んできた。この授業科目では講義形式により、主に日本映画を題材とし（関連する外国映画の状況も取り上げる）、その歴史を概略的にたどりながら、映画と社会とが影響を及ぼしあう関係について考察していく。「国家」「家族」「女性」といったいくつかのテーマを設定し、それらが各時代の代表的な作品においていかに表象されてきたか、そしてそれがいかなる社会的・思想的状況にもとづいていたかを学び、同時に関連する重要な映画理論についても紹介する。それらを踏まえて、現在の映画と社会との関わりを、産業面・テクノロジー面での変化を考慮に入れながら考察する。以上を通して、映画や映像文化に関する歴史的・理論的な理解を深めるとともに、現在の映画のあり方を多角的に考える視点を身につけることが、本授業科目の目的である。</p>	
		K-カルチャー論	<p>本講義においては、韓国文化の総称として語られるようになった「K-カルチャー」に関する考察を行う。1990年代末から「韓流」という言葉でもって知られるようになった韓国文化は時代の変化とともに、また時代の要求に応えながら画期的な変貌を遂げてきた。その「韓流」に代わって韓国文化の総称として位置づけられるようになった「K-カルチャー」は、今や大衆文化だけでなく、全ての韓国文化を網羅する用語にまで発展した。本講義においては、「K-カルチャー」と代弁される現代韓国文化の変遷の歴史を辿る。さらに、その「K-カルチャー」の歴史は韓国のグローバル化の歴史にほかならない点についても紹介していく。</p>	
		マンガ文化論	<p>近年「COOL JAPAN」の旗頭になるなど、マンガは現代日本を代表する文化の一つとなっている。表現メディアとしてのマンガが持つ独自性を解明していきながら、時代に推移にともなって変化する日本社会の状況（ジェンダー、貧困、身体や精神の障害、キャリア、恋愛など）をマンガがどのように表象してきたのかを検討してゆく。また、海外のマンガ的表現との比較、国内アニメーションとの比較（アダプテーション）、あるいはインターネット時代におけるマンガ表現の変容などの問題を取り上げ、考察を重ねてゆく。</p>	

世界と自己を知るための科目	C・映像・ポップカルチャーと哲学科目群	絵本・児童文学のキャラクター論	この授業科目では講義形式により、絵本や児童文学に登場するキャラクターについて学ぶ。なぜ特定のキャラクターが時代、国境を超えて広く親しまれるようになったのか、その要因を子供の扱われ方の歴史の変遷、児童文学論、大衆文化論（大衆消費やメディアの発達など）を活用しながら、ポップカルチャーの観点から教授する。なお、この講義で扱う時代は子供のための絵本がヨーロッパで商業出版されるようになった19世紀初頭以降とする。主に英米の絵本、児童文学作品を対象とする。講義では、まず作品が生み出された歴史的背景及び変遷を把握し、次にキャラクターが作品から独立して子供服やおもちゃ、カードなどの商品になる過程を考察することで、人気キャラクターになる条件を整理しながら講義を進める。以上の事柄を通して、子供向けのメディアが果たしてきた文化的役割と機能を理解することを目的とする。	
		西洋哲学史	ヨーロッパ文化という異文化を深く理解するためには、その基底にある西洋哲学・思想の歴史を学ぶ必要がある。そこで、この授業科目では講義形式により、西洋の古代から現代に至る哲学の歴史について、代表的な哲学者の思想とその時代背景をおさえながら、大きな流れを概観し教授する。講義では、古代ギリシアに始まり、中世スコラ学、近代哲学、現代思想に至るまでの主要な哲学者・思想家の思想について簡単に整理し、またそれらの影響関係を跡づけていく形で、講義を進める。以上の事柄をとおして、西洋の哲学史とその特徴的な思考様式についての知識を修得することを通じて、ヨーロッパの文化をより深く理解することを目的とする。	
		哲学の基礎	多様な文化現象について複眼的・論理的に考察・判断するためには、哲学的・論理的に思考するための技術を修得する必要がある。そこで、この授業科目では講義形式により、哲学の基本的な概念や問題構制について、主要な哲学者の思想に拠りながら、原理的に考察し教授する。講義では、同と他、一と他、永遠と時間、特殊と一般といった、哲学的思考において必要とされる基本的な概念について学ぶとともに、また、三段論法やパラドクスといった論理的思考において必須の知識を修得する。以上の事柄をとおして、哲学についての基本的・原理的な問題についての理解を深めるだけでなく、学問全般において必要とされる論理的思考を修得することを目的とする。	
		ヨーロッパ近代哲学	合理主義、ヒューマニズム、科学・技術、資本主義といった現代の基本的な価値観を下支えしているのが、ヨーロッパ近代の思想であり、現代社会について考えるためには、これを理解する必要がある。そこで、この授業科目では講義形式により、ヨーロッパ近代の哲学について、主要な哲学者の原典に触れながら、その思想について考察し教授する。なお、ここでの「近代」とはおおよそ17世紀から19世紀半ばまでを指している。講義では、近代哲学の主な潮流である大陸合理論、イギリス経験論、ドイツ観念論を主軸として、近代的な発想がどのように生まれ、展開していったかを追究していく形で講義を進める。以上の事柄をとおして、ヨーロッパ近代の哲学について理解を深めるとともに、それを通じて現代社会を規定している枠組みや価値観について反省的に問い直すことを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	C・映像・ポップカルチャーと哲学科目群	現代哲学	戦争や環境破壊、経済格差、人権問題といった現代社会の抱える諸問題を考察し、課題解決をしていくために、これらの問題と対峙してきた現代の哲学に学ぶ必要がある。そこで、この授業科目では講義形式により、現代の哲学について、主要な哲学者の原典に触れながら、その思考の内容について考察し教授する。なお、ここでの「現代」とはおおよそ19世紀後半から21世紀までを指している。講義では、現代哲学の主な源流である現象学、実存主義、分析哲学、社会主義等を起点として、それらが20世紀においてどのように展開し、また、21世紀の現在、どのような影響を与えているのかを追究する。以上の事柄をとおして、現代哲学についての理解を深めるとともに、現代社会が抱える諸問題に対してどのような解決策が考えられるかを探求することを目的とする。	
		倫理学	社会や技術の急速な変容に伴い、ものの考え方や価値観の見直しが急務とされる現代においては、その準備作業として、これまでの倫理をめぐる議論を理解しておくことが不可欠である。この授業科目では、講義形式により、西洋・東洋・日本の倫理をめぐる根本発想を確認し、それらに関する基本的な知識、その時代的変遷や、現代思想への影響などを教授する。また、その際には、具体的な事例やテキストを多用することで、自らの問題としてそれらに関心を持ち、思考・判断できる力を養うことを目指す。	
		ポップカルチャー論	18世紀の産業革命以降、技術・情報革新と消費社会は車の両輪のような関係で互いに加速し続けてきた。それは現代においても変わらないどころか、あらゆる文化現象はもはや、技術・情報革新と消費社会を抜きにして語ることはできない。そこで本科目では、デザイン、ファッション、映画、現代アート等のハイ・カルチャー、ポピュラー・カルチャーを中心に提起し、当時の時代背景にも考慮しながら参加者とともに分析と考察を進めていく予定である。	共同
		宗教人類学	仏教やキリスト教のような「宗教」的枠組みに依らないが、宗教的観念や宗教的世界観というものが世界の諸文化には見られる。一般的に民俗宗教、民間信仰とも呼ばれるこれらの観念も含め、それらを比較する枠組みを、文化人類学では宗教人類学と呼んでいる。本授業は講義形式で進められるが、宗教人類学の枠組みとして構造主義、象徴人類学の諸理論と呪術の概念について整理する。そしてそれらの諸理論の例として、世界各地の事例、例えば祭礼、妖術と邪術、空間と時間の観念と聖／危険の関連性、タブー、シャーマニズムを取り上げ、考察を進めていく。また、アートや映像の領域でもこの理論は応用可能であり、これについては妖怪の概念と通して考察していく。これらの事例を通し、宗教人類学の理論を修得し、世界の文化の比較方法に関する理解を深める一方、宗教人類学の考え方が現代のアートや映像を読み解く手法として活用できる点を理解していく。	
		ポップカルチャーと観光	21世紀に入り、グローバル化の進展、インターネットの急速な普及により、人々の観光行動は大きく変容を遂げている。特に、これまで観光地と考えられてこなかった地が、ある日突然観光地となる、かつて考えられなかった現象が近年は起きている。本授業は講義形式で進められるが、本授業では古典的メディア（活字、テレビ、映画）、アニメ、SNSなどで観光地が創造される現象を取り上げ、それらについて考察を進めていく。具体的には、1980年代以降のものとして活字、映画、TVドラマ、音楽、21世紀以降はTVドラマ、アニメ、SNSが火付け役の観光地、を取り上げ、これらの現象の社会的意味、観光行動の変化について考察を進める。これらの事例を通し、観光地は自明の存在ではなく構築される点を理解し、その知識を修得することで、文化的行動の創造に関して理解を深めていく。	

世界と自己を知るための科目	D・芸術文化科目群	日本中世絵画史特論	古来日本では、「物語」はことば（文字）のみによらず絵画等の視覚的イメージによって、貴賤を問わず多くの人々に伝えられてきた。物語を具体的なイメージで表した「物語絵画」は、文字資料には表れない、当時の人々の思想・死生観・宗教観・自然観から、民族観・階級意識・ジェンダー・セクシュアリティ等、実に様々な情報をいまの我々に伝えるものと言える。そこでこの科目では、講義形式により、古代中世から近世にかけて、絵巻物や掛幅・屏風の大幅面絵画等多様な形態で表された「物語絵画」を取り上げ、物語絵画の誕生、主題や絵巻独自の「語り」の手法を理解するとともに、これらが歴史的にどのように展開し発展したのか、歴史的意義についても考察する。講義では、工芸・絵巻物・掛幅・屏風・障壁画描かれた物語絵画を取り上げ観賞方法の基礎を学ぶとともに、学生に本物（レプリカ）の作品を実際に扱わせることで、より実践的な物語享受の在り方を理解させる。各作品の表現にはどのような造形的特徴があり、そこにはいかなる意味があるのか。文字テキストと視覚的イメージにより、どのような「物語」が構築され、制作された当時の社会といかに関わっているのか。また誰がいかなる目的で絵巻を制作したのか。以上について、表現や構図、社会背景の分析を通し、その特徴や独自性について理解することを目的とする。国際社会において、自文化を自身のことばで発信できるような人材育成にも貢献したい。	
		西洋近現代美術史	西洋近現代美術は、流派や動向が目まぐるしく変遷し、難解だと思われがちである。単に年代順に出来事を追っていくと、西洋近現代美術が何を問題とし、何を目指していたのかが結局よく分からなくなる場合が往々にしてある。そこで、この授業科目では講義形式により、西洋近現代美術（主に20世紀美術）の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念（抽象、コラージュ、総合芸術作品、偶然、複製とアウラ…）を通して考察し教授する。講義は、文学・写真・映画・音楽・演劇・建築とも関連づけながら、テーマ別に進める。こうして、一見、それ以前とは断絶しているかのように見える西洋近現代美術を歴史的・文化的コンテキストの中に位置づけつつ、その独自性をも浮き彫りにする。以上の事柄をとおして、西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえ、その歴史的文脈を理解することを目的とする。	
		比較芸術	芸術の多様な媒体（メディアム）は、密接に関わり合っており、そうした間メディア性（インターメディアリティ）に対する関心はますます高まっている。そこで、この授業科目では講義形式により、多様な芸術の媒体を比較する。まずは、(古代から現代まで) イメージと文字の関係について、特に絵画空間に導入された文字（描き込まれた文字、および貼り付けられた新聞紙や広告の見出しなどとして挿入される文字を指す）の問題を考える。次に、芸術とモード（服飾）の関係を、とりわけ近現代を中心に考察し教授する。以上の事柄をとおして、多様な芸術の媒体を比較し、西洋美術史の知識を深めるとともに、領域横断的なものの見方ができるようになることを目的とする。	
		西洋美術史概説	西洋美術史の基本は、年代順の通史であり、学芸員などになる場合にも、まずはこの通史の知識をしっかりおさえておくことが重要である。そこで、この授業科目では講義形式により、西洋美術史を、その時代の社会の幅広いコンテキストの中で考察し教授する。基本的には年代順に概観するが、適宜関連するテーマも取り上げる。以上の事柄をとおして、西洋美術史の基礎知識を修得するとともに、美術の大きな流れを、その時代の社会や文化の幅広いコンテキスト（文脈）の中で理解することを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	D・芸術文化科目群	日本美術史概説	本授業科目では、講義形式により、古代中世から近世に至る日本美術史の流れを把握するとともに、各々の作品が生み出された社会的文化的背景の理解を通して、その制作目的や受容の場を考察する。作品の形態やサイズ、様式や技法、経済的パトロンが存在、社会的要請など作品をめぐる様々な要素を勘案し、誰がどのような目的のために制作し、作品が同時代や後世の社会にいかなる機能を果たしたのかを考察する。これらの考察を経て、作品の文化的イデオロギー、政治性まで読み解き、理解することを目指す。	
		音楽と社会	音楽と社会の連関について考察することを目標とする講義である。20世紀前半のドイツの音楽界が、二つの世界大戦や、先鋭化する政治情勢にどのように翻弄・影響されたか当時の著名な指揮者や演奏家など音楽界の動向に焦点をあてて考察する。ナチ政権成立以後、作曲家や作品や演者の人種的・思想的な適不適が政治的・社会的な注目の的となるなか、追従・認容・抵抗など、音楽界に見られた様々な選択・行為を概観・比較しながら、音楽と社会の関連についての理解を深める。	
		西洋音楽と日本	近代日本の音楽文化における西洋音楽の位置づけを考察することを目的とする講義である。現在の日本の音楽文化は、その音階や様式など、西洋音楽の影響なしには考えられないが、それは幕末以降、西洋音楽がその魅力ゆえに容れられただけでなく、文部省音楽取調掛を中心とした国策もかかわるなど、複雑なファクターの総合的な結果であることを、山田耕作などのキーパーソンの言説に即して考察する。「日本的」とされる伝統音階と西洋音階との楽理上の関係についても、実際の唱歌等の実例に即して検討し、理解を深める。	
		日本の音楽文化	日本の音楽文化について考察することを目的とする講義である。日本古来とされる神楽歌や国風歌舞、高麗楽・唐楽の楽舞のような外来楽、平安時代の催馬楽、江戸時代の都節など、様々な音楽を、視聴覚資料などを補助教材として用いながら取り上げ、日本の音楽文化の歴史への概観をえる。加えて、それらの音楽がどのような楽理によって理解・解釈されてきたか、古代中国の楽理の移入とその後の展開を跡づけ、日本の音楽の性格についての理解を深める。	
		東洋の思想と美術	釈迦が悟りを開いた紀元前5～6世紀以降、仏教は現在に至るまでアジアを中心に、世界中で信仰を集めている。本科目では、講義形式により、インド、中央アジア、中国大陸、朝鮮半島、東南アジア、日本の仏教美術を取り上げ、イメージの比較を通じて、相互に関連・影響しあいながら、西から東へと伝播した芸術表現の有り様とその変化の様相を展望する。仏教にまつわる造形に注目し、その歴史的意義や地理的展開を理解するとともに、支配や権力との関連についても考察する。また本授業では、「日本美術」という枠組みでは語られることの少なかった、琉球・アイヌの文化や美術を、アジア的視座のもと「日本」との関係を通して考える。これらの事柄を通して、オリエンタリズムやプリミティヴィズム、植民地主義についても学び、東洋の文化の多様性や民族のアイデンティティについても理解することを目的とする。	
		西洋美術史特論	西洋美術史の通史をおさえたいうえで、重要なテーマやトピックを深めていくことが求められる。そこで、この授業科目では講義形式により、西洋美術史を、とりわけ社会的・思想的・ジェンダー的な視点から教授する。講義では、図像学的解釈や様式分析のみならず、芸術家の移動や(複製を含めた)芸術作品の伝播・受容が、美術や文化にどのような変容をもたらしたのかも考察する。以上の事柄をとおして、西洋美術史の知識を修得するとともに、美術・文化の交流のダイナミズムを理解することを目的とする。	

世界と自己を知るための科目	D・芸術文化科目群	日本美術史特論	<p>本講義では、日本美術史において、注目すべき事項やテーマを、日本美術史の通史のなかでどのように継承され、また各時代の社会においていかなる意味をもつのかということについて、講義形式で学ぶ。例えば名所絵は、古代中世では、貴族階級の重要な文化コミュニケーションとして名所歌とともに発展した。名所歌に詠まれた歌意が障子や屏風に描かれ、逆にそれらの名所絵から、新たな歌が詠まれた。一方、近世に至ると、一双形式の屏風の流行により、春夏秋冬の季節、神仏や寺社、祭礼や風俗、唐の名所絵、洛中洛外図のような為政者が欲する都市図など、多様な名所絵が出現し、名所絵の受容層や意味・機能も変化をとげた。同様に日本美術には、女性像、物語絵・宗教美術・版画・工芸・流通・都市など、隣接諸領域の研究と関連する多様なテーマが存在しており、こうした視点から美術作品を文化的に作り出された視覚表象として捉え直し、新たな作品解釈を導き出せるようになることを目指す。</p>	
		現代芸術論	<p>第一次世界大戦は、私たちが生活している「現代世界」の基本的な枠組みをつくり出した出来事であり、その前後では、美術にとっても重要な様々な傾向が同時に噴出した。そこで、この授業科目では講義形式により、第一次世界大戦前後の美術の諸相について、社会的背景も含めて考察し教授する。講義は、主に教科書に沿って進めるが、あわせて関連する文学・映画も参照し、多角的なアプローチによって、この時代の美術についての知識を修得し理解を深める。以上の事柄をとおして、〈現代〉戦争はどのように表象されるのか、そして戦争が美術に対して持ち得た意味とは何かを学び、現代につながる問題として考察することを目的とする。</p>	
		アート・アクティヴィズム	<p>「アート・アクティヴィズム」とは、①政治的・社会的なテーマを主題とした作品、②作家によるアクティヴィズムを指す。古来造形とは、何らかの意味やメッセージを伝え、社会に何らかの変容を促すものでもあった。そこでこの授業では、講義形式により、西洋からアジア、日本の様々なアート・アクティヴィズムを取り上げ、それらの諸実践を知ることを通して、現代社会におけるその意義を考える。特に、ジェンダー、民族、人種、階級、セクシュアリティなどの差異が、どのように搾取と不平等の構造を創り出すのか、そのなかでも、特に植民地主義とナショナリズムの視点から「アクト」としてのアートを読み解く。時には参加者とともに、アクティヴィズムをめぐる諸問題について議論したい。これらの学習を通して、ジェンダーと植民地主義・ナショナリズムに関する現代の思想を把握し、それらのアート活動を理論的に分析する実践力を身につけることを目的とする。</p>	

学校法人日本女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度 (2022)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
日本女子大学			
家政学部			
児童学科	97	—	388
食物学科			
食物学専攻	31	—	124
管理栄養士専攻	50	—	200
住居学科			
居住環境デザイン専攻	55	—	220
建築デザイン専攻	37	—	148
被服学科	92	—	368
家政経済学科	85	—	340
文学部			
日本文学科	134	—	536
英文学科	146	—	584
史学科	97	—	388
人間社会学部			
現代社会学科	97	—	388
社会福祉学科	97	—	388
教育学科	97	—	388
心理学科	73	—	292
文化学科	121	—	484
理学部			
数物情報科学科	92	—	368
化学生命科学科	97	—	388
計	1498	—	5992
日本女子大学通信教育課程			
家政学部			
児童学科	1000	—	4000
食物学科	1000	—	4000
生活芸術学科	1000	—	4000
計	3000	—	12000

令和5年度 (2023)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本女子大学				
家政学部				
児童学科	97	—	388	
食物学科				
食物学専攻	31	—	124	
管理栄養士専攻	50	—	200	
住居学科				
居住環境デザイン専攻	55	—	220	
建築デザイン専攻	37	—	148	
被服学科	92	—	368	
家政経済学科	85	—	340	
文学部				
日本文学科	134	—	536	
英文学科	146	—	584	
史学科	97	—	388	
人間社会学部				
現代社会学科	97	—	388	
社会福祉学科	97	—	388	
教育学科	97	—	388	
心理学科	73	—	292	
	0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
理学部				
数物情報科学科	92	—	368	
化学生命科学科	97	—	388	
国際文化学部				
国際文化学科	121	—	484	学部の設置 (届出)
計	1498	—	5992	
日本女子大学通信教育課程				
家政学部				
児童学科	1000	—	4000	
食物学科	1000	—	4000	
生活芸術学科	1000	—	4000	
計	3000	—	12000	

令和4年度 (2022)	入学 定員	編入学 定員	收容 定員
日本女子大学大学院			
家政学研究科			
【修士課程】			
児童学専攻	10	—	20
食物・栄養学専攻	10	—	20
住居学専攻	10	—	20
被服学専攻	10	—	20
生活経済学専攻	8	—	16
人間生活学研究科			
【博士（後期）課程】			
人間発達学専攻	5	—	15
生活環境学専攻	5	—	15
文学研究科			
【博士（前期）課程】			
日本文学専攻	10	—	20
英文学専攻	10	—	20
史学専攻	6	—	12
【博士（後期）課程】			
日本文学専攻	3	—	9
英文学専攻	3	—	9
史学専攻	3	—	9
人間社会研究科			
【博士（前期）課程】			
社会福祉学専攻	10	—	20
教育学専攻	10	—	20
現代社会論専攻	10	—	20
心理学専攻	14	—	28
相関文化論専攻	6	—	12
【博士（後期）課程】			
社会福祉学専攻	3	—	9
教育学専攻	3	—	9
現代社会論専攻	3	—	9
心理学専攻	3	—	9
相関文化論専攻	3	—	9
理学研究科			
【博士（前期）課程】			
数理・物性構造科学専攻	10	—	20
物質・生物機能科学専攻	10	—	20
【博士（後期）課程】			
数理・物性構造科学専攻	3	—	9
物質・生物機能科学専攻	3	—	9
計	184	—	408

令和5年度 (2023)	入学 定員	編入学 定員	收容 定員	変更の事由
日本女子大学大学院				
家政学研究科				
【修士課程】				
児童学専攻	10	—	20	
食物・栄養学専攻	10	—	20	
住居学専攻	10	—	20	
被服学専攻	10	—	20	
生活経済学専攻	8	—	16	
人間生活学研究科				
【博士（後期）課程】				
人間発達学専攻	5	—	15	
生活環境学専攻	5	—	15	
文学研究科				
【博士（前期）課程】				
日本文学専攻	10	—	20	
英文学専攻	10	—	20	
史学専攻	6	—	12	
【博士（後期）課程】				
日本文学専攻	3	—	9	
英文学専攻	3	—	9	
史学専攻	3	—	9	
人間社会研究科				
【博士（前期）課程】				
社会福祉学専攻	10	—	20	
教育学専攻	10	—	20	
現代社会論専攻	10	—	20	
心理学専攻	14	—	28	
相関文化論専攻	6	—	12	
【博士（後期）課程】				
社会福祉学専攻	3	—	9	
教育学専攻	3	—	9	
現代社会論専攻	3	—	9	
心理学専攻	3	—	9	
相関文化論専攻	3	—	9	
理学研究科				
【博士（前期）課程】				
数理・物性構造科学専攻	10	—	20	
物質・生物機能科学専攻	10	—	20	
【博士（後期）課程】				
数理・物性構造科学専攻	3	—	9	
物質・生物機能科学専攻	3	—	9	
計	184	—	408	

日本女子大学 国際文化学部

設置の趣旨等を記載した書類

令和4(2022)年4月

【目次】

第1	設置の趣旨及び必要性	3
1.	日本女子大学の沿革	
2.	国際文化学部国際文化学科設置等の経緯	
3.	国際文化学部国際文化学科設置の趣旨及び必要性	
4.	養成する人材像、教育上の目的	
5.	組織として研究対象とする中心的な学問分野	
第2	学部・学科の特色	6
1.	特色の概要	
2.	教育内容の特色	
第3	学部・学科等の名称及び学位の名称	8
第4	教育課程の編成の考え方及び特色	8
1.	教育課程編成の基本方針	
2.	教育課程及び科目区分の編成	
3.	教育課程の特徴	
第5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	13
1.	教育方法	
2.	履修指導方法	
3.	卒業要件	
4.	履修モデル	

第 6	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	18
	A. スタディ・アブロード・プログラム	
	B. 実践プログラム（国内、海外 a、海外 b）	
第 7	取得可能な資格	36
第 8	入学者選抜の概要	36
第 9	教員組織の編成の考え方及び特色	40
	1. 教員組織編成の考え方	
	2. 教員組織の特色と教員配置	
	3. 教員組織の年齢構成	
第 10	施設、設備の整備計画	42
第 11	管理運営	46
	1. 管理運営体制の概要	
	2. 教授会	
	3. 学内委員会等	
第 12	自己点検・評価	49
第 13	情報の公表	51
第 14	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	56
第 15	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	58

第 1 設置の趣旨及び必要性

1. 日本女子大学の沿革

日本女子大学は、我が国で初めての女子の高等教育機関として 1901 年に「日本女子大学校」として創設された。現在は家政学部、文学部、人間社会学部、理学部の 4 学部 15 学科及び 5 研究科 18 専攻を擁する、国内の私立女子大学で唯一の総合大学である。創立者・成瀬仁蔵は、「女子を先ず人として、第二に婦人として、第三に国民として、教育する。この順序を間違えてはならない」と記した。これは、本学における建学の精神であり、性別による差別なく、個性と特性を踏まえて、積極的に社会に関わる女性を育成しようとするもので、現在も本学に受け継がれている。

2. 国際文化学部国際文化学科設置等の経緯

2021 年に創立 120 周年を迎えるにあたり、「Vision120～創立 120 周年に向けて～」【資料 1】を公表し、「創立者成瀬仁蔵の建学の精神を継承し、発展させるとともに、社会を支え、国際社会をリードする人材を育成するために教育改革を進める」とする方針を示した。2014 年度に策定した学校法人日本女子大学中・長期計画（2014 年度～2023 年度）は、「Vision120」の日本女子大学の将来構想のために実現すべき項目を設定するとともに、前回の中・長期計画について実施した点検評価の結果を踏まえて、未実施の項目及び前回の中・長期計画において実施されたものの更なる改善が必要な項目を盛り込み策定した計画である。2018 年度に中・長期計画を見直し【資料 2】、重点実施項目に「日本女子大学のすべての総合力を発揮した、学生のための教育改革として、（1）学部・学科再編についての検討（2）四つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展（3）国際化社会に向けた対応の検討を掲げ、理事会のもとに学部・学科再編検討委員会を置き、学部・学科再編について検討を開始した。再編は 2022 年度の理学部 2 学科の名称変更から始まり、現行の人間社会学部文化学科を発展的に改組する国際文化学部国際文化学科の開設は、今後数年をかけて行う再編計画において重要な一角を占めている。

3. 国際文化学部国際文化学科設置の趣旨及び必要性

グローバル化が急速に進む一方、世界の分断も深刻な問題となっている中で、地球上の諸地域の多様な文化を深く理解し、その幅広い理解を基に、文化間の境界を越えた新たな文化を創造し発信していく人間の養成は、日本社会の喫緊の課題となっている。そうした社会的要請に応えるために、多様な地域の言語を修得して、その文化を理解し、国内外の現地に実際に赴き課題を発見し解決する能力を身に付け、さらには、それに基づいて既成の単一的な文化領域を超えた複眼的・論理的・国際的な観点から、文化の創造に向けて積極的に取り組む力を持った人間の育成が必要である。

こうした人間の育成という課題は、女子を共同奉仕の精神で社会に臨む一個の人間たるべく教育しようとした学祖・成瀬仁蔵の理念からも日本女子大学が正面から引き受けるべきもので、まさに本学の伝統に基づく新たな挑戦として、ここに国際文化学部を設置しようとするものである。

成瀬仁蔵は、死んだ書物上の社会ではなく、「活社会」とのかかわりを重んじ、その実践的かかわりの中で得た「印象」をさらに「発表」という仕方での学びを重視した。その学びを地球規模で体験させることが、この新学部の特徴となる。

要するに人格を養ふに最も大切なのは、第一印象を豊かにし、第二発表をよくすると云ふ事で……立派なる花を咲かせんとせば、先づ其の根本を養はねばならぬ（「印象と発表」明治 39 年-40 年、実践倫理講話『成瀬仁蔵著作集第二巻』 p. 753）。

実践の場における「印象と発表」を人格養成の重要な方法と位置づけたこの成瀬の理念をグローバル化の進みつつある現代の文脈において積極的に受け継ぎ、「新しい明日を共に創る」という日本女子大学のコンセプトのもと、現代世界の様々な限界の越境にチャレンジできる人間を養成することが、新学部としての国際文化学部の使命である。

4. 養成する人材像、教育上の目的

国際文化学部では、様々な地域や研究領域に存在する問題を自らつ

かみとり、それを国際的視野や学術的知見に基づいて理解・把握し、他者と協力しながら解決を模索することを通して、新たな文化や社会の構築に主体的にかかわることができる人間の育成を目的とする。そのため、以下の能力の修得を教育上の目標とする。

1：英語を使って自分の体験を世界に向かって伝え、他者の意見を聞くことができる。

2：英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語を通じて文化を多面的に理解することができる。

3：伝達・表現のために ICT を活用することができる。

4：他者の意見と自分の意見を区別し、自己の意見を論理的に組み立て、有意義な仕方世界に向けて発信することができる。

5：地域文化や芸術文化についての広汎かつ専門的な知識を獲得し、文化の多様性に関する基本的な考え方を理解できる。

6：様々な文化・地域・業界・フィールドにおいて実際的な問題を体験的につかみとり、問題の重要性を明確にしたうえで他者と共有できる。

7：実際的な問題を、広汎かつ専門的な知識と関連づけ、他者と共有できる的確な問いとしてまとめあげることができる。

8：問いの解決のために、綿密な計画を立て、取り組むことができる。

9：実践的な取り組みの成果を、的確な言語表現や ICT を用いた説得的な表現様式で、広く世界に還元し、新たな文化の創造に専門性をもって貢献できる。

5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

地域文化研究（イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・日本・中国・韓国・東南アジアなどの諸地域）、芸術（表象）文化研究（美術・文学・

音楽・身体芸術・映像・ポップカルチャー・哲学・思想などの諸領域)が本学部を中心となる学問分野である。

第2 学部・学科の特色

国際文化学部は、中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来像』の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、同答申の【③幅広い職業人養成】【④総合的教養教育、すなわち「総合的教養教育に基づいた幅広い職業人の養成」】【⑦社会貢献機能(特に国際交流)】に重点を置くことで、「越境」をキーワードに個性・特色を表していく。

1. 特色の概要

【③幅広い職業人養成】については、ユニバーサル段階を迎えた我が国の高等教育を踏まえ、実践的に「文化を自ら創造する独創性」「課題設定及び問題解決能力」を、英語を含む他国語も使用してグローバルな場面で発揮できる人材を育成する役割を積極的に志向する。多方面にわたりグローバル化が急速かつ著しい現代社会においてこのような能力は、本学において高等教育を受けることによる付加価値として重要である。

【④総合的教養教育、すなわち「総合的教養教育に基づいた幅広い職業人の養成」】については、【③幅広い職業人養成】と密接に関連する。国際文化学部は、日本も含めた多様な地域の文化を専門的かつ越境的に学べる総合的な教育を提供できる学部として、高い存在意義を示す。グローバル化で教養教育の重要性が再評価される中、既成の単一的な文化領域を超えた複眼的・論理的・国際的な観点から文化を理解し創造することを重要視するリベラル・アーツ型の専門教育を展開する。

【⑦社会貢献機能(特に国際交流)】について、多言語・多文化を踏まえた「越境」的な実践知は、国外での活動が必要な企業や国際公務員を含む公的な職業、NPO等だけではなく、日本国内での外国人とのコミュニケーションが必要な場面で不可欠になっていく。このような国際的な場面での相互理解、及び発信を含むコミュニケーションが可能な能力を持つ人材の育成を特色とする。

2. 教育内容の特色

【③幅広い職業人養成】国内外でグローバルな職業人として活躍するために異文化理解は不可欠との認識に基づき、国境を越えた異なる文化、地域、言語での学修体験を重視する。そのため、日本語以外に2か国語を履修させる。それぞれの言語に関する文化について専門科目で学び、また実践を重視する科目と組み合わせることにより、多様な場で実際に「即戦力」「課題設定・問題解決能力」「新たな文化や社会の創造に主体的に関わる意欲と能力」を発揮できる人材を育成する。

【④総合的教養教育、すなわち「総合的教養教育に基づいた幅広い職業人の養成」】概要と同じく、③と密接に関連する。世界のグローバル化が進む中、自国及び他国文化の、高等教育レベルでの教養教育的な知識と理解の必要性は増す一方である。国際文化学部では、ヨーロッパ・アメリカ・日本・アジア諸地域の文化や思想、美術・文学・音楽・ダンス・映像・ポップカルチャー等の分野・枠組を領域横断的に学び、それぞれ独自に多様な地域文化及び芸術（表象）文化の知識と理解を越境的な視座から身に付けることにより、広い視野を持って問題の所在をつきとめ、解決し、新たな文化や社会の可能性を提言する「総合的教養教育に基づいた幅広い職業人」としての基礎をしっかりと身に付けることができる。

【⑦社会貢献機能（特に国際交流）】国際文化学部は「スタディ・アブロード・プログラム（海外研修プログラム）」により全員に原則2週間の国外体験を義務づけることにより異文化理解と越境的な視点を修得させるとともに、「実践プログラム（国内）」、「実践プログラム（海外 a）」、「実践プログラム（海外 b）」においては、異文化の中で自ら問題を設定し、解決する自主的な学びを義務づける。単なる「語学留学」や「現地校での受講」「体験学習」に終わらないよう、準備のための演習科目「アカデミック・スキルズⅠ」「アカデミック・スキルズⅡ」及び「実践プログラム」での事前・事後学修により、主体的な異文化理解と越境的な視点の獲得を目指すことが、本学部の大きな特徴である。また、それらの成果を英語で、ICT を利用し発信する能力を身に付けさせることによる、国際的・多文化的な状況における課題設定・問題解決・発信を含むコミュニケーション能力の涵養もあわせて大きな特徴である。

第3 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部は、多様な地域の言語の修得と文化の理解、国内外の現地に赴き課題を発見し解決する能力を身に付け、さらには、それに基づいて既成の単一的な文化領域を超えた複眼的・論理的・国際的な観点から、文化の創造に向けて積極的に取り組む力を持った人材の育成を目的とするため、日本語の名称を「国際文化学部」とする。また、学部の英語名称については、本学部が複数の言語や文化、学問領域の「越境」をキーワードとすることから、「Faculty of Transcultural Studies」とする。

学科名は同様の理由から、「国際文化学科」（英語名：Department of Transcultural Studies）とする。

また、授与する学位は、地域文化研究と芸術（表象）文化研究を教育内容とすること、及び、国際的な通用性を担保することという理由から、「学士（文学）」（英語名：Bachelor of Arts）とする。

第4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の基本方針

【国際文化学部の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

- ・ 多様な地域・領域の文化を専門的に学ぶために、国際文化学科の専門科目を置く。
- ・ 複合領域としての国際文化の学びにアプローチするために、理論的かつ実践的な導入科目を置き、「越境体験」としての海外短期研修を必修とする。
- ・ 大学での学びに必要な論理的思考・スキル・ICT・コミュニケーション力や、国際文化研究の基本的な方法を身に付けるために、アカデミック・トレーニング科目を置く。
- ・ 海外・国内を問わず、教室の外に文化に関連する課題を見出し、他者と協力しながら解決する力を身に付けることを目的とする実習科目として「実践プログラム」を置き、その成果を外国語で発信する科目と合わせて、実践トレーニング科目とする。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。

国際文化学部の教育課程は、大きく2つに分けることができる。第一

の科目群は、本学学生が学部学科を問わず履修する科目・科目群で、「教養特別講義」「JWU キャリア科目」「JWU 社会連携科目」「基礎科目」「教養科目」の 5 つの授業区分からなる。これらの科目は、本学全体の導入教育、基礎的な外国語能力、研究能力の修得、身体と健康にかかわる知識と実習、卒業後のキャリアパスを見据えた知識の修得と実践、というように多岐にわたり、日本女子大学に入学した学生すべてが履修する共通科目である。これらの科目は、本学の創立者・成瀬仁蔵が本学設立の意図として示した教育方針「第一に女子を人として教育すること、第二に女子を婦人として教育すること、第三に女子を国民として教育すること」に沿って体系化された科目群といえる。

第二の科目群は、国際文化学部国際文化学科学生が履修する「学科科目」である。この科目群では、言語を媒体として人文科学を横断的に修得することで、広い視野から日本と世界を見つめる力を身に付け、実践・体験を通して豊かな想像力、深い洞察力を磨き、外国語能力の向上を図り、国際社会で活躍できる人材を育むことを目的として設置されている。授業科目の形態は、講義科目、演習科目、実習科目の 3 つに分類することができる。特に実習科目は、異文化理解には欠かせない外国語の運用能力の向上を目指したり、異文化において国際的な課題を体験的に学ぶ「スタディ・アブロード・プログラム」、そしてその経験をもとに留学、あるいは日本国内の社会課題の解決への応用に導く「実践プログラム」(国内)(海外 a)(海外 b)からなっており、本学部の最も特徴的な科目とすることができる。(参考:【資料 3】カリキュラム・ツリー)

2. 教育課程及び科目区分の編成

上記「1.」で示した第一の科目群を全学共通科目、第二の科目群を学科科目として、その教育課程及び科目区分の編成について説明する。

全学共通科目の「教養特別講義」は、学問における真理の探究と人間形成とを不可分とする本学の創立者・成瀬仁蔵の教育理念のもとに設けられた「実践倫理」をその原点とし、講義とセミナーからなる本学独自の科目で、1 年生が必ず履修する(1 単位)。本学へのいわば「導入科目」であり、自校教育のために設置されている。

「JWU キャリア科目」及び「JWU 社会連携科目」は、女性が社会で力を発揮できる思考力と実践力を育むための科目群であり、社会的・職

業的自立に向けて必要な知識や技能、態度を身に付ける「JWU キャリア科目」、自治体や企業、研究機関等と一緒に社会課題の解決について実践的に取り組む「JWU 社会連携科目」で構成されている。これらの科目群の中から2単位修得することを必修としている。

「基礎科目」は、心身の基礎的な教養を身に付け、各学部学科の専門を学修する際の土台を形成し、現代社会の一員として生きていくための基礎力を養う科目群で、「外国語（英語）」「外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）」「情報処理」「身体運動」の4つの科目群からなる。「外国語（英語）」では、英語によるプレゼンテーションの基本的スキルを学び、表現力やコミュニケーション力を養成する「プレゼンテーション・イングリッシュ」(a,b 各2単位)、英語の文法力と語彙力、リーディング、リスニング、スピーキング力の強化を図る「アクティヴ・イングリッシュ」(a,b 各2単位)が必修であり、国際文化学部の学生は、それに加えて「選択英語」として開講されている「メディア・リスニング」や「観光英語」などの科目を8単位選択必修としている。

「外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）」は、母語、英語に加えて第三の言語の修得を目指すもので、グローバル化し複雑化した現代社会において、この第三の言語の重要性は増している。国際文化学部の学生は、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の中から一つの言語を選択し、16単位を選択必修とする。「情報処理」は、情報科学及び情報処理に関する基礎的知識を演習で学ぶ科目であり、「身体運動」は、女性の健康維持・増進のために適切な運動のあり方を理解し実践する実習科目中心で、本学創設以来、今日まで続く科目である。「情報処理」「身体運動」それぞれ2単位が必修となっている。

「教養科目」は、学部学科の専門性にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考を養成する目的で設置された科目群である。本学の教養科目は、(1) 人類の知的財産を継承しつつ、歴史的存在としての現在について理解し、(2) 様々な学問分野の成果を自身の知識の中に組み入れ、(3) 批判的意識をもって自立した市民として生きる価値観を確立できるよう意識づけることを目的とし、「A 多様な社会と人間の尊厳（社会科学系）」「B 自然の摂理の探求（自然科学系）」「C 知性と文化の系譜（人文科学系）」の3系列からなる。学生はそれぞれの系列から4単位ずつ、合計12単位を選択必修としている。

学科科目は、教室での講義・演習と、国内外での短期留学、実習を並行させて1年次より進める点に特徴があり、各科目は「導入科目」「ア

「アカデミック・トレーニング科目」「実践トレーニング科目」「卒業研究」「世界と自己を知るための科目」の5つの科目群に分類されている。

1年次は「導入科目」の2つの科目を必修とする。「国際文化基礎論」（2単位）が国際文化学部で学ぶ領域に関する概論の位置づけをなし、国際文化学部の助教を除く全専任教員がオムニバス形式で担当する。同じく1年次では、「スタディ・アブロード・プログラム」（4単位）を履修し、事前学修を経たのち欧米・アジアなどの7つの地域での様々な異文化体験、国際交流の現場研修、外国語学修を行い、国際文化学部の基本コンセプトである「越境」を経験し、事後学修により振り返りを行うことで、帰国後の学修デザインの動機づけを行う。

「アカデミック・トレーニング科目」も1年次よりスタートする。この科目群では、学士課程の集大成となる「卒業研究」（4単位）を書き上げるために必要となる人文科学系の研究方法、資料・情報検索、論文の書き方、プレゼンテーションやディスカッションの仕方、ICTなど、大学での学びに必要なスキルや文化研究の基本的な方法を身に付ける必修科目と、海外留学を目指す学生を対象とした選択科目からなる。

1年次後期の必修科目「アカデミック・スキルズⅠ」（2単位）では、学修に対する目的意識を明確にし、何のために学ぶのかという「目標」を設定することから始め、自ら調査したり考えたりするための「積極性」、講義の内容や到達目標に応じて学修するための「計画性」を身に付ける。これらを1年次で理解することにより、その後の学びに活かす。学びのプロセス（「何を学ぶか」ではなく「どう学ぶか」）に焦点を合わせ、自主的かつ批判的に物事を考察するためにクリティカルシンキングのトレーニングを通してスキルを磨き、レポートや論文を書くための方法を修得する。また自らのテーマに応じて学修や研究に取り組む「実践力」、自己の課題を他者にわかりやすく伝える「コミュニケーション力」や「発信力」の基礎を身に付けることを目的とする。

2年次前期に履修する「アカデミック・スキルズⅡ」（2単位）では、「アカデミック・スキルズⅠ」で身に付けた基本的なスキルを、より専門的な内容を扱うことに応用することを目指す。問題設定、資料・情報の収集、論文のクリティカルな分析、プレゼンテーション、ディスカッション、論文作成の諸段階において、より専門性と結びつける。さらに、ICTを活用した情報収集・発信に必要なスキルを身に付けさせるとともに、2年次後期から3年次前期で選択必修となる「実践プログラム」

(国内、海外 a、海外 b)のクラス選択について助言や指導も行うなど、「実践プログラム」履修のための準備演習となる科目でもある。

また、2年次前期「国際文化研究法」(2単位)では、文化研究の基本的な考え方や具体的な研究方法について学ぶ。

さらに、海外への留学を志望する学生に特化した科目として、1年次前期に「留学準備演習Ⅰ」(2単位)、1年次後期に「留学準備演習Ⅱ」(2単位)が配置される。外国語の運用能力を高め、海外の大学での学び方や生活様式などについて理解を深めながら、現地での適応能力を養う。

2年次後期からは「実践トレーニング科目」群の履修が始まる。教室の外に問題や課題を見出し、解決する力を身に付けることを目的とする脱キャンパス型の実習科目「実践プログラム(国内)」(2単位)、原則として語学力を問わず希望者全員が履修することができる「実践プログラム(海外 a)」(10単位)、語学力等の学内選考を経て、協定大学または認定大学へ留学する「実践プログラム(海外 b)」(2単位)のいずれか1科目を選択必修としている。これらの科目は、国際文化学部の特徴である、体験・実践・発信を国際的な視野をもって具体的に実行する科目であり、本学部の核をなす。「実践プログラム」各科目においては、教員の事前指導の下、学生が綿密な計画を立てて実施したプログラムの成果を、パワーポイント等の ICT を活用して発信することを目指している。さらに、3年次後期には、これらの成果について英語でプレゼンテーション・議論を行うための「バイリンガル・コミュニケーション」(2単位)を必修としている。

「世界と自己を知るための科目」群は、多様な地域・領域の文化の理解を深めるための専門科目群である。この科目群は「A. 欧米文化科目群」「B. 日本・アジアの文化・思想科目群」「C. 映像・ポップカルチャーと哲学科目群」「D. 芸術文化科目群」の4つの群からなり、学生は「世界と自己を知るための科目」群と「アカデミック・トレーニング科目」、「実践トレーニング科目」から選択科目を48単位修得する必要がある。「世界と自己を知るための科目」群は、欧米、日本、アジアの文化や思想に関する知識を深める科目、美術・文学・音楽・ダンス・映画・ポップカルチャー等を領域横断的に学ぶ多様な科目が配置されている点に特徴がある。

これらの教室内外での学びを、具体的に一つの研究に展開させる科目群が「卒業研究」である。3年次後期から4年次にかけて実施される

「国際文化学演習 a」（2単位）「国際文化学演習 b」（2単位）「国際文化学演習 c」（2単位）は演習形式の授業で、学生はこれまでの教室内外での学びに基づいて、国際的な視座から各自で設定した問題に対する考察を深め、その成果を「卒業研究」としてまとめる。実践的なプログラムを通して得た俯瞰的な視点から文化に関する考察を展開することで、国際的な視野を持ち、文化という観点から地域社会の課題解決に取り組む人材育成の総仕上げとする。

3. 教育課程の特徴

国際文化学部国際文化学科の教育課程の特徴としては、以下の5点が挙げられる。

- (1) グローバル化した社会において、文化という観点から国内外の社会課題の解決に貢献すべく、文化交流から異文化の相互理解を深める実践的プログラムを用意し、またその知識を提供する。
- (2) 外国語能力の強化を図り、また国内外の文化を多く学ぶことで、広く国際的な人材を育成する。
- (3) 「スタディ・アブロード・プログラム」、「実践プログラム」（国内、海外 a、海外 b）などの実習科目により、異文化や他地域の人々と触れる機会を増やすことで、コミュニケーション力と社会における実践力を養う。
- (4) 体験・経験を ICT を活用して発信することで、発信力を強化する。
- (5) 卒業研究を全員に課すことで、自らの関心に対する問いを各自が立て、それを解決するための知識を取得し、分析方法を自ら考え、表現する能力を強化する。

第5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

(1) 授業方法

国際文化学部では、学年を前期・後期に分け、原則として各期で授業を完結させる。ただし、「実践プログラム」（国内）（海外 b）に関して

はこの限りではない。

(2) 履修登録

国際文化学部では、十分な学修時間の確保と、学修内容の質の維持を図るため、1年間に履修する授業科目の登録単位数に上限を設ける。年間履修登録単位数の上限は48単位とする。

(3) 配当年次の設定

1年次では国際文化学部での学びの基礎やアウトプットの方法について学修し、学年が上がるにつれ学生個人の興味に合った発展的な内容の学修が可能となり、卒業研究に結びつくように工夫されている。特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように、各学年に教員アドバイザーとして4名の専任教員を配置し、履修指導を行う。

2. 履修指導方法

(1) 履修ガイダンスの実施

履修に関する学生の理解を深めるために、新入生に対しては入学時にオリエンテーション及び履修ガイダンスを行う。オリエンテーションでは大学で学ぶためのカリキュラム構成等の全体説明を行い、履修ガイダンスでは、本学の『履修の手引き』に基づき受講・履修指導を行う。上級生もアドバイザーとして参加し、新入生の理解が深められるよう工夫する。また新入生に対してだけでなく、各学年の年度当初において履修指導を行い、担当教員が必要に応じて個別指導や助言を与える。各学年に教員アドバイザーを配置し、教員ごとにオフィスアワーも設定しており、年間を通じて学生が教員に相談が可能なシステムが構築されている。

なお、本学では、学生へ円滑に情報を伝達するため学生情報システム JASMINE-Navi を整備している。学生は、学内外を問わずインターネットを利用してシステムにアクセスすることができ、履修登録のほか、時間割、シラバス、成績状況などの照会が可能である。

(2) シラバスの作成

当該年度中に開講されるすべての授業について、授業の概要、授業の

方法、授業の到達目標、授業計画、成績評価の方法、使用テキスト、参考書などを記載したシラバスを作成し、学生が主体的に学修できるようにする。シラバスは、JASMINE-Navi で閲覧可能である。

(3) GPA 制度の導入

国際文化学部では、GPA 制度を導入している。GPA は成績優秀者奨学金の選定指標、各種推薦の選定資料として利用する。

(4) オフィスアワーの設置

学生が授業についての質問や進路、悩み事など学生生活全般にわたって相談ができる時間帯を、教員ごとに週 1 回 100 分設定する。

3. 卒業要件

国際文化学部の卒業要件は、4 年以上在学し、「教養特別講義」1 単位、JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目から選択必修 2 単位、基礎科目の外国語 32 単位（必修英語 8 単位、選択英語 8 単位、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語より同一言語を選択必修 16 単位）、情報処理から必修 2 単位、身体運動から選択必修 2 単位、教養科目系列 A・B・C それぞれから選択必修 4 単位計 12 単位、「導入科目」必修 6 単位、「アカデミック・トレーニング科目」から必修 6 単位、「実践トレーニング科目」から必修 2 単位、選択必修科目を 2 単位以上、「卒業研究」から必修 6 単位、卒業研究 4 単位、「世界と自己を知るための科目」と「アカデミック・トレーニング科目」、「実践トレーニング科目」から選択科目を 48 単位修得し、合計 125 単位以上を修得することとする。

科目区分	卒業要件単位数		配置科目
教養特別講義	1	必修	「教養特別講義」
JWU キャリア科目 JWU 社会連携科目	2	選択必修	JWU キャリア科目または JWU 社会連携科目から選択必修 2 単位
基礎科目外国語	8	必修	「プレゼンテーション・イングリッシュ a 及び b」「アクティブ・イングリッシュ a 及び b」
	8	選択必修	選択英語から選択必修 8 単位
	16	選択必修	ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語

			より同一言語を選択必修 16 単位
基礎科目情報処理	2	必修	「基礎情報処理」
基礎科目身体運動	2	選択必修	「身体運動 I」から選択必修 2 単位
教養科目	12	選択必修	「A 多様な社会と人間の尊厳」「B 自然の摂理の探求」「C 知性と文化の系譜」から各 4 単位
① 導入科目	6	必修	「国際文化基礎論」「ステイ・アフ・ロード・プログラム」
② アカデミック・トレーニング科目	6	必修	「アカデミック・スキルズ I」「アカデミック・スキルズ II」「国際文化研究法」
	4	選択	「留学準備演習 I」「留学準備演習 II」
③ 実践トレーニング科目	2	必修	「ハイリナル・コミュニケーション」
	2~10	選択必修	「実践プログラム（国内）」「実践プログラム（海外 a）」「実践プログラム（海外 b）」
④ 卒業研究	6	必修	「国際文化学演習 a」「国際文化学演習 b」「国際文化学演習 c」
	4	必修	「卒業研究」
⑤ 世界と自己を知るための科目	36~48	選択必修	「A. 欧米文化科目群」「B. 日本・アジアの文化・思想科目群」「C. 映像・ポップカルチャーと哲学科目群」「D. 芸術文化科目群」
合計	125 以上		

4. 履修モデル

「第 1 設置の趣旨及び必要性」で記載した教育目標を踏まえ、国際文化学部の特徴を活かした履修による学修並びに進路のモデル 3 種類を示す。これらの履修モデルを入学時のオリエンテーションや履修ガイダンス、及びその後の履修指導で提示することで、学生が大学での学

びと将来設計を結びつけながら、履修計画を立てることができるよう配慮する。卒業後の進路ごとに想定している履修モデルは【資料 4】～【資料 9】のとおりである。

【国際系】

「実践プログラム（海外 a）」【資料 4】や「実践プログラム（海外 b）」【資料 5】を履修して、海外の大学あるいは大学附属の語学学校に中長期間留学する学生向けの履修モデルである。高い語学力と豊富な海外経験に裏打ちされた「越境力」・コミュニケーション力の獲得を目指す。「留学準備演習 I」「留学準備演習 II」を履修して、海外留学に備えるとともに、英語で行われる授業も積極的に履修することが望ましい。留学先の地域の文化全般、宗教、文学、美術、映画、ポップカルチャーなどを学ぶとともに、留学先で日本の文化について議論できるよう、日本関連の科目も履修しておく。

本学の協定大学または認定大学へ留学する「実践プログラム（海外 b）」を選択した場合は、留学先の大学で修得した単位を「世界と自己を知るための科目」16 単位ほどに振り替えて単位認定することを想定した履修モデルとなっている。

想定される進路としては、グローバルに展開する企業、企業の国際部門、国際機関、国際 NPO/NGO 団体などが考えられる。また、ベンチャー企業の設立も視野に入れる。海外大学院への進学も推奨する。

【芸術系】

博物館学芸員資格の取得あるいは芸術文化に携わる職種に関心のある学生向けの履修モデルである。美術史や文化史に関する専門的な知識とともに、語学力やコミュニケーション力の獲得を目指す。「実践プログラム（国内）」【資料 6】あるいは「実践プログラム（海外 a）」【資料 7】を履修することを想定している。

また、より高度な専門性を身に付けるべく博物館学芸員資格を取得する場合の履修モデルは、【資料 8】のとおりである。博物館学芸員資格を取得するには、博物館学芸員課程に設置された所定の 9 科目 19 単位（「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」）に加え、美術史や文化史などの系列の科目を 2 系列以上にわたり 2 科目以上（8 単位以上）を履修しなくてはならな

い。

想定される進路としては、美術館・博物館の学芸員、芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業などが考えられる。国内・海外の大学院への進学も推奨する。

【メディア・観光系】

地域文化や観光、それに関わるメディアや社会問題に幅広く関心を持つ学生向けの履修モデル【資料 9】である。文化という観点から社会課題を見出し、他者と協力しながら解決するために必要なコミュニケーション力、実践的な語学力の獲得を目指す。「実践プログラム(国内)」を履修することを想定している。日本・アジア、欧米を問わず多様な地域の文化、観光系の科目に加え、宗教・思想系の科目も履修することが望ましい。

想定される進路としては、放送業、ジャーナリズム、運輸・旅客業、観光業などが考えられる。

第 6 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

国際文化学部国際文化学科のカリキュラムにおいては、以下の 2 種類の学外研修が必修科目となっている。

- A. 1 年次に履修する「スタディ・アブロード・プログラム」
- B. 2 年次後期から 3 年次前期の期間に履修する国内または海外の「実践プログラム」（国内、海外 a、海外 b）

さらに、B の「実践プログラム」は、以下の 3 種類に分類される。

- B-1 国内 国内の施設等を利用して実施するプログラム
- B-2 海外 a 原則として語学力を問わず希望者全員が履修することができる、海外で実施されるプログラム
- B-3 海外 b 語学力等の学内選考を経て、協定大学または認定大学へ留学するプログラム

それぞれのプログラムの具体的計画は以下のとおりである。

A. スタディ・アブロード・プログラム

「スタディ・アブロード・プログラム」は、「導入科目」群に設置された1年次必修科目である。夏期休暇期間を利用して、原則2週間、日本国外での研修を行う。異なる文化・地域・言語を直接体験することにより、個々の専門分野への関心や問題意識を深めるとともに、理解・共感に必要な外国語のレベルを実地で経験し、さらなる学びへの導入とすることを目的としている。学生は7つの研修先の中から個々の関心・専門領域に合わせて1か所を選択し、事前・事後学修により経験を充実させ、また振り返りを経て学びを深めるとともに、その後の専門的な学修への意欲と基礎知識を修得する。実習先と受け入れ可能人数は以下のとおりである。

A-1 実習先一覧

実習先	実習先確保の状況	実習先との連携体制
①イギリス オックスフォード	オックスフォード大学ハートフォード・カレッジ 受入可能人数 30名程度	ハートフォード・カレッジのコーディネーターと本学専任教員が連携し、夏期プログラムの実施について了承を得ている。
②アメリカ ボストン	本学協定大学（ウェルズリー・カレッジ、マウント・ホリヨーク・カレッジ）を中心とするボストン近郊の大学、ボストン美術館、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館、ハーヴァード美術館、セイラム、コンコード等	プログラムの作成、調整を依頼しているスタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF)と本学専任教員が密接に連携を取っている。

	受入可能人数 30 名程度	
③ オーストラリア シドニー	IES シドニーセンター 受入可能人数 30 名程度	プログラムの作成、調整を依頼しているスタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF)と本学専任教員が密接に連携を取っている。
④ フランス パリ、南仏ラ・ナプ ール	グラン・ブルー語学 学校 受入可能人数 40 名 程度	グラン・ブルー及び現地滞在をサポートする旅行会社と本学専任教員が密接に連携を取っている。
⑤ 台湾 台中市	本学協定大学（静宜 大学） 受入可能人数 25 名 程度	日本への留学経験があり、日本の大学事情に精通した現地教員と本学専任教員が密接に連携を取っている。
⑥ 韓国 梨花女子大学	本学協定大学（梨花 女子大学） 受入可能人数 40 名 程度	現地教員と本学専任教員が密接に連携を取っている。
⑦ ヴェトナム フエ、ハノイ	本学協定大学（フエ 大学外国語大学）、日 越大学 受入可能人数 20 名 程度	現地教員と本学専任教員が密接に連携を取っている。

A-2 成績評価体制及び単位認定方法

実習前の事前授業と事後授業における取り組み、実習先での指導者の評価、最終レポートを総合して評価を行う。

A-3 実習の安全面に関する取り組み

実習中の安全確保は重要であり、各プログラムの担当教員は実習先と緊密に連絡を取りながら、実習地周辺の緊急医療機関を確認し、安全面には十分な配慮をする。また、実習の実施にあたっては、万一の事故に備えて、学研災付帯海外留学保険に加入する。万が一事故等が発生した場合は、JCSOS（特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会）と連携するとともに、「日本女子大学危機管理要綱」【資料 10】に基づき、危機管理体制に万全を期す。また、「安全・危機管理マニュアル」を学科及び国際交流課において作成し、教員に周知徹底を図る。実習中に知り得た情報等に関する守秘義務や SNS への掲載に関する注意点などについては、事前・事後授業において学生に指導する。

B 実践プログラム（国内、海外 a、海外 b）

「実践プログラム」は「実践トレーニング科目」群に設置されている実習科目であり、「実践プログラム（国内）」「実践プログラム（海外 a）」「実践プログラム（海外 b）」の 3 種類が用意されている。学生は個々の関心・興味に応じていずれか 1 科目を選択必修とする。いずれも教室の外に問題や課題を見出し、解決する力を身に付けることを目的とする脱キャンパス型の実習科目である。

B-1 実践プログラム（国内）

「実践プログラム（国内）」は、教室の外に問題や課題を見出し、解決する力を身に付けることを目的とする脱キャンパス型の実習科目である。事前学修において綿密な準備計画を練ったうえで、様々な現場・地域へ赴き、臨地の文化や社会を体験的に理解し、現場・地域の人々とともに思案し、解決を模索する。課題の発見・理解・解決の過程や結論について、ICT を活用して社会に向けて報告、発信していく。事前学修を 5 回、臨地実習を 5 日、事後学修を 3 回行い、授業の最終回では学生がパワーポイントを使用した発表を行う。

10 名の専任教員がそれぞれの専門を活かしたプログラムを担当し、学生は自らの興味・関心に応じていずれかのプログラムを 1 つ選択す

る。各プログラムの概要と実習先、受け入れ可能人数は以下のとおりである。

B-1-1 実践プログラム（国内）の概要と実習先、受け入れ可能人数

「実践プログラム（国内）」概要		実習先	受け入れ可能人数
① クラシック音楽の解説・批評の実践	若年層クラシック音楽ファンの開拓を具体的目標として設定したうえで、クラシック音楽についての理解を深めるだけでなく、自己自身をとりまく現在の音楽文化を省みて、受け手を意識した表現・発信様式を工夫することができる力を身に付けることを目的とするプログラムである。東京フルトヴェンガー研究会主催のコンサートなどに関連して、演目・作曲家・演奏者に関する情報・解説・批評等を発信する。ホームページを作成し、大学生の同世代目線から若年層にアピールするコンテンツを提供する試みである。	東京フルトヴェンガー研究会。コンサートは都内各所、リハーサルは文京アカデミー（東京都文京区）	15名
② 多様なアートの体験を通して、アートと社会を考える	国際芸術祭、展覧会、美術館、建築や文化遺産の見学実習、あるいはアートベースでの研修を通して、文化や歴史の奥深さを体験し、作品の見方や意味、さらにはそうした作品の展示の意義や機能を学ぶとともに、アートの社会における役割などについて考	東京都、神奈川県横浜市、新潟県十日町市、愛知県名古屋市、広島県尾道市等の美	15名

	<p>察する。実習先は、その年の芸術祭や展覧会のプログラムによって毎年変わる。十分な事前学修を行ったうえで、現地での見学実習に臨み、当地の学芸員や人々との対話も踏まえて、その成果を最終的には動画等で発信する。</p>	<p>術館、展覧会等 (年度によって開催地が異なる)</p>	
<p>③ 身体を用いたパフォーマンスについてのワークショップ</p>	<p>ダンス・演劇・お笑い等の大衆芸能など〈身体を用いたパフォーマンス〉についてのワークショップを実施し、その体験を通して、「身体」と「私」と「社会」との関係性を考察することを目的とする。また、各表現分野の第一人者を講師として招くことで、各表現が持つ真髄に触れる。その際、実際に身体を参与させて表現のあり方を知ることで、分析や理解の解像度を高める。</p>	<p>東京シティバレエ団など (東京都江東区)</p>	<p>15名</p>
<p>④ 西洋ファッション研究</p>	<p>学問としてファッションを研究するために必要な知識(歴史)を学ぶとともに、現存資料調査の重要性を認識し、現物資料の調査方法、それを補う文字資料の活用方法を具体的かつ実践的に学ぶ。実際に現存資料を閲覧し、調査することで、衣服の歴史的、文化的な価値を体感するとともに、モノの背景に潜む人々の意識、理想や葛藤</p>	<p>東京都内の美術館及び博物館(東京都23区内)、神戸ファッション美術館など (兵庫県神戸市)</p>	<p>15名</p>

	<p>を文字資料を使って補い、他者に的確に発信することを目的とする。ルネッサンスから 20 世紀初頭までの西洋ファッションを中心に扱うが、基本的な研究の実践方法は他の時代、国にも応用することが可能である。</p>		
<p>⑤ 文化資源の観光資源化の試み</p>	<p>日本における文化観光について考え、フィールドワークを交え地域の文化資源の観光資源化を試み、それをどのような媒体で誰に発信するかを実践的に学ぶ。フィールドは、本学が連携協定を結んでいる北海道日高振興局内の自治体とする。事前学修において、近年の文化概念の変化から文化観光のあり方が変化している点、そして対象地域の文化資源の掘り起こしを事前に行い、現地のフィールドワークを通じて観光資源化のコンセプトを作り、事後学修においては当地のプロモーションビデオを作成する。</p>	<p>北海道日高振興局内の七町</p>	<p>15 名</p>
<p>⑥ 都市構造の文化的視点からの再確認とその観光の可能性</p>	<p>破壊と再構築の反復によって記憶が上書きされてきた東京の都市構造を文化的視点から再確認し、新しいタイプの観光の可能性を学生が提案することを目指す。五街道を中心に「歩く」という行</p>	<p>資料館は、東海道をかわさき宿交流館。教育委員会は、新宿</p>	<p>15 名</p>

	<p>為を通して、前近代及び近代の記憶を追体験し、一つの場に各時代の記憶が地層のように重なっていることを確認し、それらをつなぎ、どのようなコンセプトの文化観光ウォーキングルートを構築できるかを学生自身が考え、マップ化することによって発信する。現地での調査実習においては、ルートに関わる資料館、史跡、教育委員会等を訪問し、その関係者への聞き取りも行う。</p>	<p>区教育委員会・文京区教育委員会など（神奈川県川崎市、東京都新宿区、文京区）</p>	
<p>⑦ 映画上映会を通じて地域と文化の関係を考える</p>	<p>地域にとって「文化」の可能性とは何か、北海道日高管内での体験・実践を中心とする学修によって、その問いを深めていくことを目指す。臨地体験においては、管内の文化資源を見学しながらその活用の可能性について当地の人々と対話するとともに、現地の映画館・施設で実際に映画上映会を企画・開催する。以上の体験によって、地域の現状や課題について「文化」の視点から考察し、そこにどのような可能性があるのかを実践的に思考することを目的とする。</p>	<p>北海道日高振興局内の七町</p>	<p>15名</p>

<p>⑧ 歴史的建築・美術の調査研究方法の体験学習と芸術文化の未来への継承</p>	<p>国内各地域の歴史や文化の中で構築された、建築・美術等の見学を現地で行い、作品の調査・研究の方法、様式や材質の分析、年代の鑑定、鑑賞の方法などを具体的に学ぶ。また、作品を支える材料や技法に関する工房の見学や保存・修復に携わる工房等における調査を実施し具体的に学ぶ。まず、事前学修として、先行研究から問題点を整理し、フィールドワークで注視すべき事柄をまとめたテキストを作る。事後学修では、研修成果をパワーポイントやレジュメを用いて発表し、全員でのディスカッションを経て、最後に動画で発信する。継承すべき芸術の材料・技術・技法などに関しては、研究成果を可能であれば「展示」として発表し、未来へと継承すべき文化としてその意義を一般に向けて発信する。</p>	<p>国立美術館や各地のミュージアム、京都・奈良（京都府京都市、奈良県奈良市）や地方の寺社、伝統文化保存・修復工房（東京都渋谷区、台東区）</p>	<p>7～15名</p>
<p>⑨ 他文化からの視線を追体験し、他文化との接触・越境を再考する</p>	<p>近代初発の日本の精神風土は、西欧にどう見えたのか。ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は1890（明治23）年に来日し、日本の文化・思想・生活を欧米に紹介した人物である。ギリシャ生まれの彼の眼に、明治になって西洋化</p>	<p>小泉八雲記念館、出雲大社、八重垣神社（島根県松江市、出雲市）、</p>	<p>10名</p>

	<p>していく都会とは違い、旧来の文化や生活がほぼそのまま継続しているような鎌倉・出雲・松江の風景や人々のあり方がいかにうつつっていたのかをその著作を英文と日本語訳で読み、それを現地で追体験・学修することで、他文化の人々から日本はいかに見えているのか、そして他文化との接触・越境とはいかなるものかをあらためて考え、その成果をパワーポイントを活用して発信する。</p>	<p>円覚寺・建長寺 (神奈川県鎌倉市)</p>	
<p>⑩ 哲学カフェの運営による他者との対話実践</p>	<p>哲学的な基礎知識を学んだうえで、他者との対話という実践を通じて、自己と既成概念を問い直し、それらを変容させていくこと、及び、「jwuカフェ」を自ら運営することを通じて、主体的な行動や他者との協働を実際に体験することを目的とする。「jwuカフェ」とは、大学を拠点とした哲学カフェであり、地域の人々がこれに参加することによって、地域交流を促進するという意義も併せ持つ。また、本プログラムの成果は動画としてまとめ、外部に発信する。</p>	<p>日本女子大学学内施設（東京都文京区）</p>	<p>20名</p>

(1) 実習先の確保の状況

担当教員が実習先の市町村や団体等と連絡調整を図りながら、実習先の確保に努めている。美術展覧会や芸術祭などを扱うプログラムで

は、その時機に応じたタイムリーな実習を行うため、実施年度のトピックにふさわしい美術館や博物館等を実習先とする。

（２）実習先との連携体制

担当教員が事前に実習先と実習の方針や内容等について連絡調整を行う。担当教員の人脈を通じて、全国の様々な実習先の確保とプログラムの実施に向けて緊密に連絡を取る体制が構築できており、現在、実施のための全面的な協力について了承を得ている。実習後は、実習先に結果をフィードバックし、次年度につなげていく。

（３）実習の安全面に関する取り組み

実習中の安全確保は重要であり、各プログラムの担当教員は実習先と緊密に連絡を取りながら、実習地周辺の緊急医療機関を確認し、安全面には十分な配慮をする。また、実習の実施にあたっては、万一の事故に備えて、在学生全員が学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入するとともに、学生には入学時に「加入者のしおり」を配布している。万が一事故等が発生した場合は、「日本女子大学危機管理要綱」【資料 10】に基づき、危機管理体制に万全を期す。また、「安全・危機管理マニュアル」を学科及び社会連携室において作成し、教員に周知徹底を図る。実習中に知り得た情報等に関する守秘義務や SNS への掲載に関する注意点などについては、事前・事後授業において学生に指導する。

B-1-2 成績評価体制及び単位認定方法

（１）事前学修の取り組み（第 1～5 回授業）（２）臨地研修（1 週間程度）（３）事後学修の取り組み（第 11～14 回授業）（４）ICT を活用して制作した最終成果物の発表の 4 項目により総合的に評価する。

B-2 実践プログラム（海外 a）

「実践プログラム（海外 a）」は、普段の活動の場である日本から一旦離れ、空間的・文化的越境を経た環境に身を置き、体験的かつ実践的に異文化を学び、社会における様々な課題や問題を見つけて解決していく力を養うための実習科目である。外国語試験のスコア条件や学内

選抜がなく、希望者のすべてが履修することができることが、「実践プログラム（海外 b）」との大きな違いである。

実習前には、事前学修において、現地の人々と十分に交流し、情報を収集できるだけのコミュニケーション能力、外国語運用能力を身に付け、さらに、この実習の目的、問題意識、研究対象を明確化し、教員の指導と助言を受けつつ、各学生が実習先での学修について綿密なプランを立てる。原則 3 か月程度の実習期間には、さらなる知識や情報を集中的に収集し、それまでの前提や問題に対するアプローチ方法を再検証する。実習期間は本学専任教員とオンラインによる面談の時間を適宜設定し、学修状況の把握やアドバイスを行う。帰国後の事後授業では、課題の発見・理解・解決の過程や結論について、想定される受け手を意識しながら、適切な表現を工夫し、パワーポイントを活用して発表を行う。

B-2-1 実践プログラム（海外 a）の概要、実習先との連携体制、受け入れ可能人数

「実践プログラム（海外 a）」概要		実習先との連携体制	受け入れ可能人数
①アメリカ都市文化研究	英語によるコミュニケーション能力を高めつつ、アメリカ研究、西洋/東洋美術史などの学問分野と、その隣接領域の基礎を学び、情報、文化、モノが流通するハブとしての都市性に注目しながら、自分が取り組みたい問いを見つけ、現地の大変に恵まれたリサーチ環境を十全に活用	以下より一校選択 (1) コロンビア大学(ニューヨーク) (2) ペンシルヴァニア大学(フィラデルフィア) (3) カリフォルニア大学ロサンゼルス校(ロサンゼルス) 上記 3 校は本学と契約しているスタディ・アブロード・	制限なし

	して調査を実施する。	ファウンデーション(SAF)の提携校であり、SAF 経由で各大学附属の英語学校と本学専任教員が密接に連携を取っている。	
②カナダ ナイアガラ 国境地域文化 研究	ナイアガラ・カレッジの英語プログラムを受講して英語によるコミュニケーション能力を高める。また、アメリカとカナダの国境地域で生活をし、①ナイアガラ地域の歴史、②都市文化/産業にどのように自然/農業が関わっているか、③芸術と社会や産業の関わり、を切り口にした研究に取り組む。自分で取り組みたい問いを見つけ、現地で調査を実施する。	ナイアガラ・カレッジ(ウェラント・キャンパス) ナイアガラ・カレッジ英語プログラム担当者と、現地での安全対策と日帰り研修をサポートする旅行会社と本学専任教員が連携体制を構築している。	制限なし
③フランス文化 研究	フランス西部アンジェにある、西カトリック大学附属の語学学校 CIDEF でフランス語やフランス文化に関する授業を受けながら、フランス文化を実	西カトリック大学附属の CIDEF(Centre international d'études françaises) CIDEF と現地滞	制限なし

	<p>際に体感し、理解を深める。プログラムのテーマは、「フランス語の学びを深めることで見えてくる新たな世界とは?」「過去と現在のフランス文化の魅力はどこにあるか?」の2つであり、現地滞在中にこのテーマを各自の興味に応じて掘り下げ、答えを見つける。越境ポイントは「日本とフランス」「日本語とフランス語」「日本と世界」のほかに「アンジェ（地方都市）とパリ（首都）」である。このプログラムを通して、新たな感性や価値観を身に付け、地球人として生き、社会で活躍するための下地を作ることを目指す。</p>	<p>在をサポートする旅行会社と本学専任教員が連携体制を構築している。</p>	
④ 中国文化研究	<p>河南省にある河南師範大学の提供する中国語学修プログラムを受講しつつ、中国歴代王朝の古都へのアクセス</p>	<p>本学協定大学（河南師範大学） 本学大学院関連文化論専攻で博士号を取得した修了生</p>	<p>5 ～ 10名</p>

	<p>が良いという地の利を活かして、中国文化・歴史・社会などの学問分野とその関連領域の基礎を身に付け、4000年という歴大な年月の中での文化の変遷と継承について実地検証を通して理解し、自分の独自の研究テーマを発見し、それに対する調査を実施する。</p>	<p>が、河南師範大学側の窓口になっており、本学専任教員と密接に連携を取っている。</p>	
--	--	---	--

B-2-2 成績評価体制及び単位認定方法

(1) 事前学修の取り組み（第1～5回授業）(2) 原則として3か月の海外実習期間の学修に関わるプレゼンテーションやレポート（第6～10回授業としてオンラインで実施）(3) 事後学修の取り組み（第11～14回授業）(4) ICTを活用して制作した最終成果物による発表(5) 留学先の教員からの成績評価等の5項目により総合的に評価する。

B-3 実践プログラム（海外b）

「実践プログラム（海外b）」は、海外の受入機関が求める外国語試験のスコアを取得したうえで、学内審査を経て本学の協定大学や認定大学へ学則による留学をしながら、体験的かつ実践的に異文化を学び、社会における様々な課題や問題を見つけて解決していく力を養うための実習科目である。外国語試験のスコア条件や学内選抜をクリアした学生のみが履修できることが、「実践プログラム（海外a）」との大きな違いである。

実習前には、事前学修において、現地の人々とともに長期にわたる調査ができるだけのコミュニケーション能力、外国語運用能力を身に付け、さらに、この実習の目的、問題意識、研究対象を明確化し、教員か

ら指導と助言を受けつつ、各学生が実習の綿密なプランを立てる。実習中は、研究に関わる知識や情報を徹底的に収集、調査し、それまでの前提や問題に対するアプローチ方法を再検証する。実習期間は本学専任教員がオンラインによる面談の時間を適宜設定し、学修状況の把握やアドバイスをを行う。帰国後の事後授業では、課題の発見・理解・解決の過程や結論について、想定される受け手を意識しながら、適切な表現を工夫し、パワーポイントを活用して発表を行う。

B-3-1 実習先との連携体制、受け入れ可能人数（協定大学）

実習先は、本学が協定を締結している協定大学または認定大学（学生が事前に本学に申請し、本学が認定許可した学位授与権のある大学）のいずれかとし、学科専任教員のアドバイスを踏まえつつ、学生がそれぞれの興味・関心に応じて選択する。2022年4月1日時点の協定大学と受け入れ可能人数、本学との連携体制は以下のとおりである。

国名	協定大学（実習先）と受け入れ可能人数	協定大学（実習先）との連携体制
イギリス	ウォリック大学 ランカスター大学 ノッティンガム大学 ブリストル大学 ヨーク大学 派遣人数制限 特になし	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。
アメリカ	ウェルズリー・カレッジ マウント・ホリヨーク・カレッジ オレゴン大学 派遣人数制限 特になし オレゴン大学は交換留学生枠があり、本学受入人数と同	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。

	じ人数を交換留学生とすることができる	
カナダ	マギル大学 派遣人数制限 特になし	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。
フランス	ボルドー・モンテーニュ大学 交換留学 2名	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。
スウェーデン	ウプサラ大学 交換留学 2名	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。
台湾	静宜大学 交換留学 2名	2021 年度に協定を締結。現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制を取っている。
韓国	梨花女子大学 交換留学 2名 派遣人数制限 特になし	過年度に多数の派遣実績があり、現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制が確立している。
ヴェトナム	フエ大学外国語大学 交換留学 2名	2021 年度に協定を締結。現地の教職員と本学専任教員及び

		国際交流課との連携体制を取っている。
中国	河南師範大学 交換留学 2 名	2021 年度に協定を締結。現地の教職員と本学専任教員及び国際交流課との連携体制を取っている。

B-3-2 実習先との連携体制、受け入れ可能人数（認定大学）

本学では協定大学への留学に加え、学生が留学を志望する大学を事前に本学に申請し、認定大学として承認を受けたうえで留学する認定大学制度が用意されている。スタディ・アブロード・ファウンデーション（SAF）提携大学への留学も認定大学留学として認められ、多くの学生がこれを利用して認定大学へ留学している。本学の学科専任教員及び国際交流課はスタディ・アブロード・ファウンデーション（SAF）と密接に連携体制を構築している。SAF の提携大学は【資料 11】のとおりである。

B-3-3 成績評価体制及び単位認定方法

(1) 事前学修の取り組み（第 1～5 回授業）(2) 海外実習期間の学修に関わるプレゼンテーションやレポート（第 6～10 回授業としてオンラインで実施）(3) 事後学修の取り組み（第 11～14 回授業）(4) ICT を活用して制作した最終成果物による発表 (5) 留学先の教員からの成績評価等の 5 項目により総合的に評価する。

B-4 実習の安全面に関する取り組み

実習中の安全確保は重要であり、各プログラムの担当教員は実習先と緊密に連絡を取りながら、実習地周辺の緊急医療機関を確認し、安全面には十分な配慮をする。また、実習の実施にあたっては、万一の事故に備えて、学研災付帯海外留学保険に加入する。万が一事故等が発生した場合は、JCSOS（特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会）と連携するとともに、「日本女子大学危機管理要綱」【資料 10】に基づ

き、危機管理体制に万全を期す。また、「安全・危機管理マニュアル」を学科及び国際交流課において作成し、教員に周知徹底を図る。実習中に知り得た情報等に関する守秘義務や SNS への掲載に関する注意点などについては、事前・事後授業において学生に指導する。

第 7 取得可能な資格

本学では、卒業後に博物館学芸員の職に就くにあたって必要な資格を取得するための、博物館学芸員養成の課程が設置されている。国際文化学部では、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、この博物館学芸員課程に設置された所定の科目を履修することで、博物館学芸員資格を取得することができる。資格取得を目指す学生は、自分の専門とする分野について深く学ぶとともに、博物館に対する認識を深め、博物館法施行規則に基づく博物館学芸員にかかわる授業科目の十分な理解と修得を目指す。

【国際文化学部で取得可能な資格】

資格の名称	資格取得の条件等	国家資格	民間資格
博物館学芸員	所定の単位を修得することにより資格が得られる	○	

第 8 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

国際文化学部国際文化学科においては、「第 1 設置の趣旨及び必要性」の「4. 養成する人材像、教育上の目的」において述べたとおりディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを設定し、それを踏まえアドミッション・ポリシーを以下のとおり設定している。

【知識・技能】

- ・ 国内外に存在し、複雑に絡み合う諸文化を、多様な言語を修得したうえで、複眼的・論理的・国際的な観点から理解することによって、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けたい人。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 実践的な取り組みの成果を言語化し、ICT も用いて発信するために必要な論理的思考力やスキル、コミュニケーション能力を身に付けたい人。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 教室外での実践・体験プログラムを通して得た実践的な知と専門的な知識とを結びつけ、社会のフィールドにおける文化的課題に、他者と協力しながら取り組みたい人。

(2) 入学者選抜の方法

国際文化学部国際文化学科は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定するため、以下の入学者選抜を行う。

1. 一般選抜 個別選抜型

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」の定着度を重視し、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けるために必須である3教科（国語、外国語（英語）、地理歴史（世界史、日本史））の基礎的な知識・技能を評価するため、本学独自の学力試験を課す。判定は3教科の合計得点とし、外国語（英語）については傾斜配点を行い、100満点を120点満点とする。募集人員は40名とする。

2. 一般選抜 英語外部試験利用型

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」の定着度を重視し、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けるために必須である教科（国語、外国語（英語）、地理歴史（世界史、日本史））の基礎的な知識・技能を評価する。本選抜では特に外国語（英語）の「聞く（listening）」「読む（reading）」「話す（speaking）」「書く（writing）」の4つの技能の定着度に重きを置き、英語外部試験で一定のスコアを満たしていることを出願資格とする。国語及び地理歴史（世界史、日本史）は、本学独自の学力試験を課す。判定は国語及び地理歴史（世界史、日本史）の合計得点とし、本学の定める加点基準以上のスコアを有している者は、2教科の合計得点に加点する。募集人員は10名とする。

3. 大学入学共通テスト利用型（前期）（後期）

アドミッション・ポリシーに示した「知識・技能」の定着度を重視し、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けるために必要な教科を幅広く選択可能とする。大学入学共通テストの出題教科から外国語（英語）はリーディング 100 点を 200 点に換算し、リスニング 100 点とあわせて 300 点とする。その他の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）は筆記 200 点を 300 点に換算する。国語 200 点、地理歴史・公民・数学より 1 科目選択 100 点の計 600 点で合否を判定する。募集時期を 2 期に分け、前期の募集人員は 5 名、後期の募集人員は 3 名とする。

4. 総合型選抜

アドミッション・ポリシーに示した「思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」を重視し、実践的な取り組みの成果を言語化するための論理的思考力、コミュニケーション能力、他者との協調性などの資質を評価する。これを踏まえ、調査書や志望理由書の提出を課すとともに、小論文と、海外・国内を問わず高校までの「越境」につながる文化体験がどのようなものであったか、さらにそれを活かして国際文化学部国際文化学科で何を学びたいのかについてのプレゼンテーションを課す。外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）でのプレゼンテーションも可とし、その後の質疑応答では双方向のコミュニケーションや臨機応変な対応を重視する。募集人員は 25 名とする。

5. 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、指定校制推薦、附属高等学校推薦がある。どちらも、アドミッション・ポリシーに示した「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を重視する。

指定校制推薦は、本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持つ学業・人物ともに優秀な生徒を広く全国から募ることを目的とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて合否を判定する。調査書の評定平均値が本学の定める水準以上であることを出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保している。附属高等学校推薦は、本学の一貫教育の理念に共感して本学への入学を強く希望する者を対

象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて可否を判定する。一定の成績の基準を満たした者を学校長が推薦することにより、相応の学力水準の担保を図っている。指定校制推薦の募集人員は 15 名、附属高等学校推薦の募集人員は 23 名とする。

6. 外国人留学生入学試験

多様な学習環境を経験した入学者を受け入れるべく、外国で教育を受けた日本国籍を有しない者を対象とした入学試験を実施している。具体的な学歴要件は、外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者としている。また、TOEFL 又は TOEIC のスコアを有していること、独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験していることを出願の要件としている。日本語の能力については日本国際教育支援協会（旧日本国際教育協会）が実施する「日本語能力試験」の 1 級又はレベル N 1 の認定結果及び成績に関する証明書、もしくは日本語学校等で発行された出席状況や「読む・書く・話す・聞く」能力の進捗（能力）が項目別に記載された日本語能力証明書の提出を義務付けるとともに、日本留学試験において日本語を指定科目として課すことにより確認している。また、出願にあたっては志望理由や在学中の資金計画・経費支弁者を記載する様式の提出を義務付け、入学志願者が真に修学を目的とし、その目的を達するための十分な意欲・適性等を有しているか確認している。試験（選抜方法）は、日本語（筆記試験）、小論文及び面接であるが、新型コロナウイルス感染症が蔓延した 2021 年度入試からは、これらに代えてオンラインでの口述試験を実施している。入学後には、外国人留学生向けの日本語の基礎的な運用力を養成する「日本語」及び「日本事情」の単位修得を義務付け、円滑に本学部の科目履修ができるよう配慮している。募集人員は若干名とする。

7. 社会人入学試験

本学に入学を希望する勉学意欲の旺盛で、社会的に豊かな経験を持つ者を対象とした入学試験を実施している。具体的な学力要件は、高等学校又は中等教育学校を卒業した者、通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び学校教育法施行規則第 150 条の規定によ

り、高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者としている。また、受験する年の4月1日現在の年齢が25歳以上であることを出願資格としている。試験科目は、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のうち1科目選択）、小論文、口述試験で、勉学意欲の程度やどのような社会経験を積んでいるかを確認する。この試験で入学した者は、その他の入試で入学した者と同じ4年間の課程を履修する。なお、本学に入学する前に大学又は短期大学において修得した単位は、所定の手続きを経ることにより、本学学則に基づき本学の授業科目を履修して修得した単位として認定することがある。認定される単位数の上限は30単位である。募集人員は若干名とする。

（3）入学者選抜の実施体制

学長のもとに入学試験協議会を置き、入学者選抜の全学的な方針の策定、入学試験の全般的な実務の調整及び実施にあたっている。

合格者の決定は、入学試験協議会のもとに置かれる入試査定部会で審議ののち、教授会（2023年度入試については基礎となる文化学科が置かれている人間社会学部教授会）の議を経て、学長が行う。

一般選抜（個別選抜型及び英語外部試験利用型）の入試問題作成及び採点業務については、入学試験協議会のもとに置かれる出題採点部会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定し、学長が委嘱する。出題及び採点にあたっては、予め定められた手順に則り業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性・公正性の確保に努めている。

第9 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織編成の考え方

国際文化学部の教育研究上の目的である、複眼的・論理的・国際的な観点から文化の創造に向けて積極的に取り組む人材の育成を推進・実現するために、「組織として研究対象とする中心的な学問分野」に掲げた分野を中心に、多様な言語と幅広い教養を修得できる教員組織を編成し、17名の専任教員（教授9名、准教授5名、講師1名、助教2名）を配置する。

2. 教員組織の特色と教員配置

国際文化学部教員組織の特色は、最終的に学士（文学）を学生に授与するために、人文学を専門とした教員が充実しているところであり、そのみならず今日の社会的要請に応答するべく、複眼的・論理的・国際的な観点から文化を創造できる人材を育成しうる組織であるところに明瞭に現れている。以下に示すように、入学年次から卒業年次までの間に、きめ細やかな科目構成が図られており、またそれを可能にするべく必要な教員が配置されている。

「導入科目」群については、「国際文化基礎論」は、国際文化学部における多様な学びの全体像を提示するために、（助教以外の）専任教員全員によるオムニバス方式で授業を行う。「スタディ・アブロード・プログラム」では、専任教員の専門分野に応じて国外の研修先が設定されている。専任教員が事前・事後授業を担当することによって、「越境体験」を充実させ、その後の専門的な学修への意欲を喚起する。

「アカデミック・トレーニング科目」群については、「アカデミック・スキルズⅠ」「アカデミック・スキルズⅡ」とも専任教員が担当する（一部のICT教育のみ、非常勤講師が担当する）。「国際文化研究法」は、国際文化を学ぶための基本的な研究方法を教授するために、オムニバス方式で（助教以外の）専任教員全員が担当する。海外大学留学を目指す学生向けの「留学準備演習Ⅰ」は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のクラスを用意し、留学経験のある専任教員及び非常勤講師が担当する。「留学準備演習Ⅱ」は、留学先の言語で授業を行うため、外国人の専任教員及び非常勤講師が担当する。

国際文化学部の中核となる「実践トレーニング科目」群のうち、「実践プログラム（国内）」では、10名の専任教員のそれぞれの専門を活かしたプログラムが生まれ、事前授業・臨地研修・事後授業とも、すべて専任教員が担当する。専任教員の専門分野を反映した「実践プログラム（海外 a）」でも、本学の協定大学や認定大学へ留学する「実践プログラム（海外 b）」でも、専任教員が事前・事後授業を担当し、実習期間中はオンラインによる面談を適宜行うことによって、学修状況を把握しアドバイスを行う。こうした取り組みによって、単なる「体験学習」に終わらない、主体的な異文化理解と越境的な視座の獲得を目指す。

「実践プログラム」の成果を英語で表現・発信する「バイリンガル・コミュニケーション」は、英語圏に留学経験のある専任教員と外国人の専

任教員が担当する。

「世界と自己を知るための科目」群の専門科目は、専任教員 17 名が中心となって担当し、学生の多様な興味・関心に応える。

「卒業研究」群については、4 年間の学びの集大成となる「卒業研究」及びそれに向けた演習科目「国際文化学演習 a」「国際文化学演習 b」「国際文化学演習 c」を、すべて専任教員が担当し、綿密で高度な専門教育を目指す。

3. 教員組織の年齢構成

国際文化学部国際文化学科の教員組織構成は、教授 9 名、准教授 5 名、講師 1 名、助教 2 名の計 17 名である。また国際文化学部完成年度の 2027 年 3 月 31 日時点における年齢構成は、40 歳代 4 名、50 歳代 7 名、60 歳代 6 名である。教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化において申し分のない、特定の範囲の年齢に著しく偏ることなく均衡のとれた構成である。

第 10 施設、設備の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

国際文化学部が設置される目白キャンパスは、東京都文京区目白台にある校地面積 46,167.91 m²、(内運動場用地 3,900 m²) を有する都市型キャンパスである。面積は決して広いとはいえないが、キャンパスの正門を抜けると芝生、樹木に彩られた憩いの場である「泉プロムナード」があり、都会の中で緑を感じられる「目白の森」として整備されている。2021 年に新たに加わった百二十年館は地下 1 階・地上 3 階建てで、中央に光が差し込む大きな吹き抜けの中庭「パティオ」を有し、全面ガラス張りである外観と相まって透明感のある空間となっている。1 F ピロティ、B 1 F 「パティオ」と開放感のある憩いの場が連続して配置されている。

運動施設としてテニスコート(4 面)、ゴルフ練習場を有し、2018 年には体育館内にボルダリングウォール、トレーニングジムを整備し、体育の授業等を行う。目白キャンパスから約 60 分で移動が可能な神奈川県川崎市にある西生田キャンパスは校地面積が 191,559.85 m²あり、その中にグラウンド(48,636.52 m²)、体育館があり、体育実技及び部活

動等に利用している。

以上により大学全体では、総面積 264,682.57 m²（内基準内 237,727.76 m²）の校地を有している。

（2）校舎等施設の整備計画

この度、目白キャンパスでは、人間社会学部文化学科の募集を停止し、国際文化学部を設置する。これに伴う入学定員、収容定員の増減はない。現状でも現行収容定員の学生に対して教室数、実験実習設備は充足していて、教育に支障をきたすようなことはなく、施設・設備の利用に際して同等の質を担保することが可能である。2021年に新たに加わった百二十年館によって、目白キャンパスの校舎面積は合計 64,642.79 m²となった。

大学全体としては、現在、講義室 86 室、演習室 24 室、実験・実習室 173 室、情報処理学修施設 10 室が設置されており、既設学部との共用を基本としながらも十分な教室が整備されている。また、研究室 211 室、学長室、会議室、事務室、図書館、医務室、学生自習室、体育館、クラブスペース、学生ラウンジ、講堂、食堂、書店、売店等が整備されており、教育研究や学生生活に必要なことはキャンパス内でまかなえるようになっている。

百二十年館には、国際文化学部設置に伴い、新たに必要な専任教員の研究室 17 室、国際文化学部専用として演習室 1 室、映像資料室 1 室、図書資料室 1 室を有している。また、新たに主体的な学修等を促す空間として、百二十年館に「JWU ラーニング・コモンズかえで」、図書館に「JWU ラーニング・コモンズさくら」を整備した。「JWU ラーニング・コモンズかえで」は、可動機やホワイトボード、スクリーンやプロジェクターを備え、学生の様々な学びのために自由に利用可能なスペースとしている。また、国際化に向けた授業外の語学学修や学生が学外の産学官組織や地域社会等と連携を取りながら、自主活動を推進するスペースとしても活用されている。図書館の「JWU ラーニング・コモンズさくら」は、授業に必要な情報の収集やレポート作成、グループディスカッション等の授業外学修を可能とし、施設の面からも学修効果の向上を図っている。また、講義室は可動機・イスの設置や視聴覚設備の標準化、全館無線 LAN 設備の整備を順次進め、アクティブ・ラーニング教室の設置とともに、ICT を用いた様々な授業形態に対応できるものとし、教育研究環境を以前より向上させている。

体育の授業では、2018年に新たな体育館（第二体育館）と既存体育館（第一体育館）を隣接併存させ、同時に5つの授業に対応可能な施設となっている。

食堂は七十年館1、2階に用意され、2021年に建設された杏彩館、2018年に目白通りをはさんで建設された青蘭館とともに食事、休息その他の利用のための空間も用意されている。また、食堂と学生滞在スペースを一体的に使えるように座席の数を増やし、混雑時は食堂として、通常時には学生が授業前後の学修や課外活動などのために自由に滞在できる場所として提供することとしている。

既存の事務スペースにおいても、学生対応スペースを集約させ事務機能を効率良くまとめることで、学生サービス向上を図るとともに、大学施設全体として緩勾配のスロープや階段、ゆとりある通路幅の確保、多目的トイレの設置等により、障がい者、トランスジェンダーの方でも使い易い空間となるよう、建物のバリアフリー化を進めている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の規模、機能等

本学図書館は、目白キャンパスの図書館、西生田キャンパスの西生田保存書庫からなる。2021年のキャンパス統合以降、西生田キャンパスの図書館は保存書庫として運用されており、西生田に所蔵する資料は目白に取り寄せて利用できる。週5回の移送が行われている。

目白キャンパスの図書館は創立120周年記念事業の一環として、2019年4月に開館した。地上4階地下1階、収容可能冊数70万冊、延床面積6,607,48㎡で、館内に約200㎡からなるラーニング・コモンズ（JWUラーニング・コモンズさくら）を備え、百二十年館に設置された「JWUラーニング・コモンズかえで」とともに、様々なスタイルでの学修環境を提供している。「JWUラーニング・コモンズさくら」には、専攻から推薦を受けた大学院生（一部学部生）のラーニング・サポーターが常駐し、レポートの書き方や大学院への進学相談等、学修相談に対応している。全館でWi-Fiが利用可能で、各フロアに固定のPCを設置しているほか、ノートPC38台の貸出も行っている。

旧図書館からの基本方針である全開架式を踏襲し、すべての学生が自由に書架に出入りし、直接資料にアプローチできるのが特徴である。授業のある期間の月～金は8:45～21:00、夏期スクーリング期間は8:45～20:00、土曜日は通年で8:45～18:00に開館している。移

転やコロナ禍の影響があった年を除く直近3年間の平均開館日数は268日である。

②資料

2021年3月末時点の蔵書数は約90万冊（研究室配架資料を含む）。2021年4月には西生田キャンパスから国際文化学部に関連する芸術（彫刻、絵画、版画、写真、工芸、音楽、映画、演劇、伝統芸能等）、哲学・思想（東洋・西洋哲学、美学、東洋・西洋思想史、倫理学、宗教学等）の資料を含む約10万冊を目白の図書館に移設した。目白図書館で既に所蔵していた言語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、文学（英米文学・フランス文学・中国文学等）の資料と合わせ、国際文化学部に関連する分野の資料は十分に揃えられている。雑誌は大学全体で約20,300タイトル（うち外国誌が3,700タイトル）を所蔵している（【資料12】参照）。

選書については、専門的な知識を有する職員が選書基準に沿って選書を行うほか、教員の推薦や学生からの購入希望を受け付けている。また年1回、各学科から選出された教員による専門分野の蔵書構成の確認を実施している。

③オンラインデータベース、電子ジャーナル、電子書籍等

オンラインデータベースとしては、ProQuest Central、Scopus、Magazine plus、Web OYA-bunko、ざっさくプラス、JapanKnowledge、D1-Law等を提供し、国際文化学部と関連する幅広いジャンルをカバーしている（【資料13】参照）。

電子ジャーナルは3万タイトル以上が閲覧可能で、リンクリゾルバを導入し、論文の入手を容易にしている。JSTOR、SpringerLinkのほか、Vogue Archive、Entertainment Industry Magazine Archive等国際文化学部の専門にかかわる分野のデータベース、日経、朝日、読売、日本教育新聞、New York Times、The Times等主要新聞の記事データベースも利用できる。（【資料14】参照）

2020年からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、自宅から利用できる電子書籍の購入を積極的に進めた。現在、Maruzen eBook Library（1,038タイトル）、LibrariE（109タイトル）のほか、ルーラル電子図書館、Springer eBook Collectionなどが利用できる。

これらの電子資料のほとんどにはEZproxyにより、学内の施設はも

とより学外からもアクセスすることができる。今後は VPN により学外からの利用を可能とする予定である。

また、自分専用の文献管理ファイルを作成するシステムである RefWorks を導入しており、学術情報の収集と管理、共有に役立てることができる。

④ 閲覧席

図書館内に 650 席の閲覧席を備えており、学生数・教職員数に対し十分に確保されている。エントランス階である 2 階には「JWU ラーニング・commons さくら」があり、可動式の 56 席、固定の 12 席、学修相談用の 6 席の合計 74 席でアクティブ・ラーニングに対応している。

⑤ 他大学図書館等との協力

国立国会図書館及び他大学図書館との相互協力（図書の貸借、文献複写の依頼・受付、来館利用）を実施している。国立国会図書館デジタルコレクションの図書館向け資料送信サービスには 2014 年 10 月から参加し、絶版等で入手が困難な資料の利用を可能としている。

また、近隣の 3 大学（学習院大学、お茶の水女子大学、跡見学園女子大学）と図書館相互利用協定を結んでおり、学生証・教職員証の提示による相互利用が可能である。

第 1 1 管理運営

1. 管理運営体制の概要

学長のリーダーシップのもと、大学執行部の方針に基づく改革の遂行と迅速な意思決定の推進を目的に、2021 年度より新たに大学執行部会議を設置し、大学改革運営会議をその諮問機関として位置づけた。また、2020 年度まで教授会の下に設置されていた各委員会についても見直しを行い、2021 年度より大学執行部会議の下にセンターを置き、その下に各委員会を設置するという、新体制での運用を行っている（「2021 年度の体制」【資料 15】参照）。

2. 教授会

国際文化学部では、「日本女子大学学則」第 15 条に基づき、教授会を設置している。教授会は、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関

する事項について審議し、学長等の求めに応じて意見を述べることができる。また、教授会は、次の事項について学長が決定を行うにあたり意見を述べる。

- (1) 学生の入学、卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前二号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

なお、上記(3)に記載した、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものは、次のとおりである。

- (1) 学部長の選任に関する事項及び教授会が必要と認める委員会の委員の選任に関する事項。家政学部教授会においては、家政学部通信教育課程長及び通信教育課程学務委員の選任に関する事項を含む。
- (2) 学科長の選任に関する事項
- (3) 教員人事に関する事項
- (4) 名誉教授に関する事項
- (5) 客員研究員及び学術研究員に関する事項
- (6) 学則その他の規則の制定、改廃に関する事項
- (7) 研究教育の予算に関する事項
- (8) 教員の研修、研究助成に関する事項
- (9) 教育課程に関する事項
- (10) 学生の休学、復学、転学科、留学、転学及び退学に関する事項
- (11) 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、交流学生、委託研修員、交換留学生及び短期留学生に関する事項
- (12) 定期試験に関する事項（家政学部教授会においては、家政学部通信教育課程の科目修了試験に関する事項を含む）
- (13) 学生の厚生及び指導に関する事項
- (14) 学生の賞罰に関する事項
- (15) その他教育研究に関する重要事項

教授会は、当該学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則として月1回の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催する。学部長は教授会を招集し、その議長となる。教授会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。決議は、原則として出席構成員の過半数

によって成立し、重要と認める事項の決議は、出席構成員の3分の2以上によって成立する。

3. 学内委員会等

2021年度のキャンパス統合に伴い、全学共通科目を担う基盤教育の運営体制について大幅な見直しを行った。

大学を取り巻く、変化の激しい社会情勢に柔軟に対応し、学長を中心とした執行部の意向に迅速に対応できる体制であること、科目運営に対する責任体制を明確化することを目指し、教授会の下に設置されていた委員会を廃止し、2021年度より設置された大学執行部会議の下に基盤教育センター、社会連携教育センター、学生支援センター、国際交流センターを置き、その下に委員会を設置することにした(下表参照)。こうして、執行部の方針を踏まえ、全学的な視野に立った委員会運営を行う体制を整備した。各委員会のメンバーは教授会構成員から成っている。

基盤教育センター	自校教育委員会（教養特別講義）
	外国語委員会（英語・初修外国語）
	情報処理委員会
	身体運動委員会
	教養教育委員会
	教職課程委員会
	資格教育課程委員会

社会連携教育センター	キャリア委員会
	社会連携教育委員会
学生支援センター	奨学委員会
	学生委員会
	学寮委員会
国際交流センター	国際交流委員会
JWU 女子高等教育センター	FD 推進、IR 推進、ICT 教育等（委員会 は設置せずに対応）

第 1 2 自己点検・評価

本学では、日本女子大学学則第 2 条に「教育研究水準の向上を図り、教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行う」ことを定めるとともに、恒常的・継続的に教育の質の保証及び向上に取り組むため、「日本女子大学における内部質保証の方針」【資料 16】を制定している。

（1）自己点検・評価の基本方針

「日本女子大学における内部質保証の方針」では、高等教育機関として社会の負託に応えるため、日本女子大学の建学の精神、教育理念「三綱領」及び理念・目的の実現に向けて、教育、研究、社会貢献の質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示・公表する内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に推進することを基本方針として定めている。

(2) 実施体制

実施体制は、「日本女子大学自己点検・評価規則」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している（「日本女子大学 自己点検・評価体制」【資料 17】参照）。具体的には、内部質保証推進組織として自己点検・評価委員会を置き、それを統括するための自己点検・評価委員会幹事会と点検・評価を行うための部門を設置している。

幹事会は、自己点検・評価の基本方針、実施基準及び評価指標の策定、各部門から報告された点検・評価の結果の検証、自己点検・評価報告書の作成及び報告、認証評価及び外部評価の実施に関する事項、その他幹事会が必要と認める事項を決定する。

各部門（教学部門、教育研究等環境部門、入試部門、学生部門、社会連携部門、大学運営・財政部門の6部門）は、基本方針と実施基準に基づき、該当委員会及び部局の自己点検・評価結果を検証し、幹事会に報告する。各部門の構成員のうち1名を部門長とし、幹事会の構成員としている。

(3) 実施方法

大学執行部会議が内部質保証について大学全体のプランニング（事業計画）の責任を負う。事業計画に基づき、大学改革運営会議、常任理事会が各部局等へ実行指示を行う。該当委員会及び部局は、それぞれの計画に基づき実行する。自己点検・評価委員会の6つの部門は、部門ごとに点検・報告を行う。自己点検・評価委員会幹事会は、部門からの報告を基に最終点検を行う。自己点検・評価委員会は、部門ごとの点検結果を全学的観点から検証し、その結果を反映した報告書を学長へ上程する。上程された報告書を基に、大学執行部会議は次の事業計画を策定する。

2018年度からは、自己点検・評価委員会の下に近隣自治体及び産業界等の委員を構成員とする外部評価委員会を設置し、第三者評価を具体的な教育の質改善方策の検討につなげている。

(4) 評価項目

「日本女子大学自己点検・評価規則」第3条に、点検・評価項目は、大学・学部（通信教育課程を含む）・大学院等の理念・目的、内部質保証、教育研究組織、教育課程・学修成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、大学運営・財

務、その他の項目を基準とし、その細目については、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準等に基づくと定めている。

（５）結果の活用及び公表

自己点検・評価を基に 2019 年度に公益財団法人大学基準協会による第 3 期の認証評価を受審し、2005 年度（第 1 期）、2012 年度（第 2 期）に引き続き「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。

認証評価の受審後、教学マネジメントを推進する組織とそれに対する点検・評価機関という体制を機能的に確立するには、従来の内部質保証組織をさらに整理することが検討課題であると認識し、内部質保証体制見直しワーキンググループを設置して、自己点検・評価体制の見直しを行った。

なお、本学の自己点検・評価並びに大学基準協会による第 3 期の認証評価の受審結果は、大学のホームページにおいて公表している。

第 13 情報の公表

本学では、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成 23（2011）年 4 月 1 日施行）に基づき、高等教育機関として、教育研究等の状況について社会に対する説明責任を果たすため、教育研究活動等の状況について積極的に公開している。

（１）実施方法

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップページ＞大学案内＞情報の公開」のページを中心に公表している。

（２）公表項目

公表している情報は以下のとおりである。

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

① 大学の教育研究上の目的及び第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針に関すること

【大学】（家政学部通信教育課程を含む）

日本女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2014.pdf

第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針

- ・ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf

- ・ 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf

- ・ 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf

【大学院】

日本女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/goal.html>

第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針

- ・ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_grd.pdf

- ・ 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_grd.pdf

- ・ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_grd.pdf

② 教育研究上の基本組織に関すること

<https://www.jwu.ac.jp/grp/about/organization.html>

【大学】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/index.html>

【大学院】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/index.html>

【通信教育課程】

- ・ 学部

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/>

- ・ 大学院

https://www.jwu.ac.jp/ccde/grd_prospectus/feature.html

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関するこ
と

- ・ 組織図

<https://www.jwu.ac.jp/grp/about/organization.html>

- ・ 教員数・専任教員非常勤教員比率

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/kyouinsuu.pdf>

- ・ 大学専任教員職階別男女比率

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/danjobetsu.pdf>

- ・ 大学専任教員年齢別構成

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/nenreibetsukousei.pdf>

- ・ 専任教員一人あたりの在籍学生数

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/students_per_teacher.pdf

- ・ 学術データベース

https://www3.jwu.ac.jp/research/research-database/research-database_main.htm

- ・ Researchmap 検索

https://www3.jwu.ac.jp/research/research-database/research-database_list.htm

- ・ 科学研究費助成事業－科研費獲得状況

<https://www.jwu.ac.jp/unv/education-research/kakenhi/index.html>

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の
数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する
こと

- ・ 入学者の数（過年度入試結果データ）

【大 学】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/exam/data.html>

【大学院】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/grd/result.html>

【通信教育課程】 <https://www.jwu.ac.jp/ccde/about/student.html>

- ・ 収容定員、収容定員充足率

【大学・大学院・通信教育課程】

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/capacity_info.html

- ・ 在籍者数、卒業者数・修了者数

【大学・大学院・通信教育課程】

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/enrolled_grd_info.html

- ・進路

<https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/employment.html>

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する
こと

- ・授業科目・授業の方法

家政学部カリキュラム

https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/human_sciences_and_design/curriculum.html

文学部カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/humanities/curriculum.html>

人間社会学部カリキュラム

https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/integrated_arts_and_social_sciences/curriculum.html

理学部カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/science/curriculum.html>

大学院カリキュラム

https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/grd_curriculum.html

通信教育課程カリキュラム

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html>

- ・シラバス照会

【大学・大学院】 <https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/syllabus.html>

【通信教育課程】 <https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
に関すること

- ・成績評価基準

【学部】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/6/unv_hyouka.pdf

【大学院】

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/6/2021_grd_hyouka.pdf

【通信教育課程】

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/ccde_rishuu.pdf

⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する
こと

以下 URL の「7.校地・校舎等の施設および学生の教育研究環境に関する
情報」に掲載している。

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・学費等

【大学・大学院】

<https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/tuition/index.html>

【通信教育課程】

<https://www.jwu.ac.jp/ccde/admission/expenses.html>

・学寮費等

https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/life_support/dormitory/index.html

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に
関すること

・学生相談窓口

https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/life_support/support/student_consultation.html

・学生生活のサポート、就職・キャリア支援

https://www.jwu.ac.jp/unv/seg_student/index.html

・カウンセリングセンター

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/counseling.html>

・保健管理センター

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/health/health.html>

⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する
情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行
状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は、
上記 URL の「10.教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識と能力に
関する情報」に掲載している。

- ・学則等各種規程は、上記 URL の「6.学修の成果に係る評価、卒業・修了認定、取得可能学位に関する情報」に掲載している。
- ・設置認可・届出等、機関要件の確認申請書は、上記 URL の「11.設置認可・届出等、機関要件の確認申請書」に掲載している。
- ・自己点検・評価報告書、認証評価の結果等

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/sr/check.html>

⑩ 大学院学位論文に係る評価に当たっての基準

<https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/syllabus.html>

第 1 4 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

- (1) 教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等 (FD)、
- (2) 管理運営に必要な教職員への研修等 (SD) について

① FD 研修・SD 研修を推進する組織

本学におけるファカルティ・ディベロップメント (FD 研修) とスタッフ・ディベロップメント (SD 研修) は、「JWU 女子高等教育センター」が、その推進役を担っている。

同センターは、「本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与すること」を目的とし、次に掲げる事業に取り組んでいる。

- (ア) 将来的な女子高等教育にかかる施策に関すること。
- (イ) 全学的な教育及び学習支援プログラムの企画、開発及び推進に関すること。
- (ウ) 全学的な教授内容及び教育手法の改善並びにファカルティ・ディベロップメント (FD) 及びスタッフ・ディベロップメント (SD) の推進に関すること。
- (エ) 全学的な教育効果の測定並びに評価方法の開発及び実施に関すること。
- (オ) 教育の国際化、情報化及び教育活動改善のための教育環境の整備に関すること。
- (カ) 国内外の高等教育に係る情報収集、調査及び研究並びに連携に関すること。

(キ)その他センターの目的達成のために必要な事業に関すること。

②FD 研修の実施

「教育活動の改善の取り組み」を本学における FD と定義し、従来の取り組みを確認しながら、継続した教育改善に努めている。

JWU 女子高等教育センターは全学的 FD 推進機関として、FD に関わる全学的課題の改善・推進にあたりるとともに、活動の主体である学部・研究科等への支援・調整を行う。

③SD 研修の実施

「本学が進むべき方向性や施策、課題等を教職員の別を問わず考察すること、そのための機会を提供することで教職員一人ひとりの積極的な大学運営への参画を実現すること」を目標に、「それに対する継続的な取り組みによって教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を実現すること」を、本学 SD の基本方針として取り組んでいる。

研修の実施に際しては、例えば、職員研修規程に則って実施した職員向けの SD 研修の内容によっては、FD 研修として教員にも取り組んでもらうことがあり、逆に FD 研修プログラムであっても、SD 研修として職員に参加を課すといった相互補完性に配慮している。

④各研修の事例

最近の研修事例は、それぞれ以下のとおりである。

・FD 研修

2020 年度は、JWU 女子高等教育センター主催で、「ニューノーマル時代の大学教育を考える」というテーマの下、常に先進的な取り組みをしている大学や企業等から講師を招聘し、今後の大学教育のあり方や大学が社会において果たすべき役割について、多面的かつ多様性に富んだ視点で考える機会とするために、4 回のセミナーを開催した。また、「遠隔授業に関する FD 研修」と題して、遠隔授業に関して教員・学生が抱える課題、遠隔授業のメリットや参考となる事例、ノウハウを教員間で共有することを目的に、オンライン研修を実施した。

・SD 研修

「性の多様性について知ろう！」をテーマに、2024 年 4 月入学より、

トランスジェンダー学生に受験資格を認めることを決定した本学の教職員一人ひとりが多様な性のあり方を理解し、人権の尊重に留意した対応ができるようになることを目的としてオンライン研修を実施した。

このように本学では、教育内容等の改善を図るための組織的な研修等に対して、教職員の区別なく取り組んでいる。

第 1 5 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 基本方針

本学は、女子を「人として」「婦人（女性）として」「国民として」教育するという建学の精神を受け継ぎ、自学自動主義のもと、多様で変化の激しい現代社会において活躍できる女性を育成すべく、社会的・職業的自立に向けて必要な能力を培うための支援を総合的・体系的に行っている。

(2) 教育課程内の取組

本学では、女性が社会で力を発揮できる思考力と実践力を育成することを目的としたカリキュラムとして、「JWU キャリア科目」及び「JWU 社会連携科目」を全学的な基盤的教育科目群として設置している。

「JWU キャリア科目」では、自分の特性を見出しつつ、現代社会において自立していくため自分に適した職業、職場を考える機会を提供している。また、卒業後様々なライフコース選択の場面において、自分の特性を活かした生き方を決めることができる力をつけていくための多岐にわたる授業を開講している。例えば、「ライフプランとキャリアデザイン」では、女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について学ぶことで、自身のライフプランとキャリアデザインについて主体的に考える機会を提供している。

「JWU 社会連携科目」は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組むことにより、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身に付けることを目指している。1年次開講科目では、主に講義科目で地域、防災、福祉、SDGs等の社会課題に関する知識・理解を深め、自らの視野を広げる。2年次以降は、主に演習科目で自治体や企業等と

協働して課題発見及び解決に向け、実践的な取り組みを行う。例えば、「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習 A」では、キャンパス設置自治体である文京区より指定を受けている妊産婦・乳児救護所の運営をテーマとして取り上げ、文京区の担当者も交えたディスカッション、グループワークを取り入れた課題解決型の授業を展開している。

また、AI・データサイエンスが実社会でどのように役立っているかを知り、これらが社会的・職業的に活用できることについて理解することを目的とした「情報処理」の科目を、全学的な基盤的教育科目群の「基礎科目」の一つとして設置している。「情報処理」は、基礎となる統計的分析の基本的な方法、データの可視化、機械学習などの知識とスキルを学び、Society5.0の動向を理解するとともに、データを収集分析し、解決に必要な知見を抽出する能力を身に付けることを目指している。例えば、必修科目である「基礎情報処理」では、インターネットリテラシーとして情報倫理とサイバーセキュリティを理解するとともに、コンピュータリテラシーとして専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学ぶ。

「JWU キャリア科目」及び「JWU 社会連携科目」は全学部でいずれか2単位必修であり、「情報処理」は全学部で2単位必修である。

さらに、これらの学びをより深く体系的に身に付けることを目的として、「キャリア教育認定プログラム」「社会連携教育認定プログラム」「AI・データサイエンス・ICT 教育認定プログラム」の3つの教育認定プログラムを設置している。これらのプログラムは、上述の「JWU キャリア科目」「JWU 社会連携科目」「情報処理」の科目を組み合わせ、履修し、所定の単位を修得すると修了証が発行される。

（3）教育課程外の取組

教育課程外の取組として、低学年からキャリアガイダンスを開催している。1・2年次対象のキャリアガイダンスでは、自分の興味、関心のあることや特性について考えるきっかけを提供し、そこから学生生活の充実について考えることを主目的としている。また、国際派の仕事ガイダンス、マスコミガイダンス、公務員採用試験入門講座、教員採用試験入門講座など、低学年も参加できる講座を開催している。3年次には、就職希望者参加必須として「就職ガイダンス」を開催している。まず「女性の働き方、キャリアデザイン」をテーマに開催し、本学オリジ

ナルの冊子『就職のしおり』を配付する。その後「業界研究・企業研究」「エントリーシート対策」「面接対策」と、実際の就職活動の流れに沿った順でガイダンスを開催している。さらに、筆記試験対策講座、マナー講座、自己分析講座、グループディスカッション対策講座などを開催する。少人数によるワークショップも開催し、一人ひとりに具体的な指導も行っている。また、卒業生や就職活動を終えた4年次学生と就職活動中の学生との対話を通して、働くことや就職活動のイメージを持つことのできる機会を作っている。その後、業界研究会、学内企業説明会を開催して、志望する業界・企業への理解を深めるよう進めていく。

キャンパス内のキャリア支援課事務室の隣に「就職資料室」を設置し、就職活動に有益な書籍、新聞、企業からの求人票などを配架している。卒業生から送られてくる職場に関するアンケートや内定者が書いた就職活動の記録など、本学独自の資料もここに置いて在學生に公開している。希望する学生にはオンラインによる個人面談やメールによる書類作成の指導を行い、学生それぞれのペースにあった就職活動をサポートしている。

（４）実施体制の状況

教学に関する本学の意思決定機関である大学執行部会議の下に社会連携教育センターが置かれ、その下にキャリア委員会、社会連携教育委員会が置かれている。また、大学執行部会議の下に基盤教育センターが置かれ、その下に情報処理委員会が置かれている。キャリア委員会では「JWU キャリア科目」、社会連携教育委員会では「JWU 社会連携科目」、情報処理委員会では「情報処理」の科目について、大学執行部の方針を踏まえて全学的な視野に立った基本方針の策定、科目編成、履修及び授業実施に関する事項を所管する。

また、社会的・職業的自立を支援するため、キャリア支援課が置かれ、教育課程外の取組を所管している。キャリア支援課では、ガイダンス等の企画・運営、『就職のしおり』の作成、学生への求人情報提供や、キャリアカウンセラーによる個人面談などを行って就職活動を支援している。また、キャリア委員会と連携して円滑な進路決定状況の把握などに努めるとともに、学生の指導・支援にあたっている。

さらに、学内のメディアセンター、カウンセリングセンター、生涯学習センター、同窓会組織や公的機関である新卒応援ハローワークとも

随時連携して、学生の社会的・職業的自立のための体制を整えている。

以上

日本女子大学 国際文化学部設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- 【資料 1】 Vision120 創立 120 周年に向けて
- 【資料 2】 学校法人日本女子大学 中・長期計画（2014年度～2023年度）
ー 2019年度見直しについて ー
- 【資料 3】 カリキュラム・ツリー
- 【資料 4】 履修モデル 外資系企業、国際機関、国際 NPO/NGO、ベンチャー企業を設立（海外短期留学）
- 【資料 5】 履修モデル 外資系企業、国際機関、国際 NPO/NGO、ベンチャー企業を設立（長期留学を想定する履修モデル）
- 【資料 6】 履修モデル 芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（実践プログラム（国内）履修）
- 【資料 7】 履修モデル 芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（実践プログラム（海外 a）履修）
- 【資料 8】 履修モデル 芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（博物館学芸員資格取得）
- 【資料 9】 履修モデル 放送業、ジャーナリズム、運輸・旅客業、観光業など国内の一般企業
- 【資料 10】 日本女子大学危機管理要綱
- 【資料 11】 SAF 提携大学一覧および出願時に必要な語学力
- 【資料 12】 所蔵雑誌一覧
- 【資料 13】 オンライン DB
- 【資料 14】 オンラインジャーナル
- 【資料 15】 2021 年度の体制
- 【資料 16】 日本女子大学における内部質保証の方針
- 【資料 17】 日本女子大学 自己点検・評価体制
- 【資料 18】 国際文化学部 時間割

日本女子大学 創立110周年

V i s i o n
120



創立 120 周年に向けて

日本女子大学創立 110 周年

日本女子大学の新しい歴史が 始まろうとしています



理事長・学長メッセージ ——総合力を生かして教育改革

本学は今年創立110周年を迎えました。創立記念日4月20日に先立つ3月11日、東北地方は嘗て私共が経験したことのない大震災に見舞われました。私共も及ばずながら一日も早い復興を祈って、学生支援に微力を注いでおります。

1890年代前半創立者成瀬仁蔵が留学したアメリカは、大学の発展期・拡張期に入っており、著名な女子大学が創設された上昇期にありました。折しも我が国は国際的地位が向上してきた時代であり、「女子にも高等教育の機会を与えるべき」との考えが芽生え始めていた頃でした。創立者がめざした女子大学は、アメリカで見聞した教育の影響を受けつつも、日本に適応した女子教育を行うものであり、「日本女子大学校」という名も、日本の女子高等教育の先駆けとしての自負と実践を込めて命名されたものです。

Vision 120

日本女子大学は、創立者成瀬仁蔵の建学の精神を継承し、発展させるとともに、社会を支え、国際社会をリードする人材を育成するために教育改革を進め、10年後の創立120周年には、新しい女子大学として生まれ変わります。

教育改革の骨子

日本女子大学の
すべての総合力を発揮した
学生のための教育改革

- 四つの科学系統(人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系)の発展
- 教員の総合力を活かした基盤的教育
- 総合大学に相応しい専門教育(大学)と高度専門教育(大学院)
- 国際交流の推進
- 特色ある一貫教育の実現

目白・西生田
両キャンパスを活用した
教育研究環境の充実

- 女性が力を発揮できる教育研究環境
- 高度な研究を支える教育研究環境
- 地域連携・社会貢献型教育研究の促進
- 短期集中型実習・研修提供への対応
- 他分野交流の展開(学生、教員、職員、分野を越えた相互横断的コミュニティの形成)

教育改革・教育研究環境の
充実を実現するための
キャンパス再整備

- 目白キャンパス:歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシス
キーワード ▶ 都心・エコキャンパス
- 西生田キャンパス:自然環境を活かした先進的教育・研究の場、里山は地域の宝
キーワード ▶ 郊外・森のキャンパス

Vision 120 の教育がめざすもの

グローバル化した21世紀社会を リードする女性の育成

- 徹底した外国語教育
- 実践的な英語力の伸長
- 国際人としての深く広い教養

豊かな人間性をはぐくむ実践教育

- 「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育
- 社会人基礎力を確実にする教養教育
- 健全な心身の完成をめざす健康教育

「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育

- 自発性をうながす教育プログラム
- 自治の精神を育成する一貫教育
- リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動

女性の活躍を支援するキャリア教育

- 女性の生き方を探るキャリア教育
- 基礎的・汎用的能力の養成
- 体験を生かすキャリア支援

一生を支える生涯教育

- 全学体制による新しい通信教育課程
- キャリア開発とリカレント教育課程
- 地域・社会との連携体制

建学の精神は、まず女子を「人として」教育することであり、人とは男女平等を前提とした個人を指し、自らの人格を形成する主体であることを示し、人格教育の必要性を強調しています。次いで「婦人(女性)として、国民(社会人)として」教育することで、女子の持つ特性を自由に教養し、社会の一員として貢献することを奨めています。教育の方針は、注入式教育を否定し、自発的教育を自学自動主義という言葉で表現し、学生生活においては自治の精神を指導するという画期的な教育をめざしました。本学はこのような創立者の信念のもとに、1901(明治34)年家政学部・国文学部・英文学部の3学部を以て出発しました。5年後には理学教育を主軸とする教育学部の開設、さらに学部の改組などを経て、1930年代には川崎市西生田に約10万坪の校地を購入し、ここで大学教育の展開を試みましたが、第二次世界大戦がこれを阻みました。

1948(昭和23)年には逸早く新制大学に移行し、家政学部と文学部から成る「日本女子大学」として新たな時代に入りましたが、常に女子高等教育をリードし、多様な分野で女性のパイオニアを輩出してきました。1990(平成2)年西生田に「人間社会学部」を開設し、目白・西生田2キャンパス体制を採り、さらに1992(平成4)年には家政学部を改組して目白に理学部を発足させ、創立者がめざした総合大学として女子教育を担う社会的責任を果たしています。

創立110周年を迎えた今、来る120周年に向けて、本学が育成する学生像を描き、創立の原点に立ち返って「人として」の教育を更に深化させることこそ、変貌する世界情勢に耐え得る女性の育成に相応しいと判断いたしました。それには本学が持つ人的・物的資源の総合力を発揮して教育にあたる決意を新たに、人間生活・人文・社会・自然科学系統4学部の教育・研究を目白キャンパスにおいて展開いたします。緑豊かな西生田キャンパスは地域との連携を保ちながら、目白と相補的な教育・研究環境の充実を図ります。

国際的視野を以て社会をリードする活動型の女性を、教職協働で育成して参る所存でございます。今後とも変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。



理事長・学長
蟻川 芳子

Vision 120

日本女子大学が育成する学生像

- 幅広い教養と豊かな人間性を備え
自分の信念をもって行動できる人
- 個性と能力を発揮し
自らすすんで社会の発展に貢献できる人
- 高い専門的知識を身につけ
国際的視野がもてる人



- 1900年 (明治33) ● 日本女子大学校設置認可(校長成瀬仁蔵)
- 1901年 (明治34) ● 日本女子大学校開校(家政学部、国文学部、英文学部、英語予備科、附属高等女学校)
- 1904年 (明治37) ● 専門学校令により私立日本女子大学校認可
- 1905年 (明治38) ● 財団法人日本女子大学校設立
- 1906年 (明治39) ● 教育学部開設 附属豊明小学校、同幼稚園開校 軽井沢三泉寮開寮
- 1919年 (大正8) ● 成瀬仁蔵告別講演 三綱領「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を揮毫 永眠
- 1921年 (大正10) ● 社会事業学部開設
- 1927年 (昭和2) ● 総合大学予科としての高等学部開設
- 1929年 (昭和4) ● 児童研究所設立
- 1930年 (昭和5) ● 大学本科開設(同年廃止決定)
- 1944年 (昭和19) ● 家政科に育児科、保健科、家政理科(物理化学専攻、生物農芸専攻)、管理科を設置 文科に国語科、歴史科、外国語科(英語)を設置
- 1947年 (昭和22) ● 附属中学校開校
- 1948年 (昭和23) ● 日本女子大学(新制)設置認可 家政学部に児童学科、食物学科、生活芸術科、社会福祉学科、家政理学科一部、同二部を設置 文学部に国文学科、英文学科、史学科を設置 附属高等学校開校
- 1949年 (昭和24) ● 日本女子大学通信教育部開講
- 1950年 (昭和25) ● 文学部に教育学科増設
- 1951年 (昭和26) ● 財団法人日本女子大学校を学校法人日本女子大学に改組
- 1952年 (昭和27) ● 農家生活研究所設立
- 1958年 (昭和33) ● 家政学部社会福祉学科を文学部に移行
- 1961年 (昭和36) ● 大学院家政学研究科設置 児童学専攻、食物・栄養学専攻(修士課程)
- 1962年 (昭和37) ● 家政学部生活芸術科を住居学科、被服学科に分離
- 1964年 (昭和39) ● 家政学部に家政経済学科を増設 女子教育研究所設立
- 1966年 (昭和41) ● 大学院文学研究科設置 日本文学専攻、英文学専攻(修士課程)
- 1975年 (昭和50) ● 大学院文学研究科に日本文学専攻博士課程(後期)、社会福祉学専攻博士課程増設
- 1978年 (昭和53) ● 大学院家政学研究科に住居学専攻、被服学専攻修士課程増設 大学院文学研究科に教育学専攻修士課程、英文学専攻博士課程(後期)増設
- 1987年 (昭和62) ● 大学院文学研究科に教育学専攻博士課程(後期)増設
- 1990年 (平成2) ● 西生田キャンパスに人間社会学部開設 現代社会学科・社会福祉学科・教育学科・心理学科・文化学科(文学部社会福祉学科、教育学科を人間社会学部に移行)
- 1992年 (平成4) ● 理学部開設 数物科学科、物質生物科学科(家政学部家政理学科一部、同二部を理学部に改組) 大学院人間生活学研究科設置(人間発達学専攻、生活環境学専攻博士課程(後期))
- 1993年 (平成5) ● 大学院文学研究科に史学専攻修士課程増設
- 1994年 (平成6) ● 大学院人間社会研究科設置(社会福祉学専攻、教育学専攻博士課程、現代社会論専攻、心理学専攻修士課程)
- 1995年 (平成7) ● 大学院文学研究科に史学専攻博士課程(後期)増設 文学部国文学科を日本文学科に名称変更 児童研究所、農家生活研究所、女子教育研究所を総合研究所として改組統合 コンピュータセンター、西生田生涯学習センター設立
- 1996年 (平成8) ● 大学院家政学研究科に生活経済専攻修士課程増設 大学院人間社会研究科に心理学専攻博士課程(後期)増設 大学院理学研究科設置(数理・物性構造科学専攻、物質・生物機能科学専攻修士課程)
- 1997年 (平成9) ● 大学院人間社会研究科に現代社会論専攻博士課程(後期)増設
- 1998年 (平成10) ● 大学院人間社会研究科に相関文化論専攻修士課程増設 大学院理学研究科に数理・物性構造科学専攻、物質・生物機能科学専攻博士課程(後期)増設
- 2001年 (平成13) ● 生涯学習総合センター設立
- 2007年 (平成19) ● 家政学部通信教育課程に大学院修士課程を設置 メディアセンター設立
- 2008年 (平成20) ● 大学院人間社会研究科に相関文化論専攻博士課程(後期)増設 現代女性キャリア研究所設立 生涯学習センター設立(生涯学習総合センターと西生田生涯学習センターを統合)
- 2010年 (平成22) ● 教職教育開発センター設立



学校法人 日本女子大学

<http://www.jwu.ac.jp/>

目白キャンパス

東京都文京区目白台 2-8-1 〒112-8681
Tel.03-3943-3131 (大学代表)

大学(家政学部・文学部・理学部)
大学院(家政学研究科・文学研究科・人間生活学研究科・理学研究科)
附属豊明小学校、附属豊明幼稚園

西生田キャンパス

神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1 〒214-8565
Tel.044-966-2121 (大学代表)

大学(人間社会学部)、大学院(人間社会研究科)
附属中学校・高等学校



日本女子大学循環再生紙
本書は、学内の使用済み文書を回収・再生した「日本女子大学循環再生紙」を使用しています。

学校法人日本女子大学 中・長期計画（2014年度～2023年度）— 2019年度見直しについて —

中・長期計画の見直しにあたって

2014年度に策定した中・長期計画は、Vision 120の日本女子大学の将来構想のために実現すべき項目を設定するとともに、前回の中・長期計画について実施した点検評価の結果を踏まえて、未実施の項目及び前回の中・長期計画において実施されたものの更なる改善が必要な項目を盛り込み策定した計画である。2019年度からの5年間について見直しを行った。

I. 基本理念

2021年の創立120周年に向けて示した Vision 120「創立者成瀬仁蔵の建学の精神を継承し、発展させるとともに、社会を支え、国際社会をリードする人材を育成するために教育改革を進める」の方針に基づき計画・実行・検証を行い、教育・研究の充実を図る。

幼稚園から大学、さらに生涯教育を通じて一貫した教育のもと、豊かな教養と高度な専門性を身につけられるよう、教育体制及び研究体制の整備充実を図る。

II. 計画の期間と見直し

2014年度に策定し、おおむね10年間で展望した「中・長期計画」について、2019年度からの5年間の見直しを行った。

見直し後の「中・長期計画」について、各項目に対する責任主体及び推進担当を明確にし、自己点検・評価を行う仕組みを構築することとする。

III. 行動計画項目**1. 重点実施項目****1-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革**

- (1) 学部・学科再編についての検討
- (2) 四つの科学系統（人間生活科学系・人文科学系・社会科学系・自然科学系）の発展
- (3) 国際化社会に向けた対応の検討
 - ①外国語学習環境の整備・充実（英語による専門科目の授業の実施等）
 - ②協定・認定留学制度等の整備
 - ③短期研修プログラムの新規増設・実施環境の整備等
 - ④留学生受入体制の整備・充実
- (4) 情報化社会に向けた対応の検討
- (5) 社会連携に向けた対応

1-2 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築

- (1) コンプライアンスに基づくガバナンス体制の構築
- (2) 法人組織と教学組織との役割及び権限の明確化
- (3) 意思決定プロセスの明確化

1-3 安定した教育研究の遂行のための財政基盤の確立

- (1) 安定した収入の確保と人件費及び経費の抑制策の実現
- (2) 財政計画に基づく質の高い教育体制の確立

1-4 2024年度以降の長期計画の策定と3年ごとの中期計画（アクションプラン）の策定

2. Vision120 を契機とする教育改革計画

2-1 日本女子大学のすべての総合力を発揮した学生のための教育改革の方針

(1) キャンパス一体化に向けた教育体制の見直し

21世紀社会をリードする女性を育成するために日本女子大学のすべての総合力を結集して教育改革を行う。学生が主体的に学ぶという原点に立ち、予測困難な時代にあって生涯学び続け主体的に考える力を持った多様な人材を育成する。そのためにキャンパス一体化に向けた教育体制の見直しと、両キャンパスの統合と再整備を行う。

- ①目白キャンパス教育体制と内容の明確化
- ②基盤的教育内容の明確化と実施
- ③両キャンパス共通教育の統合と移行

(2) 教員の総合力を生かした基盤的教育の充実

豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につけて国際的に活躍できるようにする。

- ①2キャンパスの外国語教育（運営体制・カリキュラム）の統一
- ②教養科目の全学共通カリキュラム作成
- ③情報教育についての検討
- ④身体運動と健康教育についての検討
- ⑤キャリア教育についての検討

2-2 Vision120 における大学の教育改革の重点施策

(1) グローバル化した21世紀社会をリードする女性の育成

①徹底した外国語教育

授業内容の充実をさらに徹底するとともに、外国語学習への意欲を高めるための学習環境の整備にも力を入れる。

- ・外国語教育科目の1クラスの少人数化

(2) 豊かな人間性をはぐくむ実践教育

①「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の教育理念を継承する自校教育

建学の精神、教育理念を継承し、未来へ向けて発展するための礎となる自校教育を行う。豊かな人間性をはぐくむ教育、「自学自動」・「自念自動」を実践する教育、女性の活躍を支援するキャリア教育、一生を支える生涯教育を全学的な教育の柱として展開する。

- ・自校教育内容の見直しと明確化
- ・新たな教養特別講義の全学カリキュラム内容の決定と実施

②社会人基礎力を確実にする教養教育

多彩な教養科目を開講して幅広い教養を身につけ、さらにインターンシップやボランティア活動をより積極的に進めることで社会体験を積み、社会のリーダーを育成する。

- ・日本語による表現力を強化する科目の設置
- ・現行のカリキュラムの検証と改定

③健全な心身の完成をめざす健康教育

目白地区及び西生田地区の保健管理センター、カウンセリングセンターそれぞれのスムーズな移転統合を推進し機能強化を進め、学園全体の心身の健康の維持・管理の中心機能を担う組織として充実を図る。特に、事務部局との連携を強化し、学園全体の健康教育の連携や様々な健康教育の企画立案、実施等を積極的に推進する。

- ・健康教育の充実

2-3 持続可能な質の高い教育・研究の実現

(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）の実施と教育の質保証

本学の教育方針を身につけた学生を社会に送り出すための教育課程の改善、教育内容・方法の向上をめざす。IRによって教育成果を可視化し、学生にフィードバックするとともに、教育の改善を行い、このプロセスを社会に公表することで教育の質を担保する。

- ①教職課程カリキュラム及び運営体制の見直し
- ②単位の実質化への対応（学修時間の確保）
- ③教育課程の体系化（シラバス、コース・ナンバリングの整備など）
- ④教育方法の改善（アクティブ・ラーニングなど新しい授業方法に対するサポート体制をつくる）
- ⑤より厳格な成績評価（GPAの活用、単位認定の多様化など）
- ⑥教育に関する全学的な研修の実施
- ⑦高大接続の充実
- ⑧学修成果の可視化と改善、学生へのフィードバック
- ⑨全学的な教学マネジメント及び教学IR体制の確立
- ⑩新アカデミックカレンダーの導入検討
- ⑪情報通信技術（ICT）を活用した教育の推進

（2）総合大学にふさわしい専門教育（大学）と高度専門教育（大学院）

急速に発展する専門領域を総合的にとらえ教育するとともに、フロンティア精神に基づく高度専門教育を推進する。

①学士課程教育

- ・各分野の基礎教育を充実させる。
- ・専門領域につながる実践的な学修ができるように演習・実験科目を充実させる。
- ・学士課程教育を深化させるために学部間横断の副専攻の設置を検討する。

②大学院教育

- ・理論と実践のバランスに配慮した大学院教育課程を目指す。
- ・より高度な学位論文作成のために学生それぞれにあった個別指導を行う。
- ・大学院教育の成果発表のために学会活動やインターンシップを奨励する。

（3）学生受入方針（アドミッション・ポリシー）による適切な学生募集の展開

アドミッション・ポリシーを再確認し、大学入学者選抜について検討する。また、入学志願者に対して多様な情報の提供を行うと同時に入試広報の拡充を図る。

- ①志願者の増加施策の検討
- ②アドミッション・ポリシーに基づいた入試広報の拡充

（4）学生支援（学修支援、生活支援、進路支援、留学支援など）の充実

多様化する学生の課題に対応できるよう学生支援体制の強化を図る。

- ①学生が自発的に学習する支援体制の検討
- ②学生ポートフォリオの導入
- ③障がいのある学生への修学支援体制整備
- ④新たな学寮のあり方についての検討
- ⑤多様化する進路・就職に対する支援体制の強化
- ⑥学生の経済的支援の充実
- ⑦トランス女性の学生の受入体制の検討・整備

（5）通信教育課程

- ①社会ニーズに対応した資格など新たなプログラムの拡充
- ②ICT化の推進及び教育方法の多様化と充実
- ③通学課程との連携強化（相互履修の拡充、転籍の導入）
- ④IRに基づく、通信教育課程の今後の展開・方針の明確化

3. 教育研究環境の整備計画

(1) 教育改革・教育研究環境の充実を実現するためのキャンパス再整備

①目白キャンパスは都心・エコキャンパスをキーワードとし、歴史と伝統を誇る交流と知的創造の場、都心のオアシスを構築する。

豊かな緑でキャンパスをつなぎ「目白の森のキャンパス」として日本女子大学の特徴的なファサードを実現するとともに、キャンパス内に広がるラーニング・コモンズで既存・新設の建物が融合する滞在型キャンパスを構築する。

・目白キャンパス設計・工事

②西生田キャンパスは郊外・森のキャンパスをキーワードとし、地域の宝である里山を中心とした自然環境を生かし先進的教育・研究の場としての検討を行う。

人間社会学部の目白移転に伴う跡地利用については種々の活用法を慎重に検討し、学園全体としてその資産を最大限活用できる方法を決定し、実施計画を2020年度までに策定する。

・跡地の有効活用

(2) 目白・西生田両キャンパスを活用した教育研究環境の充実

①学生の主体的学びを涵養する教育研究環境の整備

目白キャンパスにおいては、新図書館とキャンパス内に広がるラーニング・コモンズにより、授業外に利用できる快適な学修環境を整備し、学生の主体的な学修を促進する。その結果を踏まえ西生田地区においては、附属中高を含めた学園全体としての教育研究への新たな活用法を検討し、具体的な活用計画を策定して2021年度の実行をめざす。

・目白キャンパスでの教育研究環境整備

・西生田キャンパスの新たな活用法の検討

②高度な研究を支える教育研究環境の整備

2021年以降の西生田地区の跡地利用の一つとして、自然科学分野等を中心とする産学官連携による新しい研究所の可能性を検討する。

・西生田キャンパスを利用した新研究体制の検討

③地域連携・社会貢献型教育研究の促進

学生の社会人基礎力を養成し、又、大学の地域への貢献を高めるため、学生・教職員の地域における様々な活動を促進・支援する拠点の設置を検討する。

・社会連携・社会貢献を推進する体制の整備

・サービス・ラーニング科目の設置

・PBL型科目の設置（課題解決型学修・プロジェクト演習・実践型学修）

④短期集中型実習・研修提供への対応

目白、西生田両キャンパスにおいて、短期集中型実習・研修提供に対応可能な施設・設備の見直しを行う。

・両キャンパスにおける施設の機能の見直し

⑤他分野交流の展開を実現する環境提供

（学生、教員、職員、分野を超えた相互横断的コミュニティの形成）

キャンパス内に整備したラーニング・コモンズ、学生サロン、カフェ、食堂等を異なる分野・異なる立場の人々相互の快適な出会い・交流の場として提供する。

・目白キャンパス整備

4. 一貫教育、生涯教育計画

(1) 「自学自動」「自念自動」を実践する女子教育

①特色ある一貫教育の実現

総合研究所における附属校・園の教員が共同で行う課題研究や学園一貫教育研究集会の実施を継続し、一貫教育の将来のあり方を検討し、実践していく。

- ・総合研究所課題研究成果の検証
- ・学園一貫教育研究集会報告書の検証
- ・学園一貫教育将来構想検討会（仮称）の設置

②学園アイデンティティの確立

教養特別講義1、2等を通して、三綱領の精神を学園一貫して教育し、実践につなげる。また、成瀬記念館の展示を通して本学の歴史や教育理念を学ぶ。

- ・アイデンティティ教育及び研修の充実
- ・三綱領及び教育理念を現代に生かすための実践方法を検討

③附属校園間の連携

成長期のすべてに関わる人間教育の実践を協力して行う。

- ・附属校園の教育研究活動の共有化及び積極的な人的交流の推進
- ・各附属校園の志願者確保戦略の学園全体での共有と支援

④自発性、主体性をうながす教育プログラム

各教科において、体験を重視し、自分で考えることへと導く教育を継続して行う。

- ・各校園における教育内容の共有及び検証
- ・本学園の特色となるプログラムの開発

⑤自治の精神を育成する一貫教育

本学の伝統である自治を自治活動、クラブ活動を通じて学ぶ。

- ・各校（園）での自治活動を保護者や地域社会に向けての公開

⑥リーダーシップ・独創性・協心力を発揮しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動

リーダーシップ・独創性・協心力を発揮し、世界で活躍しうる女性の資質をのばす教育活動、研究活動、社会貢献活動行動力を育成する。こうした資質をのばすための教育活動、研究活動、社会活動を積極的に展開する。

- ・発表を主とした授業の充実
- ・学園内が活気あふれる場となるように達成感を得られる活動の推進
- ・研究の成果の学園内外への発信
- ・現行の国際交流活動の継続と新規の展開

⑦学園一貫の広報活動の充実

学園としての広報活動を強化、推進する。

- ・入学者選抜、志願者確保のための戦略の検討
- ・広報の充実のための組織編成の検討
- ・附属校園の教職員による情報交流

(2) 女性の活躍を支援するキャリア教育

①基礎的・汎用的能力の養成

論理的思考方法を身につけるとともに、卒業後も自ら成長していける力の養成を図る教養特別講義を中心とした基盤的教育の充実を図る。

- ・本学の特長を活かした基礎的な教養の検討

②女性の主体的な生き方を実現するためのキャリア教育

女性の生き方について考え、学生一人ひとりが自ら最適な道を選択できるようキャリア教育

を再構築する。

- ・キャリア科目の必修化に向けての内容検討
- ・キャリア支援プログラムの再構築（各種ガイダンス・ワークショップの企画・運営等）

③体験を生かすキャリア支援

自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験(インターンシップ)プログラムをより充実させる。

- ・インターンシップ受け入れ先の開拓

(3) 人生100年時代に向けた生涯教育

①生涯教育におけるキャリア開発とリカレント教育課程

学生の自主的で積極的なキャリア開発を促す。また、大学院、通信教育を含むリカレント教育を通じて、卒業後もより高度な学位の取得を容易にするなど生涯を通じて多様なキャリアを支援する。

- ・卒業生を含む社会人女性のニーズに照らし、リカレント教育課程の新たなコースを拡充
- ・生涯学習センターにおけるキャリア支援講座の積極的展開
- ・大学院における社会人の学位取得プログラムの充実
- ・幅広い学生の受け入れと多様な目的に対応した通信教育課程の充実

②地域・社会との連携体制

今後の地域・社会との多様な連携のあり方について、検討を行う。

- ・生涯学習センターの今後の展開についての検討
- ・文化祭・学園祭等の学園の行事における地域交流の充実
- ・キャンパス一体化後の連携体制についての検討

5. 管理運営

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、環境変化に対応した管理運営体制の構築

大学改革及び関係法令の改正に対応した管理運営体制の見直しを行い、適正な構築を図る。

- ①大学改革及び関係法令の改正に対応した寄附行為の整備とその適切な運用
- ②管理運営における内部監査制度の整備

(2) 明文化された規程に基づく管理運営の実施

管理運営体制構築のため諸規程の整備、見直しを行い、適正な運用を図る。

- ①関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用
- ②諸規程間の整合性の確保
- ③キャンパス統合に伴う諸規程の整備

(3) 危機管理体制の明確化

様々なリスクに対して即応できる組織体制の整備を行う。

事故を未然に防ぐための危機管理体制を強化する。

危機へ対応するための規程及びマニュアル整備を推進するとともに、学園構成員のリスク管理意識の向上と定着化を図る。

- ①大規模自然災害への対応
- ②様々な危機管理体制の確立
- ③キャンパス統合に伴うキャンパス内の安全の維持

(4) キャンパス一体化後の事務組織・体制の確立

キャンパス一体化後の教育研究組織に対応するとともに、学生支援及び業務効率化を重視した事務組織・体制を確立する。

(5) 広報体制の充実

入学志願者・在校生をはじめ、卒業生・教職員さらに一般社会に対して、本学の歴史と現在の姿・将来像をアピールすることで入学志願者を増やすとともに、本学の社会的認知度・評価を向上させる。

- ①ホームページの内容改善
- ②プレスリリースの拡充
- ③学園ニュースの誌面見直し

6. 財政計画

(1) 教育研究の安定した遂行のための財政基盤の確立

財政計画は、キャンパス一体化に伴う施設整備を進めるとともに、教育改革を実現する 2021 年度までの中期と、新たな環境で教育活動を展開する 2022 年度以降の長期について以下の方針を掲げる。

施設整備を進める 2021 年度までに、借入金を最小限とするため学費の増額改定及び 120 周年募金により自己資金の充実を図るとともに、支出の抑制を図ることを財政目標とし、金融資産の充実に努める。

120 周年以降は安定した経営を実現するため予算編成時点の支出超過額を漸減させることとし、段階的に収支バランスの取れた予算編成を目指す。

- ①自己資金の充実
- ②バランスの取れた収支

(2) 適切な予算編成、予算執行

長期的には収支バランスを取ることで、単年度では事業活動収支における収入超過の堅持を予算編成方針とする。ゼロベース予算編成を基本とし、収入の増と支出の削減を進める。

学内における戦略的教育研究活動、競争的研究費等については、教育・研究改革を推進する視点から政策的に審査配分するとともに、成果についての検証も行う。

①事業活動収支収入超過予算編成

予算編成時における事業活動収支差額比率の目標値を以下のとおりとする。

- | | |
|------------------|--------|
| 2020年度まで | 2.0%以上 |
| 2021年度より2023年度まで | 3.0%以上 |

②教育・研究改革推進のための経費の政策的な配分と検証

7. 計画推進等の体制

(1) 中・長期計画の実施体制、責任主体

理事長のリーダーシップのもと、学園全体で中・長期計画を推進する。

①年度ごとの計画の進捗状況の確認と見直し

(2) 中・長期計画の実施に対する点検・評価体制

中・長期計画の実施状況について恒常的に点検・評価を実施する。

- ①中・長期計画を遂行するための各年度のプラン作成と点検・評価
- ②中間点での中・長期計画の見直し
- ③大学基準協会による認証評価の受審

(3) IRを活用したマネジメント

学内データの一元管理と様々な経営情報の可視化を検討する。

(4) 情報の公表による説明責任遂行

日本女子大学の教育研究の現状を広く社会に公表することで、社会やステークホルダーに対する説明責任を果たしていく。

4年

3年

2年

1年

DP 1
英語を使って自分の体験を世界に向かって伝え、他者の意見を聞くことができる。

DP 2
英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語を通じて文化を多面的に理解することができる。

DP 3
伝達・表現のためにICTを活用することができる。

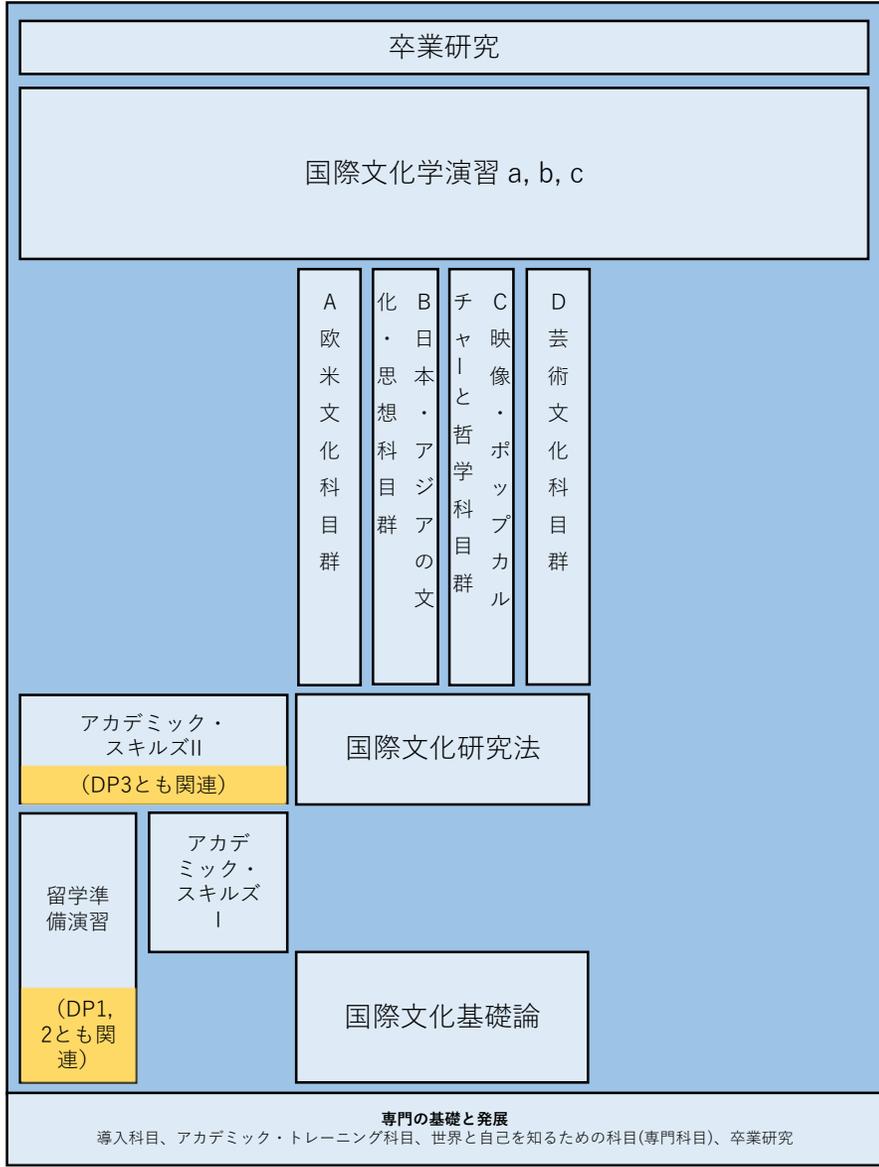
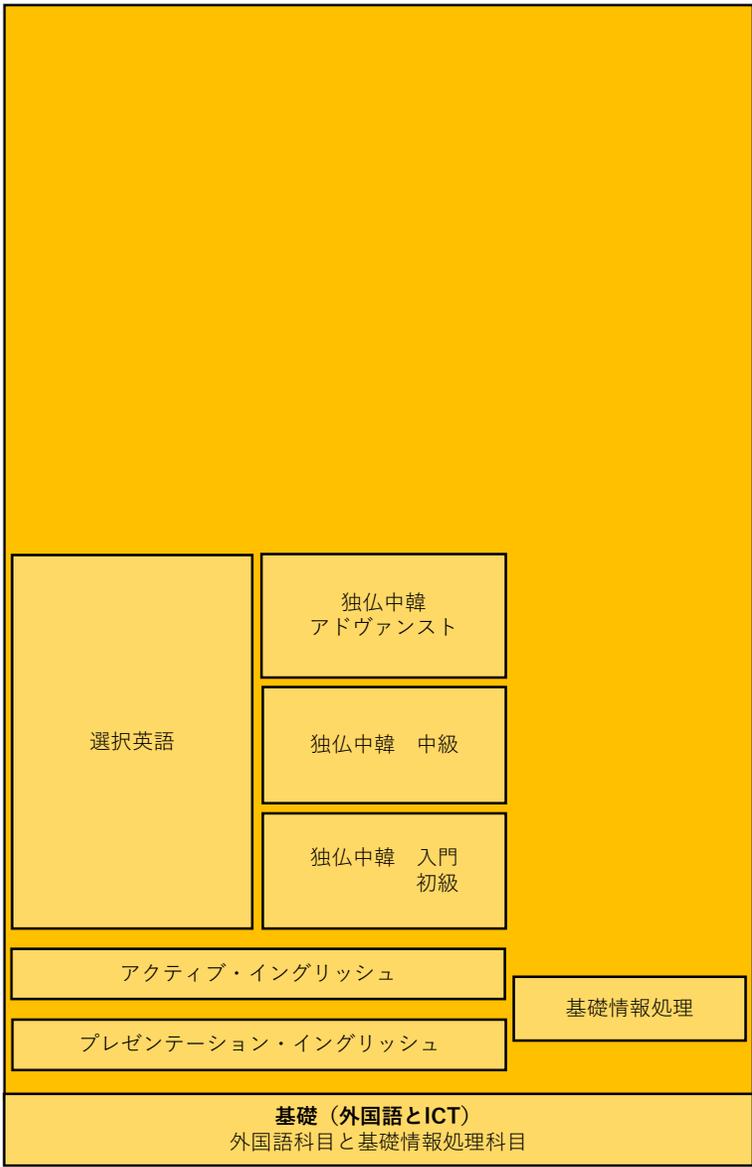
DP 8
問いの解決のために、綿密な計画を立て、取り組むことができる。

DP 6
様々な文化・地域・業界・フィールドにおいて実際的な問題を体験的につかみとり、問題の重要性を明確にしたうえで他者と共有できる。

DP 4
他者の意見と自分の意見を区別し、自己の意見を論理的に組み立て、有意義な仕方世界に向けて発信することができる。

DP 5
地域文化や芸術文化についての広汎かつ専門的な知識を獲得し、文化の多様性に関する基本的な考え方を理解できる。

DP 7
実際的な問題を、広汎かつ専門的な知識と関連づけ、他者と共有できる確かな問いとしてまとめあげることができる。



履修モデル

外資系企業、国際機関、国際 NPO/NGO、ベンチャー企業を設立（海外短期留学）

年次	科目名	単位数	科目区分	
		合計 125		
4年	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究	
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究	
	卒業研究	必修 4	卒業研究	
	比較文学	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	比較芸術	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	現代芸術論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
		小計 14		
3年	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 A	選必 2	JWU社会連携科目	
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究	
	バイリンガル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目	
	アート・アクティヴィズム	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	世紀末文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	映像文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	映画論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	アメリカ文化研究	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	ポップカルチャーと観光	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	アメリカ文化のテキストを読む	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	原典講読：イギリスのフェミニズム	選択 2	世界と自己を知るための科目	
			小計 22	
2年	英語コミュニケーションⅢ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）	
	リーディングⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）	
	中国語中級	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語L.L. 中級	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	地球の自然と資源	選択 2	教養科目（B系列）	
	心理学	選択 2	教養科目（B系列）	
	日本の政治	選択 2	教養科目（A系列）	
	アカデミック・スキルズⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
	原典講読：欧米の文学と文化理論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	イギリス文化研究	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	アメリカ文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	日本思想史	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	ポップカルチャー論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	西洋美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	日本美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目	
	実践プログラム（海外a）	選択 10	実践トレーニング科目	
		小計 42		
1年	教養特別講義	必修 1	教養特別講義	
	プレゼンテーション・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）	
	プレゼンテーション・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）	
	アクティヴ・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）	
	アクティヴ・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）	
	英語コミュニケーションⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）	
	ライティングⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）	
	中国語a入門	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語a初級	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語b入門	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語b初級	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語L.L. 入門	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	中国語L.L. 初級	選択 2	基礎科目 外国語（中国語）	
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理	
	身体運動Ⅰa	選択必修 1	基礎科目 身体運動	
	身体運動Ⅰb	選択必修 1	基礎科目 身体運動	
	思想・哲学	選択 2	教養科目（C系列）	
	舞台芸術の歴史・西洋	選択 2	教養科目（C系列）	
	日本の産業と企業	選択 2	教養科目（A系列）	
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目	
	留学準備演習Ⅰ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	
	留学準備演習Ⅱ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	
	スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目	
	アカデミック・スキルズⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
			小計 47	

履修モデル

外資系企業、国際機関、国際 NPO/NGO、ベンチャー企業を設立（長期留学を想定する履修モデル）

年次	科目名	単位数	科目区分
		合計 125	
4年		小計 16	
	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究
	卒業研究	必修 4	卒業研究
	比較文学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	比較芸術	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本民俗文化論 身体メディア論	選択 2	世界と自己を知るための科目
3年		小計 42	
	社会に出るための自己表現	選必 2	JWUキャリア科目
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究
	バーチャル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目
	アメリカ文化研究	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカ文化のテキストを読む	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文学と文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	原典講読：イギリスの物語文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	原典講読：イギリスのフェミニズム	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像表現論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本観光文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	実践プログラム（海外b）	選択 2	実践トレーニング科目
協定大学留学もしくは認定大学留学による単位認定 （認定単位数は留学先の学修状況により異なる）	選択 16	-	
2年		小計 24	
	英語コミュニケーションⅢ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	リーディングⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	ライティングⅢ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 L、L、中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	国際社会と人権	選択 2	教養科目（A系列）
	世界経済	選択 2	教養科目（A系列）
	地球の自然と資源	選択 2	教養科目（B系列）
	心理学	選択 2	教養科目（B系列）
	アカデミック・スキルズⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	原典講読：欧米の文学と文化理論	選択 2	世界と自己を知るための科目
実践プログラム（海外b）	選択 0	実践トレーニング科目	
1年		小計 43	
	教養特別講義	必修 1	教養特別講義
	プレゼンテーション・イングリッシュ a	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	プレゼンテーション・イングリッシュ b	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティヴ・イングリッシュ a	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティヴ・イングリッシュ b	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	TOEFL	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語 a 入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 a 初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 b 入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 b 初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 L、L、入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 L、L、初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理
	身体運動Ⅰ a	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	身体運動Ⅰ b	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	思想・哲学	選択 2	教養科目（C系列）
	世界の古典・文学	選択 2	教養科目（C系列）
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目
	スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目
アカデミック・スキルズⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
留学準備演習Ⅰ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	
留学準備演習Ⅱ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	

履修モデル

芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（実践プログラム（国内）履修）

年次	科目名	単位数	科目区分
		合計 125	
4年		小計 12	
	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究
	卒業研究	必修 4	卒業研究
	比較文学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	比較芸術	選択 2	世界と自己を知るための科目
		小計 32	
3年	実践プログラム（国内）	選択 2	実践トレーニング科目
	バイリンガル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究
	世紀末文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカの人種・エスニティ・ジェンダー	選択 2	世界と自己を知るための科目
	原典講読：欧米の文学と文化理論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文学と文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本の芸能思想	選択 2	世界と自己を知るための科目
	身体メディア論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映画論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代芸術論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	東洋の思想と美術	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アート・アクティヴィズム	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
日本美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目	
		小計 40	
2年	社会に出るための自己表現	選必 2	JWUキャリア科目
	英語コミュニケーションⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	ライティングⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	ジェンダー論入門	選択 2	教養科目（A系列）
	メディアと社会	選択 2	教養科目（A系列）
	住まいのデザイン	選択 2	教養科目（B系列）
	ファッションの化学	選択 2	教養科目（B系列）
	アカデミック・スキルⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	パリ社会とファッション	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカ文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像表現論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本中世絵画史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋近現代美術史	選択 2	世界と自己を知るための科目
音楽と社会	選択 2	世界と自己を知るための科目	
西洋美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目	
日本美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目	
		小計 41	
1年	教養特別講義	必修 1	教養特別講義
	プレゼンテーション・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	プレゼンテーション・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティブ・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティブ・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	英語コミュニケーションⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	リーディングⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語a入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語a初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語b入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語b初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理
	身体運動Ⅰa	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	身体運動Ⅰb	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	日本美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	西洋美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目
スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目	
アカデミック・スキルⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	

履修モデル

芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（実践プログラム（海外a）履修）

年次	科目名	単位数	科目区分
		合計 125	
4年	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究
	卒業研究	必修 4	卒業研究
	比較文学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	比較芸術	選択 2	世界と自己を知るための科目
		小計 12	
3年	メディアと社会	選択 2	教養科目（A系列）
	ファッションの化学	選択 2	教養科目（B系列）
	バーチャル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究
	世紀末文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	原典講読：欧米の文学と文化理論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文学と文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本の芸能思想	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像表現論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本中世絵画史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋近現代美術史	選択 2	世界と自己を知るための科目
	東洋の思想と美術	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
		小計 30	
2年	社会に出るための自己表現	選必 2	JWUキャリア科目
	英語コミュニケーションⅢ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	リーディングⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	ジェンダー論入門	選択 2	教養科目（A系列）
	住まいのデザイン	選択 2	教養科目（B系列）
	アカデミック・スキルⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	実践プログラム（海外a）	選択 10	実践トレーニング科目
	アメリカ文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代芸術論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アート・アクティヴィズム	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目
日本美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目	
		小計 38	
1年	教養特別講義	必修 1	教養特別講義
	プレゼンテーション・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	プレゼンテーション・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティヴ・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティヴ・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	英語コミュニケーションⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	ライティングⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語a入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語a初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語b入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語b初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理
	身体運動Ⅰa	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	身体運動Ⅰb	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	日本美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	西洋美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目
	スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目
アカデミック・スキルⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
留学準備演習Ⅰ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	
留学準備演習Ⅱ	選択 2	アカデミック・トレーニング科目	
		小計 45	

履修モデル

芸術振興分野を担当する地方公務員・財団法人職員、アート・マネジメント業など（博物館学芸員資格取得）

年次	科目名	単位数	科目区分
		合計 144	
		小計 15	
4年	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究
	卒業研究	必修 4	卒業研究
	比較文学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	比較芸術	選択 2	世界と自己を知るための科目
	博物館実習（4年）	必修 3	博物館学芸員課程（卒業要件外）
			小計 36
3年	実践プログラム（国内）	選択 2	実践トレーニング科目
	バーチャル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究
	世紀末文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカの人種・エスニティ・ジェンダー	選択 2	世界と自己を知るための科目
	原典講読：欧米の文学と文化理論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文学と文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本の芸能思想	選択 2	世界と自己を知るための科目
	身体メディア論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映画論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代芸術論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	東洋の思想と美術	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アート・アクティヴィズム	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本美術史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	博物館教育論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）
博物館情報・メディア論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
博物館実習（3年）	必修 0	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
		小計 48	
2年	社会に出るための自己表現	選必 2	JWUキャリア科目
	英語コミュニケーションⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	ライティングⅡ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、中級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	ジェンダー論入門	選択 2	教養科目（A系列）
	メディアと社会	選択 2	教養科目（A系列）
	住まいのデザイン	選択 2	教養科目（B系列）
	ファッションの化学	選択 2	教養科目（B系列）
	アカデミック・スキルズⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	パリ社会とファッション	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカ文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像表現論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本中世絵画史特論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋近現代美術史	選択 2	世界と自己を知るための科目
	音楽と社会	選択 2	世界と自己を知るための科目
	西洋美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本美術史概説	選択 2	世界と自己を知るための科目
博物館経営論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
博物館資料論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
博物館資料保存論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
博物館展示論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
		小計 45	
1年	教養特別講義	必修 1	教養特別講義
	プレゼンテーション・イングリッシュ a	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	プレゼンテーション・イングリッシュ b	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティブ・イングリッシュ a	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	アクティブ・イングリッシュ b	必修 2	基礎科目 外国語（必修英語）
	英語コミュニケーションⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	リーディングⅠ	選択 2	基礎科目 外国語（選択英語）
	フランス語 a 入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 a 初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 b 入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語 b 初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、入門	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	フランス語L、L、初級	選択 2	基礎科目 外国語（フランス語）
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理
	身体運動Ⅰ a	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	身体運動Ⅰ b	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	日本美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	西洋美術史	選択 2	教養科目（C系列）
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目
	スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目
アカデミック・スキルズⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目	
生涯学習概論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	
博物館概論	必修 2	博物館学芸員課程（卒業要件外）	

履修モデル

放送業、ジャーナリズム、運輸・旅客業、観光業など国内の一般企業

年次	科目名	単位数	科目区分
		合計 125	
		小計 16	
4年	国際文化学演習b	必修 2	卒業研究
	国際文化学演習c	必修 2	卒業研究
	卒業研究	必修 4	卒業研究
	哲学の基礎	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代哲学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	宗教人類学	選択 2	世界と自己を知るための科目
	東洋の思想と美術	選択 2	世界と自己を知るための科目
		小計 34	
3年	実践プログラム (国内)	選択 2	実践トレーニング科目
	バーチャル・コミュニケーション	必修 2	実践トレーニング科目
	国際文化学演習a	必修 2	卒業研究
	アメリカ文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	アメリカの人種・エスニティ・ジェンダー	選択 2	世界と自己を知るための科目
	ドイツ語圏の文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	フランス文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	東南アジアの社会と文化	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本の芸能思想	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本の宗教思想	選択 2	世界と自己を知るための科目
	死生学 (日本)	選択 2	世界と自己を知るための科目
	身体メディア論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	映像文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	ポップカルチャー論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	ポップカルチャーと観光	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代芸術論	選択 2	世界と自己を知るための科目
音楽と社会	選択 2	世界と自己を知るための科目	
		小計 36	
2年	社会に出るための自己表現	選必 2	JWUキャリア科目
	英語コミュニケーションⅡ	選択 2	基礎科目 外国語 (選択英語)
	観光英語	選択 2	基礎科目 外国語 (選択英語)
	ビジネス・イングリッシュ	選択 2	基礎科目 外国語 (選択英語)
	韓国語中級	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語中級アドヴァンストⅡ(コミュニケーション)	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	平和学	選択 2	教養科目 (A系列)
	メディアと社会	選択 2	教養科目 (A系列)
	現代社会と情報科学	選択 2	教養科目 (B系列)
	社会で役立つ統計学	選択 2	教養科目 (B系列)
	アカデミック・スキルズⅡ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	国際文化研究法	必修 2	アカデミック・トレーニング科目
	現代韓国社会と政治	選択 2	世界と自己を知るための科目
	現代アジア文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本民俗文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	日本観光文化論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	K-カルチャー論	選択 2	世界と自己を知るための科目
	倫理学	選択 2	世界と自己を知るための科目
		小計 39	
1年	教養特別講義	必修 1	教養特別講義
	基礎情報処理	必修 2	基礎科目 情報処理
	身体運動Ⅰa	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	身体運動Ⅰb	選択必修 1	基礎科目 身体運動
	プレゼンテーション・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語 (必修英語)
	プレゼンテーション・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語 (必修英語)
	アクティブ・イングリッシュa	必修 2	基礎科目 外国語 (必修英語)
	アクティブ・イングリッシュb	必修 2	基礎科目 外国語 (必修英語)
	英語コミュニケーションⅠ	選択 2	基礎科目 外国語 (選択英語)
	韓国語a入門	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語a初級	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語b入門	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語b初級	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語L.L.入門	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	韓国語L.L.初級	選択 2	基礎科目 外国語 (韓国語)
	文化人類学入門	選択 2	教養科目 (C系列)
	歴史から見る現代世界	選択 2	教養科目 (C系列)
	国際文化基礎論	必修 2	導入科目
	スタディ・アブロード・プログラム	必修 4	導入科目
	アカデミック・スキルズⅠ	必修 2	アカデミック・トレーニング科目

改正 平成24年4月1日

2021年4月1日

1 目的

この要綱は、危機を予知してその防止に努めるとともに、万一発生した場合の被害を最小限に止めて拡大を防止し、また、その再発を防ぐことを目的とする。

2 定義

この要綱でいう「危機」とは、事件、事故、問題等の発生により、本学の管理下における教育・研究活動及び管理運営が阻害され、又は構成員の身に危険が及ぶおそれがあると予測される事態を云い、「危機管理」とは、危機が発生した場合の被害を最小限に止めるためのあらゆる行動を指す。

3 危機防止の基本的考え方

全ての構成員及び部署は、危機を未然に防止するため、発生すると思われる潜在的危機を予め想定するとともに、平時から学内の実情を点検することによって、危機発生の予知に努め、計画的にハード・ソフト両面にわたる対応方法を構築し、その周知徹底を図る。

4 危機管理体制

本要綱1に定める目的を達成するため、全学的な組織として危機管理委員会（以下「委員会」という。）及び委員会事務局を設置し、各部署に危機管理責任者及び危機管理者を置く。

(1) 危機管理委員会

ア 委員会は、学園全体にわたる危機管理の体制整備と基本方針の策定を行うとともに緊急事態発生時に迅速かつ適切な対策を講ずる。

イ 委員会は、理事長、各学内理事、各部長（副部長を含む）、各附属校園長をもって構成し、委員長を理事長とする。

ウ 委員会の運営等については、別に定める。

(2) 事務局

ア 委員会に事務局を置き、事務局長の統括の下に総務課が担当する。

イ 事務局は、委員会の指示の下に、学園全体に共通する危機管理に関する事務を処理するとともに緊急事態発生時における情報の一元的な窓口として、学内からの報告や連絡等を集約し、委員会へ伝達等の事務を行う。

ウ 事務局に、幹事を置く。幹事は、事務局長が必要に応じて関係の課長等の中から委嘱する。

(3) 危機管理責任者及び危機管理者

ア 各部署における危機管理業務を実施するため、各部署に危機管理責任者及び危機管理者を置く。

イ 危機管理責任者は、各学部長、通信教育課程長、研究科委員長、附属校園長、附属機関の所長・センター長・主事及び各部長（事務部長、副部長を含む）とし、委員会の方針に基づき、所管する部署における危機管理業務を行う。

ウ 危機管理者は、各学科長及び各課長とし、所管する部署の危機管理責任者の指揮の下に危機管理業務を行う。

エ 各部署に置いては、危機を防止し、危機発生に対処するためのマニュアルを作成する。

(4) 対策本部

ア 委員会は、緊急事態が発生した場合、危機認定の判断を行い、危機のレベルによって全学的な対策本部又は所管部署の危機管理責任者を中心とする対策本部を設置する。

イ 全学的な対策本部は、理事長を本部長とし、委員会の全部又は一部の委員及び当該危機の解決に必要と思われる部署の危機管理責任者その他本部長が指名する者をもって構成する。

ウ 委員会は、国内外の遠隔地で学生・教職員の遭難事故が発生したときなどで、必要があると認められる場合には、現地対策本部を設置することができる。

5 危機管理実施上の留意点

ア 危機発生を認知した者は、別添の「緊急事態発生時連絡対応図」に従って直ちに委員会の委員

又は事務局に通知しなければならない。通知を受けた者は、直ちに委員長に報告し、その指示に従う。

イ マスコミへの対応に当たっては、予め責任者を定めて、窓口を一本化し、委員長との緊密な連携の下に情報の受発信を行う。

ウ 火災、地震及びセクシュアル・ハラスメントについては、それぞれ学校法人日本女子大学消防計画、大規模地震防災対策及び日本女子大学セクシュアル・ハラスメントの防止・排除に関する規程に定めるところによる。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日より施行する。

附 則（事務組織改編に伴う改正）

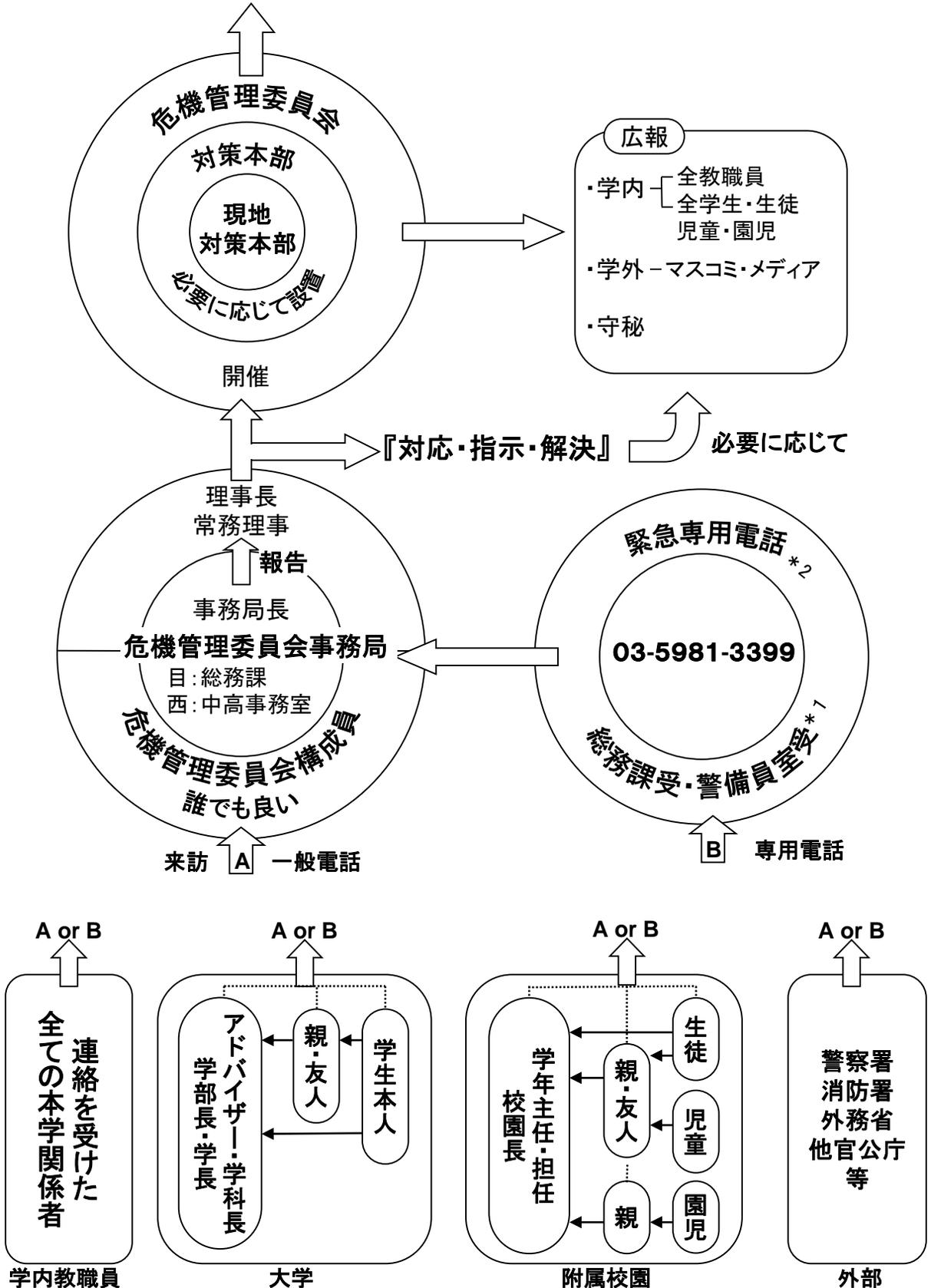
この要綱は、平成24年4月1日より施行する。

附 則（事務組織変更等に伴う改正）

この要綱は、2021年4月1日より施行する。

危機管理マニュアル“緊急事態発生時連絡対応図”

『対応・指示・解決』



*1) 9AM-5PM 総務課受(土曜日は9AM-12PM)

5PM-9AM 警備員室受(土曜日は12PM-9AM、日曜・祭日は終日)

*2) 緊急電話は1本化し、目白・総務課(警備員室)へ入り、中高事務室へ連絡

SAF提携大学一覧および出願時に必要な語学力

大学名	英語力	TOEFL iBT	IELTS	TOEFL iBT	IELTS	GPA
アメリカ		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
ハワイ大学ヒロ校		61以上	5.5以上	51以上	5.0以上	2.0以上
カリフォルニア州立大学サンマルコス校		61以上*2	5.5以上*2	51以上	5.0以上	2.0以上
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校		61以上	5.5以上*2	51以上	5.0以上	2.0以上
アリゾナ州立大学		61以上*1	6.0以上*1&2	57以上*1	5.5以上*1	2.4以上*1
カリフォルニア大学 デビス校	学部授業履修	80以上	7.0以上	—	—	3.0以上
	語学科目付き学部	71以上*3	6.5以上*3	61以上*3&8	6.0以上*3&8	
ミネソタ大学	学部授業履修	79以上*2	6.5以上*2	—	—	2.4以上*1
	語学科目付き学部	68以上*3	6.0以上*3	—	—	
ミシシッピ大学	学部授業履修	79以上*2	6.0以上	69以上	5.5以上	2.0以上
	語学科目付き学部	69以上*3	5.5以上*3	61以上*3	5.0以上*3	
モンタナ大学		70以上	6.0以上	60以上	5.5以上	2.0以上
アーカンソー大学	学部授業履修	79以上	6.5以上	—	—	2.0以上
	語学科目付き学部	71以上*3	6.0以上*3	—	—	
サンノゼ州立大学		71以上*1	6.0以上*1	61以上*1	5.5以上*1	2.4以上
カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	学部授業履修	80以上*2	6.5以上*2	—	—	2.6以上
	語学科目付き学部	75以上*3	6.0以上*3	—	—	
コロラド大学ボルダー校		75以上*1	6.5以上*1	65以上*1	6.0以上*1	2.4以上*1
ミシガン州立大学		79以上*2	6.5以上	—	—	2.9以上
カリフォルニア大学リバーサイド校		80以上	6.5以上	—	—	2.9以上
アメリカン大学		80以上*2	6.5以上	75以上	6.0以上	2.9以上
ウィスコンシン大学マディソン校		80以上	6.5以上	—	—	2.9以上
カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	学部授業履修	100以上	7.0以上	—	—	3.0以上
	語学科目付き学部	91以上*3	6.5以上*2&3	—	—	3.0以上
カリフォルニア大学バークレー校		90以上	7.0以上	—	—	3.0以上
カリフォルニア大学サンディエゴ校		90以上	7.5以上	—	—	3.5以上
ジョンズホプキンス大学		100以上*2	7.0以上	—	—	3.0以上
コロンビア大学		100以上	7.0以上	—	—	3.0以上
ペンシルベニア大学		100以上*2	7.0以上*2	—	—	3.3以上
カナダ		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
セント・メリーズ大学		—	—	61-72以上*2&4	5.5-6.0以上*2&4	2.0以上
イギリス		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
ウェストミンスター大学		76以上*2	6.0以上*1&2	学生ビザ (Tier 4) を必要とするプログラムのため、UKBA (英国国境局) の規定により原則TOEFLでの出願及びビザ申請はできませんが、規定には変更が生じる場合があります。詳しくはSAF日本事務局までお問い合わせください。	5.0-5.5以上*1&2&5	2.0以上*1
マンチェスター大学		80-100以上*1	6.0-7.0以上*1&2		5.5-6.0以上*1&2&5	2.9以上
ロンドン芸術大学 *7		70-100以上*1&2	5.5-7.5以上*1		—	2.9以上
グラスゴー大学		80以上*2	6.0以上*2		—	3.0以上
エジンバラ大学		92以上*1&2	6.5以上*1&2		—	3.0以上
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン		92-109以上*2	6.5-7.5以上*2		—	3.5以上*1
ロンドン大学 東洋アフリカ 研究学院 (SOAS)	学部授業履修	105以上*2	7.0以上*2		—	—
	語学科目付き学部	100以上*2	6.5以上*2	—	—	
オックスフォード大学 セント・アンズ・カレッジ		110以上*2	7.5以上*2	—	—	3.6以上
アイルランド		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
リムリック大学		80以上	6.5以上*2	70以上	6.0以上	2.6以上
オーストラリア		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
クイーンズランド大学		87以上*2	6.5以上*2	78以上*2	6.0以上*2	2.8以上
ニューサウスウェールズ大学		90以上*1&2	6.5以上*1&2	—	—	2.9以上
ニュージーランド		(学部授業履修)		(語学力強化+学部授業履修)		
オタゴ大学		80以上*2	6.0以上*2	70以上*2	5.5以上*2	2.9以上
ドイツ		(語学力強化プログラムのみ)				
ライプツィヒ大学*6		日本女子大学の規定による *6				2.0以上
フランス		(語学力強化プログラムのみ)				
アンジェ・カトリック大学*6		日本女子大学の規定による *6				2.0以上

日本女子大学 SAF 認定留学手引より抜粋

所蔵雑誌一覧

No.	和洋	タイトル
1	洋雑誌	Akzente : Zeitschrift für Dichtung. -- 1. Jahrg. (Febr. 1954)-. -- C. Hanser, 1954.
2	洋雑誌	American ethnologist. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1974)-. -- American Anthropological Association, 1974.
3	洋雑誌	Anthropology today. -- Vol. 1, no. 1 (Feb. 1985)-. -- Royal Anthropological Institute, 1985.
4	洋雑誌	Art journal / College Art Association of America. -- Vol. 20 (fall 1960)-. -- College Art Association of America, 196-.
5	洋雑誌	Beaux arts magazine. -- Publications Nuit et jour, 19--.
6	洋雑誌	Cahiers du Musée national d'art moderne. -- No. 1 (1979)-. -- Centre Georges Pompidou, 1979.
7	洋雑誌	Critique : revue générale des publications françaises et étrangères. -- T. 1, no. 1 (1946)-t. 14, no. 114 (Nov. 1956) ; T. 12, no. 115 (Dec. 1956)-. -- Aux Éditions du Chêne, 1946.
8	洋雑誌	Cultural studies. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1987)-. -- Methuen, 1987.
9	洋雑誌	Elle. -- UK ed. -- News International-Hachette, 19--.
10	洋雑誌	Feminist studies : FS. -- Vol. 1 (1972)-. -- Feminist Studies, 1972.
11	洋雑誌	Gender & history. -- Vol. 1, no. 1 (spring 1989)-. -- Basil Blackwell, 1989.
12	洋雑誌	Hegel-Studien. -- Bd. 1 (1961)-. -- Bouvier Verlag, 1961.
13	洋雑誌	Hegel-Studien. Beiheft. -- 1 (1964)-. -- H. Bouvier, 1964.
14	洋雑誌	International affairs / Royal Institute of International Affairs. -- Vol. 20, no. 1 (Jan. 1944)-. -- Cambridge University Press, 1944.
15	洋雑誌	International directory of arts, 19--.
16	洋雑誌	Journal of British studies / Conference on British Studies. -- Vol. 1 (Nov. 1961)-. -- University of Chicago Press, 1961.
17	洋雑誌	Journal of Japonisme. -- Brill, 2016.
18	洋雑誌	Le figaro magazine. -- Edition internationale. -- [Le Figaro], 19--.
19	洋雑誌	Le français dans le monde : revue de l'enseignement du français hors de France. -- 1ère année, no 1 (mai 1961)-36e année, no 285 (nov./déc. 1996) ; No 286 (janv. 1997)-. -- Hachette et Larousse, 1961.
20	洋雑誌	Les cahiers naturalistes / Société littéraire des amis d'Émile Zola. -- Vol. 1 (1955)-. -- Société littéraire des amis d'Émile Zola, 1955.
21	洋雑誌	Modern Asian studies. -- Vol. 1 (1967)-. -- Cambridge University Press, 1967.
22	洋雑誌	National geographic. -- Vol. 116, no. 6 (Dec. 1959)-. -- National Geographic Society, 1959.
23	洋雑誌	Neue Beiträge zur Germanistik. -- Band 1, [Heft 1] (Herbst 2002)- = Heft 109 (Herbst 2002)-. -- Iudicium, 2002.
24	洋雑誌	New German critique. -- Vol. 1, no. 1 (winter 1973)-. -- New German Critique, 1973.
25	洋雑誌	October. -- 1 (spring 1976)-. -- Institute for Architecture and Urban Studies, 1976.
26	洋雑誌	Research in the social scientific study of religion. -- Vol. 1 (1989)-. -- JAI Press, 1989.
27	洋雑誌	Revue de l'art
28	洋雑誌	Revue de littérature comparée. -- 1. année, no. 1 (1921)-. -- H. Champion, 1921.
29	洋雑誌	Revue des sciences humaines. -- Fasc. 45 (janv./mars 1947)-. -- Faculté des lettres de l'Université de Lille, 1947.
30	洋雑誌	Revue d'histoire littéraire de la France. -- 1. année (janv. 1894)-. -- A. Colin, 1894.
31	洋雑誌	Romantisme : revue de la Société des études romantiques. -- No. 1/2 (1971)-. -- Flammarion, 1971.
32	洋雑誌	The Art bulletin. -- Vol. 2 (Sept. 1919)-. -- College Art Association of America, 1919.
33	洋雑誌	The British journal of sociology. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1950)-. -- Routledge Kegan Paul, 1950.
34	洋雑誌	The Burlington magazine. -- Vol. 90, no. 538 (Jan. 1948)-. -- Burlington Magazine Publications, 1948.
35	洋雑誌	The journal of philosophy. -- Journal of Philosophy, Inc, 19--.
36	洋雑誌	The journal of the Royal Anthropological Institute : incorporating man. -- Vol. 1, no. 1 (Mar. 1995)-. -- Royal Anthropological Institute, 1995.
37	洋雑誌	Victorian studies : a quarterly journal of the humanities, arts, and sciences / Indiana University. -- 1 (Sept. 1957)-. -- Indiana University, 1957.
38	洋雑誌	Vogue. -- Française ed. -- -v. 10, no. 1 (jan. 1928) ; 1928 (mai 1928)-1969 (oct. 1969) ; No. 501 (nov. 1969)-. - Editions Condé-Nast, 192-.

No.	区分	種別	タイトル
1	洋	DB	American national biography online
2	洋	DB	Berg Fasion Library Database
3	洋	DB	Bibliography of British and Irish history
4	洋	DB	Books in print com
5	洋	DB	Gale in Context : Global Issues
6	洋	DB	Gale Literature
7	洋	DB	International medieval bibliography
8	洋	DB	Marquis biographies online
9	洋	DB	MathScinet
10	洋	DB	MLA international bibliography
11	洋	DB	Opposing viewpoints in context
12	洋	DB	Oxford dictionary of national biography
13	洋	DB	Oxford English dictionary
14	洋	DB	PsycINFO
15	洋	DB	SciFinder ⁿ
16	洋	DB	Scopus
17	洋	DB	Sociological abstracts database
18	洋	DB	Ulrich's plus online
19	洋	買切 DB	Early English Books Online : EEBO
20	洋	買切 DB	Eighteenth Century Collections Online (ECCO)
21	洋	買切 DB	House of Commons parliamentary papers
1	和	DB	(JK) 角川古語大辞典
2	和	DB	(JK) 世界大百科事典
3	和	DB	(JK) 国史大辞典
4	和	DB	D1-Law.com現行法規：現行法検索：第一法規法情報総合データベース
5	和	DB	D1-Law.com判例体系：全法編：第一法規法情報総合データベース
6	和	DB	JapanKnowledge
7	和	DB	JDream 3
8	和	DB	Magazineplus
9	和	DB	Web OYA-bunko 教育機関版
10	和	DB	日経テレコン21
11	和	DB	日本建築学会論文等検索システム機関定額制
12	和	DB	日本文学Web図書館：辞典ライブラリー
13	和	DB	日本文学Web図書館：平安文学ライブラリー
14	和	DB	日本文学Web図書館：和歌ライブラリー
15	和	DB	ブリタニカ オンライン ジャパン
16	和	DB	ヨミダス歴史館
17	和	DB	ルーラル電子図書館
18	和	DB	化学書資料館
19	和	DB	官報情報検索サービス

オンラインDB

No.	区分	種別	タイトル
20	和	DB	雑誌記事索引集成データベース
21	和	DB	聞蔵IIビジュアル for Libraries
22	和	DB	理科年表プレミアム
23	和	買切 DB	群書類従. - Web版
24	和	買切 DB	太宰治直筆資料集

No.	区分	種別	タイトル
1	洋	OJ	Algebra and Number Theory
2	洋	OJ	American Chemical Society online journals
3	洋	OJ	Annals of K-Theory
4	洋	OJ	Annual review of psychology
5	洋	OJ	Applied mobilities
6	洋	OJ	Applied physics letters(INTERNET ed)
7	洋	OJ	Behavior research methods
8	洋	OJ	Behavioral and brain sciences.
9	洋	OJ	Biometrika
10	洋	OJ	British journal of educational studies
11	洋	OJ	British journal of psychiatry
12	洋	OJ	Bulletin of the Chemical Society of Japan
13	洋	OJ	Chemical communications
14	洋	OJ	Chemistry letters
15	洋	OJ	Child & adolescent social work journal : C & A
16	洋	OJ	Child development
17	洋	OJ	Child development perspectives
18	洋	OJ	Clinical social work journa
19	洋	OJ	Cognition & emotion
20	洋	OJ	Current developments in mathematics
21	洋	OJ	Dialectical anthropology
22	洋	OJ	Economic and political weekly
23	洋	OJ	Economics of education review
24	洋	OJ	Educational evaluation and policy analysis
25	洋	OJ	Family and consumer sciences research journal
26	洋	OJ	Industrial and labor relations review
27	洋	OJ	International journal of law, policy and the family
28	洋	OJ	International journal of sports medicine
29	洋	OJ	International social work
30	洋	OJ	Journal of applied physics
31	洋	OJ	Journal of child and family studies
32	洋	OJ	Journal of child psychotherapy
33	洋	OJ	Journal of cognitive neuroscience
34	洋	OJ	Journal of European social policy
35	洋	OJ	Journal of knot theory and its ramifications(INTERNET ed)
36	洋	OJ	Journal of linguistics : the journal of the Linguistics Association of Great Britain
37	洋	OJ	Journal of medieval history
38	洋	OJ	Journal of multivariate analysis
39	洋	OJ	Journal of research in childhood education

オンラインジャーナル

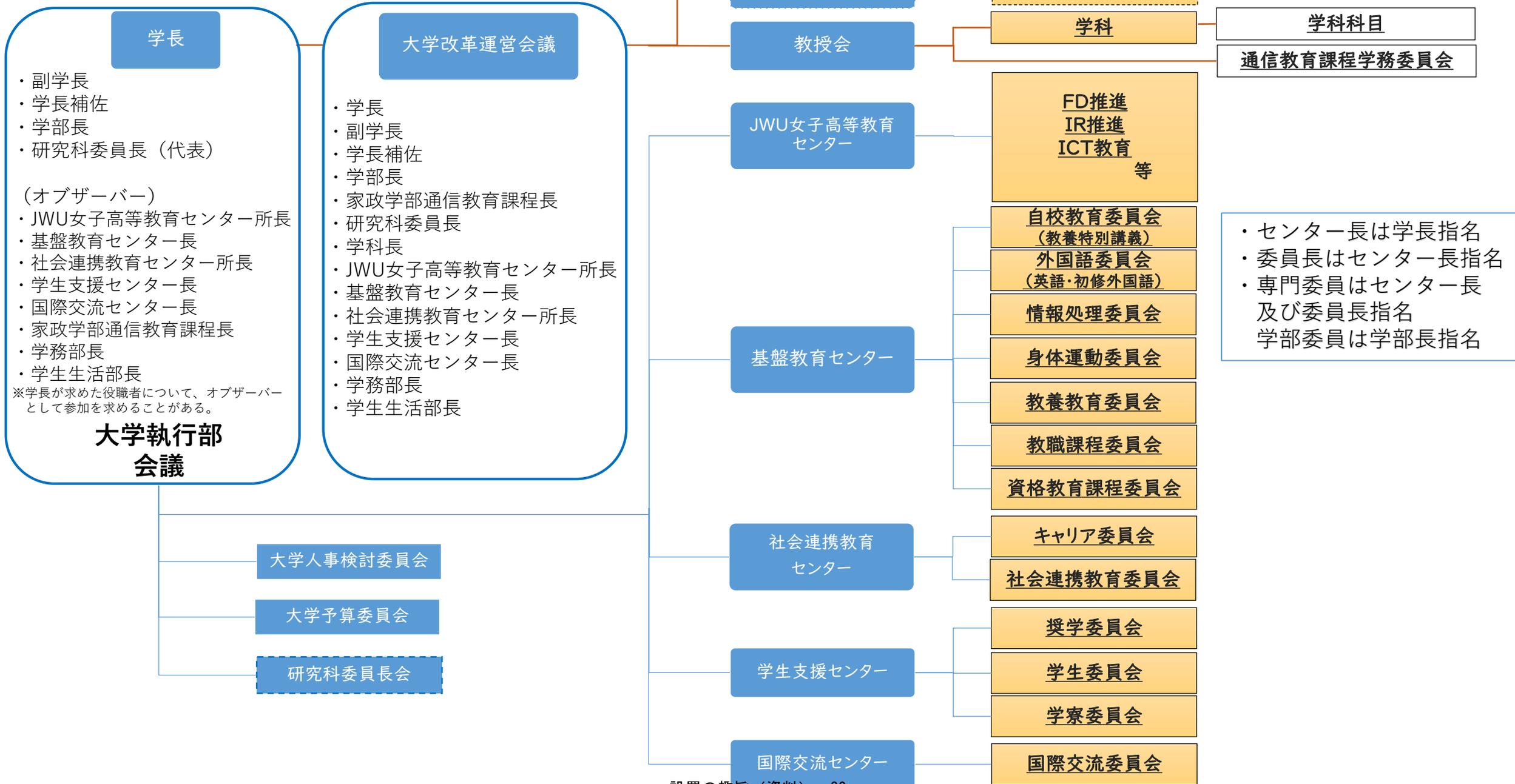
No.	区分	種別	タイトル
40	洋	OJ	Journal of school choice
41	洋	OJ	Journal of social policy
42	洋	OJ	Journal of social welfare & family law
43	洋	OJ	Journal of sports & exercise psychology
44	洋	OJ	Language and cognition
45	洋	OJ	Language variation and change
46	洋	OJ	Library resources & technical services
47	洋	OJ	Mathematical research letters : MRL
48	洋	OJ	MFS modern fiction studies
49	洋	OJ	Mobilities
50	洋	OJ	Monographs of the Society for Research in Child Development
51	洋	OJ	Nature.com
52	洋	OJ	Peabody journal of education
53	洋	OJ	Pediatrics : the journal of the American Academy of Pediatrics
54	洋	OJ	Perceptual and motor skills
55	洋	OJ	Physical review letters ([INTERNET ed])
56	洋	OJ	Physical review. [Series III.] B
57	洋	OJ	Plant physiology
58	洋	OJ	Psychological research
59	洋	OJ	Psychology of sport and exercise
60	洋	OJ	Psychometrika
61	洋	OJ	Research on language and social interaction
62	洋	OJ	Research quarterly for exercise and sport
63	洋	OJ	Science Online
64	洋	OJ	SIAM journal on mathematical analysis
65	洋	OJ	Social policy and society
66	洋	OJ	Sports medicine
67	洋	OJ	Springer Link
68	洋	OJ	The British journal of educational psychology
69	洋	OJ	The International journal of psycho-analysis
70	洋	OJ	The Journal of experimental education
71	洋	OJ	The Journal of marital and family therapy
72	洋	OJ	The journal of social psychology : political, racial, and differential psychology
73	洋	OJ	The plant cell
74	洋	OJ	Theory and society : renewal and critique in social theory
75	洋	OJ	Trends in cognitive sciences
76	洋	OJ(新聞)	Historical newspapers, New York Times with Index
77	洋	OJ(新聞)	The Times Digital Archive
78	洋	OJ(新聞)	TLS, the Times literary supplement

オンラインジャーナル

No.	区分	種別	タイトル
79	洋	アグリゲータ	Entertainment industry magazine archive
80	洋	アグリゲータ	JSTOR : Arts & Sciences III Collection
81	洋	アグリゲータ	JSTOR : Arts & Sciences I Collection
82	洋	アグリゲータ	JSTOR : Ecology and Botany Collection
83	洋	アグリゲータ	Music periodicals database
84	洋	アグリゲータ	Performing arts periodicals database
85	洋	アグリゲータ	ProQuest Central
86	洋	買い切りOJ	ACS legacy archives
87	洋	買切 OJ	Oxford University Press Online Journals Archive Collections
88	洋	買切 OJ	Springer Online Journal Archives
89	洋	買切 OJ	The Vogue Archive. -- [American ed].
1	和	OJ	Library and information science / Mita
2	和	OJ	日経BP記事検索サービス アカデミック版
3	和	アグリゲータ	メディカルオンライン
4	和	買切 OJ	校友会雑誌
5	和	買切 OJ	日本語文法 / 日本語文法学会編集
6	和	買切 OJ	文藝春秋アーカイブス. -- [Web版]
7	和	買切 OJ	三田文學
8	和	買切 OJ	風俗画報. -- Web版.

2021年度の体制

【資料15】 2021.9.15現在



学長

- 副学長
- 学長補佐
- 学部長
- 研究科委員長（代表）

（オブザーバー）

- JWU女子高等教育センター所長
- 基盤教育センター長
- 社会連携教育センター所長
- 学生支援センター長
- 国際交流センター長
- 家政学部通信教育課程長
- 学務部長
- 学生生活部長

※学長が求めた役職者について、オブザーバーとして参加を求めていることがある。

**大学執行部
会議**

大学改革運営会議

- 学長
- 副学長
- 学長補佐
- 学部長
- 家政学部通信教育課程長
- 研究科委員長
- 学科長
- JWU女子高等教育センター所長
- 基盤教育センター長
- 社会連携教育センター所長
- 学生支援センター長
- 国際交流センター長
- 学務部長
- 学生生活部長

研究科委員会

教授会

JWU女子高等教育センター

基盤教育センター

社会連携教育センター

学生支援センター

国際交流センター

専攻

学科

**FD推進
IR推進
ICT教育
等**

**自校教育委員会
（教養特別講義）**

**外国語委員会
（英語・初修外国語）**

情報処理委員会

身体運動委員会

教養教育委員会

教職課程委員会

資格教育課程委員会

キャリア委員会

社会連携教育委員会

奨学委員会

学生委員会

学寮委員会

国際交流委員会

学科科目

通信教育課程学務委員会

- ・センター長は学長指名
- ・委員長はセンター長指名
- ・専門委員はセンター長及び委員長指名
- ・学部委員は学部長指名

日本女子大学における内部質保証の方針

平成30年4月1日制定

2021年4月1日改定

1 基本方針

高等教育機関として社会の負託に応えるため、日本女子大学の建学の精神、教育理念「三綱領」及び理念・目的の実現に向けて、教育、研究、社会貢献の質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示・公表する内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に推進する。

2 責任・役割

(1) 学部・研究科・その他部局（*1）の内部質保証は、当該構成員が自覚と責任ある行動に基づいて行う。組織的には、運営責任を負う組織（*2）が主体となり、当該執行部（*3）、またはそれに準ずる役割を担う者と構成員が連携・協力して厳正に推進する。

…個々の教職員及び学部・研究科、各部局レベル

(2) 全学的な内部質保証は、自己点検・評価を推進するための組織として自己点検・評価委員会が主体となり、大学執行部会議とすべての構成員が連携・協力し、総体として厳正に推進する。なお、自己点検・評価委員会は、統括するための自己点検・評価委員会幹事会と、点検・評価を行うための部門からなる。

*1 その他部局とは、学部・研究科を除く教学組織及び法人組織を表す。

*2 運営責任を負う組織とは、学部・研究科の場合は、教授会・研究科委員会のほか、学科・専攻等を表し、その他部局の場合は、所管する諸活動の運営責任を負う組織を表す。

*3 学部・研究科の執行部は、組織により異なる場合があるが、概ね学部長（研究科委員長）、学科長（専攻主任）等を指す。

3 教育の企画・設計のための指針

学部・研究科等における教育は、次の事項に則り、企画・設計を行う。

(1) 「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」・「教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」・「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」の3方針に基づき、改善及び改革が必要かつ重要であるとの共通認識を持って教育活動を展開する。

(2) 内部質保証を実効性のあるものとするために、『日本女子大学における内部質保証に関する体制図』に基づき、「学位プログラム」の設計・管理・評価から運用、検証・改善のためのPDCAサイクルを明確にし、次の自己点検・評価等によって、円滑に機能させる。

ア 学部・研究科等は、自己点検・評価委員会が定める点検・項目等に加えて、学部等の状況や特性に応じて、独自の視点をふまえて自己点検・評価を実施し、毎年、自己点検・評価報告書及び成果や達成度を示す資料を提出する。

イ それぞれの活動等に改善が必要と認められた場合は、適切な措置を講じ、計画的、組織的に改善に努め、学部・研究科等の教育研究等の質を保証し向上しなければならない。

4 検証及び改善・向上のための指針

(1) 自己点検・評価委員会幹事会は、各部門からの「自己点検・評価報告書」に基づき、本学の諸活動の現状を検証し、次の事項について協議を行ったうえで、大学執行部会議に上程する。

ア 学部・研究科等において、「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」・「教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」・「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」の3方

針に基づく教育活動の展開と、その活動の点検・評価の結果を改善・改革につなげる一連のプロセスが適切に展開されていること。

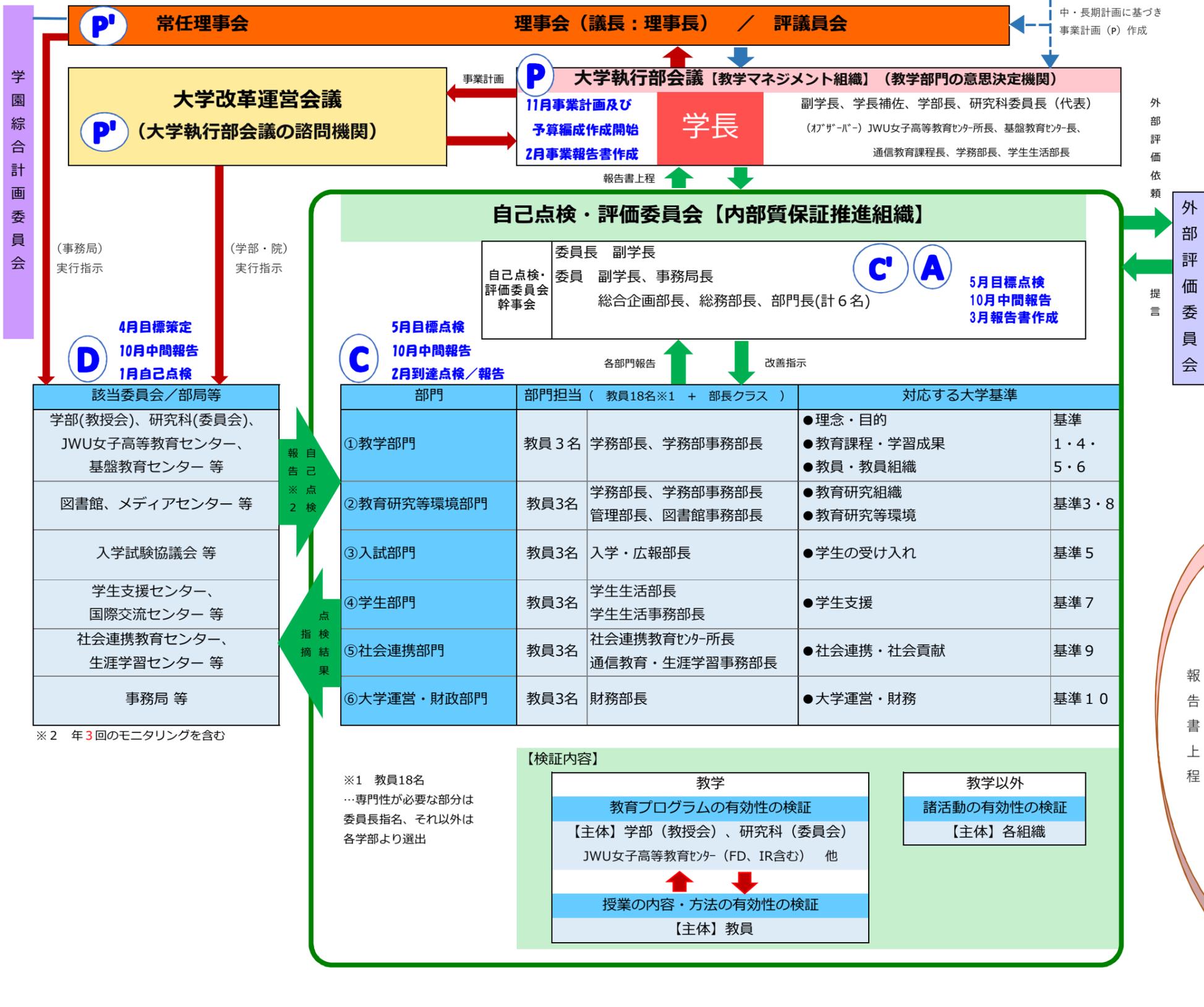
イ 本学における教育・研究・社会貢献等が適切な水準にあることを、社会に対して説明・証明していること。

- (2) 大学改革運営会議は大学執行部会議の諮問機関として各学部等に対して、また、常任理事会は法人部門の各部局に対して助言・支援及び管理を行い、内部質保証システムとして機能し、一定の効果を発揮していること。

5 運用指針

- (1) 内部質保証は、「学位プログラム」の設計・管理・評価・改善のPDCAサイクル全体の営みである。しかもこのサイクルを恒常的・継続的に運用すべきである。
- (2) 学部・研究科・その他部局及び全学的な内部質保証は、いずれも『日本女子大学における内部質保証に関する体制図』の枠組みを基軸としつつ、柔軟に推進する。
- (3) 内部質保証システムについて、定期的に検証・改善を行う。

理念 目的	建学の精神
	三綱領 3つのポリシー／人材養成・教育研究上の目的に関する規程
計画	中・長期計画 (アクション・プラン 2021～2023年度)



国際文化学部時間割 通年科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
集中		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習 B	12008
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	インターンシップI		百101
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	インターンシップII		百201
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携・社会貢献活動I		百202
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携・社会貢献活動II		百203
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	インターンシップI		百204
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	インターンシップII		百205
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携・社会貢献活動I		百208
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携・社会貢献活動II		百209
		通年	JWUキャリア・ JWU社会連携	課題解決型ワークショップを用いた企画開発		12008
火曜日	1	通年	学科科目	卒業研究		個研
火曜日	2	通年	学科科目	スタディ・アブロード・プログラム		12101
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		百208
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		百206
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		百207
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		百209
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		百301
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		12102
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		12104
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（国内）		12103
火曜日	3	通年	学科科目	実践プログラム（海外 b）		12006

: JWUキャリア、JWU社会連携科目
 : 基礎科目
 : 教養科目

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
集中		前期	英語	資格英語（集中）1	A	百101
		前期	英語	資格英語（集中）1	B	百201
		前期	英語	資格英語（集中）2		百202
		前期	英語	資格英語（集中）3		百203
		前期	初修外国語	集中ドイツ語		百204
		前期	初修外国語	集中フランス語		百205
		前期	初修外国語	集中中国語		百208
月曜日	1	前期	学科科目	実践プログラム（海外a）		12003
月曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	1	百101
月曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	1	百201
月曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	2	百202
月曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	1	百203
月曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	1	百204
月曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	1	百205
月曜日	1	前期	初修外国語	中国語 b 入門	2	百208
月曜日	1	前期	初修外国語	中国語 b 入門	1	百209
月曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	1	百301
月曜日	1	前期	初修外国語	韓国語中級	1	百302
月曜日	1	前期	情報	ICT活用I		コンピュータ演習室 6
月曜日	1	前期	身体運動	身体運動I a	(文)	体育館他
月曜日	1	前期	教養	国際社会と人権		香100
月曜日	2	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会におけるICT、データサイエンス活用B		百101
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 0 (文)	百303
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 1 (文)	百304
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 2 (文)	百305
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 3 (文)	百306
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 4 (文)	百307
月曜日	2	前期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ a	7 5 (文)	百308
月曜日	2	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	1	百201
月曜日	2	前期	初修外国語	韓国語 L, L, 入門		百202
月曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語中級	1	百203
月曜日	2	前期	初修外国語	フランス語中級	1	百204
月曜日	2	前期	初修外国語	中国語中級アドヴァンスト（原典講読）	1	百205
月曜日	2	前期	教養	世界経済		香100
月曜日	2	前期	教養	地理学		香102
月曜日	2	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
月曜日	2	前期	学科科目	映像文化論		12102
月曜日	2	前期	学科科目	ポップカルチャー論		12103
月曜日	3	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	多様な働き方とキャリア		百101
月曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	2	百201
月曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	2	百202
月曜日	3	前期	初修外国語	中国語 a 入門	2	百203
月曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	2	百204
月曜日	3	前期	英語	観光英語	E	百205
月曜日	3	前期	英語	TOEIC	1	百208
月曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 L, L, 中級	1	百209
月曜日	3	前期	情報	基礎情報処理	(3文)	コンピュータ演習室 1
月曜日	3	前期	身体運動	身体運動II a	(ホルダリング)	体育館他
月曜日	3	前期	身体運動	身体運動論		百209
月曜日	3	前期	教養	日本国憲法	-1	香100
月曜日	3	前期	教養	脳と行動		香102
月曜日	3	前期	教養	社会学入門		香103
月曜日	3	前期	教養	映像論	-1	香104
月曜日	3	前期	教養	日本国憲法	-2	香201
月曜日	3	前期	学科科目	世紀末文化論		12101
月曜日	3	前期	学科科目	ドイツ語圏の文化		12102
月曜日	3	前期	学科科目	比較文学		12103
月曜日	3	前期	学科科目	西洋哲学史		香204
月曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習 A	香304

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
月曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	女性と身体	-1	百101
月曜日	4	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	2	百201
月曜日	4	前期	英語	英語コミュニケーションIII	1	百202
月曜日	4	前期	英語	観光英語	A	百203
月曜日	4	前期	英語	TOEIC	2	百204
月曜日	4	前期	初修外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	1	百205
月曜日	4	前期	初修外国語	フランス語中級	2	百208
月曜日	4	前期	初修外国語	中国語中級	1	百209
月曜日	4	前期	教養	統計学入門		香100
月曜日	4	前期	教養	心理学	-1	香102
月曜日	4	前期	学科科目	イギリス文化研究		12101
月曜日	4	前期	学科科目	現代芸術論		12102
月曜日	5	前期	初修外国語	中国語 b 入門	3	百101
月曜日	5	前期	身体運動	身体運動I a	(制限 1)	体育館他
月曜日	5	前期	教養	ことばとは何か		香100
月曜日	5	前期	教養	法学入門		香102
月曜日	5	前期	学科科目	アカデミック・スキルズ II		12101
月曜日	5	前期	学科科目	アカデミック・スキルズ II		12102
月曜日	5	前期	学科科目	比較芸術		12105
火曜日	1	前期	学科科目	アカデミック・スキルズ II		12103
火曜日	1	前期	学科科目	アカデミック・スキルズ II		12104
火曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	3	百101
火曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	4	百201
火曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	3	百202
火曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	2	百203
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	3	百204
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	5	百205
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	7	百208
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	4	百209
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	6	百301
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	8	百302
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 b 入門	4	百303
火曜日	1	前期	初修外国語	中国語 b 入門	5	百304
火曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	4	百305
火曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	3	百306
火曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	7	百307
火曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	6	百308
火曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	5	百309
火曜日	1	前期	教養	文化人類学入門		香100
火曜日	1	前期	学科科目	日本民俗文化論		12101
火曜日	2	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	ライフステージと法		百101
火曜日	2	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-2	百201
火曜日	2	前期	初修外国語	中国語 b 入門	6	百202
火曜日	2	前期	英語	観光英語	B	百203
火曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語中級	2	百204
火曜日	2	前期	初修外国語	フランス語中級	3	百205
火曜日	2	前期	初修外国語	中国語中級	2	百208
火曜日	2	前期	初修外国語	中国語 L、L、中級	1	百209
火曜日	2	前期	初修外国語	中国語上級	1	百301
火曜日	2	前期	初修外国語	韓国語中級	2	百302
火曜日	2	前期	身体運動	健康スポーツ論I		百303
火曜日	2	前期	教養	社会福祉学		香100
火曜日	2	前期	教養	心と健康	-1	香102
火曜日	2	前期	学科科目	マンガ文化論		12102
火曜日	2	前期	学科科目	日本美術史概説		12103
火曜日	3	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	女性就業と子育て支援の経済学	-1	百101
火曜日	3	前期	英語	メディア・リスニング	A	百201
火曜日	3	前期	英語	英語コミュニケーションII	1	百202
火曜日	3	前期	英語	TOEIC	8	百203

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
火曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語中級	3	百204
火曜日	3	前期	初修外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	1	百205
火曜日	3	前期	初修外国語	韓国語中級アドヴァンスト(原典講読)	1	百208
火曜日	3	前期	教養	世界の神話	-1	香100
火曜日	3	前期	教養	社会思想の歴史		香102
火曜日	3	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
火曜日	3	前期	学科科目	実践プログラム(海外a)		12102
火曜日	3	前期	学科科目	原典講読: 欧米の文学と文化理論		12104
火曜日	3	前期	学科科目	東洋思想史		12105
火曜日	4	前期	JWUキャリア・JWU社会連携	国際協力・ボランティア論	-1	百101
火曜日	4	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	3	百201
火曜日	4	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	3	百202
火曜日	4	前期	英語	英語コミュニケーションI	1	百203
火曜日	4	前期	英語	英語コミュニケーションI	4	百204
火曜日	4	前期	英語	TOEIC	3	百205
火曜日	4	前期	英語	IELTS	1	百208
火曜日	4	前期	初修外国語	中国語中級	3	百209
火曜日	4	前期	身体運動	身体運動演習 a		体育館他
火曜日	4	前期	教養	政治思想の歴史		香100
火曜日	4	前期	教養	教養としての数学		香102
火曜日	4	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
火曜日	4	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12102
火曜日	4	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12103
火曜日	5	前期	身体運動	身体運動I a	(制限 2)	体育館他
火曜日	5	前期	教養	生命科学	-2	香100
火曜日	5	前期	教養	生物の起源と進化		香102
火曜日	5	前期	教養	思想・哲学	-1	香103
火曜日	5	前期	教養	政治と福祉		香104
火曜日	5	前期	教養	生命科学	-1	香201
水曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 L. L. 入門		百101
水曜日	1	前期	英語	メディア・リスニング	B	百201
水曜日	1	前期	英語	英語コミュニケーションI	3	百202
水曜日	1	前期	英語	TOEIC	4	百203
水曜日	1	前期	初修外国語	中国語中級	4	百204
水曜日	1	前期	初修外国語	韓国語中級	3	百205
水曜日	1	前期	教養	地球の自然と資源		香100
水曜日	1	前期	教養	経済学の世界	-1	香102
水曜日	1	前期	教養	英語圏のファンタジー		香103
水曜日	1	前期	学科科目	フランス文学		12101
水曜日	1	前期	学科科目	絵本・児童文学のキャラクター論		12102
水曜日	2	前期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-1	百204
水曜日	2	前期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会におけるICT、データサイエンス活用 A		百101
水曜日	2	前期	JWUキャリア・JWU社会連携	現代男性論		百201
水曜日	2	前期	英語	リーディングI	A	百202
水曜日	2	前期	英語	メディア・リスニング	C	百203
水曜日	2	前期	初修外国語	フランス語中級	4	百204
水曜日	2	前期	初修外国語	韓国語中級	4	百205
水曜日	2	前期	教養	世界の古典・文学	-2	香100
水曜日	2	前期	教養	ジェンダー論入門		香102
水曜日	2	前期	教養	世界の古典・文学	-1	香103
水曜日	2	前期	教養	日本美術史	-1	香104
水曜日	2	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
水曜日	2	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12102
水曜日	2	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12103
水曜日	2	前期	学科科目	アメリカの人種・エスニティ・ジェンダー		12104
水曜日	2	前期	学科科目	現代文化論		12105
水曜日	3	前期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-3	百206
水曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	5	百101
水曜日	3	前期	初修外国語	中国語 a 入門	9	百201

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
水曜日	3	前期	初修外国語	フランス語L.L. 中級	1	百202
水曜日	3	前期	初修外国語	中国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)		百203
水曜日	3	前期	情報	ICT活用II		コンピュータ演習室 6
水曜日	3	前期	身体運動	身体運動II a	(ヨカ & ビ ライス)	体育館他
水曜日	3	前期	教養	化学の歴史		香100
水曜日	3	前期	教養	東洋思想		香102
水曜日	3	前期	教養	ロジカル・シンキング入門		香103
水曜日	3	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
水曜日	3	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12102
水曜日	3	前期	学科科目	現代アジア文化論		12103
水曜日	3	前期	学科科目	日本思想史		12104
水曜日	3	前期	学科科目	K-カルチャー論		12105
水曜日	3	前期	学科科目	アカデミック・スキルズ II		12106
水曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	現代ビジネスと起業		百101
水曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会課題とNPO・NGO		百201
水曜日	4	前期	初修外国語	中国語 a 入門	10	百202
水曜日	4	前期	英語	TOEIC	5	百203
水曜日	4	前期	初修外国語	フランス語中級	5	百204
水曜日	4	前期	初修外国語	フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	1	百205
水曜日	4	前期	身体運動	身体運動II a	(ボルダリング)	体育館他
水曜日	4	前期	身体運動	身体運動II a	(フットサル)	体育館他
水曜日	4	前期	身体運動	身体運動演習 a	(ボテ イエイブ)	体育館他
水曜日	4	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
水曜日	5	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	現代女性論	-1	百101
水曜日	5	前期	教養	教育人間学		香100
水曜日	5	前期	教養	物理学はいかに創られたか		香102
水曜日	5	前期	教養	住まいのデザイン		香103
水曜日	5	前期	教養	西洋美術史	-1	香104
水曜日	5	前期	学科科目	留学準備演習 I		12101
水曜日	5	前期	学科科目	留学準備演習 I		12102
水曜日	5	前期	学科科目	留学準備演習 I		12103
水曜日	5	前期	学科科目	留学準備演習 I		12104
木曜日	1	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	4	百101
木曜日	1	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	4	百201
木曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	11	百202
木曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	8	百203
木曜日	1	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	3	百204
木曜日	1	前期	身体運動	身体運動I a	(被・文)	体育館他
木曜日	1	前期	学科科目	西洋音楽と日本		12101
木曜日	2	前期	英語	リーディングII	A	百101
木曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	4	百201
木曜日	2	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	6	百202
木曜日	2	前期	初修外国語	フランス語L.L. 入門	1	百203
木曜日	2	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	9	百204
木曜日	2	前期	英語	リーディングIII	A	百205
木曜日	2	前期	英語	観光英語	C	百206
木曜日	2	前期	英語	TOEFL	1	百207
木曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語中級	4	百208
木曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	2	百209
木曜日	2	前期	初修外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	2	百301
木曜日	2	前期	初修外国語	中国語中級	5	百302
木曜日	2	前期	情報	ICT活用III		コンピュータ演習室 3
木曜日	2	前期	教養	日本の政治		香100
木曜日	2	前期	教養	西洋思想		香102
木曜日	2	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
木曜日	2	前期	学科科目	留学準備演習 I		12103
木曜日	3	前期	教養	人間生理学		香100
木曜日	3	前期	教養	DNAの拓いた生命科学		香102
木曜日	3	前期	教養	天文学と宇宙観の歴史	-1	香103

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
木曜日	3	前期	教養	20・21世紀の外国文学	-1	香104
木曜日	3	前期	教養	女性と芸術		香201
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	70 (文)	百101
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	71 (文)	百201
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	72 (文)	百202
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	73 (文)	百203
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	74 (文)	百204
金曜日	1	前期	英語	アクティブ・イングリッシュ a	75 (文)	百205
金曜日	1	前期	初修外国語	中国語 a 入門	12	百206
金曜日	1	前期	初修外国語	中国語 b 入門	7	百207
金曜日	1	前期	初修外国語	中国語 L, L, 入門	1	百208
金曜日	1	前期	英語	英語コミュニケーションIII	2	百209
金曜日	1	前期	初修外国語	中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	2	百301
金曜日	1	前期	教養	基礎から学ぶコンピューター		香100
金曜日	1	前期	教養	女性と健康		香102
金曜日	1	前期	教養	衣と健康		香103
金曜日	1	前期	学科科目	東洋の思想と美術		12101
金曜日	2	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	仕事・結婚・わたし	-1	百101
金曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	5	百201
金曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	6	百202
金曜日	2	前期	初修外国語	ドイツ語 a 入門	7	百203
金曜日	2	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	7	百204
金曜日	2	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	8	百205
金曜日	2	前期	初修外国語	フランス語 L, L, 入門	2	百206
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 a 入門	14	百207
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 a 入門	13	百208
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 b 入門	8	百209
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 b 入門	9	百301
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 L, L, 入門	2	百302
金曜日	2	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	4	百303
金曜日	2	前期	英語	ビジネス・イングリッシュ	B	百304
金曜日	2	前期	英語	英語コミュニケーションII	3	百305
金曜日	2	前期	英語	ライティングI	A	百306
金曜日	2	前期	英語	ライティングIII	A	百307
金曜日	2	前期	英語	ビジネス・イングリッシュ	A	百308
金曜日	2	前期	初修外国語	中国語 L, L, 中級	2	百309
金曜日	2	前期	身体運動	身体運動II a	(フィットネス)	体育館他
金曜日	2	前期	教養	食と健康	-1	香100
金曜日	2	前期	教養	数学の眼で見た世界		香102
金曜日	2	前期	教養	美学	-1	香103
金曜日	2	前期	学科科目	アメリカ文化論		12101
金曜日	2	前期	学科科目	アート・アクティヴィズム		12102
金曜日	3	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	日本の女性史		百101
金曜日	3	前期	英語	ライティングII		百506
金曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	5	百201
金曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語 b 入門	6	百202
金曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 a 入門	9	百203
金曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	6	百204
金曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	5	百205
金曜日	3	前期	初修外国語	フランス語 b 入門	7	百206
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 a 入門	17	百207
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 a 入門	15	百208
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 a 入門	16	百209
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 b 入門	13	百301
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 b 入門	12	百302
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 b 入門	14	百303
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 b 入門	11	百304
金曜日	3	前期	初修外国語	中国語 b 入門	10	百305
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	10	百306
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	11	百307

国際文化学部時間割 前期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 a 入門	12	百308
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	6	百309
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	5	百501
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	8	百502
金曜日	3	前期	初修外国語	韓国語 b 入門	7	百503
金曜日	3	前期	英語	TOEIC	6	百504
金曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語中級	5	百505
金曜日	3	前期	初修外国語	ドイツ語上級	1	百506
金曜日	3	前期	情報	ICT活用IV		コンピュータ演習室4・5
金曜日	3	前期	教養	平和学		香100
金曜日	3	前期	教養	SOCIAL AND INTERNATIONAL RELATIONS OF JAPAN		香102
金曜日	3	前期	教養	日本社会と宗教		香103
金曜日	3	前期	学科科目	死生学（日本）		12003
金曜日	3	前期	学科科目	身体メディア論		12101
金曜日	3	前期	学科科目	映画論		12101
金曜日	3	前期	学科科目	哲学の基礎		12102
金曜日	4	前期	学科科目	西洋美術史概説		12003
金曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-4	百206
金曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	JS寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールド・ステイ		百201
金曜日	4	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習C	百101
金曜日	4	前期	英語	メディア・リスニング	D	百201
金曜日	4	前期	英語	英語コミュニケーションI	2	百202
金曜日	4	前期	英語	英語コミュニケーションII	2	百203
金曜日	4	前期	英語	観光英語	D	百204
金曜日	4	前期	英語	観光英語	F	百205
金曜日	4	前期	英語	TOEIC	9	百206
金曜日	4	前期	英語	TOEIC	10	百207
金曜日	4	前期	英語	TOEIC	7	百208
金曜日	4	前期	初修外国語	ドイツ語中級	6	百209
金曜日	4	前期	初修外国語	中国語中級	6	百301
金曜日	4	前期	初修外国語	韓国語中級	5	百302
金曜日	4	前期	学科科目	国際文化学演習 b		12101
金曜日	5	前期	情報	データサイエンス入門		物理情報演習室
土曜日	1	前期	学科科目	国際文化基礎論		12001
土曜日	2	前期	JWUキャリア・ JWU社会連携	女性と職業		百101
土曜日	2	前期	教養	法哲学		香100
土曜日	2	前期	学科科目	国際文化研究法		12101
土曜日	2	前期	学科科目	国際文化研究法		12102

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
集中		後期	身体運動	身体運動I c		学外
		後期	身体運動	身体運動II c		学外
		後期	学科科目	パブリック・コミュニケーション		12006
月曜日	1	後期	学科科目	実践プログラム (海外a)		12002
月曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	1	百101
月曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	1	百201
月曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	2	百202
月曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	1	百203
月曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	1	百204
月曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	1	百205
月曜日	1	後期	初修外国語	中国語 b 初級	2	百208
月曜日	1	後期	初修外国語	中国語 b 初級	1	百209
月曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	1	百301
月曜日	1	後期	初修外国語	韓国語中級	6	百302
月曜日	1	後期	身体運動	身体運動I b	(文)	体育館他
月曜日	2	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	世界の女性史		百101
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	70 (文)	百303
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	71 (文)	百304
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	72 (文)	百305
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	73 (文)	百306
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	74 (文)	百307
月曜日	2	後期	英語	プレゼンテーション・イングリッシュ b	75 (文)	百308
月曜日	2	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	1	百201
月曜日	2	後期	初修外国語	韓国語 L, L, 初級		百202
月曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語中級	7	百203
月曜日	2	後期	初修外国語	フランス語中級	6	百204
月曜日	2	後期	初修外国語	中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	3	百205
月曜日	2	後期	身体運動	身体運動文化論		百208
月曜日	2	後期	教養	日本経済		香100
月曜日	2	後期	教養	ジェンダーと社会		香102
月曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
月曜日	2	後期	学科科目	映像表現論		12102
月曜日	3	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	地域・社会課題を学ぶ		百101
月曜日	3	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	現代女性論	-2	百201
月曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	2	百202
月曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	2	百203
月曜日	3	後期	初修外国語	中国語 a 初級	2	百204
月曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	2	百205
月曜日	3	後期	英語	観光英語	L	百208
月曜日	3	後期	英語	TOEIC	11	百209
月曜日	3	後期	英語	TOEIC	15	百301
月曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 L, L, 中級	2	百302
月曜日	3	後期	情報	基礎情報処理	(22文)	コンピュータ演習室 1
月曜日	3	後期	身体運動	身体運動II b	(ホールリング)	体育館他
月曜日	3	後期	教養	環境と生態系		香100
月曜日	3	後期	教養	映像論	-3	香102
月曜日	3	後期	教養	20・21世紀の外国文学	-2	香103
月曜日	3	後期	教養	日本国憲法	-4	香104
月曜日	3	後期	教養	映像論	-2	香201
月曜日	3	後期	教養	日本国憲法	-5	香202
月曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12101
月曜日	3	後期	学科科目	イリス社会とファッション		12102
月曜日	3	後期	学科科目	ヨーロッパ近代哲学		12103
月曜日	3	後期	学科科目	音楽と社会		12104
月曜日	3	後期	学科科目	現代哲学		香203
月曜日	4	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携を学ぶB		百101
月曜日	4	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	2	百201
月曜日	4	後期	英語	英語コミュニケーションIII	3	百202
月曜日	4	後期	英語	観光英語	G	百203
月曜日	4	後期	英語	TOEIC	12	百204
月曜日	4	後期	初修外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	3	百205

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
月曜日	4	後期	初修外国語	フランス語中級	7	百208
月曜日	4	後期	初修外国語	中国語中級	7	百209
月曜日	4	後期	教養	心理学	-2	香100
月曜日	4	後期	教養	天文学と宇宙観の歴史	-2	香102
月曜日	4	後期	教養	地域研究	-1	香103
月曜日	4	後期	教養	地域研究	-2	香104
月曜日	5	後期	初修外国語	中国語 b 初級	3	百101
月曜日	5	後期	身体運動	身体運動I b	(制限 1)	体育館他
月曜日	5	後期	教養	女性と法律		香100
月曜日	5	後期	教養	ことばと社会		香102
月曜日	5	後期	教養	経営学の世界		香103
月曜日	5	後期	学科科目	アカデミック・スキルズ I		12101
月曜日	5	後期	学科科目	アカデミック・スキルズ I		12102
月曜日	5	後期	学科科目	アカデミック・スキルズ I		12103
月曜日	5	後期	学科科目	アカデミック・スキルズ I		12104
月曜日	5	後期	学科科目	アカデミック・スキルズ I		12105
月曜日	5	後期	学科科目	西洋近現代美術史		12106
火曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	3	百101
火曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	4	百201
火曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	3	百202
火曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	2	百203
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	3	百204
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	5	百205
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	7	百208
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	4	百209
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	6	百301
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	8	百302
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 b 初級	5	百303
火曜日	1	後期	初修外国語	中国語 b 初級	4	百304
火曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	4	百305
火曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	3	百306
火曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	7	百307
火曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	6	百308
火曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	5	百309
火曜日	1	後期	教養	物理学とテクノロジー		香100
火曜日	1	後期	学科科目	宗教人類学		12101
火曜日	2	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	仕事・結婚・わたし	-2	百101
火曜日	2	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-6	百201
火曜日	2	後期	初修外国語	中国語 b 初級	6	百202
火曜日	2	後期	英語	観光英語	H	百203
火曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語中級	8	百204
火曜日	2	後期	初修外国語	フランス語中級	8	百205
火曜日	2	後期	初修外国語	中国語 L. L. 中級	3	百208
火曜日	2	後期	初修外国語	中国語上級	2	百209
火曜日	2	後期	初修外国語	韓国語中級	7	百301
火曜日	2	後期	教養	心と健康	-2	香100
火曜日	2	後期	学科科目	フランス文化論		12101
火曜日	2	後期	学科科目	原典講読：イギリスのフェミニズム		12102
火曜日	2	後期	学科科目	東南アジアの社会と文化		12103
火曜日	2	後期	学科科目	日本美術史特論		12104
火曜日	3	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	女性就業と子育て支援の経済学	-2	百101
火曜日	3	後期	英語	メディア・リスニング	E	百201
火曜日	3	後期	英語	英語コミュニケーションII	4	百202
火曜日	3	後期	英語	TOEIC	18	百203
火曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語中級	9	百204
火曜日	3	後期	初修外国語	フランス語上級		百205
火曜日	3	後期	初修外国語	韓国語中級アドヴァンスト (原典講読)	2	百208
火曜日	3	後期	情報	基礎情報処理	(27文)	コンピュータ演習室 1
火曜日	3	後期	身体運動	身体運動演習 b	(フィジカル・トレーニング)	体育館他
火曜日	3	後期	教養	世界の神話	-2	香100
火曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12101
火曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12102

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
火曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12103
火曜日	3	後期	学科科目	東洋思想の諸問題		12105
火曜日	4	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	ライフプランとキャリアデザイン	-1	百101
火曜日	4	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	国際協力・ボランティア論	-2	百201
火曜日	4	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	3	百202
火曜日	4	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	3	百203
火曜日	4	後期	英語	英語コミュニケーションⅠ	5	百204
火曜日	4	後期	英語	英語コミュニケーションⅠ	7	百205
火曜日	4	後期	英語	TOEIC	13	百208
火曜日	4	後期	英語	IELTS	2	百209
火曜日	4	後期	初修外国語	中国語中級	8	百301
火曜日	4	後期	身体運動	身体運動演習 b	(ゴルフ)	体育館他
火曜日	4	後期	身体運動	健康スポーツ論Ⅱ		体育館他
火曜日	4	後期	教養	INTRODUCTION TO JAPANESE CULTURE AND SOCIETY		香100
火曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習 a		12101
火曜日	5	後期	身体運動	身体運動Ⅰ b	(制限 2)	体育館他
火曜日	5	後期	教養	思想・哲学	-3	香100
火曜日	5	後期	教養	生命科学	-3	香102
火曜日	5	後期	教養	思想・哲学	-2	香103
火曜日	5	後期	教養	人体の構造と機能及び疾病		香104
火曜日	5	後期	教養	歴史の中の数学		香201
火曜日	5	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
火曜日	5	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12102
水曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 L. L. 初級		百101
水曜日	1	後期	英語	メディア・リスニング	F	百201
水曜日	1	後期	英語	英語コミュニケーションⅠ	6	百202
水曜日	1	後期	英語	TOEIC	14	百203
水曜日	1	後期	初修外国語	中国語中級	9	百204
水曜日	1	後期	初修外国語	中国語中級	10	百205
水曜日	1	後期	初修外国語	韓国語中級	8	百206
水曜日	1	後期	教養	経済学の世界	-3	香100
水曜日	1	後期	教養	経済学の世界	-2	香102
水曜日	1	後期	学科科目	フランス文学と文化		12101
水曜日	2	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	ライフプランとキャリアデザイン	-2	百101
水曜日	2	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-5	百 6 0 3
水曜日	2	後期	英語	リーディングⅠ	B	百201
水曜日	2	後期	英語	メディア・リスニング	G	百202
水曜日	2	後期	初修外国語	フランス語中級	9	百203
水曜日	2	後期	初修外国語	韓国語中級	9	百204
水曜日	2	後期	情報	AⅠ入門		コンピュータ演習室 2
水曜日	2	後期	教養	コンピュータ・インターネットと生活		香100
水曜日	2	後期	教養	社会で役立つ統計学		香102
水曜日	2	後期	教養	世界の古典・文学	-3	香103
水曜日	2	後期	教養	世界の古典・文学	-4	香104
水曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
水曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習 a		12102
水曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12103
水曜日	2	後期	学科科目	アメリカ文化のテキストを読む		12104
水曜日	2	後期	学科科目	中国古典文化論		12105
水曜日	2	後期	学科科目	日本の宗教思想		12106
水曜日	3	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-7	百 2 0 6
水曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	5	百101
水曜日	3	後期	初修外国語	中国語 a 初級	9	百201
水曜日	3	後期	英語	英語コミュニケーションⅢ	4	百202
水曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 L. L. 中級	2	百203
水曜日	3	後期	身体運動	身体運動演習 b	(バレーカサズ)	体育館他
水曜日	3	後期	教養	生活・環境と化学		香100
水曜日	3	後期	教養	20・21世紀の思想		香102
水曜日	3	後期	教養	メディアと社会		香103
水曜日	3	後期	教養	倫理学入門		香104
水曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
水曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12102
水曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12103
水曜日	3	後期	学科科目	原典講読：イギリスの物語文化		12104
水曜日	3	後期	学科科目	現代韓国社会と政治		12105
水曜日	3	後期	学科科目	倫理学		12106
水曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12107
水曜日	4	後期	初修外国語	中国語 a 初級	10	百101
水曜日	4	後期	初修外国語	フランス語中級	10	百201
水曜日	4	後期	初修外国語	フランス語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)	2	百202
水曜日	4	後期	身体運動	身体運動II b	(卓球)	体育館他
水曜日	4	後期	身体運動	身体運動II b	(ホールドリング)	体育館他
水曜日	4	後期	身体運動	身体運動演習 b	(ボディメイク)	体育館他
水曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
水曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習a		12102
水曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習a		12103
水曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12104
水曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12105
水曜日	5	後期	学科科目	留学準備演習 II		12105
水曜日	5	後期	学科科目	留学準備演習 II		12106
水曜日	5	後期	学科科目	留学準備演習 II		12107
水曜日	5	後期	学科科目	留学準備演習 II		12108
水曜日	5	後期	教養	日本の産業と企業		香100
水曜日	5	後期	教養	ノーマライゼーション論		香102
水曜日	5	後期	教養	教育学入門		香103
火曜日	1	後期	教養	20・21世紀の日本文学		香104
水曜日	2	後期	教養	日本美術史	-2	香201
水曜日	5	後期	教養	西洋美術史	-2	香202
水曜日	4	後期	教養	東洋音楽の歴史		香203
木曜日	1	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	4	百101
木曜日	1	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	4	百201
木曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	11	百202
木曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	8	百203
木曜日	1	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	3	百204
木曜日	1	後期	身体運動	身体運動I b	(被・文)	体育館他
木曜日	1	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
木曜日	1	後期	学科科目	国際文化学演習a		12102
木曜日	1	後期	学科科目	日本の音楽文化		12103
木曜日	2	後期	JWUキャリア・JWU社会連携	地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト	演習D	百101
木曜日	2	後期	英語	リーディングII	B	百201
木曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	4	百202
木曜日	2	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	6	百203
木曜日	2	後期	初修外国語	フランス語 L, L, 初級	1	百204
木曜日	2	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	9	百205
木曜日	2	後期	英語	リーディングIII	B	百206
木曜日	2	後期	英語	観光英語	J	百207
木曜日	2	後期	英語	TOEFL	2	百208
木曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語中級	10	百209
木曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語中級アドヴァンスト (原典講読)	4	百301
木曜日	2	後期	初修外国語	フランス語中級アドヴァンスト(原典講読)	3	百302
木曜日	2	後期	初修外国語	中国語中級	11	百303
木曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
木曜日	2	後期	学科科目	国際文化学演習a		12102
木曜日	2	後期	学科科目	留学準備演習 II		12104
木曜日	2	後期	学科科目	アメリカ文学		12105
木曜日	3	後期	教養	日本国憲法	-3	香100
木曜日	3	後期	教養	情報と通信		香102
木曜日	3	後期	教養	政治学		香103
木曜日	3	後期	教養	生命科学	-4	香104
木曜日	3	後期	教養	舞台芸術の歴史・東洋		香201
木曜日	3	後期	教養	クリティカル・シンキング入門		保育実習室
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	70 (文)	百101
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	71 (文)	百201

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	7 2 (文)	百202
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	7 3 (文)	百203
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	7 4 (文)	百204
金曜日	1	後期	英語	アクティブ・イングリッシュ b	7 5 (文)	百205
金曜日	1	後期	初修外国語	中国語 a 初級	12	百206
金曜日	1	後期	初修外国語	中国語 b 初級	7	百207
金曜日	1	後期	初修外国語	中国語 L, L, 初級	1	百208
金曜日	1	後期	初修外国語	中国語中級アドヴァンスト (原典講読)	4	百209
金曜日	1	後期	教養	市民社会と法		香100
金曜日	1	後期	学科科目	日本中世絵画史特論		12101
金曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	5	百101
金曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	6	百201
金曜日	2	後期	初修外国語	ドイツ語 a 初級	7	百202
金曜日	2	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	7	百203
金曜日	2	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	8	百204
金曜日	2	後期	初修外国語	フランス語 L, L, 初級	2	百205
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 a 初級	14	百206
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 a 初級	13	百207
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 b 初級	8	百208
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 b 初級	9	百209
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 L, L, 初級	2	百301
金曜日	2	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	4	百302
金曜日	2	後期	英語	ビジネス・イングリッシュ	D	百303
金曜日	2	後期	英語	英語コミュニケーションII	6	百304
金曜日	2	後期	英語	ライティングI	B	百305
金曜日	2	後期	英語	ライティングIII	B	百306
金曜日	2	後期	英語	TOEIC	16	百307
金曜日	2	後期	英語	ビジネス・イングリッシュ	C	百308
金曜日	2	後期	初修外国語	フランス語中級	11	百309
金曜日	2	後期	初修外国語	中国語 L, L, 中級	4	百501
金曜日	2	後期	教養	食と健康	-2	香100
金曜日	2	後期	教養	現代の社会学		香102
金曜日	2	後期	教養	美学	-2	香103
金曜日	2	後期	学科科目	アメリカ文化研究		12101
金曜日	2	後期	学科科目	ポップカルチャーと笑い		12102
金曜日	3	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	ダイバーシティとキャリア		百101
金曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	5	百201
金曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語 b 初級	6	百202
金曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 a 初級	9	百203
金曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	6	百204
金曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	5	百205
金曜日	3	後期	初修外国語	フランス語 b 初級	7	百206
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 a 初級	17	百207
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 a 初級	15	百208
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 a 初級	16	百209
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 b 初級	13	百301
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 b 初級	14	百302
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 b 初級	12	百303
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 b 初級	11	百304
金曜日	3	後期	初修外国語	中国語 b 初級	10	百305
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	10	百306
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	11	百307
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 a 初級	12	百308
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	6	百309
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	5	百501
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	8	百502
金曜日	3	後期	初修外国語	韓国語 b 初級	7	百503
金曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語中級	11	百504
金曜日	3	後期	初修外国語	ドイツ語上級	2	百505
金曜日	3	後期	情報	ICT活用VI		コンピュータ演習室4・5
金曜日	3	後期	教養	薬と化粧品の化学		香100
金曜日	3	後期	教養	宗教とは何か		香102

国際文化学部時間割 後期科目

曜日	時限	開始期	科目区分	授業科目	クラス名	教室
金曜日	3	後期	学科科目	国際文化学演習a		12101
金曜日	3	後期	学科科目	日本の芸能思想		12102
金曜日	4	後期	学科科目	西洋美術史特論		12104
金曜日	4	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会に出るための自己表現	-8	百206
金曜日	4	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	女性と身体	-2	百101
金曜日	4	後期	初修外国語	韓国語中級アドヴァンスト (コミュニケーション)		百201
金曜日	4	後期	英語	メディア・リスニング	H	百202
金曜日	4	後期	英語	英語コミュニケーションII	5	百203
金曜日	4	後期	英語	観光英語	K	百204
金曜日	4	後期	英語	観光英語	M	百205
金曜日	4	後期	英語	TOEIC	20	百206
金曜日	4	後期	英語	TOEIC	19	百207
金曜日	4	後期	英語	TOEIC	17	百208
金曜日	4	後期	初修外国語	ドイツ語中級	12	百209
金曜日	4	後期	初修外国語	中国語中級	12	百301
金曜日	4	後期	教養	ファッションの化学		香100
金曜日	4	後期	教養	西洋音楽の歴史		香102
金曜日	4	後期	教養	舞台芸術の歴史・西洋		香103
金曜日	4	後期	学科科目	国際文化学演習 c		12101
金曜日	4	後期	学科科目	日本観光文化論		12102
金曜日	4	後期	学科科目	ポップカルチャーと観光		12103
金曜日	5	後期	教養	歴史から見る現代世界		香100
金曜日	5	後期	教養	現代社会と情報科学		香102
金曜日	5	後期	教養	社会保障入門		香103
土曜日	2	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	社会連携を学ぶA		百206
土曜日	2	後期	JWUキャリア・ JWU社会連携	課題解決型ワークショップ につぼん食を考える		百504